

仙台市教育委員會編印

# 六反田遺跡

——仙台市高遠的近興野遺跡報告書——

1985年3月

仙台市教育委員會

仙台市文化財調査報告書第199集

# 六反田遺跡

——仙台市高速鉄道関係遺跡調査報告書IV——

1995年3月

仙台市教育委員会



S I 4 住居跡（南より）



2号配石（南より）



磨製石斧 右I区  
左III区

## 序 文

日頃、仙台市の文化財保護行政に対しまして多大のご協力をいただき、心から感謝いたしております。

昭和63年7月の高速鉄道南北線の開通は当市にとりまして新しい時代への幕開けとなる画期的な事業でありました。この高速鉄道の建設にあたっては、先人の生活の歴史を物語る多くの埋蔵文化財の発掘調査が行われております。本書にまとめました六反田遺跡では、縄文時代後期の土器捨て場や、平安時代および奈良時代の住居跡などが発見され、それらから多量の土器や石器などの貴重な遺物が出土しております。

発掘調査により得られた多くの成果は、仙台の歴史を語る貴重な歴史遺産として今後さまざまな場で公開していきたいと考えております。

最後になりましたが、調査と整理にご尽力をいただきました皆様と、また本書の作成にあたりご助言、ご指導下さいました各位に対し、心から感謝を申し上げ、序といたします。

平成7年3月

仙台市教育委員会

教育長 坪山繁

## 例　　言

1 本書は、仙台市高速鉄道建設に伴う遺跡調査報告書の4冊目であり、六反田遺跡の発掘調査成果についてまとめたものである。

2 本書の作成に関わった職員は次のとおりである。

佐藤隆 篠原信彦 吉岡恭平 斎野裕彦 荒井格 主浜光朗 佐藤良文 工藤信一郎

神成浩志 渡部紀

出土遺物の整理、実測作業は主に篠原・吉岡が行った。遺構の整理、原稿執筆、編集は主に渡部が行い、篠原・吉岡が補佐した。剝片石器の観察は吉岡・荒井・渡部が、分類は吉岡・渡部が行った。

3 報告書作成にあたり、「下記の方々にご指導をいただいた。(敬称略)

佐々木隆(仙台市科学館)

4 石器の石材は蟹澤聰史氏(東北大)の鑑定されたサンプルをもとに、整理担当職員が肉眼観察したものである。

5 繩文土器の展開写真は、小川忠博氏撮影のものである。

6 野外調査および整理作業参加者は『高速鉄道報告書Ⅰ』(1989)に記載している。

7 本遺跡の調査成果については、既に概報として内容の一部が紹介されているが、本書の記載内容がそれらに優先するものである。

8 調査の諸記録・実測図・写真・出土遺物等の全資料は仙台市教育委員会が一括保管している。

## 凡　　例

1 図中の方位は真北を示す。磁北は7°20'西偏する。

2 遺跡地名表に用いた地形図は、国土地理院発行1/25000「仙台西北部」「仙台東北部」「仙台南西部」「仙台南東部」である。

3 土層の色調の記載には、「新版標準土色帖」(小山・竹原 1967)を用いた。

4 基本層位の略号としてL 1・L 2…、遺溝内層位の略号としてℓ 1・ℓ 2…を使用する。

5 遺溝の略号は以下のとおりである。

住居跡 S I 土坑 SK 溝 SD 河川跡 SR ピット P

性格不明遺溝 SX

6 遺物登録にあたっては、以下の記号を用いた。

縄文土器 A 弥生土器 B 土師器(非ロクロ) C

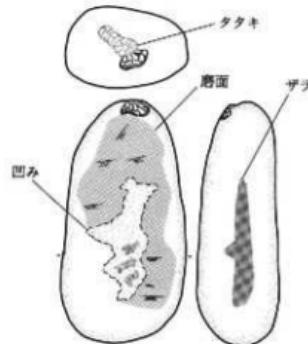
土師器（ロクロ）・赤焼土器 D 須恵器 E 瓦 G 土製品 P

剝片石器 Ka 碾石器・磨製石斧・石製品 Kc 鉄製品 N

- 7 本文中使用の「灰白色火山灰」（庄子・山田：1980）の降下年代は、現在10世紀前半頃と考えられている（白鳥：1980）。
- 8 剥片石器のうち、定形石器の計測方法は『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅰ』（宮城県文化財調査報告書第52集：1978）による。不定形石器は最大長・最大幅を計測している。また、剝片の部位は、主要剝離面を「腹面」、その裏面を「背面」と呼ぶ。
- 9 剥片石器の節理面、被熱部分はスクリーン・トーンで示した。また、微細剝離痕の範囲は矢印で示した。
- 10 碾石器は実測位置での最大長・最大幅と、断面作成位置での厚さを計測している。加工部位の表現方法は以下の通りである。



剝片石器の表現



碾石器の表現

- 11 土製円盤の周縁に磨痕あるものは、矢印でその範囲を示した。
- 12 III区の遺物包含層では、右のようにグリッドを分割している。
- 13 図の縮尺は原則として、遺構を1/60、土器・碾石器を1/3、剝片石器を2/3とした。

16		
	a	b
c	d	e
	g	h
		i

## 本文目次

I 調査に至る経過 .....	1
1 調査に至る経過.....	1
2 六反田遺跡の調査に至る経過.....	3
II 遺跡の立地と環境 .....	5
1 地理的環境.....	5
2 歴史的環境.....	8
3 これまでの調査成果.....	10
III I区の調査成果 .....	13
1 調査の方法と経過.....	13
2 基本層序.....	14
3 3層上面の遺構と遺物.....	14
4 4a層上面の遺構と遺物 .....	18
5 6層上面の遺構と遺物.....	20
6 7層上面の遺構と遺物.....	25
7 10層の上面の遺構と遺物.....	26
8 11層上面の遺構と遺物.....	28
9 11~13層以下の遺構と遺物.....	29
10 基本層出土遺物.....	31
11まとめ.....	32
IV II区の調査成果 .....	46
1 調査の方法と経過.....	46
2 基本層序.....	46
3 4a層上面の遺構と遺物 .....	49
4 4b層上面の遺構と遺物 .....	51
5 6層上面の遺構と遺物.....	58
6 7層上面の遺構と遺物.....	62
7 9層上面の遺構と遺物.....	64
8 14a層上面の遺構と遺物 .....	65
9 河川跡.....	67
10 基本層出土遺物.....	68
11まとめ.....	68
V III区の調査成果 .....	71
1 調査の方法と経過.....	71
2 基本層序.....	72
3 4a層以上の遺構と遺物 .....	72
4 4b層上面の遺構と遺物 .....	74
5 4c層上面の遺構と遺物.....	78
6 5層上面の遺構と遺物.....	84
7 6層上面の遺構と遺物.....	97
8 7層上面の遺構と遺物.....	102
9 8層上面の遺構と遺物.....	102
10 9a層上面の遺構と遺物.....	107
11 9b層上面の遺構と遺物 .....	110
12 10層上面の遺構と遺物.....	120
13 基本層出土遺物.....	143
14まとめ.....	223
VI IV区の調査成果.....	24
1 調査の方法と経過.....	24
2 基本層序.....	24

3 発見された遺構と遺物	24	4 まとめ	27
VII 繩文時代の遺物について			28
1 各地区の遺物包含層の対比	29	2 繩文時代の遺物について	29
VIII まとめ			28

### 図 表 目 次

第1図 遺跡の位置	1	第32図 11・12層出土土器	35
第2図 全体の調査区配置図	2	第33図 12層出土土器(2)	36
第3図 調査区の配置	4	第34図 12層出土土器(3)	37
第4図 遺跡の位置	5	第35図 12層出土土器(4)	38
第5図 名取川下流域の地形分類図	6	第36図 12・13層出土土器	39
第6図 町地形図	7	第37図 層位不明土器	40
第7図 周辺の遺跡分布図	9	第38図 刺片石器	41
第8図 これまでの調査	10	第39図 4~12層出土石器	42
第9図 調査区の配置	11	第40図 12層出土輝石器	43
第10図 グリッド配置	13	第41図 12層と層位不明の輝石器	44
第11図 基本層序	15	第42図 土製円盤	45
第12図 3層上面の遺構配置図	16	第43図 グリッド配置図	46
第13図 3層上面の遺構	17	第44図 基本層序	47
第14図 4a層上面の遺構配置図	18	第45図 4a・4b層上面の遺構配置図	50
第15図 SI 1住居跡	19	第46図 SD 3出土遺物	51
第16図 SI 出土遺物	20	第47図 4a層上面の遺構	51
第17図 6層上面の遺構配置図	21	第48図 SI 1住居跡	52
第18図 SB 1建物跡	22	第49図 SI 1出土遺物	53
第19図 3層・6層上面の遺構配置図	23	第50図 4b層上面の遺構	54
第20図 6層上面の遺構	25	第51図 SD 2出土遺物	54
第21図 7層上面の遺構	26	第52図 4b層上面のビット(1)	55
第22図 10層上面の遺構配置図	27	第53図 4b層上面のビット(2)	56
第23図 10層上面の遺構	27	第54図 6層上面の遺構配置図	59
第24図 11層上面の遺構配置図	29	第55図 6層上面の遺構	60
第25図 11層上面の遺構	29	第56図 SD 4出土遺物	61
第26図 11~13層上面の遺構配置図	30	第57図 7層上面の遺構配置図	62
第27図 11~13層上面の遺構	30	第58図 7層上面の遺構	63
第28図 土器片出土点数の分布	31	第59図 9層上面の遺構配置図	64
第29図 1~5層出土土器	32	第60図 SX13出土遺物	65
第30図 5~8層出土土器	33	第61図 9~14a層上面の遺構	66
第31図 9~11層出土土器	34	第62図 河川跡	67

第63図 河川跡出土遺物(1).....	69	第104図 2・3号配石.....	13
第64図 河川跡出土遺物(2).....	70	第105図 配石出土遺物(1).....	14
第65図 基本層出土遺物.....	70	第106図 配石出土遺物(2).....	15
第66図 グリッド配廣圖.....	71	第107図 配石出土遺物(3).....	16
第67図 基本層序.....	73	第108図 配石出土遺物(4).....	17
第68図 4層の遺構.....	75	第109図 配石出土遺物(5).....	18
第69図 4a層以降の遺構.....	77	第110図 配石出土遺物(6).....	19
第70図 SD 2構跡.....	78	第111図 SI 4住居跡.....	21
第71図 SD 1・2出土遺物.....	78	第112図 SI 4出土遺物(1).....	22
第72図 4c・5層上面の遺構.....	79	第113図 SI 4出土遺物(2).....	23
第73図 SK 5・6・SD 6.....	81	第114図 SI 4出土遺物(3).....	24
第74図 4c層上面の小溝状遺構群(1).....	82	第115図 SI 4出土遺物(4).....	25
第75図 4c層上面の小溝状遺構群(2).....	83	第116図 10層上面の遺構(1).....	27
第76図 SI 1住居跡(1).....	86	第117図 10層上面の遺構(2).....	28
第77図 SI 1住居跡(2).....	87	第118図 10層上面の遺構(3).....	29
第78図 SI 1出土遺物.....	89	第119図 1号埋設土器.....	33
第79図 SB 1建物跡.....	90	第120図 10層の遺構出土遺物(1).....	34
第80図 SK 7土坑.....	91	第121図 10層の遺構出土遺物(2).....	35
第81図 5層上面の小溝状遺構群(1).....	91	第122図 10層の遺構出土遺物(3).....	36
第82図 5層上面の小溝状遺構群(2).....	92	第123図 10層の遺構出土遺物(4).....	37
第83図 5層上面の小溝状遺構群(3).....	93	第124図 10層の遺構出土遺物(5).....	38
第84図 小溝状遺構群の変遷(1).....	94	第125図 10層の遺構出土遺物(6).....	39
第85図 小溝状遺構群の変遷(2).....	95	第126図 10層の遺構出土遺物(7).....	40
第86図 小溝・ピット出土遺物.....	97	第127図 10層の遺構出土遺物(8).....	41
第87図 6層上面の遺構.....	99	第128図 10層の遺構出土遺物(9).....	42
第88図 ピット116出土遺物.....	100	第129図 4・5層出土遺物.....	43
第89図 SD 3・ピット116.....	100	第130図 9層の遺物集中地点.....	44
第90図 SK23土坑.....	100	第131図 6・7層出土遺物.....	45
第91図 8層上面の遺構.....	103	第132図 5・6・7層出土遺物.....	46
第92図 SK26土坑.....	104	第133図 6・8層出土遺物.....	47
第93図 SI 3出土遺物.....	104	第134図 8層出土剥片石器.....	48
第94図 9・10層の遺構配廣圖.....	105	第135図 8層出土疊石器.....	49
第95図 SK 8・9・11土坑.....	105	第136図 9層出土土器(1).....	50
第96図 SK 8出土土器.....	108	第137図 9層出土土器(2).....	51
第97図 SK 8出土石器.....	108	第138図 9層出土土器(3).....	52
第98図 5号埋設土器.....	108	第139図 9層出土土器(4).....	53
第99図 9a層上面のピット.....	109	第140図 9層出土土器(5).....	54
第100図 SK22・2~4号埋設土器.....	111		
第101図 2~4号埋設土器.....	112		

第14回	9 層出土石器(6).....	15	第18回	9 層出土剥片石器(5).....	16
第15回	9 層出土土器(7).....	17	第19回	9 層出土剥片石器(6).....	17
第16回	9 層出土土器(8).....	18	第20回	9 層出土剥片石器(7).....	18
第17回	9 层出土土器(9).....	19	第21回	9 层出土剥片石器(8).....	19
第18回	9 层出土土器(0).....	20	第22回	9 层出土剥片石器(9).....	20
第19回	9 层出土土器(1).....	21	第23回	9 层出土剥片石器(0).....	21
第20回	9 层出土土器(2).....	22	第24回	9 层出土剥片石器(1).....	22
第21回	9 层出土土器(3).....	23	第25回	9 层出土砾石器(1).....	23
第22回	9 层出土土器(4).....	24	第26回	9 层出土砾石器(2).....	24
第23回	9 层出土土器(5).....	25	第27回	9 层出土砾石器(3).....	25
第24回	9 层出土土器(6).....	26	第28回	9 层出土砾石器(4).....	26
第25回	9 层出土土器(7).....	27	第29回	9 层出土砾石器(5).....	27
第26回	9 层出土土器(8).....	28	第30回	9 层出土砾石器(6).....	28
第27回	9 层出土土器(9).....	29	第31回	9 层出土砾石器(7).....	29
第28回	9 层出土土器(0).....	30	第32回	9 层出土砾石器(8).....	30
第29回	9 层出土土器(1).....	31	第33回	9 层出土砾石器(9).....	31
第30回	9 层出土土器(2).....	32	第34回	9 层出土砾石器(0).....	32
第31回	9 层出土土器(3).....	33	第35回	9 层出土砾石器(1).....	33
第32回	9 层出土土器(4).....	34	第36回	9 层出土砾石器(2).....	34
第33回	9 层出土土器(5).....	35	第37回	9 层出土砾石器(3).....	35
第34回	9 层出土土器(6).....	36	第38回	9 层出土砾石器(4).....	36
第35回	9 层出土土器(7).....	37	第39回	9 层出土砾石器(5).....	37
第36回	9 层出土土器(8).....	38	第40回	9 层出土砾石器(6).....	38
第37回	9 层出土土器(9).....	39	第41回	9 层出土砾石器(7).....	39
第38回	9 层出土土器(0).....	40	第42回	9 层出土砾石器(8).....	40
第39回	9 层出土土器(1).....	41	第43回	9 层出土砾石器(9).....	41
第40回	9 层出土土器(2).....	42	第44回	9 层出土砾石器(0).....	42
第41回	9 层出土土器(3).....	43	第45回	9 层出土砾石器(1).....	43
第42回	9 层出土土器(4).....	44	第46回	9 层出土砾石器(2).....	44
第43回	9 层出土土器(5).....	45	第47回	9 层出土砾石器(3).....	45
第44回	9 层出土土器(6).....	46	第48回	土製円盤(1).....	46
第45回	9 层出土土器(7).....	47	第49回	土製円盤(2).....	47
第46回	9 层出土土器(8).....	48	第50回	土製円盤(3).....	48
第47回	9 层出土土器(9).....	49	第51回	基本層序と SR 1 断面図.....	49
第48回	9 层出土土器(0).....	50	第52回	遺構配図.....	50
第49回	9 层出土土器(1).....	51	第53回	六反印IV区と下ノ内II区.....	51
第50回	9 层出土土器(2).....	52	第54回	土器集成図 (1) .....	52
第51回	9 层出土土器(3).....	53	第55回	土器集成図 (2) .....	53
第52回	9 层出土土器(4).....	54	第56回	土器集成図 (3) .....	54
第53回	9 层出土土器(5).....	55	第57回	土器集成図 (4) .....	55
第54回	9 层出土土器(6).....	56	第58回	III区 9 层出土砾石器の分布.....	56
第55回	9 层出土土器(7).....	57	第59回	III区 9 层出土砾石器の分布.....	57
第56回	9 层出土土器(8).....	58			
第57回	9 层出土土器(9).....	59			
第58回	9 层出土土器(0).....	60			
第59回	9 层出土土器(1).....	61			
第60回	9 层出土土器(2).....	62			
第61回	9 层出土土器(3).....	63			
第62回	9 层出土土器(4).....	64			
第63回	9 层出土剥片石器(1).....	65			
第64回	9 层出土剥片石器(2).....	66			
第65回	9 层出土剥片石器(3).....	67			
第66回	9 层出土剥片石器(4).....	68			

3 - 8 土坑	25	3 - 47 6・7・8層出土遺物	24
3 - 9 4 b 層上面(南西より)	26	3 - 48 8層出土石器	26
3 - 10 SD 2 溝跡	26	3 - 49 9層出土石器1	26
3 - 11 SD 2 断面	26	3 - 50 9層出土石器2	26
3 - 12 4 c 層上面(南西より)	26	3 - 51 9層出土石器3	26
3 - 13 4 c 層の遺構	26	3 - 52 9層出土石器4	26
3 - 14 SI 1 住居跡(西より)	26	3 - 53 9層出土土器5	26
3 - 15 SI 1 細部	26	3 - 54 9層出土土器6	26
3 - 16 SB 1 建物跡	26	3 - 55 9層出土土器7	26
3 - 17 SB 1 壁部	26	3 - 56 9層出土土器8	26
3 - 18 5層上面の小溝状遺構群(南西より)	26	3 - 57 9層出土土器9	26
3 - 19 5層上面の小溝状遺構群(北東より)	26	3 - 58 9層出土土器10	26
3 - 20 小溝状遺構群細部と土坑	26	3 - 59 9層出土土器11	26
3 - 21 6層上面の遺構	26	3 - 60 9層出土土器12	26
3 - 22 7層上面の遺構	26	3 - 61 9層出土土器13	26
3 - 23 8層上面の遺構	26	3 - 62 9層出土土器14	26
3 - 24 9 a 層上面の遺構	26	3 - 63 9層出土土器15	26
3 - 25 2号配石	26	3 - 64 9層出土土器16	26
3 - 26 3号配石	26	3 - 65 9層出土土器17	26
3 - 27 9 b 層上面の遺構	26	3 - 66 9層出土土器18	26
3 - 28 10層上面全景(南西より)	26	3 - 67 9層出土土器19	26
3 - 29 SI 4 全景(南より)	26	3 - 68 9層出土土器20	26
3 - 30 SI 4 細部	26	3 - 69 9層出土土器21	26
3 - 31 10層上面の土坑(1)	26	3 - 70 10層出土土器	26
3 - 32 10層上面の土坑(2)	26	3 - 71 10層出土土器	26
3 - 33 10層上面の土坑(3)他	26	3 - 72 土製円盤(1)	26
3 - 34 9層の遺物出土状況1	26	3 - 73 土製円盤(2)	26
3 - 35 9層の遺物出土状況2	26	3 - 74 展開写真(1)	26
3 - 36 作業風景	26	3 - 75 展開写真(2)	26
3 - 37 土師器・須恵器	26	3 - 76 展開写真(3)	26
3 - 38 6・8層出土遺物	26		
3 - 39 9 a 層の遺構出土遺物	26		
3 - 40 9 b 層の遺構出土遺物(1)	26	IV区	
3 - 41 9 b 層の遺構出土遺物(2)	26	4 - 1 調査区全景(南より)	26
3 - 42 9 b 層の遺構出土遺物(3)	26	4 - 2 東駆断面	26
3 - 43 SI 4 山上遺物(1)	26	4 - 3 SD 1 溝跡	26
3 - 44 SI 4 出土遺物(2)	26	4 - 4 小溝状遺構群(西より)	26
3 - 45 10層の遺構出土遺物(1)	26	4 - 5 河川跡	26
3 - 46 10層の遺構出土遺物(2)	26	4 - 6 完掘状況(南より)	26

第2表	3層上面のピット計測表	17	第11表	4 c 層上面のピット計測表	84
第3表	6層上面のピット計測表	22	第12表	5層上面の小溝状遺構計測表	96
第4表	7層上面のピット計測表	25	第13表	5層上面のピット計測表	98
第5表	10層上面のピット計測表	27	第14表	6層上面のピット計測表	101
第6表	11層上面のピット計測表	28	第15表	8層上面のピット計測表	103
第7表	4 b 層上面のピット計測表	57	第16表	9 a 層上面のピット計測表	111
第8表	6層上面のピット計測表	61	第17表	10層上面のピット計測表	113
第9表	7層上面のピット計測表	64	第18表	III区 9層出土剣片石器の内容	21
第10表	4 c 層上面の小溝状遺構計測表	84	第19表	III区 9層出土剣片石器の石材	21

## 写 真 目 次

1	遺跡周辺の空中写真 (1983年5月撮影)	20	2 - 2	10・11グリッド東壁	25
2	遺跡周辺の空中写真 (1965年撮影)	20	2 - 3	10・11グリッド西壁	25
			2 - 4	調査区北壁	26
I区			2 - 5	SD 3 溝跡	27
1 - 1	調査前全景	20	2 - 6	SD 1 溝跡断面	27
1 - 2	基本層序	20	2 - 7	4 b 層上面全景	27
1 - 3	SD 1 溝跡光棍状況 (南西より)	24	2 - 8	SI 1 住居跡	28
1 - 4	SD 1 断面	24	2 - 9	4 b 層のピット	29
1 - 5	SK 3 土坑断面	24	2 - 10	SD 2 溝跡	29
1 - 6	SI 1 住居跡 (東より)	26	2 - 11	SX - 1	29
1 - 7	SI 1 繊部	26	2 - 12	6層上面全景 (南より)	29
1 - 8	SB 1 建物跡	26	2 - 13	SD 4 溝跡	29
1 - 9	SD 3 溝跡	26	2 - 14	SD 5 断面	29
1 - 10	6層上面の溝跡	26	2 - 15	7・9・14a 層検出遺構	29
1 - 11	6～10層の遺構	28	2 - 16	河川跡	32
1 - 12	14層上面 (南西より)	28	2 - 17	作業風景	32
1 - 13	疊層検出状況 (南西より)	28	2 - 18	土器(1)	33
1 - 14	疊層検出状況 (南西より)	28	2 - 19	土器(2)	33
1 - 15	作業風景	36			
1 - 16	遺物出土状況	26	III区		
1 - 17	土器(1)	51	3 - 1	調査前全景	36
1 - 18	土器(2)	52	3 - 2	調査区東壁	36
1 - 19	石器(1)	53	3 - 3	基本層序(1)	36
1 - 20	石器(2) 土製円盤	54	3 - 4	基本層序(2)	36
			3 - 5	4 a 層上面 (南西より)	37
II区			3 - 6	SD 1 溝跡	37
2 - 1	調査前全景 (南より)	25	3 - 7	SD 1 断面	38

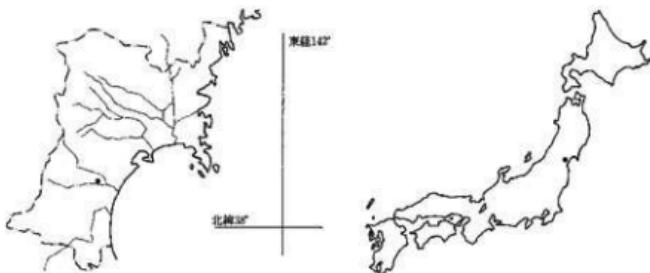
## I 調査に至る経過

### 1 調査に至る経過

仙台市は古くから東北地方の中枢都市としての役割を担ってきており、平成元年4月には政令指定都市に移行し、現在も発展を続けている。それに伴う都市整備の一環として、昭和63年7月より、高速鉄道南北線が運行を開始しており、渋滞のない交通手段として、市民生活に欠くことのできないものとなっている。

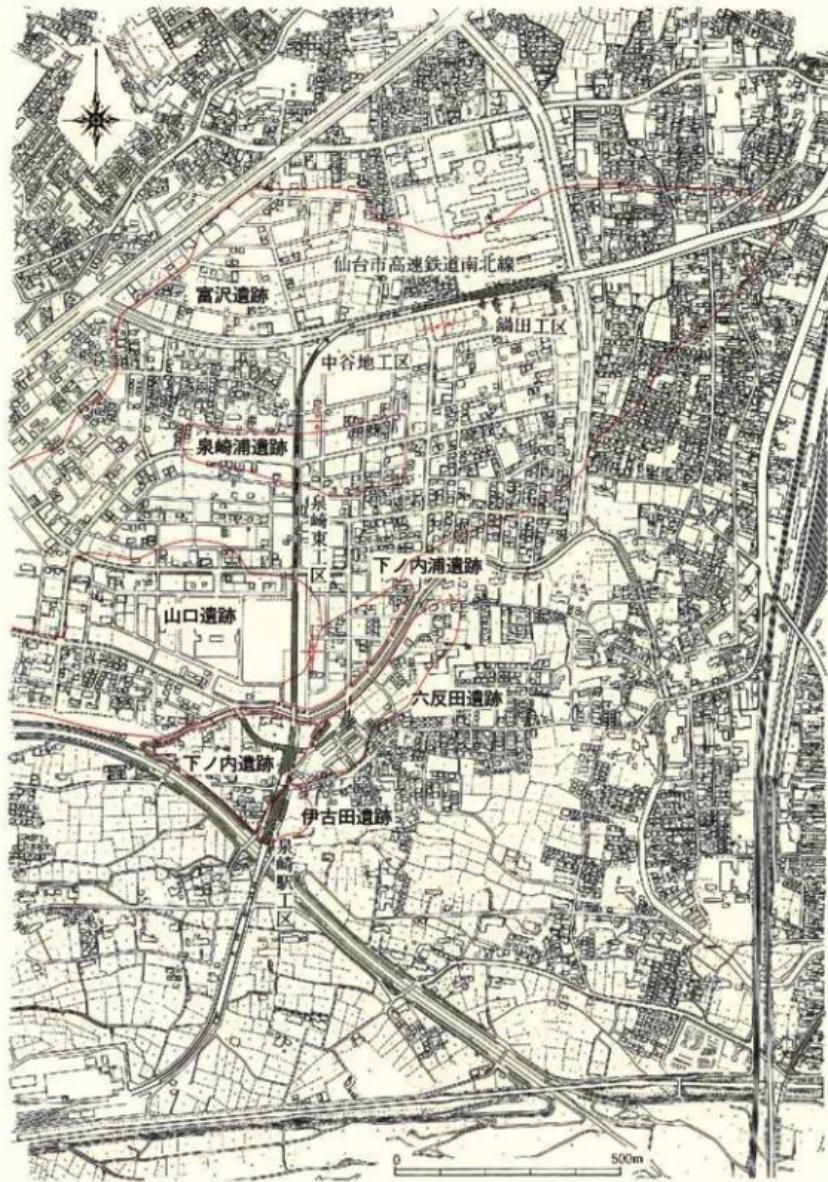
高速鉄道南北線は、仙台駅を中心南北に長く、北は泉中央駅から南は富沢駅に至るルートである。建設工事はその地形によって、山岳トンネル工法・シールド工法・開削工法・高架方式の4つの手法が用いられている。

仙台市教育委員会は、高速鉄道建設に先立ち、路線内及びその周辺の分布調査を行った（仙市教：1980）。その結果、北部の台ノ原・瓦山地区で五本町窯跡・堤町窯跡等、南部の富沢・大野田地区で泉崎浦遺跡・山口遺跡・六反田遺跡・伊古田遺跡等が位置していることが判明した。特に南部地域は多くの遺跡が分布しており、なおかつ沖積地の特徴として重層的な遺構遺物が存在するため、周知の遺跡以外にも新たに遺跡が発見される可能性が大きい地域である。そのため仙台市教育委員会は、開削工法で建設される長町南駅（旧名称、鍋田駅）以南については遺跡の発掘調査を行うこととし、仙台市建設局高速鉄道建設本部との協議に入った。そして、昭和56年4月の下ノ内遺跡の調査より本格的な発掘調査を開始し、以後昭和61年の六反田遺跡の調査をもって、野外調査を終了した（第1表・第2図）。



第1図 遺跡の位置

1 調査に至る経過



第2図 全体の調査区配置図

第1表 調査一覧表

遺跡名・所在地	時代・種類	調査範囲	調査面積	担当職員	工区	報告書	
宮沢遺跡 太田区東 境1丁目 ・長崎南 3丁目	泉崎地区 中谷地区 古石器・绳文～近 世 敷石場・水田跡	第1次 S57.9.1～12.11	約800m <sup>2</sup>	吉岡泰平	泉崎東工区	仙台市文化財調査報告書 第128号	
		第2次 S57.8.25～12.23	約1550m <sup>2</sup>	主浜光明、高橋勝也、 吉岡泰平、荒井裕、 渡辺誠	中谷工区		
		第3次 S58.4.13～12.27 S59.1.6～1.9	約500m <sup>2</sup>				
		第4次 S57.10.5～12.25 S58.2.2～2.12 第2次 S58.4.13～12.27 S59.3.5～3.23 第3次 S59.4.11～6.28 第4次 S59.4.19～8.9	約1300m <sup>2</sup> 約1500m <sup>2</sup> 約750m <sup>2</sup> 約710m <sup>2</sup>	吉野、荒井、 吉岡、荒井、渡辺誠、 藤原信彦、渡辺忠房、 藤原、吉野、 藤原、吉岡、高橋勝也	鶴田工区	仙台市高速鉄道関係 遺跡調査報告書 I 高崎線 (1989)	
泉崎城跡 太白区泉崎1丁目	绳文・古墳・平安・ 近世 集落跡・水田跡	S57.9.1～12.25 S58.1.5～2.6	約1200m <sup>2</sup>	川中利和、吉岡	泉崎東工区		
下ノ内浦・山口跡 太白区泉崎1丁目他	绳文・平安 集落跡・水田跡	第1次 S56.8.25～12.28 第2次 S58.4.13～12.23 第3次 S59.4.11～11.19	約3000m <sup>2</sup>	吉岡、成瀬洋、牛沢、 藤原、千原仁、吉野、 高橋(勝)	泉崎東工区 泉崎工区		
六反田遺跡 太白区大野山字五反田・ 六反田他	绳文・平安 集落跡	第1次 S56.9.7～12.26 S57.1.6～1.18 第2次 S56.9.9～11.28 第3次 S59.4.11～11.19	約1200m <sup>2</sup>	佐藤隆、荒井、藤原、 吉岡、成瀬洋		本報	
下ノ内浦跡 太白区泉崎4丁目他	绳文～中世 集落跡	第1次 S56.4.17～12.26 S57.1.6～1.13 第2次 S57.4.12～12.25 第3次 S58.4.13～12.8 第4次 S58.4.11～5.26	約3700m <sup>2</sup>	佐藤隆、佐藤裕、藤原、 吉野(忠)、佐藤 美智雄、吉岡、工藤 哲子、高橋(勝)、如 木実	泉崎駅工区	仙台市文化財調査報告 書第136号	
伊古田遺跡 太白区大野印半塚	绳文・古墳～平安 集落跡	第1次 S58.4.15～12.27 S59.3.5～3.23 第2次 S59.4.25～8.11 第3次 S61.8.4～9.5	約2100m <sup>2</sup>	藤原、佐藤(英)、吉 岡、吉野、荒井、工 藤、千葉、高橋(勝)	泉崎駅工区	第193号 仙台市高速鉄道関係 遺跡調査報告書 II (1990)	

## (試掘)

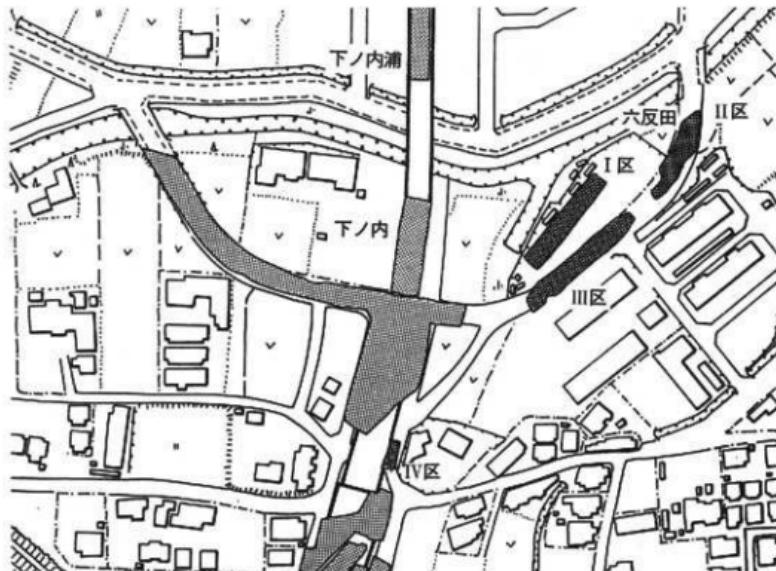
工区名	調査期間	面積	発見遺構	担当職員	遺跡名	備考
泉崎東工区	S57.4.12～7.1	420m <sup>2</sup>	堅穴住居跡・水田跡	吉岡、東野、荒井、高橋(勝)	富沢・泉崎新道路	本調査へ移行
中谷地工区	S57.6.4～8.11	710m <sup>2</sup>	水田跡	吉岡、吉澤、高橋(勝)		本調査へ移行
中谷地T区	S58.5.25～6.30	38m <sup>2</sup>	水田跡	吉野、荒井		
鶴田工区	S57.7.5～10.4	350m <sup>2</sup>	水田跡	吉野、荒井		本調査へ移行
泉崎駅工区	S57.10.25～11.28	280m <sup>2</sup>	稲作	藤原、渡辺(忠)		
泉崎駅工区	S58.4.13～4.19	85m <sup>2</sup>	稲作、高橋(勝)			
車庫工区	S57.10.25～11.4	72m <sup>2</sup>	稲作、渡辺(忠)			

## 2 六反田遺跡の調査に至る経過

- 高速鉄道建設に関わる六反田遺跡の調査は、4度にわたり行った。I～IV区と呼ぶ(第3図)。
- I区 高速鉄道用地取得に關係して、遺跡内に民間の共同住宅が建設されるのにともない、昭和56年9月から翌1月にかけて調査した。
- II区 高速鉄道の開通に合わせて供用される予定の市道「下ノ内・六反田線」の建設にともない、昭和60年9月から11月にかけて調査した。
- III区 市道「下ノ内・六反田線」の残り部分を、昭和61年4月から12月にかけて調査した。
- IV区 高速鉄道路線に関わる部分を、昭和58年4月から6月にかけて調査した。

## 3 調査要項

遺跡名 六反田遺跡（宮城県登録番号 01189 仙台市登録番号 C-197）  
 所在地 仙台市太白区大野田字五反田  
 調査目的 高速鉄道南北線の建設およびそれに関係する諸工事とともに事前調査  
 調査面積 I 区約450m<sup>2</sup> II 区約280m<sup>2</sup> III 区約490m<sup>2</sup> IV 区約74m<sup>2</sup> 合計約1294m<sup>2</sup>  
 調査主体 仙台市教育委員会  
 調査担当 仙台市教育委員会社会教育課文化財調査係（昭和61年4月より文化財課調査係）  
 主事 篠原信彦 吉岡恭平 荒井 格 佐藤良文  
 教諭 佐藤 隆  
 調査期間 I 区 昭和56年9月7日～昭和57年1月18日  
 II 区 昭和60年9月9日～11月28日  
 III 区 昭和61年4月22日～12月25日  
 IV 区 昭和58年4月22日～6月1日  
 調査協力 仙台市交通局高速鉄道建設本部 仙台市建設局道路部



第3図 調査区の配置

## II 遺跡の立地と環境

### 1 地理的環境

仙台市域の地形は、北西部の丘陵・山地と南東部の海岸平野（宮城野海岸平野）とに大別される。海岸平野のうち、広瀬川と名取川にはさまれた低平な地域は郡山低地と呼ばれており、西縁は地質構造線、長町一利府線で丘陵・段丘地域と接している。郡山低地は名取・広瀬の両河川およびその間を流れる笊川の影響を強く受けしており、旧河道、自然堤防、後背湿地があちこちに見られる。

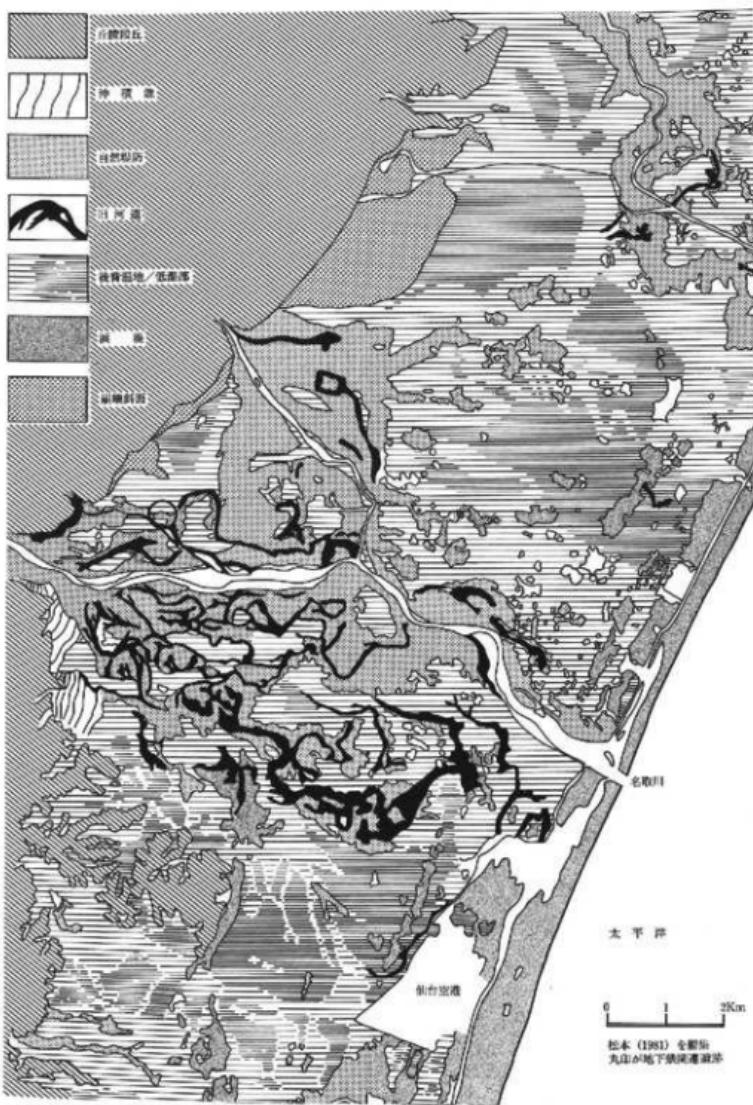
六反田遺跡はJR長町駅の南西約1.6kmに位置する。郡山低地の南部にあたり、笊川の南側に形成された自然堤防上に立地する。遺跡の構成土壌は、砂、シルトが主体を占める。標高は12m前後であり、南西から北東にむかひわずかに下がる。調査前の状況は、畑地であった（第4・5・6図）。

なお、周辺地域を含めた地形環境については、仙台市報告書126集「高速鉄道報告書Ⅰ」（1989）、同149集「富沢遺跡」（1991）に詳しいので参照されたい。

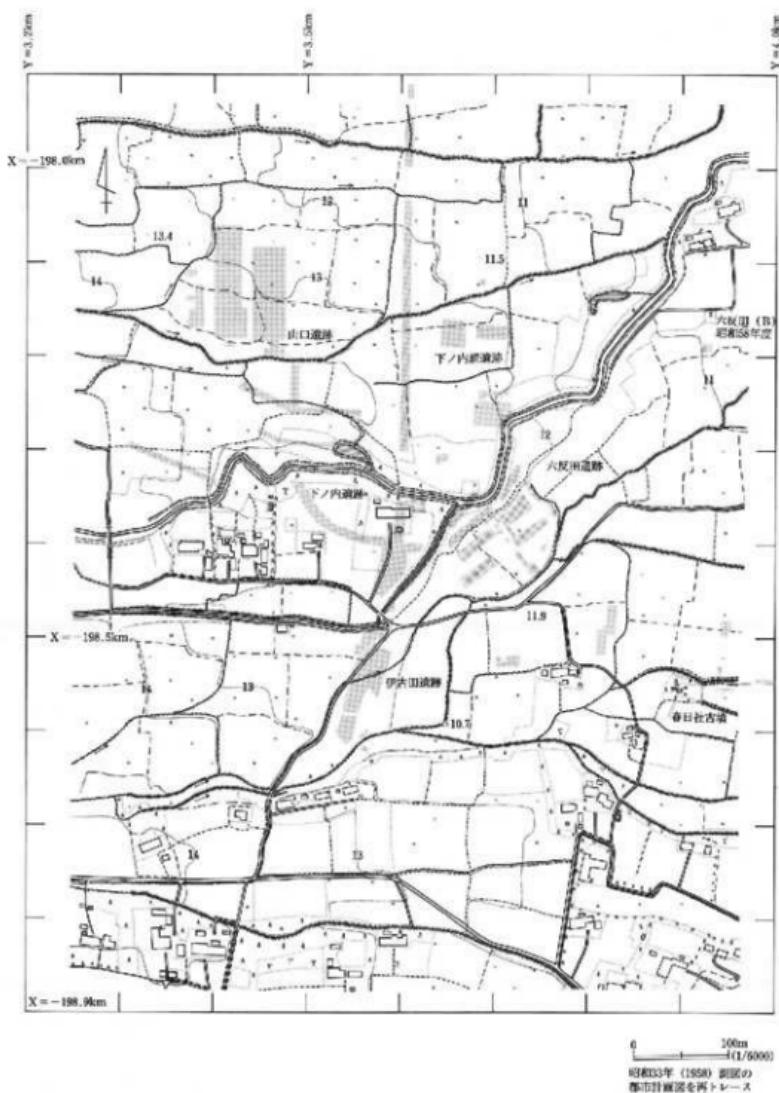


第4図 遺跡の位置

## 1 地理的環境



第5図 名取川下流の地形分類図



第6図 旧地形図

## 2 歴史的環境

六反田遺跡周辺の歴史的環境については、広域的な視点からは「高速鉄道報告書Ⅰ」(1989)に詳しいので、ここでは近接する遺跡を中心に簡単に述べたい(第7図)。

当遺跡周辺における最古の人類の足跡は、青葉山遺跡、山田上ノ台遺跡、北前遺跡で発見された前期旧石器時代にさかのぼる。3遺跡とも段丘上に位置するが、当地の北1kmに位置する富沢遺跡(6)30次調査地点では、後期旧石器時代の石器や生活跡が樹木などと共に発見され、低地にも当時の人の間違が進出していたことがうかがえる。

縄文時代は、早期前葉以降の生活跡が下ノ内浦遺跡(4)、山口遺跡(5)をはじめとして残されているが、特に中期から後期にかけての痕跡が濃厚であり、上野遺跡(17)、北前遺跡、山田上ノ台遺跡、下ノ内浦遺跡(2)、下ノ内浦遺跡、山口遺跡、大野田遺跡(11)、伊古田遺跡(3)などから多くの遺構遺物が発見されている。弥生時代になると当遺跡北側の富沢遺跡では、後背湿地という地形的特質を生かして水田が営まれた。特に、中期梯形田式期の水田が各地点で検出される傾向にある。下ノ内浦遺跡からは石庖丁を副葬した墓壙が発見されている。古墳時代には、五反田古墳(8)、春日社古墳(9)をはじめとする多くの円墳が築かれ、大野田古墳群を形成する。その多くは埴輪を伴うものであり、おおむね5~6世紀に築かれたものである。古墳時代の水田跡は、富沢遺跡の北部で特に良好に残されている。7世紀中頃には、北東約2kmに郡山遺跡(28)が成立する。この遺跡は、名取郡もしくは陸奥国開連の国家的施設と考えられ、この遺跡の成立をもって当地域は律令体制に組み込まれたと考えられよう。平安時代になると遺跡数が増える傾向にあり、集落跡、水田跡と共に各所で発見される。特筆される点は、富沢遺跡において真北方向の畦畔が109m前後の間隔で検出されることから、条里型土地割の存在が確認されることである。現在確認し得るのは笊川以北であり、六反田遺跡周辺では確認されていない。中世の遺構は近年明らかになりつつある。北側の下ノ内浦遺跡からは溝跡や多くの柱穴が発見されている。南東500mに位置する王ノ堀遺跡(10)からは、堀で囲まれた屋敷跡が発見され、鎌倉~室町時代のものと考えられている。西1kmには富沢館跡(16)があり、室町時代のものとされている。富沢遺跡では、水田跡と共に建物跡も見つかっている。近世の当地域は名取郡北方大野田村となり、安永元年(1772年)完成の「封内風土記」によれば、戸口45戸、神社2、観音堂1、王塚と称す古墳が1とされている。明治22年には西多賀村となり、昭和7年に仙台市に編入された。それまでの水田、畠地といった歴史的な景観に変化が生じたのは昭和51年に笊川の流量調整のための新笊川が完成したことと、昭和48年以降、富沢地区の区画整理事業が行われてからである。政令指定都市仙台にとって南の副都心と位置付けられており、今後は都市整備が進んでいく地域である。



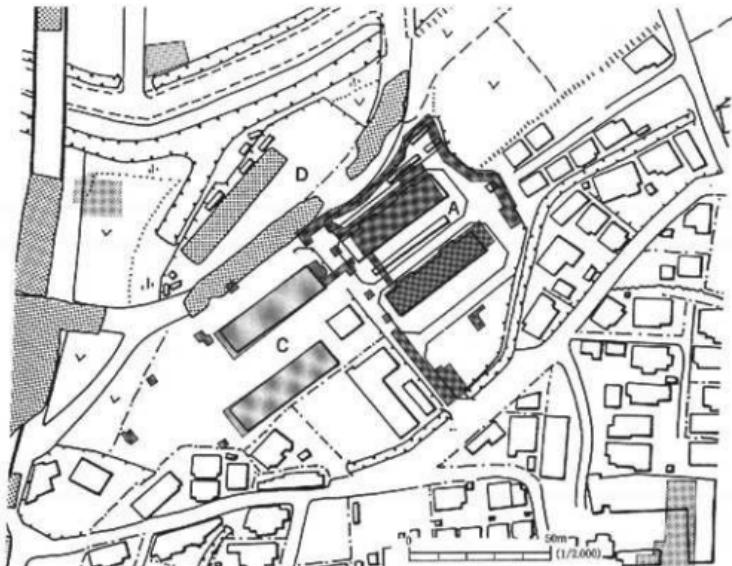
No	遺跡名	立地	時代	No	遺跡名	立地	時代
1	六反田遺跡	自然堤防 鶴文(中)・範生・古墳・平安	平安	16	宮前遺跡	自然堤防 鶴文(中)	中唐
2	下ノ内道跡	自然堤防 鶴文(中)・範生・古墳・奈良・平安	平安	17	上ノ内道跡	段丘	鶴文(中)・奈良・平安
3	伊吉田遺跡	自然堤防 鶴文(中)・範生・古墳・奈良・平安	平安	18	山田弟里遺跡	段丘	鶴文・奈良・平安・近世
4	下ノ内浦遺跡	自然堤防 鶴文(中)・範生・奈良・平安	平安	19	船渡前遺跡	段丘	鶴文・奈良・平安
5	山口遺跡	自然堤防 鶴文(中)・範生・奈良・平安・中世	平安	20	二日沖遺跡	段丘	鶴文(早・朝)
6	高砂遺跡	地形露頭 旧石器(後)・鶴文・近世	鶴文	21	芦ノ口遺跡	段丘	鶴文・古墳・平安
7	嵐崎沖遺跡	自然堤防 鶴文(後)・奈良・古墳・平安・近世	平安	22	諸町古墳	段丘	古墳
8	丘尻山古墳	自然堤防 古墳	古墳	23	上手内遺跡	丘陵	鶴文・奈良・平安
9	大野田古墳	自然堤防 古墳	古墳	24	及ヶ崎城跡	丘陵露頭 古墳	中世
10	王ノ原遺跡	自然堤防 鶴文(後)・奈良・古墳・奈良・平安・中世	平安	25	愛宕山根穴群	丘陵斜面 古墳(末)・奈良	奈良
11	大野田遺跡	自然堤防 鶴文(後)・古墳・平安・中世	平安	26	光明駅東遺跡	自然堤防 鶴文	古墳・奈良・平安
12	元袋遺跡	自然堤防 奈良・平安・中世・近世	平安	27	西山垣遺跡	自然堤防 鶴文(後)・奈良・古墳	奈良
13	長町清水遺跡	自然堤防 古墳?	古墳?	28	耶山遺跡	丘陵露頭 古墳(後)・奈良・平安	奈良・平安
14	波塚古墳	後背高地 古墳	古墳	29	北巨坂跡	自然堤防 鶴文(後)・奈良・中世・近世	奈良
15	金岡八幡古墳	後背高地 古墳	古墳	30	南小泉遺跡	自然堤防 鶴文(後)・奈良・古墳・平安・中世・近世	奈良

第7図 周辺の遺跡分布図

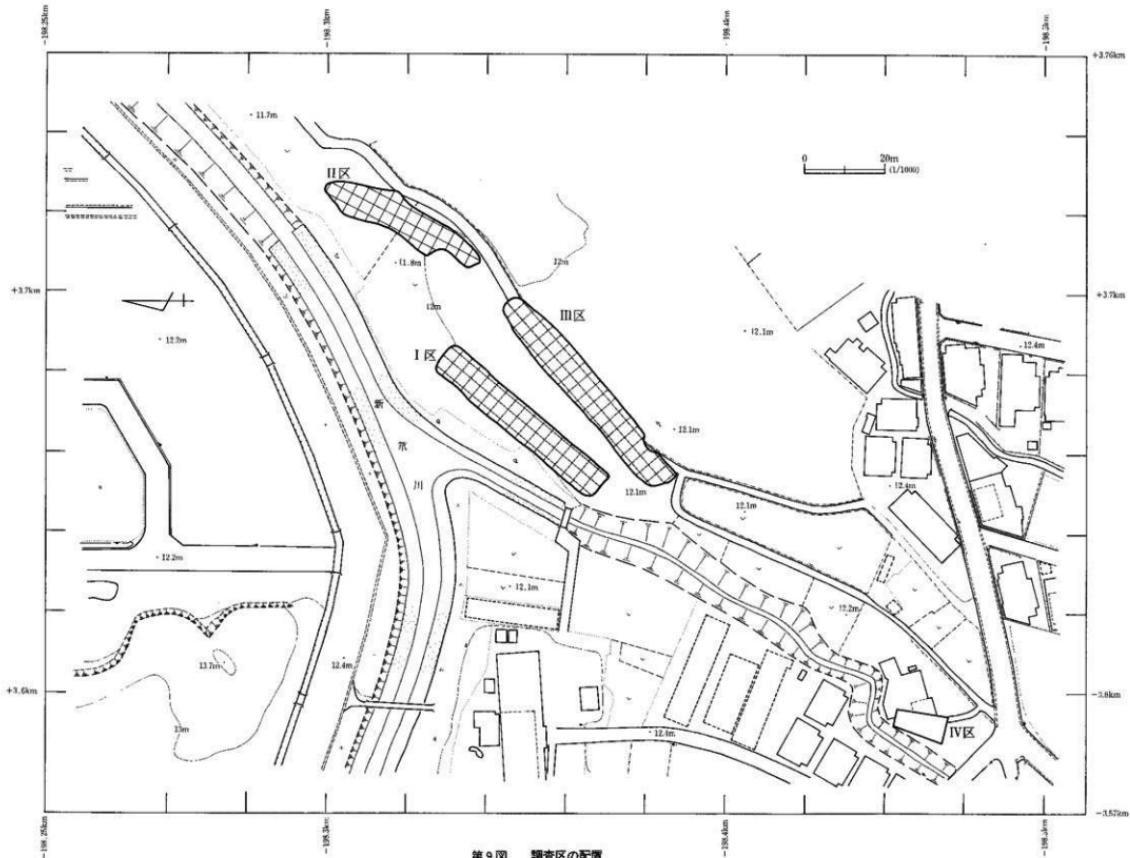
### 3 これまでの調査成果

六反田遺跡はこれまでに数次にわたる調査が行われており、貴重な成果が上がっている。ここでは、これまでの調査と周辺地区の状況を簡単にまとめたい（第6・8図）。

- A 昭和51年（1976）から53年にかけて民間社宅建設にともない調査された。今回の調査区の南東に隣接する。奈良・平安時代の住居跡・溝跡・小溝状遺構群、古墳の周溝、木棺墓、石棺墓、縄文時代後期初頭の遺物包含層・土坑、縄文中期中葉の住居跡などが発見された。縄文時代の土坑から炭化したクルミが多量に出土している（田中：1981）。
- B 昭和58年（1983）に、大野田小学校給食棟建設に伴い調査された。今回の調査区の北東部に位置する（田中：1984）。
- C 昭和59年（1984）に、民間社宅建設にともない調査された。今回の調査区の南に隣接する。奈良・平安時代の住居跡・小溝状遺構群・掘立柱建物跡、縄文時代後期初頭の遺物包含層・土坑・柱穴列、中期末葉の住居跡などが発見された。縄文時代の遺構の土壤を水洗選別した結果、鱗水産魚類の骨が検出された（佐藤：1987）。
- D 本書にまとめた高速鉄道関連の調査である。



第8図 これまでの調査



第9図 調査区の配置

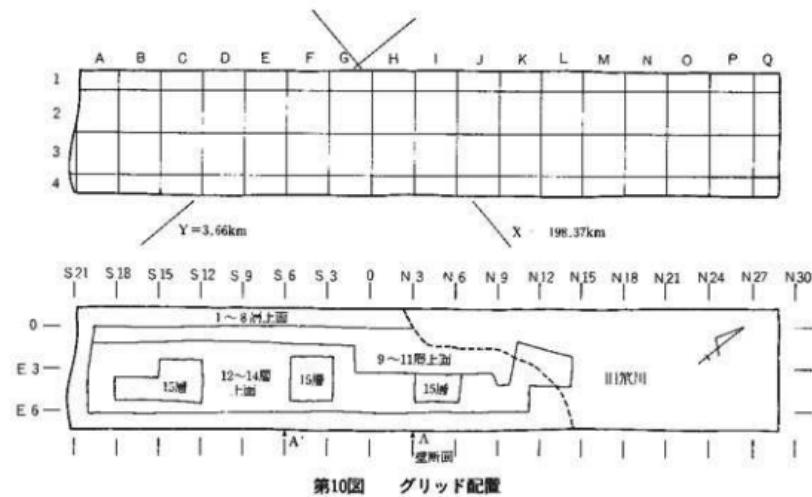
### III I区の調査成果

#### 1 調査の方法と経過

調査区は共同住宅の規模に合わせて、 $50m \times 9m$  の長方形に設定した。対象面積は約450m<sup>2</sup>である。耕作土を重機で除去したところ北側約4割が改修前の荒川の旧流路であったため、それ以外の部分を調査対象とした。

地区設定にあたっては調査区の南西隅を基点とし、調査区の方向に合わせて  $3m \times 3m$  のグリッドを設定した。グリッド名は南北方向のアルファベット、東西方向のアラビア数字の組み合せで呼称した (A-1・B-2・・・)。また、1・2ラインとG・IIラインの交点を基点とし、そこからの距離数でも記述した (N3E4・S5E3・・・)。グリッドの方向は真北より約40°東偏している(第9・10図)。図中の国土座標軸は現地で測量したものではなく、都市計画図より写したものである。

調査は昭和56年(1981)9月4日より開始した。最上層の溝などの調査後、下層に掘り進んだ。10月2日にはSI1住居跡が検出された。11月上旬には獨立柱建物跡、溝跡などを調査した。11月下旬からは古代以前の層の調査を進め、12層を中心として縄文土器、石器が出土した。12月26日に一時中断、翌1月6日に再開、疊層を検出し1月18日に終了した。



第10図 グリッド配置

## 2 基本層序 (第11図)

確認された層序は、14層に大別された。

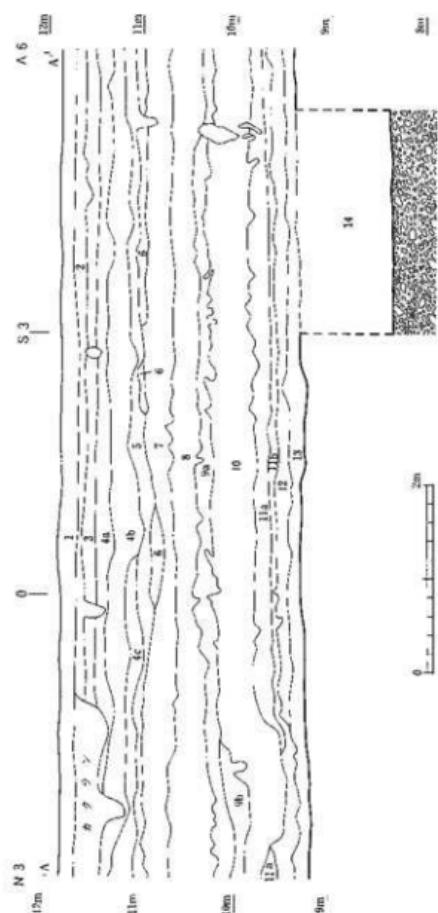
- 1層 暗褐色シルト 耕作土であり、厚さ20cm程で全面に広がる。
- 2層 褐色シルト 厚さ10~15cmで、全体に分布する。
- 3層 褐色シルト 厚さ10~15cm、酸化鉄層。上面で溝跡、土坑が検出された。
- 4層 3層に細分されるシルト層で、上層がにぶい黄褐色、下層が褐色である。厚さは全体で30~50cmある。4c層は部分的である。4a層上面で堅穴住居跡が検出された。
- 5層 褐色砂質シルト 厚さ10~20cmで、全体に分布する。粗砂を含む。
- 6層 黒褐色粘土質シルト 厚さ10cm程で、部分的である。上面で溝跡、掘立柱建物跡などが検出された。
- 7層 にぶい黄褐色粘土質シルト 厚さ10~30cmで、全体に分布する。
- 8層 褐色シルト 厚さ30cm程で、全体に分布する。
- 9層 暗褐色シルト 厚さ20cm程で、全体に分布する。炭を含む9a層とそうでない9b層に分かれ、9b層は部分的である。9a層の層下面は乱れている。
- 10層 黄褐色砂質シルト 厚さ45cm程で、全体に分布する。
- 11層 褐色シルト 厚さ20cm程で、炭、焼土を含む。2層に細分され、下層に多く炭を含む。
- 12層 暗褐色粘土質シルト 厚さ10~20cm程で、炭を多量に含む。縄文土器・石器が多く出土する。前回の調査や、III区で確認された縄文時代後期初頭の遺物包含層に対応する層と考えられる。
- 13層 暗褐色粘土質シルト 厚さ10~15cm程で、全体に分布する。縄文土器・石器が出土する。
- 14層 褐色粗砂 厚さ1m程で、全体に分布する。その下は標高8.2m前後で砂疊層に移行する。

## 3 3層上面の遺構と遺物

3層上面からは土坑3、溝跡2、ピット3が検出された(第12図)。

### S K 1 土坑 (第13図)

G-2グリッドに位置する。ピット1・2より新しい。120×100cmの梢円形で深さ25cm、北半分が一段下がり深さ40cmである。堆積土は1層で、灰白色砂質シルトと明黄褐色土が混在している。遺物は出土しなかった。



SK 2 土坑（第13図）

G-3グリッドに位置する。SD 1溝跡より新しい。70×50cmの楕円形で、深さ15cmである。堆積土は1層で、褐灰色砂質シルトと明黄褐色土が混在している。遺物は出土しなかった。

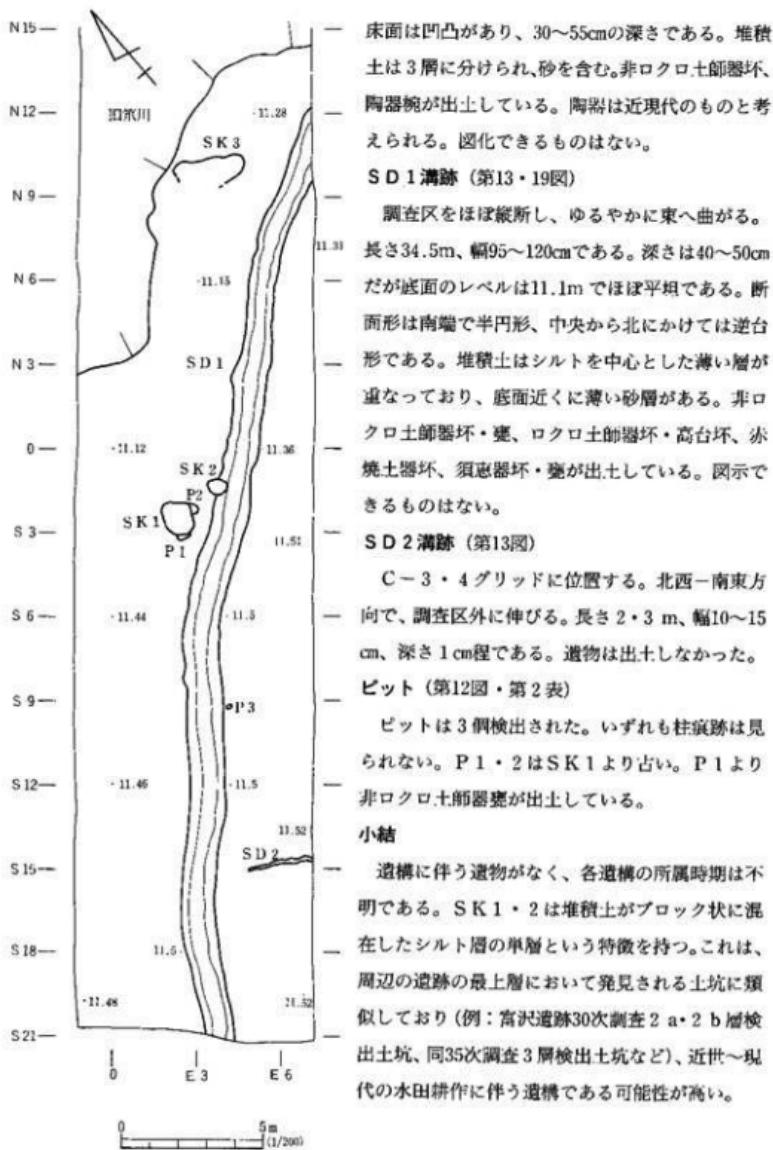
SK 3 土坑（第13図）

K-3グリッドに位置する。擾乱等により全形を把握していない。250×120cmの不整形で、

部位	色	土性	備考
1	暗褐色 10YR 5/3	シルト	
2	褐色 10YR 4/4	シルト	
3	褐色 10YR 6/6	シルト	ほんのどんぐれで占められる。
4-a	褐色 10YR 4/3	シルト	ツンツン性質を含む。
4-c	褐色 10YR 1/1	シルト	ツンツン性質・山形を含む。
5	褐色 10YR 4/4	砂質シルト	ツンツン性質を含む。
6	黒褐色 2.5YR 3/2	褐色・暗褐色	相形を含む。
7	≤灰褐色 10YR 4/3	軽土質シルト	暗色を含む。
8	褐色 10YR 4/6	シルト	淡色を含む。
9-a	暗褐色 10YR 3/4	シルト	成び点を含む。
9-b	暗褐色 10YR 3/1	シルト	
10	褐色 10YR 6/6	砂質シルト	細かい点を含む。
11a	褐色 10YR 4/4	シルト	堆土・埴土・灰土に似た性質。
11b	褐色 10YR 4/4	シルト	成土質シルト
12	褐色 10YR 4/4	軽土質シルト	成土質シルト
13	褐色 10YR 4/1	軽土質シルト	褐色を含む。
14	褐色 10YR 4/4	粘土	

第11図 基本層序

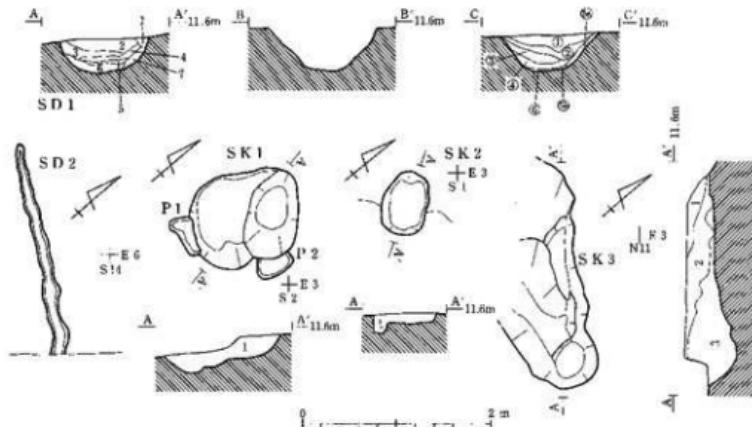
### 3 3層上面の遺構と遺物



第12図 3層上面の遺構配置図

第2表 3層上面のピット計測表

番号	長径	短径	厚さ(cm)	二 面 角 度	土 色	土 性	番号	長径	短径	厚さ(cm)	土 色	土 性
1	(44)	(24)	(12)	褐色 7.5YR4/4	シルト(?)		3	46	26	27	褐色 10YR3/3	シルト
2	(38)	(20)	(11)	褐色 7.5YR4/6	シルト(?)						黒褐色 7.5YR3/2	シルト



遺構	部位	土 色	土 性	備 考
SD1	1	褐色 10YR4/4	粘土質シルト	白色バニスをわずかに含む
	2	褐色 10YR5/4	シルト	白色バニスを含む
	3	褐色 10YR4/4/2	シルト	白色バニス、黄を含む
	4	褐色 10YR4/1	粘土質シルト	白色バニスを含む
	5	暗褐色 10YR6/6	粘土	褐色
	6	褐色 10YR6/6	粘土質シルト	白色バニスを含む
	7	褐色 10YR2/1	粘土質シルト	白色バニスを含む
SK1	①	にじみ青褐色 10YR5/3	シルト	白色バニス、炭をわずかに含む
	②	灰青褐色 10YR4/2	砂質シルト	白色バニス、炭をわずかに含む
	③	灰褐色 10YR4/2	粘土質シルト	白色バニスを含む
SK2	1	褐色 10YR6/1	砂質シルト	明黄色を地に黒点状に散じる
	2	褐色 10YR6/1	砂質シルト	明黄色 (10YR6/6) シルトと混在
SK3	1	褐色 10YR4/4	砂質シルト	砂を多く含む
	2	褐色 10YR4/4	砂質シルト	砂を多く含む
	3	にじみ青褐色 10YR5/4	砂質シルト	砂を含む

第13図 3層上面の遺構

#### 4 4 a 層上面の遺構と遺物

### 4 4 a 層上面の遺構と遺物

4 a 層上面からは竪穴住居跡が 1 軒検出されている（第14図）。

#### S I 1 住居跡（第15・16図）

〔位置〕 B・C-2～4 グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 南北3.4m、東西3.7m の方形である。

〔堆積土〕 11層に分けられる。自然堆積の状況である。

〔壁〕 基本層を壁とする。約60cmあり、非常に急角度で立ち上がる。

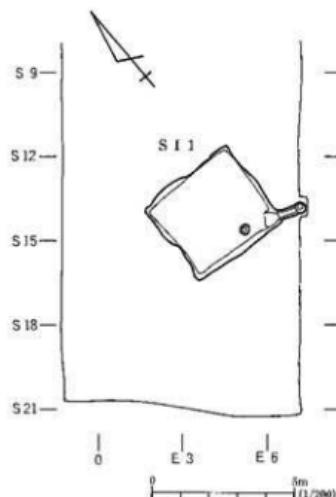
〔床〕 基本層を床面とする。ほぼ平坦である。

〔ピット〕 南東部にピットが 1 個検出された。35×30cm の楕円形で、深さ15cmである。

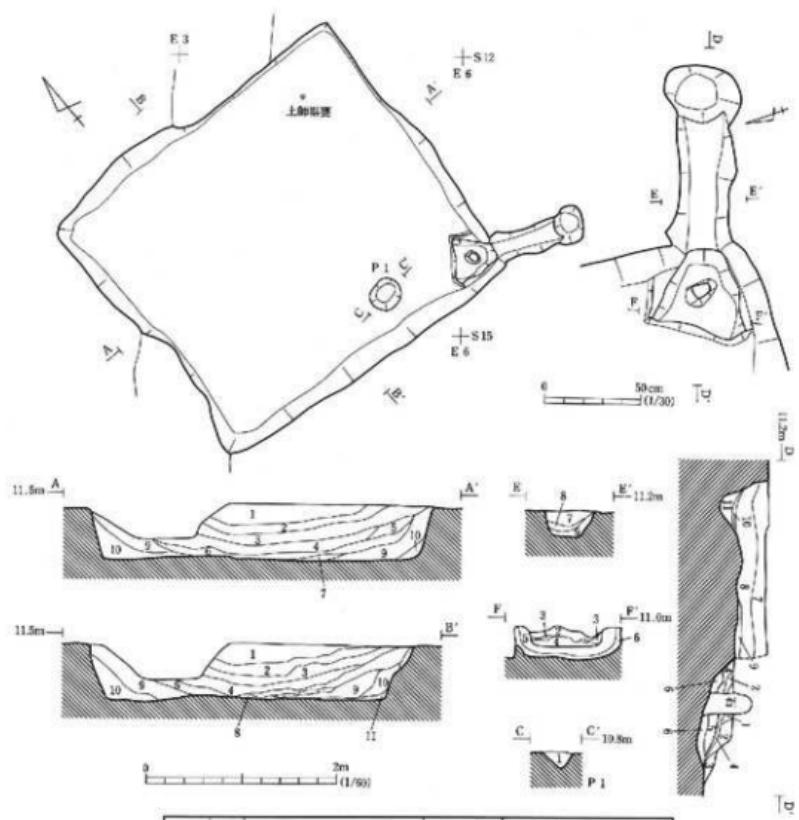
〔カマド〕 南東隅に位置する。燃焼部は幅60cm、長さ50cmである。残存状況は悪いが、粘土により袖が作られているようである。中央に長さ21cmの石製支脚が残っている。煙道は長さ 1 m、幅30cm であり、先端部は径40cm、深さ30cm のピット状にくぼむ。

〔出土遺物〕 北東隅の床面より土師器甕が出土している（第16図 1）。ロクロ使用のもので、体下半部にはヘラケズリが施される。また、堆積土より須恵器甕の底部が出土している（2）。

〔小結〕 床面出土遺物の特徴から、平安時代の住居跡と考えられる。

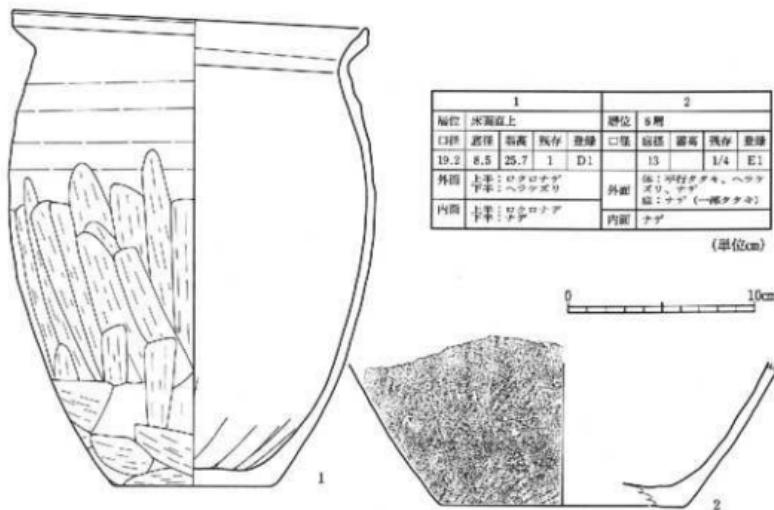


第14図 4 a 層上面の遺構配置図



部位	土色	土性	備考
地盤土	1 褐色 10YR4/4	砂質シルト	マンガン鉱・バニスを含む
	2 褐色 10YR4/6	シルト	
	3 黄褐色 10YR4/4	シルト	マンガン鉱を含む
	4 にじみ黄褐色 10YR5/4	シルト	マンガン鉱を含む
	5 にじみ黄褐色 10YR5/4	シルト	
	6 黄褐色 10YR4/4	シルト	
	7 黄褐色 10YR4/4	シルト	
	8 にじみ黄褐色 10YR5/4	シルト	
	9 矿物質 10YR3/4	シルト	
	10 矿物質 10YR3/4	シルト	
	11 にじみ黄褐色 10YR4/3	シルト	
カマド	1 水褐色 5YR4/2	シルト	焼けている、粘性強い
	2 墓赤褐色 2.5YR3/3	粘土	
	3 褐色 10YR4/4	粘土	
	4 明赤褐色 5YR3/8	粘土	軽く焼けている
	5 明赤褐色 5YR3/8	粘土	軽く焼けている
	6 墓赤褐色 2.5YR3/3	粘土質シルト	焼けおりもろい
	7 褐色 7.5YR4/4	粘土質シルト	
	8 褐色 7.5YR4/4	粘土質シルト	
	9 褐色 7.5YR4/4	粘土質シルト	
	10 褐色 10YR4/4	粘土質シルト	暗褐色土を含む
	11 褐色 10YR4/4	粘土質シルト	粘性強い
ピット	1 褐色 7.5YR4/6	シルト質粘土	粘性強い

第15図 S-1住居跡



第16図 S I 1出土遺物

## 5 6層上面の遺構と遺物

6層上面からは掘立柱建物跡1、溝跡7、ピット16が検出された（第17図）。

## S B 1 建物跡（第18図）

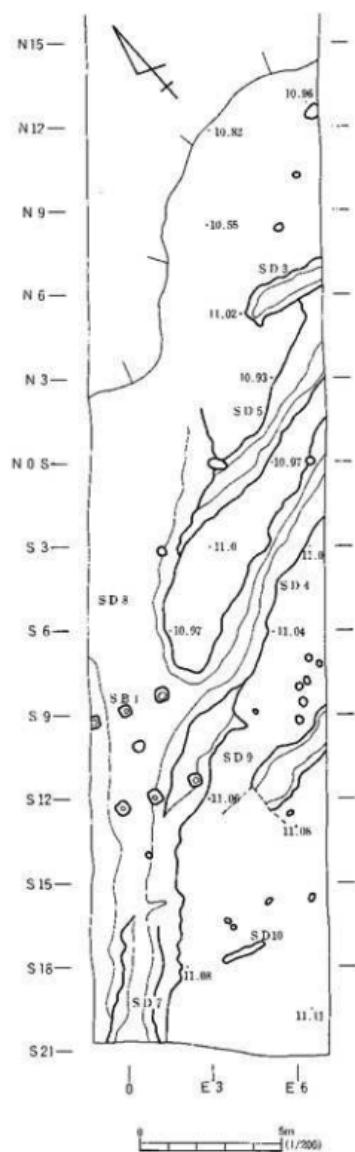
C・D・E-1・2グリッドに位置する。SD 8より新しい。梁行1間（317cm）、桁行2間以上（383cm以上）の東西棟である。主軸方向はN71°Wである。柱穴は一辺40～50cmの方形で深さ35～40cmである。いずれも径20～30cmの柱痕跡が認められる。遺物は出土しなかった。

## S D 3 溝跡（第19・20図）

I・J-3・4グリッドに位置し、SD 5より新しい。長さ3.2m、幅1.1m、深さ40cmで、底は丸みを帯びる。堆積土は粘土質シルトが主体で、6層に大別される。非ロクロ土師器窯が出土している。図示できるものはない。

## S D 4 溝跡（第19・20図）

E-II-3・4グリッドに位置し、SD 8から分岐している。長さ9.5m、幅140～160cm、深さ25cmである。断面形は皿状である。堆積土は砂で、2層に分けられる。非ロクロ土師器窯が出土している。図示できるものはない。



第17図 6層上面の遺構配置図

## SD 5溝跡 (第19図)

F～I-3・4グリッドに位置し、SD 8から分岐している。長さ6.5m、幅90～140cm、深さ10cmである。非クロロ土器壺、須恵器壺が出土している。図示できるものはない。

## SD 7溝跡 (第19・20図)

A・B-1・2グリッドに位置し、SD 8より新しい。長さ4.5m、幅110～180cm、深さ15cmである。堆積土は暗褐色の細砂1層である。

## SD 8溝跡 (第19・20図)

調査区のほぼ西端に沿う。長さ22m、幅3m以上、深さ50cmである。底面は平坦であり、西に向かって下がるようである。堆積土は砂質シルトおよび砂で構成される。

## SD 9溝跡 (第19・20図)

C・D-3・4グリッドに位置する。長さ3.4m、幅90～150cm、深さ10cmである。非クロロ土器壺が出土している。図示できるものはない。

## SD 10溝跡 (第19図)

A・B-3グリッドに位置する。長さ1.6m、幅20cm、深さは5cmである。遺物は出土しなかった。

## ピット (第19図・第3表)

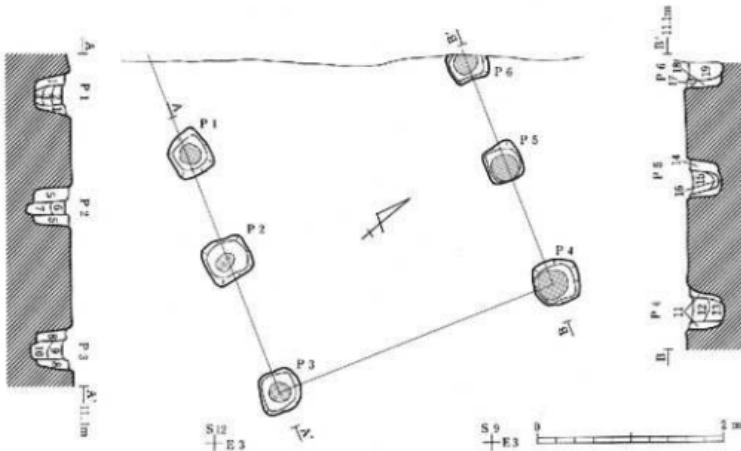
ピットは16個検出されたが、柱痕跡を持つものはない。建物跡を構成するかどうかは分析できなかった。P23より非クロロ土器壺が出土している。

## 小結

6層上面の各遺構からは時期決定遺物が出土しておらず、その所属時期は不明である。但し、上層との関係から、平安時代かそれ以前の遺構と考えられる。

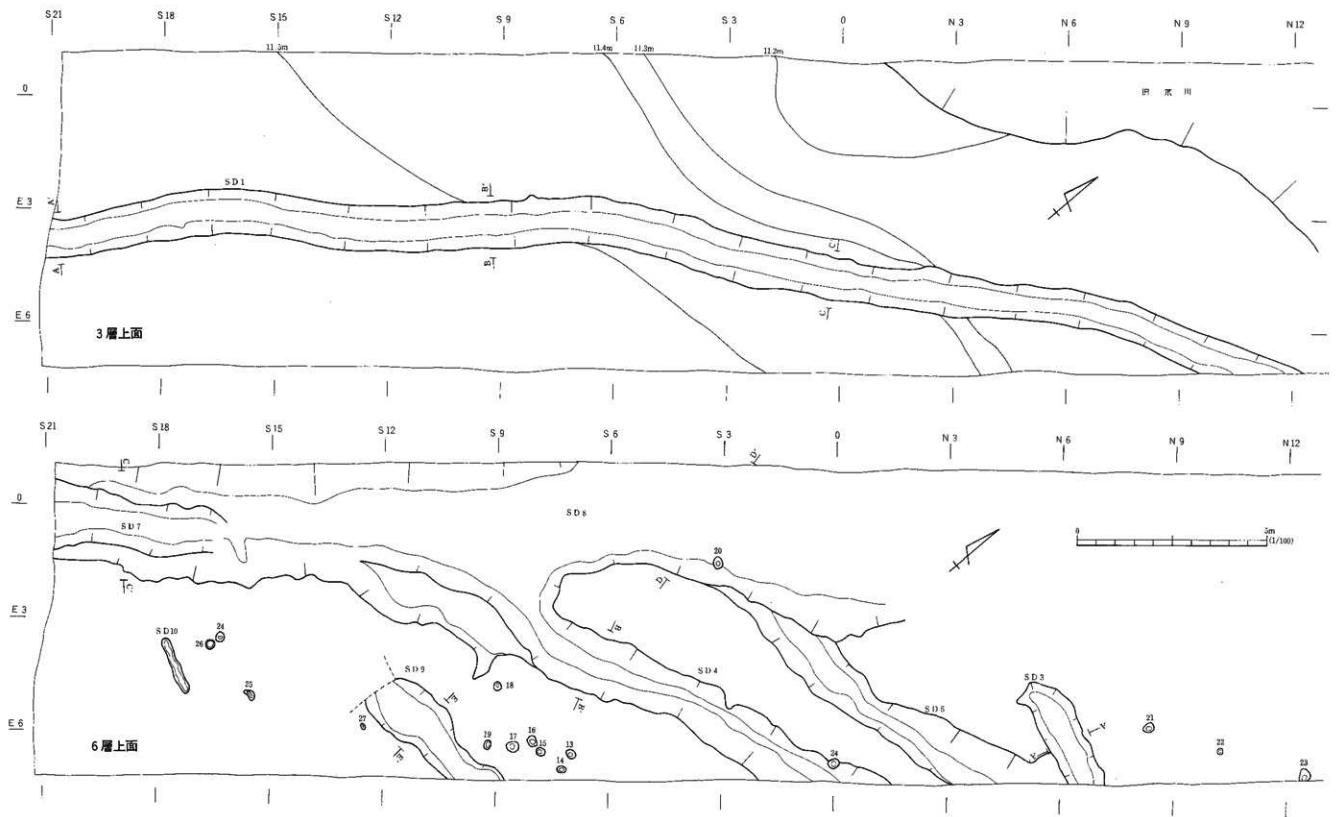
第3表 6層上面のピット計測表

番号	奥深	幅深	面積(cm)	土色・土性	面積	長径	短径	面積(cm)	土色・土性
10	66	36	23	褐色 7.5YR4/4 砂質シルト	22	24		21	褐色 7.5YR4/4 シルト
13	26		14	褐色 10YR4/4 黏土質シルト					褐色 7.5YR4/4 黏土質シルト
14	22	26	14	褐色 7.5YR4/4 黏土質シルト	23	50	46	29	褐色 7.5YR4/4 黏土質シルト
15	26		19	褐色 7.5YR4/4 黏土質シルト					褐色 7.5YR4/4 黏土質シルト
16	28		19	褐色 7.5YR4/4 黏土質シルト					褐色 7.5YR4/4 シルト
17	34	28	30	褐色 7.5YR4/3 黏土質シルト	24	28		23	褐色 7.5YR4/4 シルト
18	22		16	褐色 7.5YR4/2 シルト					褐色 7.5YR4/4 黏土質シルト
19	26	20	12	にじい黄褐色 10YR4/3 シルト	25	44	16	8	褐色 7.5YR4/4 シルト
20	24		21	(不明)					褐色 7.5YR4/4 黏土質シルト
21	30		19	褐色 7.5YR4/4 シルト	26	34	26	9	褐色 7.5YR4/4 黏土質シルト
				褐色 7.5YR4/4 黏土質シルト	27	22	16	19	黄褐色 10YR5/6

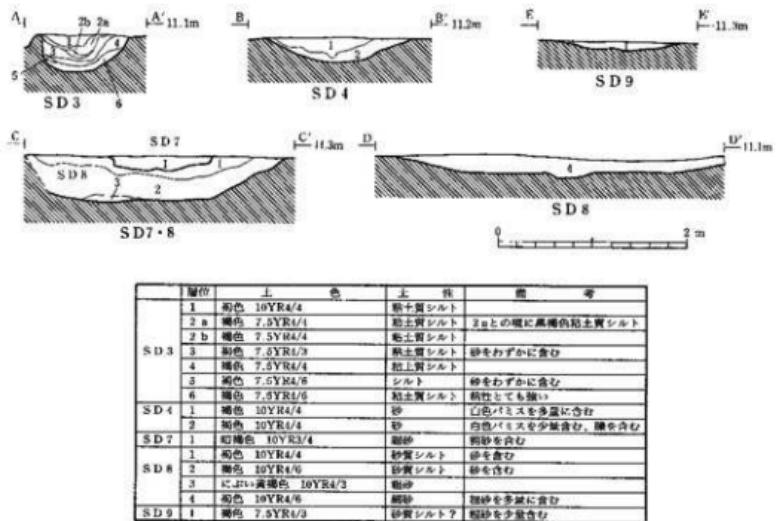


層位	上色	土性	備考
P 1	にじい黄褐色 10YR6/4	砂	
	暗褐色 10YR5/4	砂質シルト	バミスを含む
	褐色 10YR4/4	粗砂	炭を含む
	褐色 10YR4/4	シルト	炭を含む
P 2	褐色 10YR4/4	砂質シルト	
	にじい黄褐色 10YR4/3	砂質シルト	バミスをわずかに含む
	褐色 10YR4/4	シルト	炭をわずかに含む
P 3	褐色 10YR4/4	粘土質シルト	堆砂をわずかに含む
	褐色 7.5YR4/3	粘土質シルト	粘性強い
P 4	褐色 7.5YR4/4	粘土質シルト	炭を含む
	褐色 10YR4/4	シルト	
	暗褐色 10YR3/4	シルト	
P 5	褐色 10YR4/4	シルト	
	にじい黄褐色 10YR4/3	シルト	炭をわずかに含む
P 6	暗褐色 10YR3/4	砂質シルト	
	暗灰褐色 2.5Y5/2	砂質シルト	
	暗褐色 10YR3/4	砂質シルト	
	褐色 10YR5/6	シルト	
	褐色 10YR4/6	シルト	

第18図 S B 1 建物跡



第19図 3層・6層上面の造構配置図



第20図 6層上面の遺構

## 6 7層上面の遺構と遺物

### S K 4 土坑 (第21図)

K・L-3グリッドに位置する。旧荒川に切られており形状は不明である。残存長2.7m、幅120cm、深さ40cmである。底面はほぼ平坦である。堆積土は4層に分かれ、上層が粘土質シルト、下層が砂質シルトである。遺物は出土しなかった。

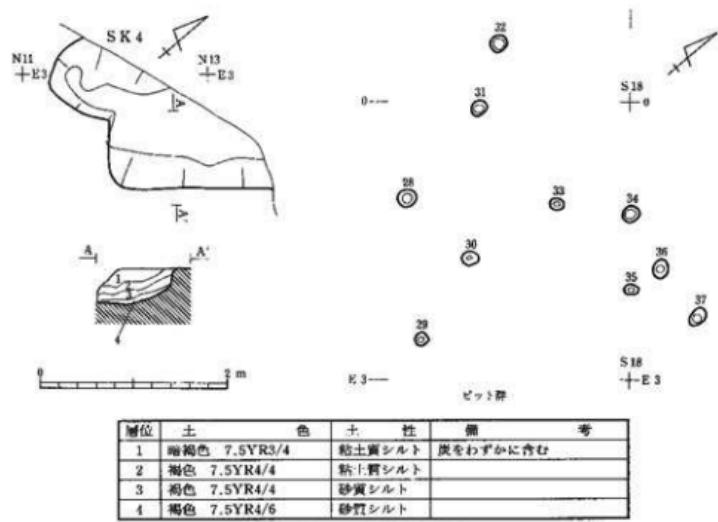
### ピット (第21図・第4表)

A・B-1・2グリッドに位置する。10個が散在しており、建物を構成するものはない。

第4表 7層上面のピット計測表

番号	長径	短径	深さ(cm)	上色・土性	番号	長径	短径	深さ(cm)	上色・土性
28	20	13	褐色 7.5YR4/4 粘土質シルト	33	16	13	褐色 7.5YR4/4 粘土質シルト		
29	14	16	褐色 7.5YR4/3 粘土質シルト	34	20	14	褐色 7.5YR4/4 粘土質シルト		
30	18	14	褐色 7.5YR4/4 粘土質シルト	35	14	13	褐色 7.5YR4/3 粘土質シルト		
31	16	13	褐色 7.5YR4/3 粘土質シルト	36	20	18	褐色 7.5YR4/3 粘土質シルト		
32	20	17	褐色 7.5YR4/4 粘土質シルト	37	20	14	褐色 7.5YR4/4 粘土質シルト		

## 7 10層上面の遺構と遺物



第21図 7層上面の遺構

## 7 10層上面の遺構と遺物

土坑2、ピット2が検出された（第22図）。

### S K 5 土坑（第23図）

D・E-3グリッドに位置する。105×90cmの楕円形で、深さ45cmである。すり鉢状にくぼむ。堆積土は粘土質シルトを主体とし、6層に分かれる。遺物は出土しなかった。

### S K 6 土坑（第23図）

H・I-3グリッドに位置する。調査区外に伸び、全形は不明である。長さ3.5m、幅2.2m、深さ15cm、西側の一部がくぼみ、深さ30cmである。堆積土は2層に分かれる。遺物は出土しなかった。

### ピット（第23図・第5表）

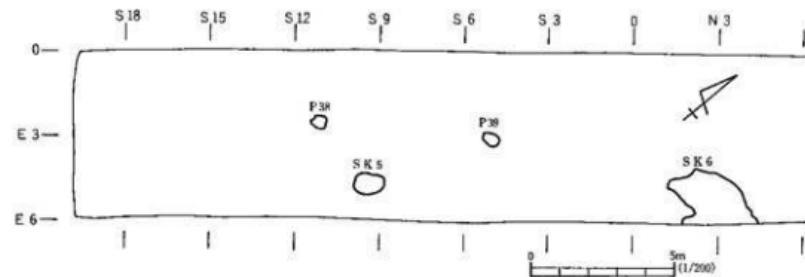
D-2グリッド、F-2グリッドに各1個検出された。

### 礫群（第23図）

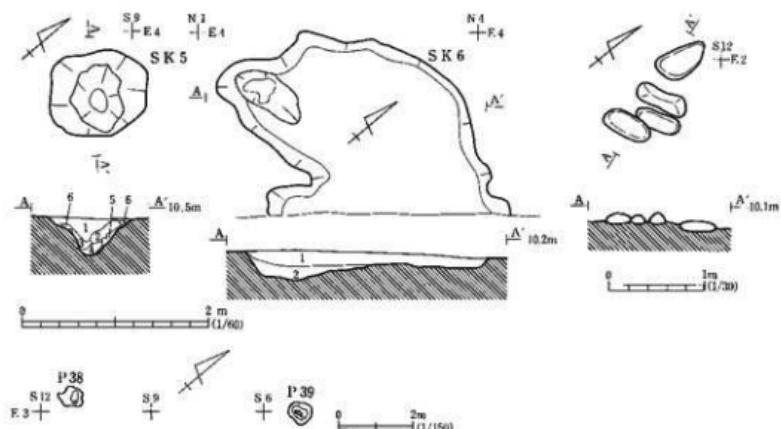
C-2グリッドに位置する。70×40cmの範囲に4個の礫がまとまって検出された。長さ25～30cmの細長い礫である。下部に掘り込みは確認されなかった。

第5表 10層上面のピット計測表

番号	高さ	幅	深さ(cm)	土色・上判	番号	高さ	幅	深さ(cm)	土色・性
26	61	50	14	褐色 10YR4/6 粘土質シルト	39	50	54	8	褐色 7.5YR4/6 粘土質シルト



第22図 10層上面の造構面図



層位	土色	土性	備考
SK 5	1 咬褐色 10YR3/4	粘土質シルト	炭を少量含む
	2 暗褐色 10YR3/3	粘土質シルト	炭を多量に含む
	3 咬褐色 10YR3/4	粘土質シルト	炭を少量含む
	4 棕色 7.5YR4/4	粘土質シルト	炭を少量含む
	5 棕色 10YR4/6	粘土質シルト	炭をわずかに含む
	6 黄褐色 10YR5/8	砂質シルト	
SK 6	1 棕色 7.5YR4/4	シルト	
	2 棕色 10YR4/4	粘土質シルト	

第23図 10層上面の造構

## 8 11層上面の遺構と遺物

11層上面からは土坑6、ピット1が検出された。11層の地形は南から北へゆるやかに傾斜している(第24図)。

### S K 7 土坑(第25図)

F-2・3グリッドに位置する。径80cmの円形で、深さ10cmである。底面は平坦である。堆積土は褐色砂質シルト1層である。遺物は出土しなかった。

### S K 8 土坑(第25図)

H-3グリッドに位置する。一部調査区外に伸びるが、110×60cmの楕円形で深さ30cmである。断面形はすり鉢状である。堆積土は褐色砂質シルト1層である。遺物は出土しなかった。

### S K 9 土坑(第25図)

E・F-3グリッドに位置する。一部調査区外に伸び、長さ160cm、幅80cm以上である。深さは110cmで、底面は平坦である。堆積土は褐色砂質シルト1層である。遺物は出土しなかった。

### S K 10 土坑(第25図)

B-2・3グリッドに位置する。150×150cmの不整形で、深さ16cm、最深部で25cmである。底面はほぼ平坦で、中央部がくぼむ。堆積土は黄褐色砂1層である。遺物は出土しなかった。

### S K 11 土坑(第25図)

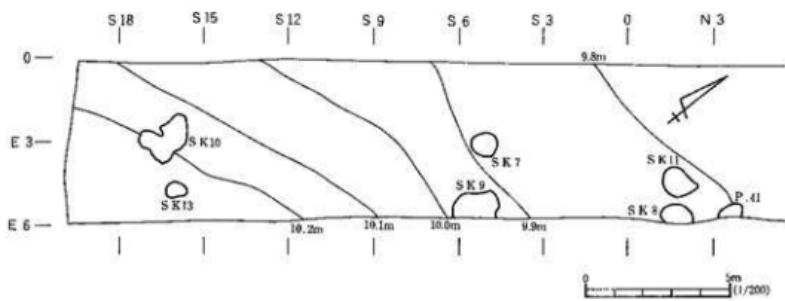
H-3グリッドに位置する。130×90cmの不整楕円形で、深さ10cm、最深部で20cmである。底面は東半分が一段下がる。堆積土は褐色砂質シルト1層である。遺物は出土しなかった。

### S K 13 土坑(第25図)

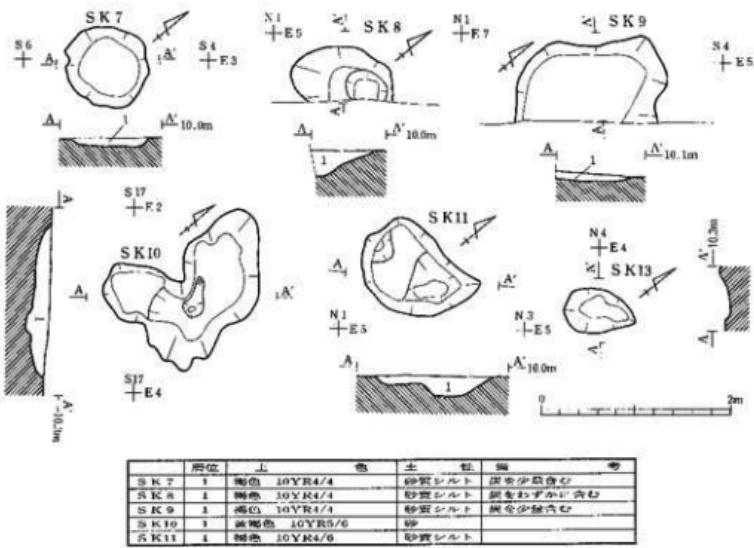
B-3グリッドに位置する。80×50cmの楕円形で、深さ5cmである。底面は傾斜している。堆積土は不明である。遺物は出土しなかった。

第6表 11層上面のピット計測表

番号	長径	短径	深さ(cm)	土色・土性	番号	長径	短径	深さ(cm)	土色・土性
41	(82)	(66)	17	褐色 7.5YR3/4 粘土質シルト					



第24図 11層上面の遺構配置図



第25図 11層上面の遺構

## 9 11~13層上面の遺構と遺物

11~13層のいずれかの層に帰属すると考えられる遺構である。土坑4が検出された(第26図)。

**SK12土坑（第27図）**

I-3グリッドに位置する。SK15より新しい。100×55cmの細長い不整形で、深さ20cmである。底面は平坦である。堆積土は黄褐色砂質シルト1層である。遺物は出土しなかった。

**SK14土坑（第27図）**

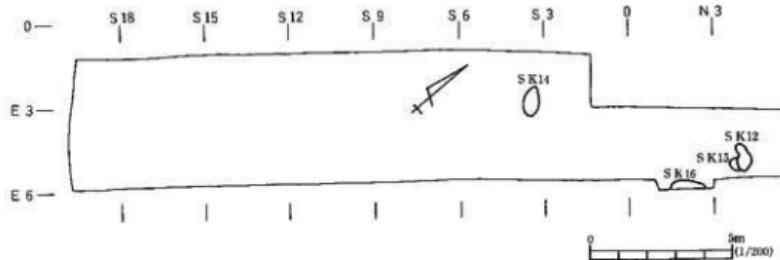
F-2グリッドに位置する。110×60cmの楕円形で、深さ17cmである。堆積土は明黄褐色シルト1層である。遺物は出土しなかった。

**SK15土坑（第27図）**

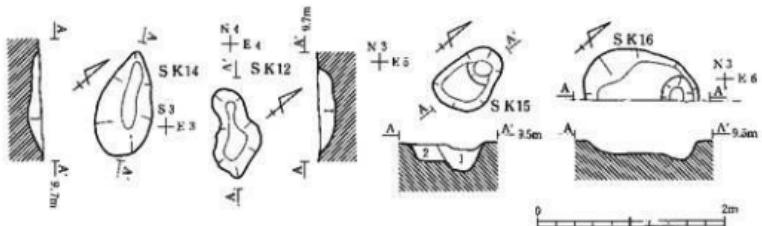
I-3グリッドに位置する。SK12より古い。80×60cmの楕円形で、深さ17cmで、北半分が一段下がり深さ30cmである。堆積土は2層に分かれる。遺物は出土しなかった。

**SK16土坑（第27図）**

H-3グリッドに位置する。調査区外に伸びており、長さ120cm、幅55cm以上の楕円形と推定される。深さは15cmで、北側で一段下がり、深さ20cmである。堆積土は不明である。遺物は出土しなかった。



第26図 11~13層上面の遺構配置図



層位	土色	土性	備考
SK12 1	黄褐色 10YR6/6	砂質シルト	
SK14 1	明黄褐色 10YR6/6	シルト	にぶい黄褐色土を含む
SK15 1	褐色 7.5YR4/4	砂質シルト	灰褐色土を含む
SK15 2	褐色 7.5YR4/4	シルト	灰褐色土・黒色土を含む

第27図 11~13層上面の遺構

## 10 基本層出土遺物 (第29~42図)

3層出土遺物 非クロ土師器壺、赤焼土器壺、須恵器壺が出土している。

4層出土遺物 (第29・39図) 非クロ土師器壺・壺、ロクロ土師器壺、赤焼土器壺、須恵器壺・壺、平瓦、石製品が出土している。29-1は平瓦の側縁部の破片である。粘土板の合わせ目痕と模骨痕が観察されることから、粘土板桶巻き作りのものである。凹面には布目痕、凸面はナデが施される。39-1は石製紡錘車の破片である。周縁にケズリ痕が残る。

5層出土遺物 (第29・30図) 非クロ土師器壺・壺、壺、赤焼土器壺、須恵器壺、刀子が出土している。古代の土器の出土量は最も多い。29-2・3は土師器壺である。体部は丸みを持ち、口縁部が外反する。2は平底である。古墳時代中期のものと考えられる。4は須恵器壺である。刀子は1cm程度の小破片である。30-1は縄文土器である。

6層出土遺物 (第30・38図) 非クロ土師器壺・壺、縄文土器、弥生土器、剝片石器が出土している。30-2は縄文後期中～後葉の土器である。30-3は弥生時代後半の土器と考えられる。38-1は有茎の石鏃である。

7層出土遺物 (第30図) 縄文土器が出土している(30-4～14)。14は後期中葉の注口土器である。

8層出土遺物 (第30・38図) 縄文土器(30-15～24)、剝片石器(38-3・4)が出土している。15は晩期、16は後期後葉、17・18は後期中葉の土器である。23は壠之内2式である。

9層 (第31図) 縄文土器が出土している(31-1・2)。1は十腰内1式と考えられる。

10層 (第31・38図) 縄文土器(31-3～8)、剝片石器(38-5～7)が出土している。7は口縁部に撫糸圧痕を持つ後期前葉の土器である。8は突起を一つ持つ鉢型の土器であり、後期前～中葉のものと考えられる。

11～13層 (第31～36・38～42図) 縄文時代後期初頭の土器、石器、土製品が12層を中心に出



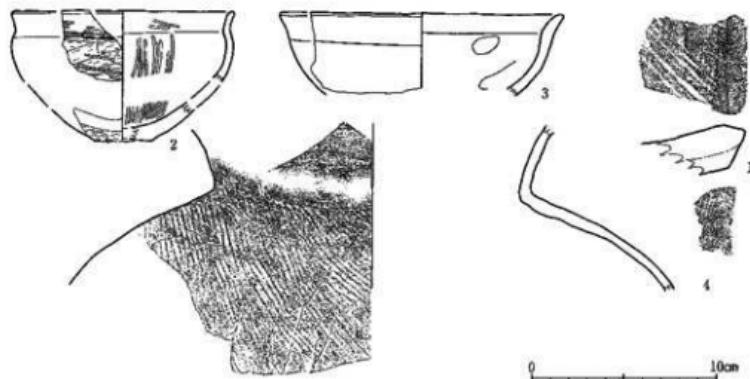
土している。土器片の点数の概数を第28図に示したが、B～Eグリッドの南側（III区寄り）が比較的多い。31-9は約13m離れたIII区出土土器と接合している。33-1は体部にワラビ手文を持つ深鉢型土器である。41-1は12層出土の蛇紋岩製の大形磨製石斧である。

**層位不明（第37・41・42図）** 7～13層出土と推定される縄文土器、土製品、礫石器、石製品がある。37-1は後期前葉の壺型土器である。2・3は十腰内1式と考えられる。41-8は11～13層出土と考えられる、岩偶の胸部片である。腰部に段を持ち、股部に三角形の切り込みがある。衣服を表現したものであろうか。同じ石材による岩偶は昭和59年度調査区からも出土している。

## 11 まとめ

I区からは堅穴住居跡（平安時代）、溝跡、土坑、ピット、縄文時代後期の遺物包含層が検出された。

基本層出土遺物から、6層より上は古墳時代以降の堆積層と考えられる。4b層上面が平安時代の遺構検出面である。11～13層に縄文時代後期初頭の遺物が多く含まれており、なかでも12層が昭和51～53・59年度調査の9層や、III区の9b層に相当する遺物包含層である。ただし、遺物出土量および遺構の数は南の調査区に比べて少ない。I区は縄文時代の遺構や遺物の集中部からは、ややはざれているようである。



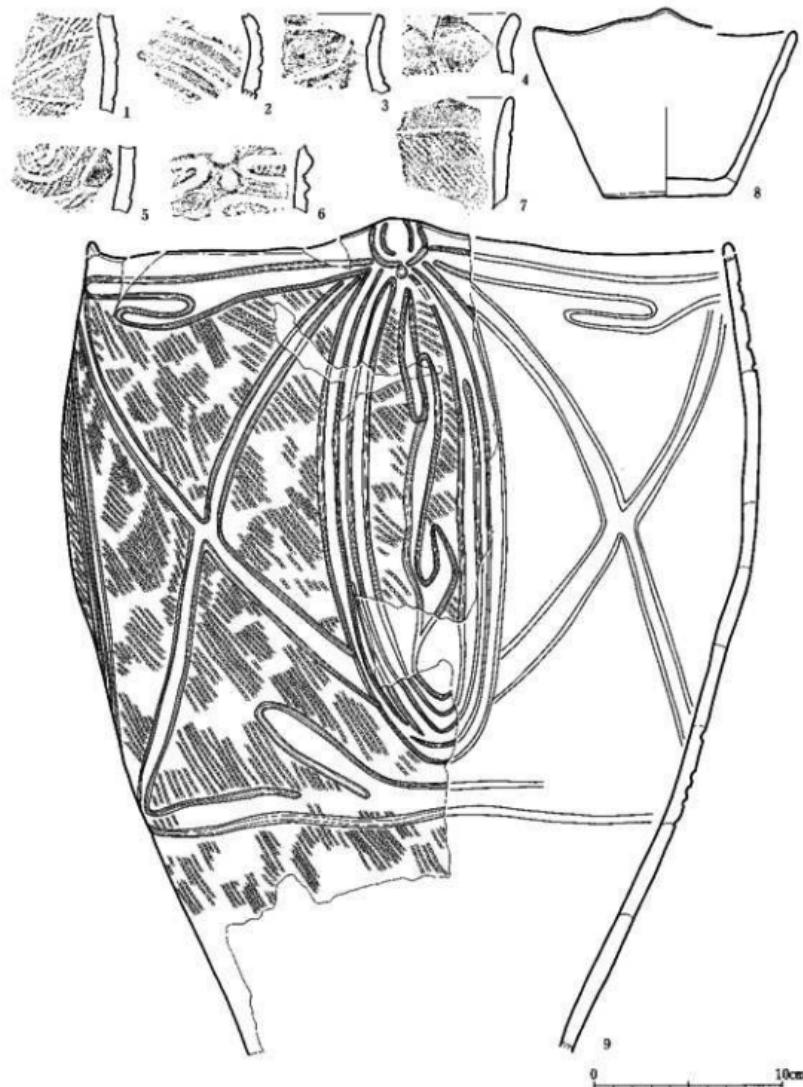
第29図 1～5層出土土器



層位	地区	特徴	番号	層位	特徴	番号
1 5層	G.2	L.R.縞文、沈鉢、斜穴	A371	13 7層	K.3 L.R.縞文?、沈鉢	A370
2	H.3	実底、芯縛	A353	14	B.4 浮面り伏文鋸	A357
3 6層	E.2	丁目形鉢；E.R.縞文；口縁部；K.L.頭舟付属	A372	15	E.1 口：角口 体部：沈鉢；E.R.縞文	A363
4	E.4	L.R.縞文、沈鉢	A363	16	E.2 縞文、沈鉢	A445
5	N.3	芯縛	A351	17	H.2 縞文、沈鉢	A343
6	芯縛	L.R.縞文、沈鉢	A367	18	D.2 口内・体部：沈鉢	A359
7 7層	E.3	L.R.縞文、沈鉢	A369	19	H.2 縞文、沈鉢	A356
8	H.3	内側に波綱	A360	20 H.層	J.3 縞文、沈鉢	A358
9	X.3	長縫目	A365	21	C.2 口縁文	A354
10	D.2	L.R.縞文、沈鉢	A361	22	J.2 沈鉢	A367
11	H.3	口縁3.7cm、高1.7cm	A140	23	K.3 縞文、周部；L.R.縞文、沈鉢；刀削：沈鉢	A340
12	K.3	芯縛	A368	24	C.3 芯縛	A355

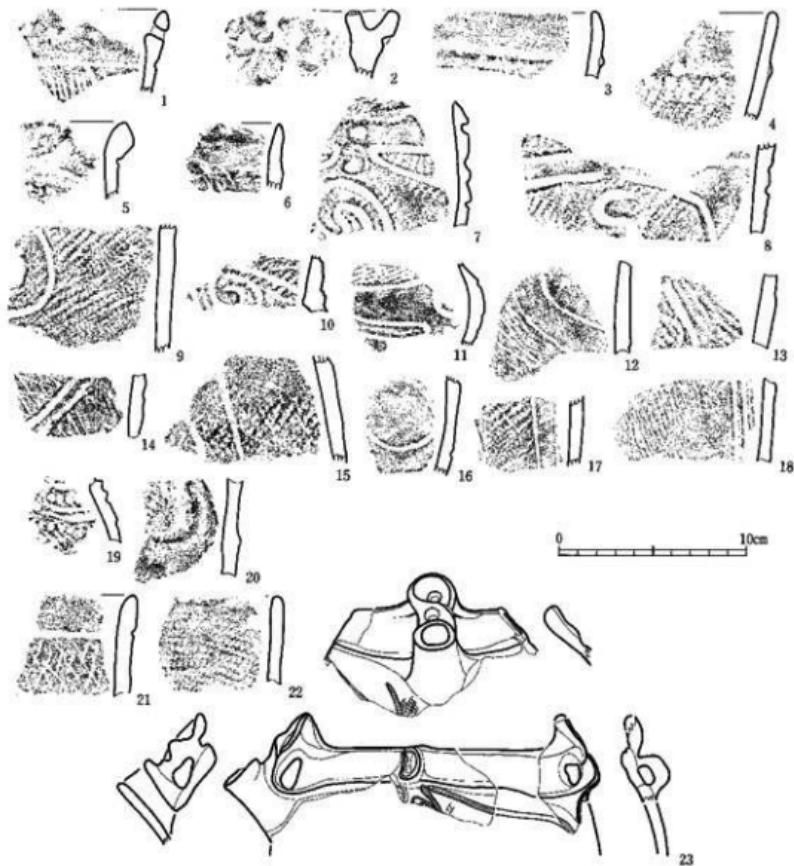
第30図 5～8層出土土器

10 基本層出土物



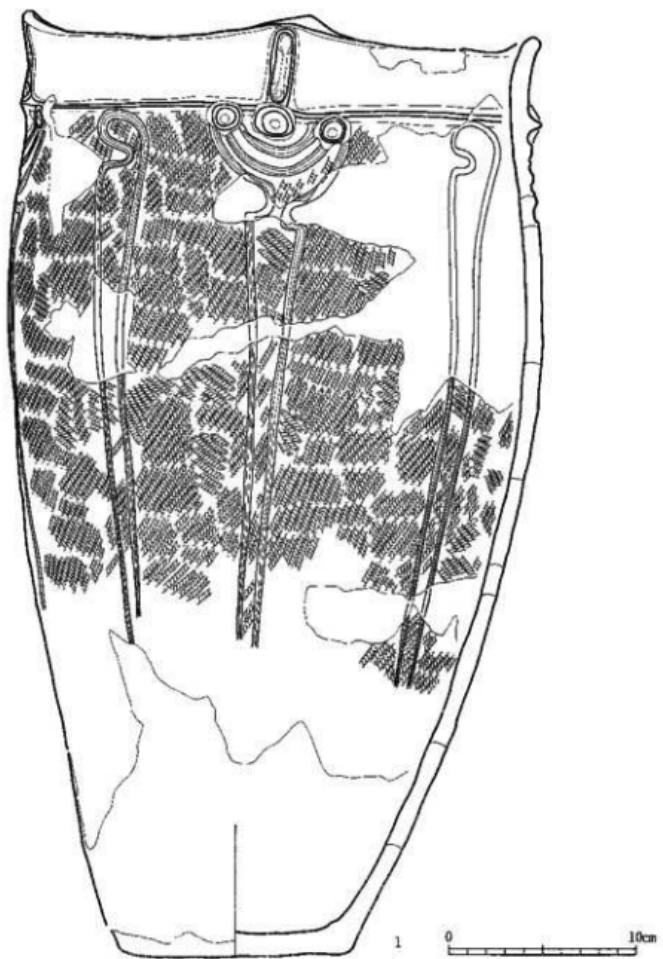
層位	地区	特徴	登録	層位	地区	特徴	登録
1 9層	E 3	R L 横文、沈縫	A551	6	A 3	沈縫、刺穴	A546
1 3	沈縫	A552	7 10層	G 2	R L 横条彫文、R L 横文	A548	
3	C 3	沈縫 内面：沈縫	A547	8	E 3	11往13.3cm底部6.8cm高10cm 突起	A435
4 10層	G 3	R 横条文	A556	9 11層	L 3	R 横条文、沈縫 同区B 16と合併 内面に変化物	A29
8	E 3	L R 横文、沈縫	A549				

第31図 9~11層出土土器



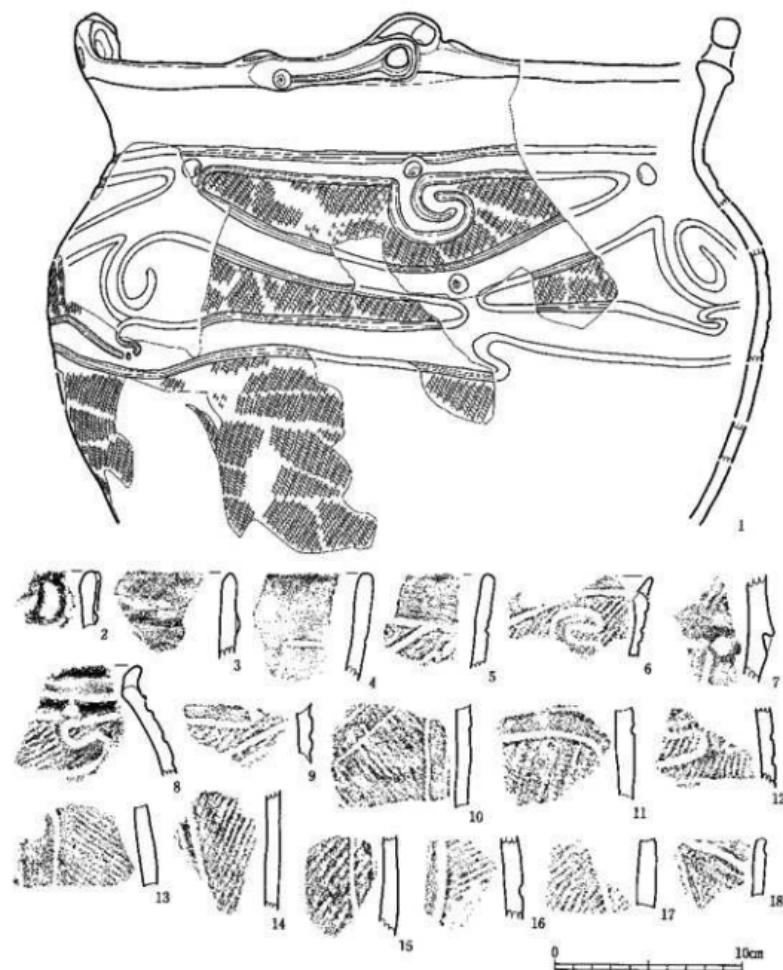
層位	地区	特徴	登錄	層位	地区	特徴	登錄
1	B 3	尖突、凹孔、R 摘糸文、沈線	A498	13	F 3	L R 繩文(9段多条?)、沈縫	A517
2	E 3	刺突	A510	14	A 2	網口状撚糸文、沈縫	A495
3	F 3	輪廓	A515	15	B 3	L R 繩文、沈縫	A500
4	C 2	腔体、R L 繩文	A501	16	E 3	沈縫	A526
5	C 3	刺突、沈縫	A514	17	C 3	L R 繩文、沈縫	A507
6	II層	A 3 R 摘糸文	A496	18	B 3	R 摘糸文、沈縫	A499
7	F 2	L R 繩文、沈縫、刺突	A516	19	H 3	沈縫、刺突、L R 繩文?	A519
8	E 2	L R 繩文、沈縫	A511	20	F 2	輪縫、縫文?	A513
9	G 3	L R 繩文	A518	21	E 2	網口状撚糸文(R)、沈縫	A509
10	C 3	L R 繩文、沈縫	A506	22	C 3	L R 繩文	A506
11	E 2	縫文、沈縫	A512	23	II層	L R 繩文、輪縫、沈縫	A414
12	A 3	R 摘糸文?、沈縫	A497		D 3	L R 繩文	

第32図 11・12層出土土器



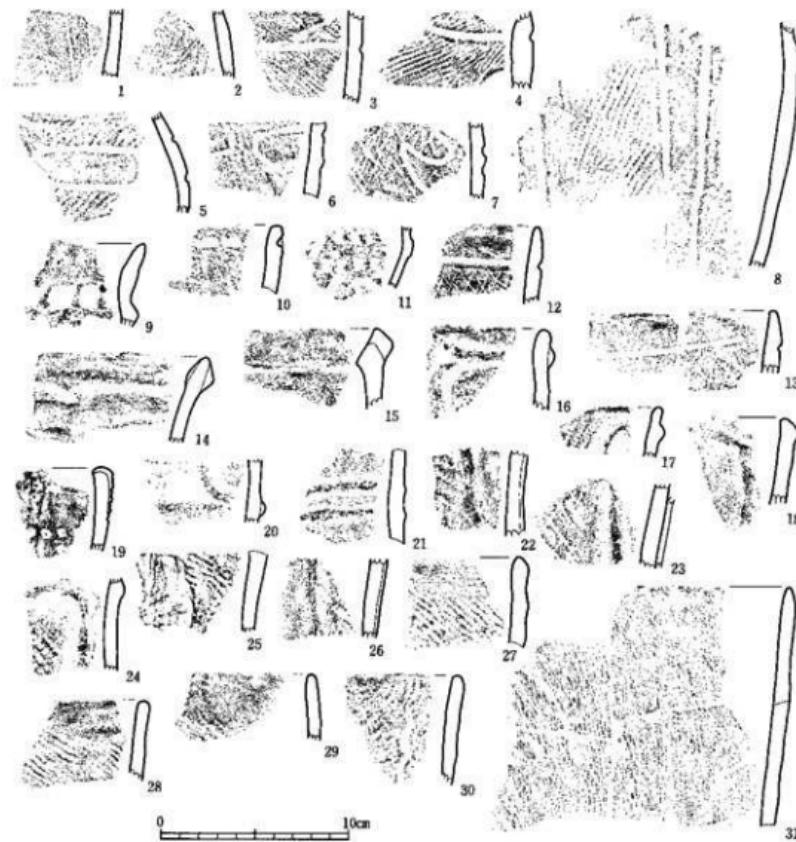
層位	年代	口径	底徑	體高	特 徵	◎號
1 12層	C.3	27.4cm	12.2cm	50.2cm	束腰 4 半位 口部：蟠螭、刻契 体部：LR 龙文、沈鸿、帆波 下半部变色	A27

第33圖 12層出土土器（2）



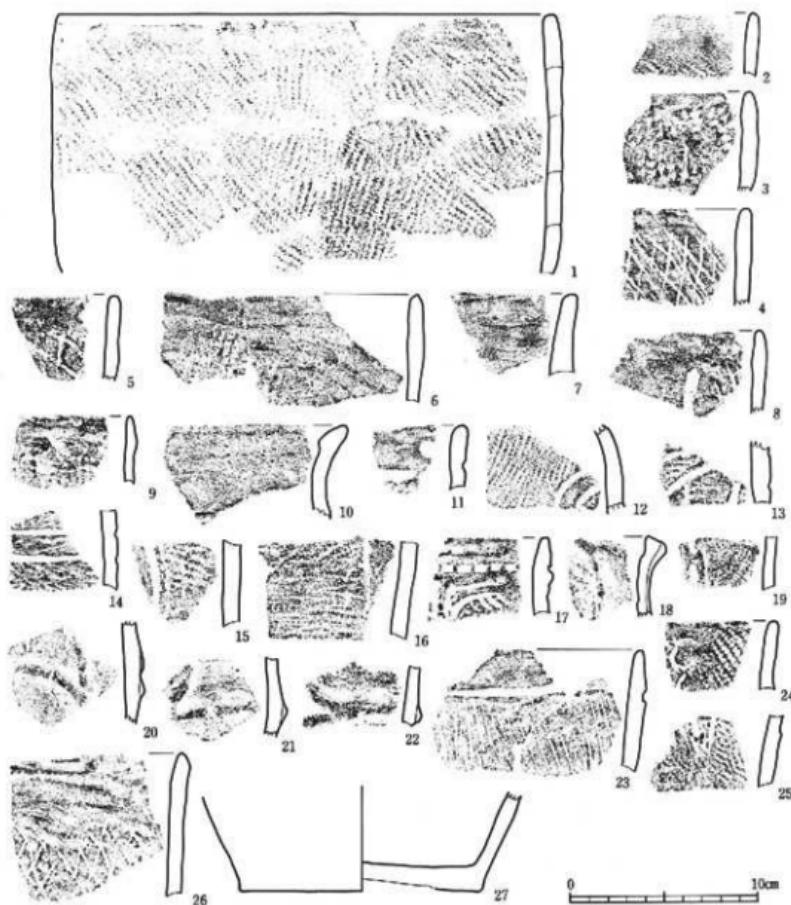
地区	特　　徴	文　　様	地　　区	特　　徴	文　　様	地　　区	特　　徴	文　　様
1 A 3	口徑35.2cm 突起4部位	L.R繩文、沈縫、削尖	A46	10 G 3	L.R繩文、沈縫	A481		
2 H 3	施縫	A520	11 H 3	L.R繩文、沈縫	A488			
3 B 2	施縫	A457	12 C 2	L.R繩文、沈縫	A504			
4 D 2	L.R繩文、沈縫	A442	13 G 3	R.L繩文、沈縫	A483			
5 B 3	L.R繩文、沈縫	A451	14 E 3	L.R繩文、沈縫	A472			
6 F 3	L.R繩文、沈縫 皮化物付	A476	15 C 2	L.R繩文、沈縫	A461			
7 H 3	R.L繩文、沈縫、削尖	A489	16 H 2	R.L繩文、沈縫	A484			
8 D 2	L.R繩文、沈縫、削尖	A463	17 J 3	L.R繩文、沈縫	A483			
9 J 3	繩文、沈縫	A494	18 J 3	R.L繩文、沈縫	A491			

第34図 12層出土土器（3）



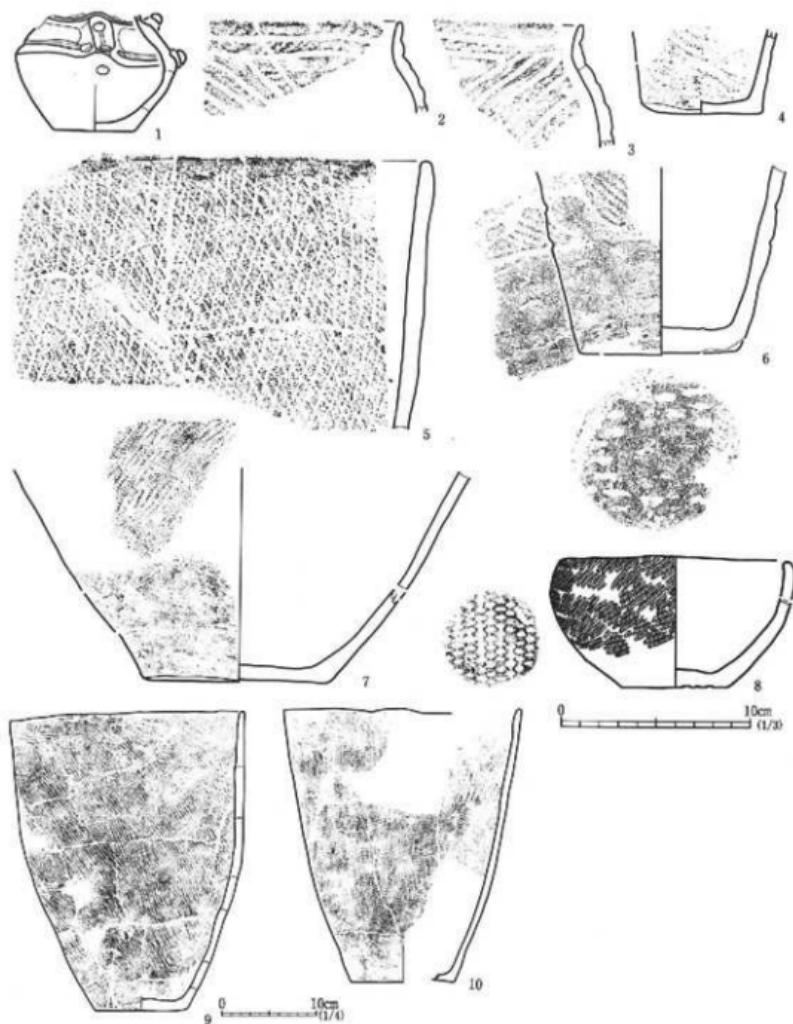
地区	特徴	番號	地区	特徴	番號
1 C 3	撫糸文?、沈縞	A462	17 G 3	R L縞文、降縞	A479
2 C 8	比縞	A492	18 C 2	降縞	A502
3 C 3	L R縞文、沈縞	A460	19 G 3	突起、刺尖	A482
4 D 3	L R縞文、沈縞	A508	20 F 3	降縞	A478
5 A 2	L R縞文、沈縞	A450	21 G 3	R R縞文、降縞	A534
6 E 2	R 撫糸文、沈縞	A524	22 D 2	L R縞文、降縞	A503
7 D 3	網目状撫糸文(R)、沈縞	A467	23 D 3	側目状撫糸文(R)、降縞	A466
8 B 2	L R縞文、沈縞	A442	24 C 2	L R縞文、降縞	A456
9 H 3	刺突	A486	25 A 3	L R縞文、降縞	A451
10 F 3	L 繩文、刺突	A529	26 H 3	L R縞文、降縞	A540
11 C 3	刺尖、沈縞	A459	27 D 3	L R縞文	A521
12 E 3	網目状撫糸文(R)、沈縞	A471	28 C 3	L 繩文	A468
13 F 3	網目状撫糸文(R)、沈縞	A477	29 C 3	L R縞文	A469
14 B 3	口縫部肥厚	A453	30 J 3	L R縞文、結節	A490
15 B 3	口縫部削厚	A455	31 E 3	沈縞	A470
16 H 3	R L縞文、降縞	A487			

第35図 12層出土土器(4)



層位	地区	特 徴	登 録	層位	地区	特 徴	登 録
1	B 3	R.L.縞文	A441	15	G 3	L.R.縞文、沈縫	A536
2	E 2	縞文	A523	16	H 3	縞文?、沈縫、内面：炭化物付縫	A540
3	P 2	R.L.縞文	A474	17	G 3	網突、沈縫、L.R.縞文	A535
4	B 3	網目状撚糸文(R)	A452	18	F 2	施縫	A527
5	12層	F 3 朝日状撚糸文(R)	A475	19	H 3	L.R.縞文、沈縫、網突	A541
6	H 3	R.L.縞文	A485	20	F 3	施縫	A530
7	F 3		A528	21	H 3	施縫	A544
8	D 3	L.縞糸文	A465	22	H 3	施縫	A542
9	G 2		A531	23	H 3	R.縞糸文、沈縫	A539
10	E 2		A464	24	G 2	L.R.縞文、網目状撚糸文	A532
11	13層	H 3 R.L.縞文、沈縫、網突	A537	25	H 3	L.R.縞文、網突	A539
12	G 2	L.R.縞文、沈縫	A532	26	G 3	網目状撚糸文(R)	A535
13	H 3	L.R.縞文、沈縫	A543	27	12層	底径13cm	A473
14	E 2	縞文?、沈縫	A525				

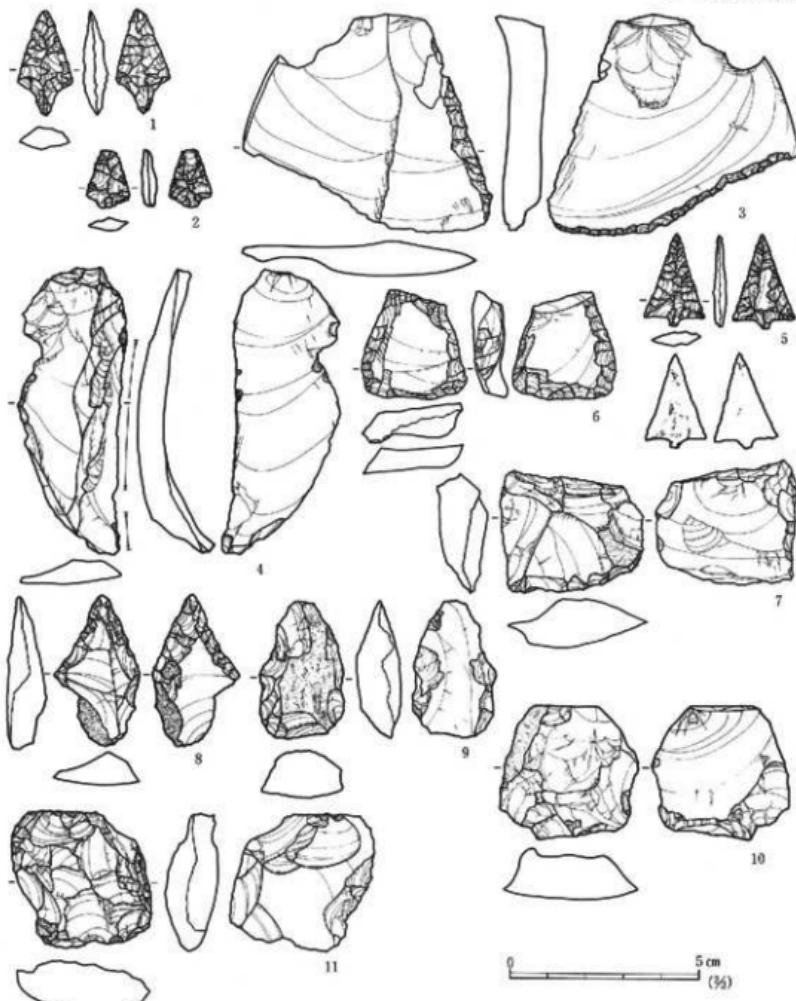
第36図 12・13層出土土器



第37図 層位不明土器

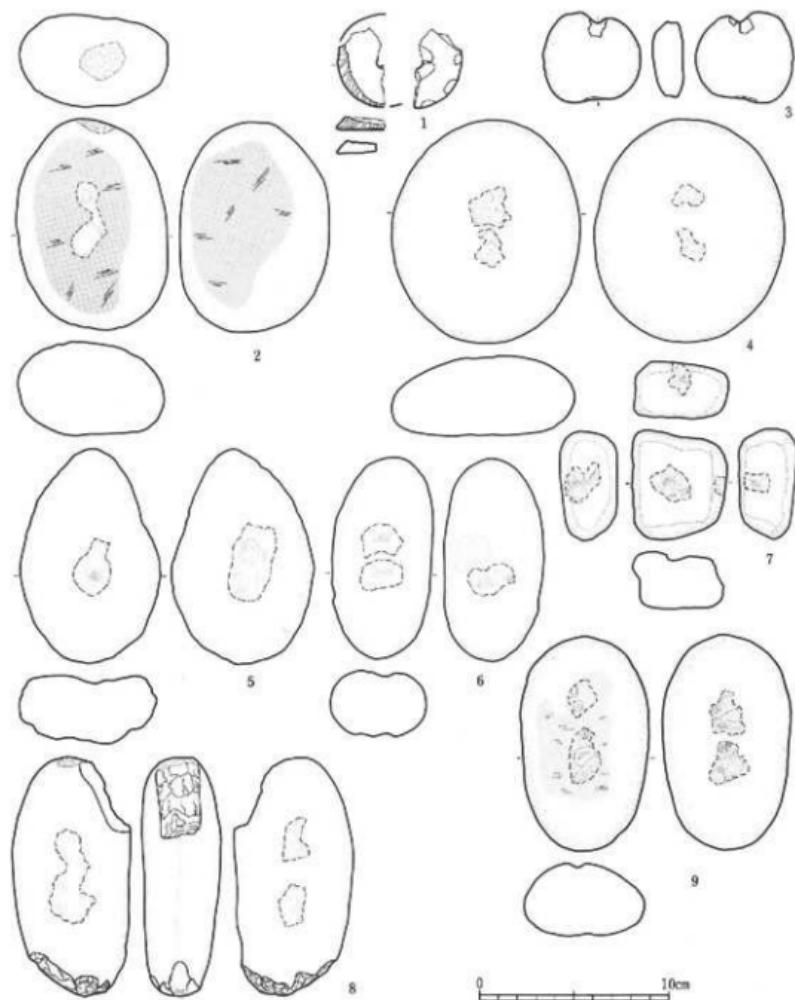
地點	符號	目	基	出	符	類
1 不明	沿H4.3cm最大径8.6cm 鉢縁、火候、網突		A626	底径 9cm R.L. 開文、比較		A436
2 J.3	L.井開文、火候	A444	7 直2	底徑10cm L.R. 開文		A439
3 J.3 (同上)		A444	8 平明	CFH12.5cm底径8.6cm壁厚2cm L.R. 開文、頭代痕		A21
4 D.3	沿H6.4cm L.井開文	A432	9 J.3	CFH24.4cm底径8.6cm壁厚3.6cm R.頭代痕		A9
5 H.2	網狀狀燒赤支(R)	A454	10 平明	CFH25.3cm底径11cm壁厚2.7cm R.L. 開文		A434

## III I区の調査成果



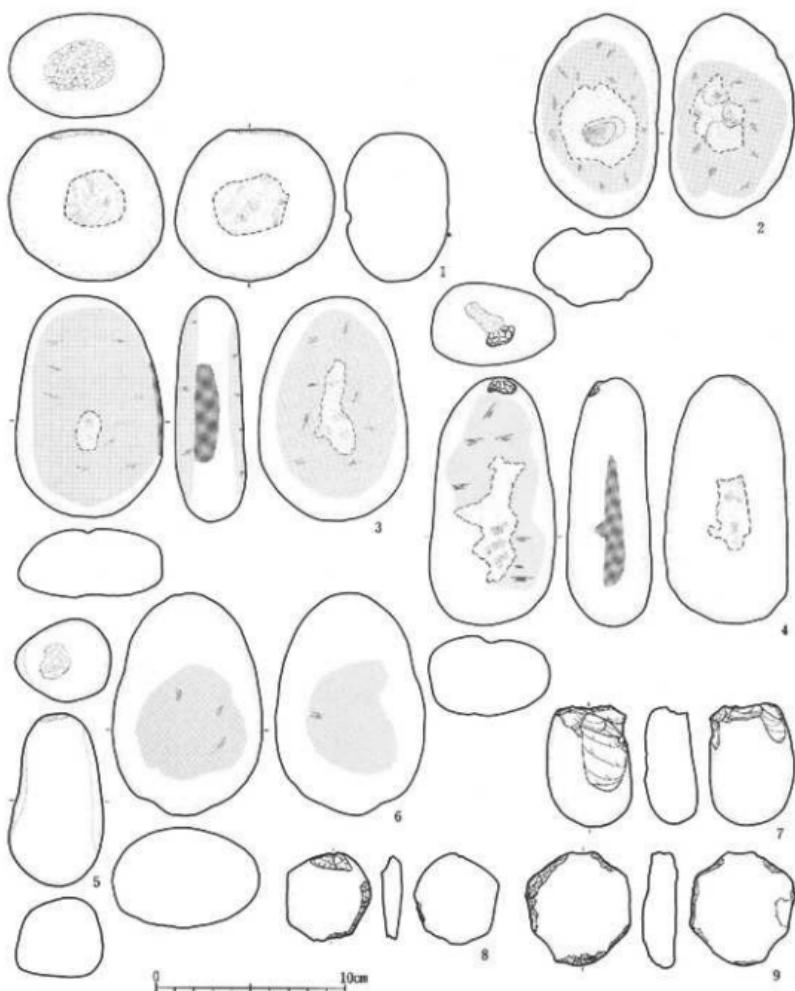
層位	地区	分類	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	石材	特徴	番号
1 6層	A 2	石頭Ⅱ	27.6	14.3	6.3	1.2	珪質頁岩		Ka1764
	E 2	石頭Ⅱ	14.7	10.6	3.3	0.4	玉髓	先端と基部を大きく	Ka1758
3 8層	F 3	不定形石器ⅠB	71.0	57.7	12.5	28.3	珪質頁岩		Ka1759
4	D 3	不定形石器Ⅰ	76.7	31.0	9.4	15.5	珪質頁岩		Ka1760
5 10層	E 2	石頭Ⅱ	24.4	15.8	3.0	0.7	珪質頁岩	基部を欠く、アスファルト付着	Ka1751
6	C 3	不定形石器Ⅲ	32.4	32.2	6.1	6.5	珪質頁岩		Ka1752
7	C 3	不定形石器Ⅱ	41.6	39.9	12.7	15.1	燧石		Ka1753
8	C 3	不定形石器Ⅱ	30.2	22.5	10.1	6.1	珪質頁岩	被熱	Ka1726
9 12層	I 3	圓盤形刮削器	36.9	23.8	11.2	8.6	黑曜岩		Ka1725
10	D 3	不定形石器Ⅲ	39.5	37.6	12.5	18.4	珪質頁岩		Ka1729
11	H 3	圓盤形刮削器	44.1	36.1	12.6	17.4	珪質頁岩	2対の作曲面(90°)	Ka1727

第38図 剥片石器



層位	地区	分類	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石材	備考	登録
1 4層	E 2	刮削器	5.7		0.7	6.8	真岩	鋸齒、周縁にケズリ痕	Kc271
2 11層	I 3 G 3	刮削器	11.1	8	5	620	安山岩	長脚片端に敲打痕	Kc242
3 12層	C 3	石核	4.9	5.1	1.6	29.4	黒岩石 安山岩の質感灰岩	片側に行き欠き	Kc257
4	D 3 K 3	1B 四隅	11.9	10	4.2	775	安山岩	2面	Kc238
5	F 2	1A 四隅	11.4	7.5	3.4	320	安山岩	2面	Kc233
6	E 2	1A 四隅	10.7	5.2	3.4	290	安山岩	2面	Kc236
7	F 3	7 四+敲	4.9	5.8	3	80	石英安山岩 黃緑灰岩	4面	Kc234
8	J 3	2 四+磨	12.6	6.2	4.1	450	安山岩	片側面端に敲打痕	Kc244
9			11.4	6.8	3.9	410	安山岩	1面、片面は凹みのみ	Kc240

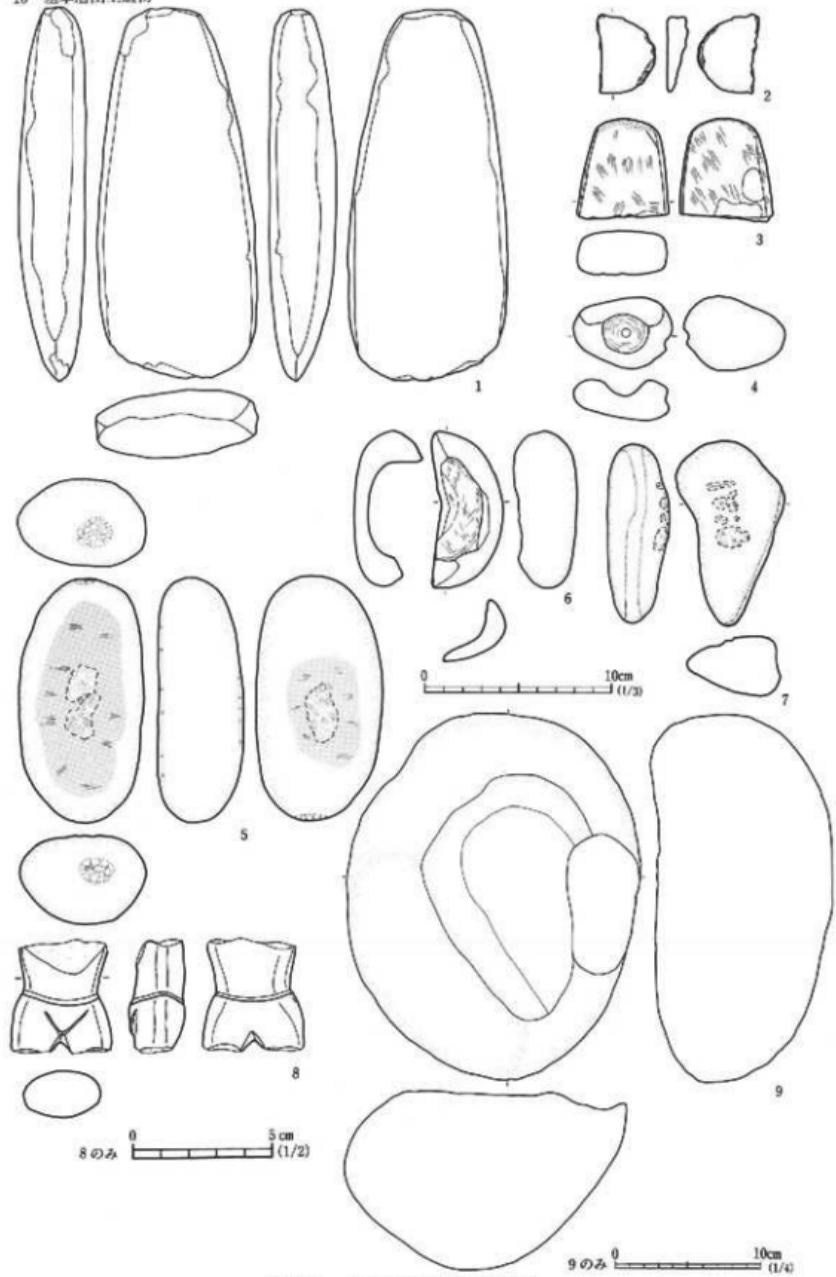
第39図 4~12層出土石器



層位	地区	分類	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石種	第号	空缺
1	F 2	7. 四+敲	8.1	8.2	5.5	675	安山岩	Kc243	
2	D 3	2. 四+磨	10.8	6.4	4.1	410	安山岩	2面	Kc239
3	F 3	5. 四+磨+ザラ	11.9	7.8	3.6	520	安山岩	2面	Kc246
4	E 3	4. 四+磨+タタキ+ザラ	13.2	6.6	4.2	525	砂岩	云母片岩に敲打痕	Kc245
5	G 2	13. 敲	9.2	4.9	4.2	245	安山岩		Kc251
6	G 2	9. 磨	11.8	7.9	5.3	740	石英安山岩	2面	Kc247
7	B 3	13. 敲	6.4	4.5	2.6	56.2	細粒石英安山岩骨質灰岩	云母片岩に敲打痕	Kc256
8	B 3	石斧頭	4.6	4.4	1.0	32.3	安山岩		Kc259
9	C 3	石斧頭	6.0	5.5	1.7	58.4	安山岩		Kc260

第40図 12層出土石器

10 基本層出土遺物

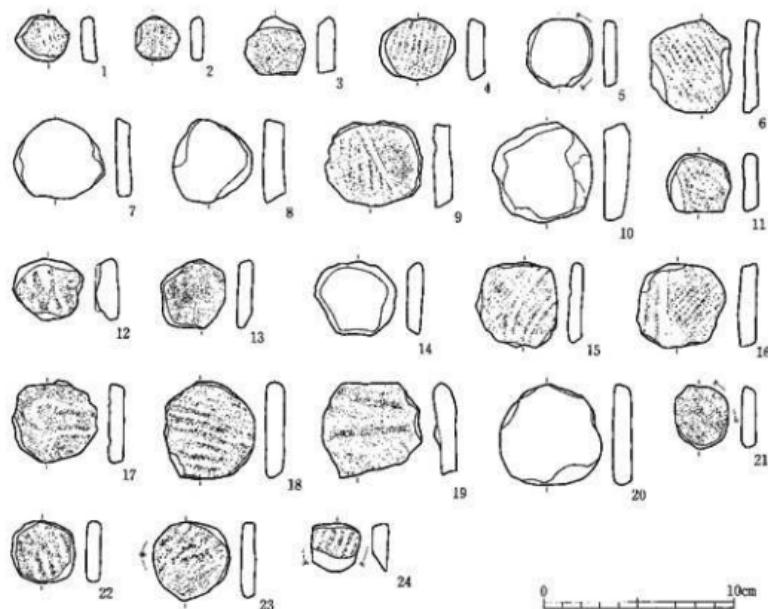


第41図 12層と層位不明の礫石器

### III I区の調査成果

層位	地区	分類	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	材	備考	名録
1 12層	B 2	麻呂石片	19.5	8.4	3.5	590	蛇紋岩	分化している	Kc223
2	A 2	竹刷門野	4.3	3.0	1.2	17.6	安山岩	崩壊	Kc258
3 13層	D 3	崩裂石片	5.3	4.9	2.4	112.6	角閃石岩	劣化をいく	Kc266
4	G 2	1A 四隅	3.9	5.2	2.2	20	麻呂石安山岩質質灰岩		Kc236
5	B 2	3.四+五+六	13.0	6.6	4.7	575	安山岩	長鈍岡塙に敲打痕	Kc241
6	D 3	石鏡	8.3	3.5	2.6	45	麻呂石安山岩質質灰岩	崩壊、ケズリ跡あり	Kc172
7 不明	D 3	石鏡	9.9	5.4	3.2	120	石英安山岩質質灰岩	一面	Kc237
8	E 3	岩鏡	4.0	3.6	2.0	17.8	麻呂石安山岩質質灰岩	崩壊、ケズリ跡あり	Kc221
9 13層	B 2	石皿	25.3	20.3	12.3	4370			Kc258

第41図観察表



番号	地区・層位	大きさ×幅×厚mm	重g	特徴	層位	地区・層位	大きさ×幅×厚mm	重g	特徴	名録	
1	F 3 11層	24×23×7	5.7	鏡文L	P198	13	E 2 12層	38×34×8	12.8		P196
2	E 2 11層	23×22×6.5	4.2	鏡文?	P187	14	C 2 12層	38×42×8	15.9		P194
3	C 3 11層	31×31.5×9	11.1	鏡口状態条文	P185	15	F 2 12層	44×44×7	17.6	鏡文L R ?, 改造	P197
4	C 3 11層	32×40×9	14.9	鏡文義不明	P184	16	H 3 12層	44×41.5×9	23.7	鏡文L R, 改造	P192
5	E 3 11層	35.5×35×6	11.9		P188	17	J 3 12層	42×42×7.5	19	改鏡	P195
6	H 3 21層	39.5×42×7.3	19.5	鏡文L 改	P182	18	D 2 12層	81.5×48×9.3	32.8	鏡文L R	P200
7	B 3 11層	43×47×7.5	19.7		P183	19	G 3 12層	49.5×52×11.5	12.9	鏡文不明、隕線	P237
8	C 3 11層	44.5×42.5×11	23.2		P180	20	D 3 12層	53×55×10	33.8		P193
9	K 2 11層	43.5×49.5×9.5	25.9	鏡文L R, 改造	P190	21	D 3 12層	33×27.5×7	9.4	鏡文L R ?	P202
10	C 2 11層	52×53×13	62.3		P186	22	E 2 12層	33×33.5×7.5	12.2	鏡文L R	P201
11	D 2 12層	31×32.5×8	10.5	鏡文不明	P199	23	E 2 12層	41.5×47×7.5	16.6	鏡文L R	P203
12	B 3 12層	32.5×37×12	15.4	鏡文不明、隕線、突起	P191	24		26×26×8	6.1	鏡文R L	P204

第42図 土製円盤

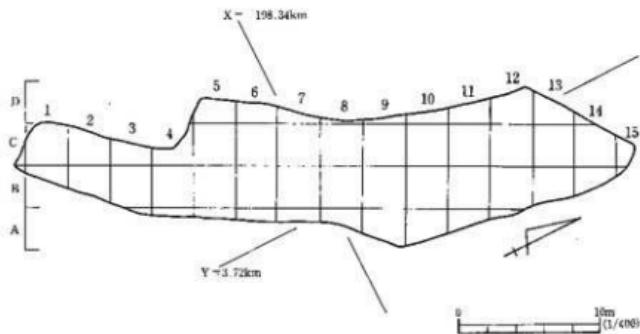
## IV II区の調査成果

### 1 調査の方法と経過

II区は市道「ドノ内・六反田線」の建設に伴う調査区の北半分にあたる。対象面積は約780m<sup>2</sup>であるが、埋設管を避けたり共同住宅の出入口を確保したりしたため、実際の調査区の面積は約280m<sup>2</sup>となった。

地区設定にあたっては、調査区の方向に合わせた任意の基準線を設定し、3×3 mのグリッドを設定した。グリッドの名称は、南北軸のアラビア数字、東西軸のアルファベットの組み合せとした(A-1・B-3...)。グリッド基準線は真北から約27°東偏する(第43図)。(図中の国土座標軸は現地で測量したものではなく、都市計画図より写したものである。)

調査は昭和60年(1985)9月9日より開始した。盛土・表土を重機を用いて除去したところ、西端で改修以前のII荒川が検出された。表土下の溝・ピット等の調査の後、10月8日には古代の住居跡が検出された。10月中旬以降は下層の掘り下げを続け、少量ながら弥生時代の遺物が出上した。11月に入り縄文時代の河川跡の調査を行い、11月28日にすべての作業を終了した。

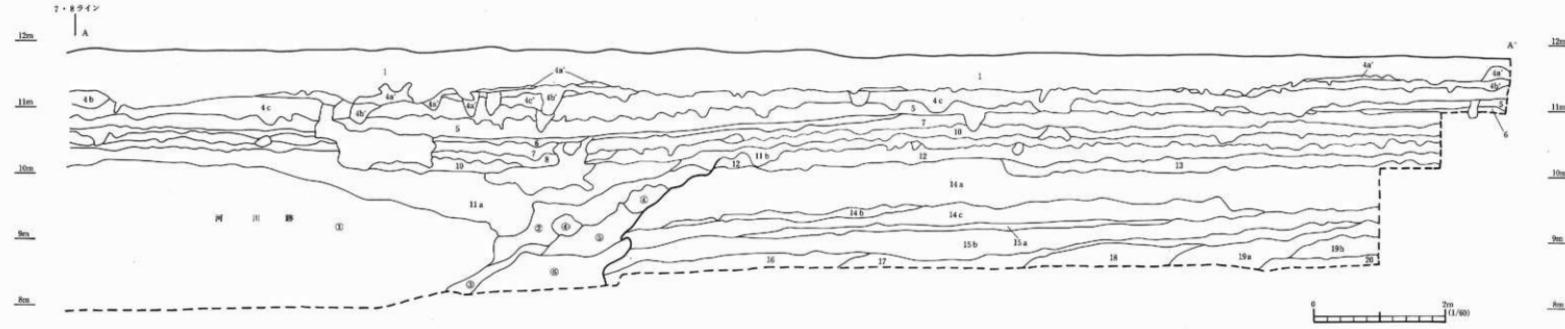


第43図 グリッド配置図

### 2 基本層序(第44図)

基本層序は、1から2～5番目の4～7層はI区と同一の層であり、層名をI区と同じにしている。8層以下はI区と対応していない。

1層 表土(盛土を含む)50～60cmで調査区全体を覆う。



第44図 基本層序

層位	土 色	土 性	層 厚	層位	土 色	土 性	層 厚
1	赤土	粘土		11	C.じの-赤褐色	砂土質シルト	薄褐色のシルトを多少含む
1-a	褐色	HTVR4/1	5	11a	赤褐色	HTVR4/2	褐色シルト
1-a'	褐色	HTVR4/1	4c	11b	褐色褐色	HTVR4/3	褐色シルト
1-b	褐色	HTVR4/1	4b	11c	褐色褐色	HTVR4/3	褐色シルト
1-b'	褐色	HTVR4/1	4b'	12	褐色褐色	HTVR4/3	褐色シルト
1-c	褐色	HTVR4/1	5	12	褐色褐色	HTVR4/3	褐色シルト
1-c'	褐色	HTVR4/1	6	13	褐色褐色	HTVR4/3	褐色シルト
1-d	褐色	HTVR4/1	7	13a	褐色褐色	HTVR4/3	褐色シルト
1-d'	褐色	HTVR4/1	8	13b	褐色褐色	HTVR4/3	褐色シルト
1-e	褐色	HTVR4/1	9	14a	褐色褐色	HTVR4/3	褐色シルト
1-e'	褐色	HTVR4/1	10	14b	褐色褐色	HTVR4/3	褐色シルト
1-f	褐色	HTVR4/1	11a	褐色褐色	HTVR4/3	褐色シルト	
1-f'	褐色	HTVR4/1	11b	褐色褐色	HTVR4/3	褐色シルト	
1-g	褐色	HTVR4/1	12	褐色褐色	HTVR4/3	褐色シルト	
1-g'	褐色	HTVR4/1	13	褐色褐色	HTVR4/3	褐色シルト	
1-h	褐色	HTVR4/1	14a	褐色褐色	HTVR4/3	褐色シルト	
1-h'	褐色	HTVR4/1	14b	褐色褐色	HTVR4/3	褐色シルト	
1-i	褐色	HTVR4/1	15a	褐色褐色	HTVR4/3	褐色シルト	
1-i'	褐色	HTVR4/1	15b	褐色褐色	HTVR4/3	褐色シルト	
1-j	褐色	HTVR4/1	16	16a	褐色褐色	HTVR4/3	褐色シルト
1-k	褐色	HTVR4/1	17	16b	褐色褐色	HTVR4/3	褐色シルト
1-l	褐色	HTVR4/1	18	17a	褐色褐色	HTVR4/3	褐色シルト
1-m	褐色	HTVR4/1	19a	褐色褐色	HTVR4/3	褐色シルト	
1-m'	褐色	HTVR4/1	19b	褐色褐色	HTVR4/3	褐色シルト	
1-n	褐色	HTVR4/1	20a	褐色褐色	HTVR4/3	褐色シルト	
1-n'	褐色	HTVR4/1	20b	褐色褐色	HTVR4/3	褐色シルト	

柱頭

- 4層 3層に細分されるが、主に褐色粘土質シルトである。層厚は平均25cmで、厚いところでは50cmに及ぶ。上面より竪穴住居跡、溝跡、ピットが検出される。
- 5層 黄褐色細砂 厚さ10~20cmで調査区全体に分布する。
- 6層 黒褐色粘土質シルト 厚さ10cm程で、分布しない部分もある。上面より溝跡、ピットが検出される。
- 7層 にぶい黄褐色シルト 厚さ15~20cmで、調査区全体に分布する。
- 8層 黑褐色シルト 厚さ15cm程で、調査区北側に分布し、4層に細分される。
- 9層 にぶい黄褐色細砂 厚さ20cm程で、北側の一部に分布する。
- 10層 にぶい黄褐色砂質シルト 厚さ15cm程で、南側にのみ分布する。
- 11層 にぶい黄褐色細砂・砂質シルト 河川跡に落ち込むように分布し、厚さ最大80cmである。
- 2層に細分され、下層に炭を含む。
- 12層 にぶい黄褐色砂質シルト 厚さ15cm程で河川跡はこの層を切っている。12層以下の層は南端部にのみ分布している。
- 13層 にぶい黄褐色粘土質シルト 厚さ15~20cmである。
- 14層 黄褐色粘土質シルト 厚さ60~100cmで、3層に細分される。
- 15層 にぶい黄褐色粘土質シルト 厚さ50cmで、粘性により2層に分かれる。
- 16~20層 にぶい黄褐色の粘土質シルトおよび砂質シルトで、北へ傾斜している。
- 河川跡堆積土** 色調は主ににぶい黄褐色であり、壁際にシルト質の土が分布し、大部分は粗砂で構成される。

### 3 4 a層上面の造構と遺物

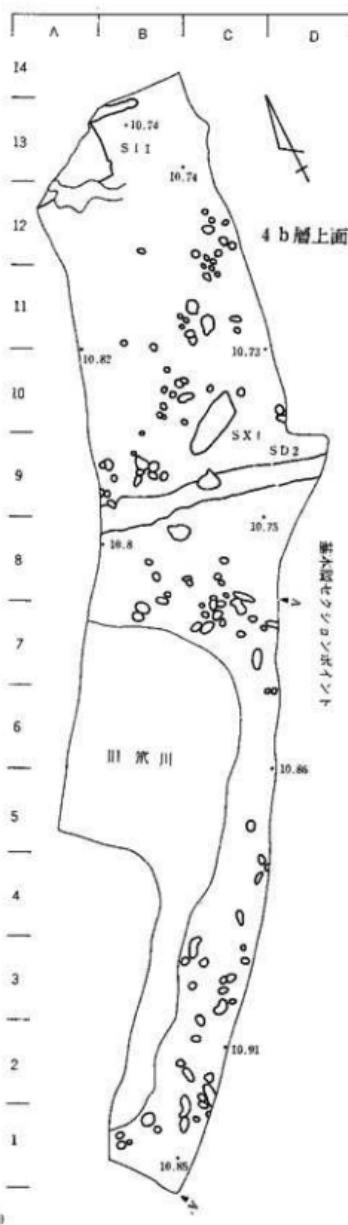
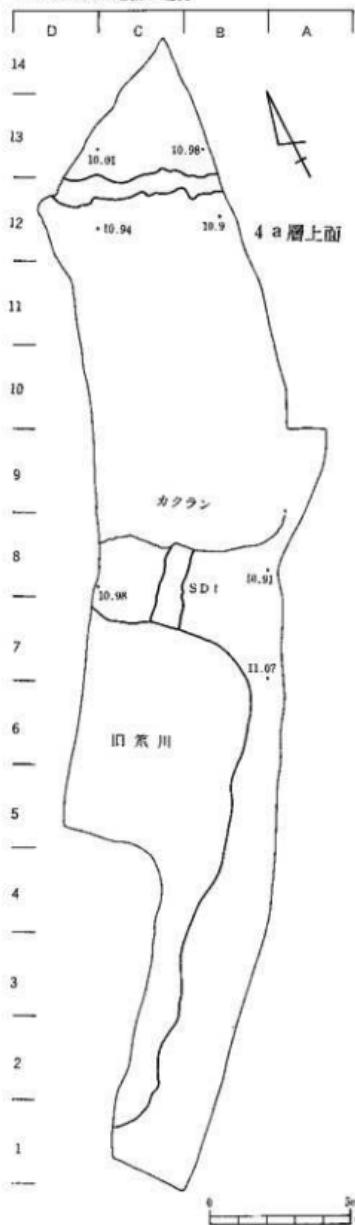
#### S D 1溝跡 (第47図)

C - 7・8グリッドに位置する。両端を旧笊川と攪乱により破壊され、北東・南西方向に伸びる。長さ3m、幅1m、深さ10cmである。堆積土は2層に分かれる。堆積土より非ロクロ土師器環・甕、赤焼土器環が出土しているが、いずれも小破片で図示できない。

#### S D 3溝跡 (第47図)

B・C・D-12グリッドに位置する。北西・南東方向に伸びる。小さく蛇行している。長さ5.5m、幅50~90cm、深さ60~90cmで、底面は北西方向に下がる。壁は急角度であり、一部オーバーハングする。堆積土は5層に分かれ、上層が砂である。堆積土より非ロクロ土師器環・甕、ロクロ土師器環・高台環(第46図)、赤焼土器環が出土している。

3 4 a 層上面の遺構と遺物



第45図 4 a・4 b 層上面の遺構配置図

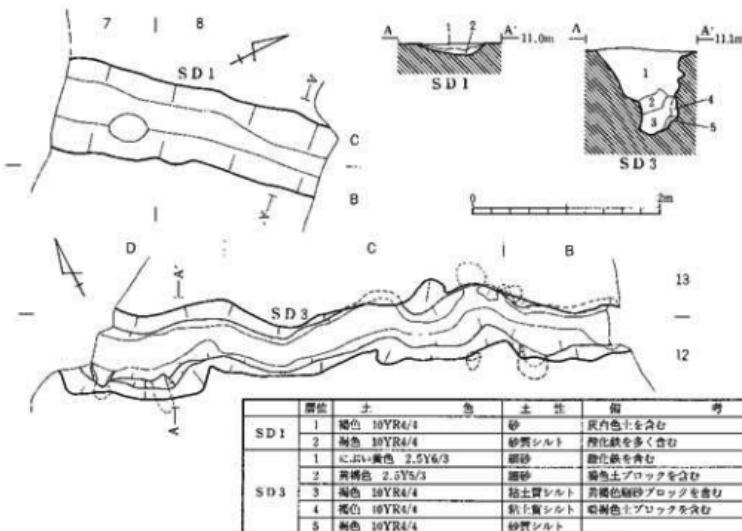
## 小結

4 a 層の遺構からはロクロ使用の土師器が出土している。また、I 区 4 層から平安時代の住居跡が検出されていることから、これらの遺構は平安時代かそれ以前に位置づけられよう。



層位	種類	式様	残存	特徴	微	番号
堆積土	土師器高台坏	7.8cm	1/4	底:同軸糸切り・高台貼付 内:ヘラミガキ、黒色処理		D 4

第46図 SD 3 出土遺物



第47図 4 a 層上面の遺構

## 4 4 b 層上面の遺構と遺物

4 b 層上面からは竪穴住居跡 1、溝跡 1、ピット 120、性格不明遺構 1 が検出された。上面の地形は、北に向かいゆるやかに傾斜している（第45図）。

### S I 1 住居跡（第48・49図）

〔位置〕 C・D-12・13グリッドに位置する。東・南壁と煙道のみ検出され、他は調査区外に伸びる。南壁を SD 3 により壊されている。

〔規模〕 東壁 2 m、南壁 2.8 m のみ残る。

〔堆積土〕 5 層に分かれる。主に暗褐色のシルトで、炭を多く含んでいる。

#### 4 4 b層上面の遺構と遺物

〔壁〕 壁高は東壁で約30cm、南壁で約40cmである。

〔床面〕 挖り方埋土を床面とし、ほぼ平坦である。南壁下に周溝がある。幅15~20cm、深さ5cmである。

〔ピット〕 南東隅にピットがあり、周溝に接する。40cm四方の方形で、深さ15cm、底面はほぼ平坦である。

〔カマド〕 煙道の一部が検出された。長さ180cm、幅30cm、深さ15cmで、先端部が深さ30cmのピット状にくぼむ。

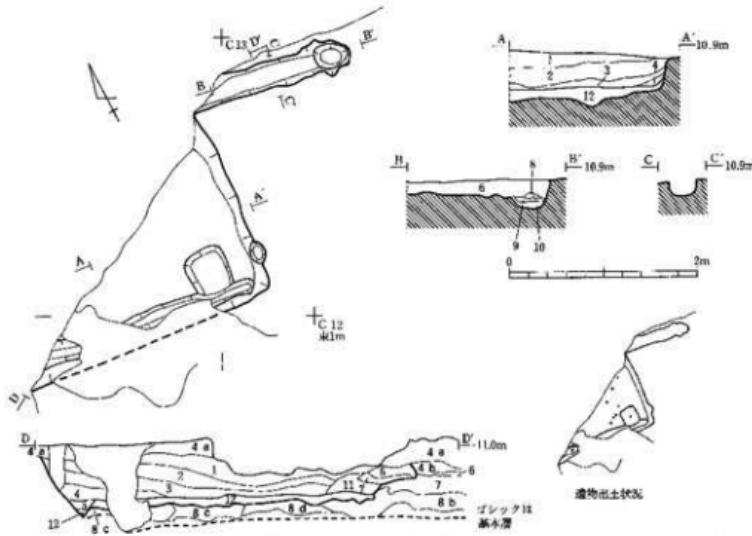
〔出土遺物〕 堆積土出土遺物 土師器壺（第49図7、8）・甕（9）、高台壺（ロクロ）、赤焼土器壺、須恵器壺が出土している。 床面出土遺物 土師器壺（1、4）・甕が出土している。

1は外面に段を持つ。4は大型の壺である。 ピット出土遺物 底面より土師器壺（2、3）が重なって出土している。2は外面に段を持ち、3は段を持たない。 挖り方出土遺物 土師器壺（5、6）・甕が出土している。

〔小結〕 住居に伴う遺物の特徴は、六反田遺跡昭和59年度6号住居跡や郡山遺跡II期官衙に伴う土器群などに類似しており、7世紀末から8世紀初頭頃のものと考えられる。

#### S D 2溝跡（第50・51図）

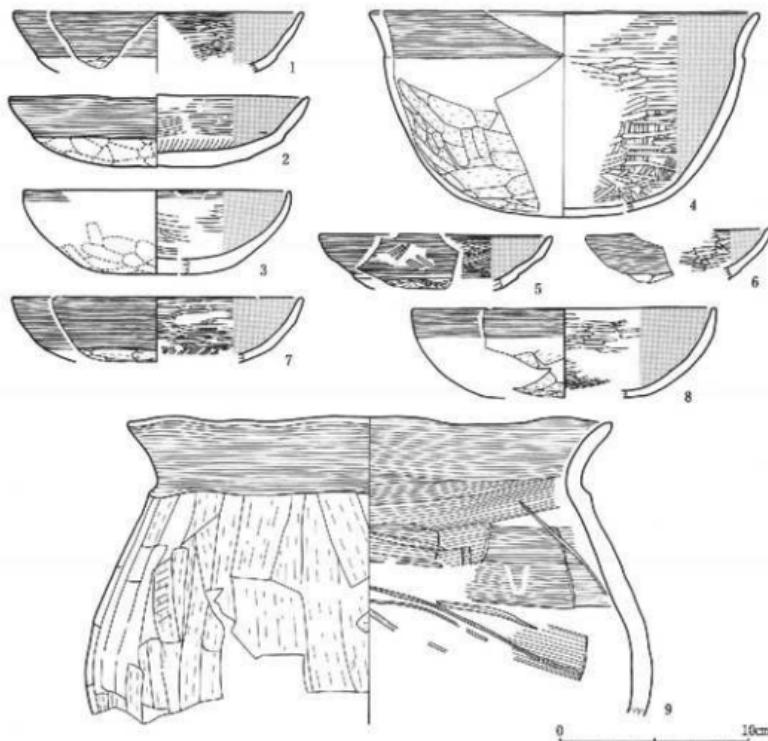
A~C-8・9グリッドに位置する。ピット1より古い。北西・南東方向に伸びる。長さ6.2



第48図 S I 1住居跡

部位	土色	土性	層名
1	暗褐色 10YR2/3	シルト	燒土・炭を含む
2	暗褐色 10YR3/3	粘土質シルト	炭を多く含む
3	暗褐色 10YR3/3	シルト	炭を多く含む
4	暗褐色 10YR3/4	シルト	炭を含む
5	暗褐色 10YR2/3	シルト	燒土・炭を多く含む
6	暗褐色 10YR3/3	シルト	土上・炭を含む
7	黒色 7,5YR2/1	シルト	焼けている
8	褐色 7,5YR4/3	シルト	燒土・炭を含む
9	暗褐色 7,5YR3/3	シルト	燒土・炭・褐色土を含む
10	黒褐色 7,5YR3/2	シルト	炭を含む
11	褐色 10YR4/4	砂質シルト	泥炭化土を含む
12	暗褐色 10YR3/3	シルト	燒土・炭を含む

第48図 S I 1住居跡土層観察表



番号	種類	部位	口径	深度	残存	特徴	測定
1	上部器皿	床面	15.4		1/4>	口外:ヨコナデ 体外:ヘラケズリ 内:ヘラミガキ、黑色経理	C13
2	土器器皿	ピット底面	15.9	3.8	3/4	口外:ヨコナデ 体外:ヘラケズリ 内:ヘラミガキ、黑色経理	C19
3	土器器皿	ピット底面	14.0	4.5	1/4	口外:ヨコナデ 体外:ヘラケズリ 内:ヘラミガキ、黑色経理	C9
4	土器器皿	床面	20.6	11.6	1/4>	口外:ヨコナデ 体外:ヘラケズリ 内:ヘラミガキ、黑色経理	C12
5	土器器皿	側り方			1/4>	口外:ヨコナデ、ヘラミガキ 体外:ヘラケズリ、ヘラミガキ 内:ヘラミガキ、黑色経理	C14
6	土器器皿	側り方			1/4>	口外:ヨコナデ、ヘラミガキ 体外:ヘラケズリ 内:ヘラミガキ、黑色経理	C15
7	土器器皿	3層	15.4		1/4>	口外:ヨコナデ 体外:ヘラケズリ 内:ヘラミガキ、黑色経理	C16
8	土器器皿	堆積土	16.9		1/4>	口外:ヨコナデ 体外:ヘラケズリ 内:ヘラミガキ、黑色経理	C17
9	土器器皿	1+2層	25.8		1/3	口外:ヨコナデ 体外:ヘラケズリ 体内:ヘラナデ	C8

第49図 S I 1出土遺物

#### 4 4 b層上面の遺構と遺物

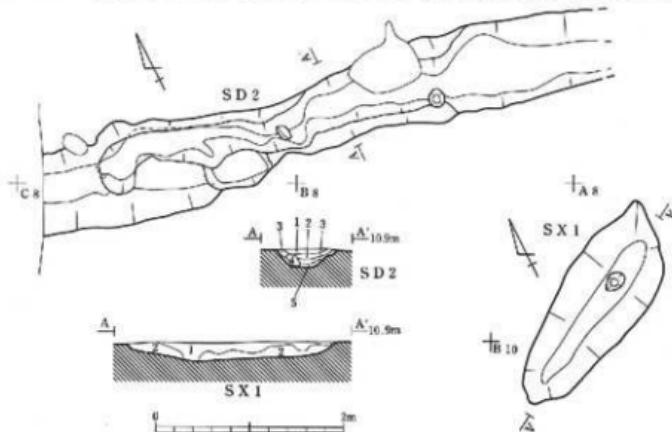
m、幅80~110cm、深さは東端が浅く8cm程、西側が12~19cmである。西寄りの底面が下がっており、最深部で42cmである。底面のレベルは東西あまり差はない。堆積土は5層に分かれ、砂および砂質シルトが主体である。堆積土より非クロナデ器壺・甕、ロクロナデ器壺（第51図1）、赤焼土器壺、須恵器壺（2）が出土している。

#### S X 1 性格不明遺構（第50図）

B-9・10グリッドに位置する。長さ2.5m、幅90cmの長楕円形である。深さは17cm程で、ほぼ平坦であり、北よりの底面に深さ28cmのピットがある。堆積土は2層に分かれれる。遺物は出土しなかった。

#### ピット（第52・53図、第7表）

ピットは120個検出された。柱痕跡を持つものはない。建物跡を構成するかどうか確認できな



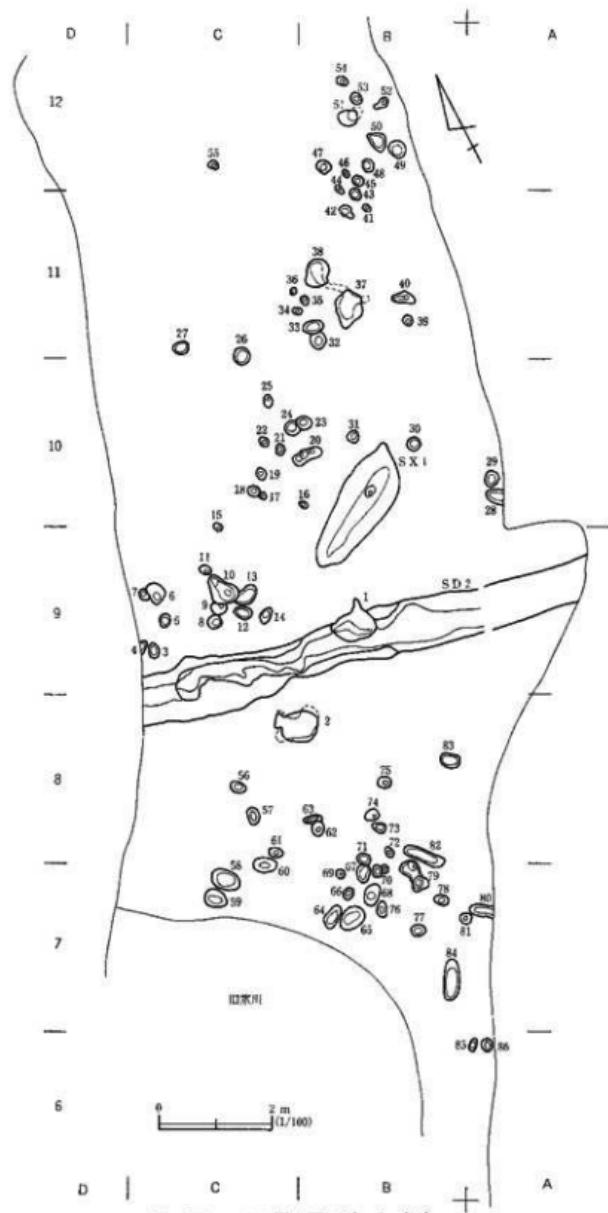
層位	上色	土性	備考
SD 2	にじい赤褐色 5 YR5/3	砂質シルト	明褐色土を含む
	灰褐色 7.5YR5/2	砂質シルト	礫化鉄・マンガン鉱を含む
	灰黃褐色 7.5YR5/2	砂質シルト	礫化鉄・褐灰色土を含む
	にじい黄色 2.5YR6/3	砂	にじい赤褐色土を含む
	にじい黄褐色 10YR4/3	シルト	礫化鉄を含む
SX 1	にじい黄褐色 10YR4/4	シルト	褐色・灰白色土を含む
	褐色 10YR4/4	粘土質シルト	明褐色土を含む

第50図 4 b層上面の遺構

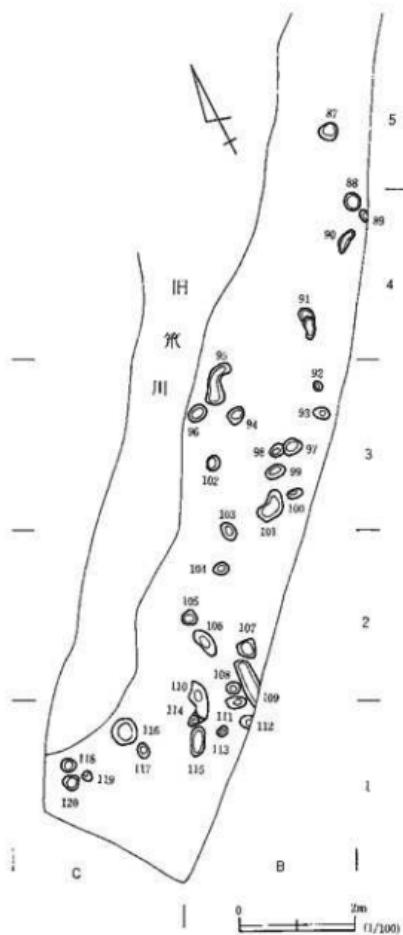


番号	種類	層位	口径	底径	器高	残存	特徴	登録
1	土器壺	5層	8.2	1/4			体外：ロクロナデ 体内：黒色処理 底：回転糸切り	D 2
2	須恵器壺	堆積土	7.0	1/4			体内外：ロクロナデ 底：回転糸切り	E 4

第51図 SD 2出土遺物



第52図 4 b 層上面のピット (1)



かった。P28・31・37・38・43・51より、非クロロ土師器壺（内黒）、P74・37・51より非クロロ土師器甕、P37より須恵器壺が出土している。

#### 小結

4 b 層の遺構はロクロ土師器を伴っていないことと、S I 1 出土の土器群の特徴から、おおよそ古墳時代後期頃に所属するものと考えられる。

第53図 4 b 層上面のピット (2)

第7表 4b層上面のピット計測表

番号	長径	短径	厚さ	土色・土性			番号	長径	短径	深さ	土色・土性		
				赤	黄	緑					赤	黄	緑
1	80	50	74	(不明)			61	33		7	褐色	10YR4/4	シルト (?)
2	75	34	28	(年明)			62	29		9	褐褐色	10YR2/3	シルト (?)
3	25	19	10	灰褐色	7.5YR4/2	シルト	63	32	14	9	黒褐色	10YR2/3	シルト (?)
4	(12)		(9)	灰褐色	7.5YR4/2	シルト	64	38	75	10	褐褐色	10YR2/3	シルト (?)
5	21	17	灰褐色	7.5YR4/2	シルト	65	31	34	11	にじみ黄褐色	10YR4/3	シルト (?)	
6	38	27	21	灰褐色	7.5YR4/2	シルト	66	31		1	黒褐色	10YR2/3	シルト (?)
7	22	13	灰褐色	7.5YR4/2	シルト	67	32	25	7	褐色	10YR4/4	シルト (?)	
8	28	17	灰褐色	7.5YR4/2	シルト	68	37	28	26	にじみ黄褐色	10YR4/4	シルト (?)	
9	25	20	11	灰褐色	7.5YR4/2	シルト	69	16	14	14	にじみ黄褐色	10YR2/3	シルト (?)
10	60	41	43	暗褐色	7.5YR3/2	シルト (?)	70	20		10	暗褐色	10YR4/4	シルト (?)
				褐色	10YR4/4	シルト (?)	71	23		8	暗褐色	10YR2/3	シルト (?)
11	20	4	灰褐色	7.5YR4/2	シルト	72	19		9	褐色	10YR4/4	シルト (?)	
12	34	20	28	灰褐色	7.5YR4/2	シルト					暗褐色	10YR3/2	粘土質シルト
13	42	30	20	褐色	7.5YR4/2	シルト	73	24		9	褐色	10YR4/4	シルト (?)
14	28	20	28	灰褐色	7.5YR4/2	シルト	74	24		21	褐色	10YR4/4	シルト (?)
15	14	7	灰褐色	7.5YR4/2	シルト	75	25		20	褐色	10YR4/4	砂質シルト	
16	15	7	灰褐色	7.5YR4/2	シルト	76	29	18	11	褐色	10YR4/4	シルト (?)	
17	12	7	灰褐色	7.5YR4/2	シルト	77	26		11	にじみ黄褐色	10YR4/3	シルト (?)	
18	23	27	22	灰褐色	7.5YR4/2	シルト	78	27	21	1	暗褐色	10YR4/4	シルト (?)
19	26	28	褐色	7.5YR4/3	シルト	79	59	31	32	褐色	10YR4/6	シルト (?)	
20	53	26	36	にじみ黄褐色	10YR5/4	シルト (?)	80	(30)	(30)	(9)	暗褐色	10YR4/6	砂質シルト
				灰褐色	10YR4/2	シルト (?)	81	91		9	褐色	10YR4/3	シルト (?)
				褐色	10YR5/4	シルト (?)	82	27	21	16	褐色	10YR4/4	シルト (?)
21	19	10	褐色	7.5YR4/2	シルト	83	36	28	26	にじみ黄褐色	10YR5/4	シルト (?)	
22	20	26	褐色	7.5YR4/2	シルト	84	72	27	13	褐色	10YR4/4	シルト (?)	
23	31	24	12	褐色	10YR4/4	シルト	85	21		8	褐色	7.5YR4/2	シルト (?)
24	29	8	褐色	10YR4/1	シルト	86	21		13	褐色	7.5YR4/2	シルト (?)	
25	21	13	褐色	10YR4/4	シルト	87	33		25	暗褐色	10YR4/4	シルト (?)	
26	28	10	暗褐色	7.5YR4/2	シルト	88	30		6	にじみ黄褐色	10YR4/3	シルト (?)	
27	26	5	灰褐色	7.5YR4/2	シルト	89	(10)	(32)	(13)	にじみ黄褐色	10YR4/2	砂質シルト	
28	(31)	(24)	(9)	暗褐色	10YR5/3	シルト (?)	90	43	14	12	褐色	10YR4/4	砂質シルト
29	27	6	にじみ黄褐色	10YR6/2	砂質シルト	91	55	33	33	(年明)			
30	26	15	暗褐色	10YR3/3	シルト (?)	92	19	13	6	暗褐色	7.5YR2/4	シルト (?)	
31	23	22	暗褐色	10YR3/3	シルト (?)	93	26	20	11	暗褐色	10YR4/4	シルト (?)	
32	30	11	暗褐色	10YR3/4	シルト (?)	94	34	25	4	暗褐色	10YR4/4	砂質シルト	
33	38	24	7	暗褐色	10YR3/4	シルト (?)	95	77	30	6	褐色	7.5YR4/2	砂質シルト
34	17	3	暗褐色	10YR3/4	シルト (?)	96	33	25	10	褐色	10YR4/4	砂質シルト	
35	15	5	暗褐色	10YR3/4	シルト (?)	97	34	27	13	暗褐色	10YR4/3	シルト (?)	
36	18	4	暗褐色	10YR3/4	シルト (?)					褐色	10YR4/4	粘土	
37	47	47	24	(年明)			98	27		8	暗褐色	10YR4/4	砂質シルト
38	48	12	37	(年明)			99	35	22	12	暗褐色	10YR4/4	砂質シルト
39	12	14	18	暗褐色	10YR5/2	シルト (?)	100	28	17	18	褐色	10YR4/4	砂質シルト
40	41	18	15	褐色	10YR4/4	砂質シルト					にじみ黄褐色	10YR5/4	砂質シルト
41	16	5	暗褐色	10YR3/4	シルト (?)	101	27	27	16	暗褐色	10YR2/3	シルト (?)	
42	21	4	暗褐色	10YR3/2	シルト (?)	102	25	26	4	暗褐色	7.5YR2/4	シルト (?)	
43	22	7	暗褐色	10YR2/3	シルト (?)	103	34	23	9	暗褐色	10YR2/2	シルト (?)	
44	17	11	3	暗褐色	10YR2/3	シルト (?)	104	26		5	暗褐色	10YR2/4	砂質シルト
45	20	6	暗褐色	10YR2/3	シルト (?)	105	27		5	にじみ黄褐色	10YR4/3	砂質シルト	
46	13	4	暗褐色	10YR2/3	シルト (?)	106	54	25	21	褐色	10YR4/4	砂質シルト	
47	24	10	10	暗褐色	10YR2/3	シルト (?)	107	36		10	褐色	7.5YR4/2	シルト (?)
48	25	8	暗褐色	10YR2/3	シルト (?)	108	25		7	にじみ黄褐色	10YR4/2	砂質シルト	
49	29	9	暗褐色	10YR2/4	シルト (?)	109	(7)	(30)	(12)	にじみ黄褐色	10YR4/2	砂質シルト	
50	36	27	26	暗褐色	10YR2/2	シルト (?)	110	67	33	26	にじみ黄褐色	10YR4/2	砂質シルト
51	39	29	20	にじみ黄褐色	10YR5/3	砂質シルト	111	34	23	11	暗褐色	7.5YR2/3	砂質シルト
52	27	15	23	にじみ黄褐色	10YR5/4	砂質シルト	112	(21)	(17)	(6)	暗褐色	10YR3/4	砂質シルト
53	21	7	暗褐色	10YR2/3	シルト (?)	113	19	13	16	暗褐色	10YR2/3	シルト (?)	
54	18	6	暗褐色	10YR2/3	シルト (?)	114	20		6	褐色	7.5YR4/5	砂質シルト	
55	29	18	4	暗褐色	10YR2/3	シルト (?)	115	54	24	9	暗褐色	10YR3/2	シルト (?)
56	24	6	褐色	10YR4/4	シルト (?)	116	47		13	にじみ黄褐色	10YR5/2	シルト (?)	
57	35	21	7	褐色	10YR4/4	シルト (?)	117	55		14	暗褐色	10YR2/2	シルト (?)
58	49	33	17	にじみ黄褐色	10YR4/3	シルト (?)	118	25		10	褐色	7.5YR4/2	シルト (?)
59	19	29	18	褐色	10YR4/4	砂質シルト	119	19		20	暗褐色	10YR3/4	シルト (?)
60	43	27	8	褐色	10YR4/4	シルト (?)	120	28		15	暗褐色	7.5YR2/3	シルト (?)

平均 (cm)

## 5 6層上面の遺構と遺物

6層上面からは溝跡2、性格不明遺構2、ピット89が検出された。上面の地形は北西部がわずかに下がる(第54図)。

### S D 4 溝跡(第55図)

B～D-9～12グリッドに位置する。北東・南西方向に伸びる。長さ9.5m、幅80～130cmである。壁は途中に段を持つ。深さは15～20cmであり、底面のレベルはほぼ同一である。堆積土は4層に分かれ、粘土質シルトが主体である。堆積土より、非ロクロ土師器高環(第56図)・甕が出土している。高環は口縁部が外反気味に直立し、脚部が太い。

### S D 5 溝跡(第55図)

B-11・12グリッドに位置する。北東・南西方向に伸び、S D 4と平行する。長さ2.8m、幅45～60cmである。底面はほぼ平坦で、深さ15cm程度である。堆積土は2層に分かれ。遺物は出土しなかった。

### S X 2 性格不明遺構(第55図)

A・B-9グリッドに位置する。120×70cmの不整形で、深さ20cmである。堆積土は2層に分かれ。遺物は出土しなかった。

### S X 3 性格不明遺構(第55図)

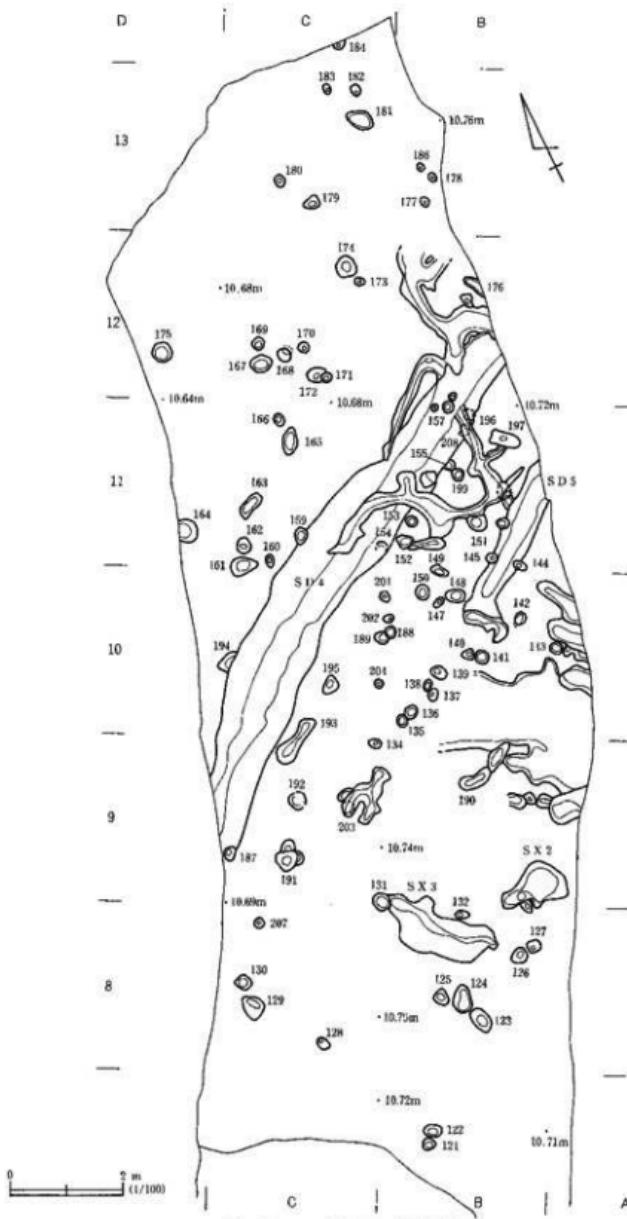
B-8・9グリッドに位置する。215×80cmの細長い不整形で、東半が溝状である。底面は北端が深くなり、深さは20～25cmである。堆積土は2層に分かれ。遺物は出土しなかった。

### ピット(第54図、第8表)

89個検出された。柱痕跡をもつものはない。また、建物跡を構成するかどうかは確認できなかった。P190より非ロクロ土師器甕が出土している。

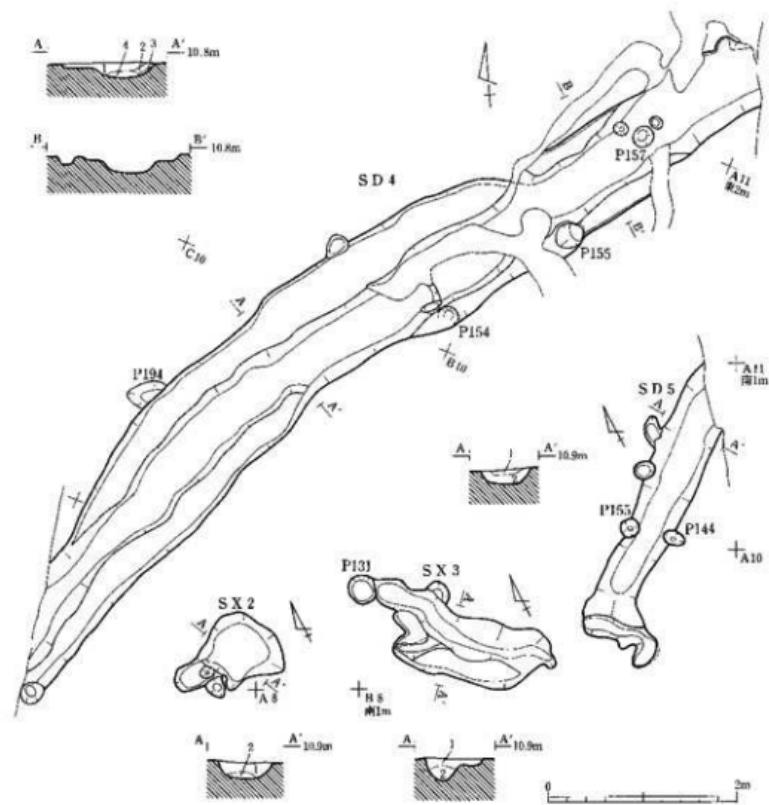
### 小結

6層の遺構からは非ロクロ土師器が出土しており、なかでもS D 4出土高環はS I 1の土器群と時期的にあまり差がないと考えられる。6層の遺構も4層と同じく古墳時代後期頃の可能性がある。



第54図 6層上面の遺構配置図

## 5 6層上面の構造と遺物



層位	土色	土性	備考
SD 4	1 黄色 10YR4/4 2 暗褐色 10YR2/3 3 暗褐色 10YR2/4 4 に赤い黄褐色 10YR4/3	シルト 粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	赤・白色パストを少許含む 酸化鉄・炭を少許含む 酸化鉄・炭を少許含む 酸化鉄・炭・ブロックを少許含む
SD 5	1 黄色 10YR4/4 2 に赤い黄褐色 10YR5/4	シルト シルト	酸化鉄・炭を少許含む 酸化鉄・炭わずかに、繊維を含む
SX 2	1 に赤い黄褐色 10YR5/3 2 黄褐色 10YR4/2	シルト 粘土質シルト	酸化鉄を多く含む 酸化鉄・マンガンを含む
SX 3	1 に赤い黄褐色 10YR4/3 2 黄褐色 10YR5/2	シルト 砂質シルト	酸化鉄を多く含む 酸化鉄・マンガンを含む

第55図 6層上面の構造



第56図 S D 4 出土遺物

第8表 6層上面のピット計測表

番号	鉛錠	絆錠	深さ	土色・土性	番号	鉛錠	絆錠	深さ	土色・土性
II-23	6		6	褐色色 10YR4/3 シルト	II-36			18	褐色 10YR4/4 シルト
II-31	20	14	褐色	10YR4/4 砂質シルト	II-37	29	18	褐色色 10YR4/4 黄土質シルト	
II-35	28	16	褐色	10YR4/4 砂質シルト	II-38	25	26	褐色 10YR4/4 シルト	
II-38	51	34	褐色	10YR4/4 砂質シルト	II-39	21	25	にぶい黄褐色 10YR4/4 シルト	
II-39	25	13	褐色	10YR4/4 シルト	II-40	19	7	暗褐色 10YR3/4 シルト	
II-40	25	27	にぶい黄褐色	10YR4/3 シルト	II-41	20	14	7	褐色 10YR4/4 シルト
II-41	22	18	灰褐色	10YR4/2 黄土質シルト	II-42	35	29	12	褐色 10YR4/4 シルト
II-43	30	17	褐色	10YR4/4 シルト	II-43	17	7	褐色 10YR4/4 シルト	
II-45	36	13	褐色色	10YR4/3 シルト	II-44	38	24	褐色 10YR4/4 シルト	
II-48	11	11	褐色	10YR4/4 シルト	II-45	37	5	にぶい黄褐色 10YR4/3 黄土質シルト	
II-49	(21)		にぶい黄褐色	10YR4/3 シルト	II-46	(13)	(4)	にぶい黄褐色 10YR4/3 黄土質シルト	
II-50	17	19	褐色	10YR4/4 シルト	II-47	18	16	褐色 10YR4/4 黃土質シルト	
II-51			にぶい黄褐色	10YR4/3 シルト	II-48	15	7	にぶい黄褐色 10YR4/4 シルト	
II-52	16		褐色色	10YR4/3 シルト	II-49	28	20	10	褐色 10YR4/4 シルト
II-53	21		褐色	10YR4/4 シルト	II-50	20	12	褐色 10YR4/4 黄土質シルト	
II-55	8		にぶい黄褐色	10YR4/2 黄土質シルト	II-51	49	32	3	暗褐色 10YR3/2 シルト
II-56	12		にぶい黄褐色	10YR4/2 シルト	II-52	18	10	にぶい黄褐色 10YR4/3 シルト	
II-57	26		にぶい黄褐色	10YR4/2 黄土質シルト	II-53	36	18	にぶい黄褐色 10YR4/3 シルト	
II-58	22	14	にぶい黄褐色	10YR4/3 黄土質シルト	II-54	(22)	(18)	褐色 10YR4/4 黄土質シルト	
II-59	16		にぶい黄褐色	10YR4/2 黄土質シルト	II-55	(22)	(18)	褐色 10YR4/4 シルト	
II-60	22		にぶい黄褐色	10YR4/2 黄土質シルト	II-56	14	14	にぶい黄褐色 10YR4/3 黄土質シルト	
II-61	12		褐色	10YR4/4 シルト	II-57	26	14	褐色 10YR4/4 シルト	
II-62	25	17	にぶい黄褐色	10YR4/3 黄土	II-58	(22)	(26)	褐色 10YR4/4 シルト	
II-63	5	5	にぶい黄褐色	10YR4/3 シルト	II-59			にぶい黄褐色 10YR4/3 黄土質シルト	
II-64	25	16	にぶい黄褐色	10YR4/4 シルト	II-60	(26)	(26)	褐色 10YR4/4 シルト	
II-65	21		褐色	10YR4/4 シルト	II-61	56	22	9	にぶい黄褐色 10YR4/3 黄土質シルト
II-66			にぶい黄褐色	10YR4/3 シルト	II-62	56	50	23	褐色 10YR4/4 シルト
II-67	17		褐色	10YR4/4 シルト	II-63	29	14	14	褐色 10YR4/4 シルト
II-68	35	26	にぶい黄褐色	10YR4/3 黄土	II-64	96	36	29	褐色 10YR4/4 シルト
II-69	28	17	にぶい黄褐色	10YR4/3 シルト	II-65	(96)	(13)	にぶい黄褐色 10YR4/3 シルト	
II-70	39	23	褐色	10YR4/4 シルト	II-66	35	26	14	にぶい黄褐色 10YR4/3 シルト
II-71	37		褐色	10YR4/4 シルト	II-67	25	19	17	褐色 10YR4/4 シルト
II-72	25		褐色	10YR4/4 シルト	II-68	55	35	25	褐色 10YR4/4 シルト
II-73	20		褐色	10YR4/4 シルト	II-69	23	12	にぶい黄褐色 10YR4/3 シルト	
II-74	(25)	(18)	褐色	10YR4/4 シルト	II-70	21	9	褐色 10YR4/4 シルト	
II-75	30		褐色	10YR4/4 シルト	II-71	26	18	12	褐色 10YR4/4 シルト
II-76			にぶい黄褐色	10YR4/3 黄土質シルト	II-72	39	26	10	にぶい黄褐色 10YR4/3 シルト
II-77			にぶい黄褐色	10YR4/3 黄土質シルト	II-73	29	11	15	にぶい黄褐色 10YR4/3 シルト
II-78	28	22	褐色	10YR4/3 シルト	II-74	24			褐色 10YR4/4 シルト
II-79	23	16	褐色	10YR4/3 シルト	II-75	17			褐色 10YR4/4 シルト
II-80	13	6	褐色	10YR4/4 シルト	II-76	17			にぶい黄褐色 10YR4/3 シルト
II-81	30	12	褐色	10YR4/4 シルト	II-77	(22)			褐色 10YR4/4 シルト
II-82	27		褐色	10YR4/4 シルト	II-78	22			褐色 10YR4/4 シルト
II-83	50	23	にぶい黄褐色	10YR4/3 シルト	II-79	19		8	褐色 10YR4/4 シルト
II-84	(44)	(13)	褐色	10YR4/4 シルト	II-80	44	36	44	褐色 10YR4/4 シルト
II-85	49	25	10	褐色 10YR4/4 シルト					

(単位cm)

## 6 7層上面の遺構と遺物

7層上面からは性格不明遺構9、ピット3が検出されている。上面の地形はほぼ平坦である(第57図)。いずれも遺構に伴う遺物はない。

### S X 4 性格不明遺構 (第58図)

C-8グリッドに位置する。150×105cmの不整楕円形で、底面は皿状であり、深さ10cmである。堆積土は黒褐色シルトで、2層に分かれる。

### S X 5 性格不明遺構 (第58図)

C-8グリッドに位置する。東半分がSD2により切られている。長さ140cm以上、幅140cmの楕円形と見られる。底面は皿状にくぼみ、深さ10cmである。堆積土は2層に分かれる。遺物は出土しなかった。

### S X 6 性格不明遺構 (第58図)

C-9・10グリッドに位置する。一部がSD4により切られ、160×110cmの不整楕円形である。底面は平坦で、深さは5cmである。

### S X 7 性格不明遺構 (第58図)

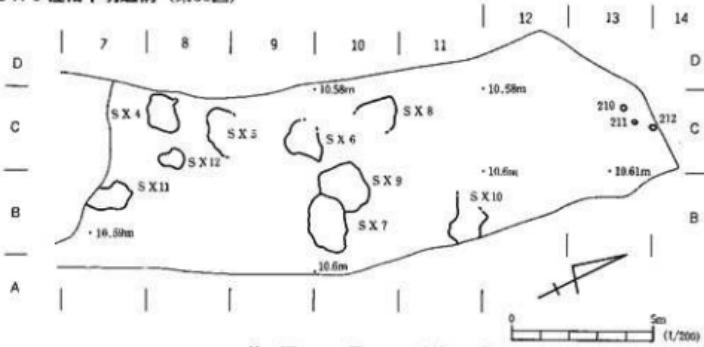
B-9・10グリッドに位置し、SX9より新しい。210×125cmの不整楕円形である。底面は平坦で、南に向かいやや下がる。深さは5cmである。

### S X 8 性格不明遺構 (第58図)

C-10グリッドに位置する。SD4に切られ全形は不明である。135×110cm以上である。底面は平坦で、深さ5cmである。

### S X 9 性格不明遺構 (第58図)

第57図 7層上面の遺構配置図



第57図 7層上面の遺構配置図

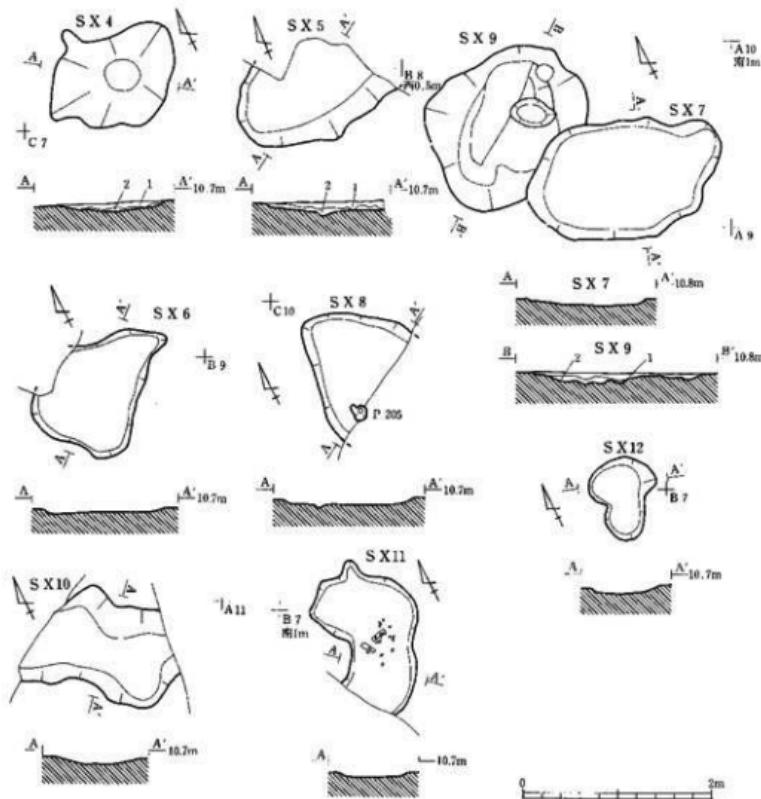
B・C-10グリッドに位置する。SX7に切られる。190×170cmの梢円形で、底面は凹凸があり、深さ15cmである。堆積土は2層に分かれる。

#### S X 10性格不明遺構(第58図)

B-11・12グリッドに位置する。一部のみ検出した。長さ140cm、幅90cmの溝状で、底面は皿状で深さ5cmである。

#### S X 11性格不明遺構(第58図)

B-7グリッドに位置する。平面形が弧状であり、最大長170cm、幅70cmである。底面はほぼ



層位	土色	土性	特徴
SX4	1 黄褐色 10YR1/1	シルト	礫化鉄・マンガンを含む。炭を多く含む
	2 黑褐色 10YR2/2	シルト	炭をとくに含む
SX5	1 黑褐色 10YR2/1	シルト	礫化鉄・マンガンを含む。炭を多く含む
	2 にごい黒褐色 10YR4/3	粘土質シルト	炭をとくに含む
SX9	1 黑褐色 7.5YR2/2	シルト	動植物・マンガン・炭・鐵を含む
	2 にごい黒褐色 10YR4/3	シルト	マンガン・炭・鐵を含む

第58図 7層上面の遺構

## 7 9層上面の遺構と遺物

平坦で、深さ5cmである。底面中央より、炭化物が出土した。

### S X 12性格不明遺構（第58図）

C-8グリッドに位置する。90×70cmの不整楕円形で、深さ8cmである。

### ピット（第57図・第9表）

北端部で、ピットが3個検出された。いずれも柱痕跡は確認されなかった。

第9表 7層上面のピット計測表

番号	真北	幅	幅厚	深さ	色	土	性	番号	真北	幅	幅厚	色	土	性	
210	22			13	灰黃褐色	10YR4/2	粘土質シルト	212	27			12	褐色	7.5YR4/3	粘土質シルト
211	21			20	暗褐色	10YR3/4	粘土質シルト								

(単位cm)

## 7 9層上面の遺構と遺物

9層上面からは、性格不明遺構5が検出された（第59図）。

### S X 13・16性格不明遺構（第61図）

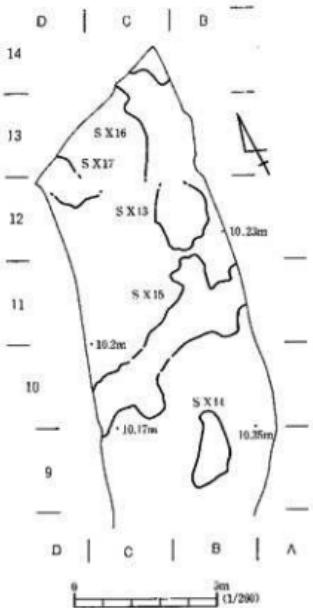
B-C-12～14グリッドに位置する。2つの遺構は隣接しており、同一と推定される。長さ6.5m、幅1.1～1.7mの溝状である。底面は中央部と南端部がくぼむ他はほぼ平坦で、深さは北半で15cm、南半で6～12cmである。

### S X 14性格不明遺構（第61図）

B-9・10グリッドに位置する。半月形をしており、長さ280cm、幅110cmである。西側が深くなり、最深部で55cmである。

### S X 15性格不明遺構（第60・61図）

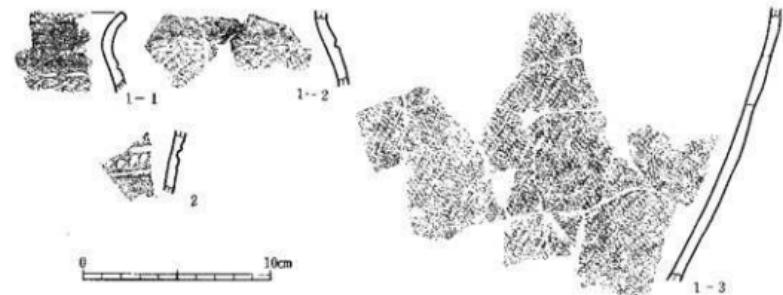
B-C-9～12グリッドに位置する。北東・南西方向の溝状である。長さ7m、幅1.05～3.2mである。底面は一部が大きくくぼんでおり、深さは平均6cm、最深部で22cmである。堆積土より弥生土器（第60図1）・縄文土器（2）が出土している。1はこの遺構の他に基本層8層から出土していることから、本来は8層に包含される遺物であろう。弥生土器の甕で、頸部に横長の列点文をもち、体部にはLR縄文が施文される。弥生中期頃のものと考えられる。2は、縄文後期後葉の土器



と考えられる。

#### S X 17性格不明遺構 (第61図)

C・D-12・13グリッドに位置する。本来の形は不明で、 $180 \times 110\text{cm}$ の大きさである。底面は一部がピット状にくぼむ。深さは10cm程で、最深部で23cmである。



	特	微	登録		特	微	登録
1	口唇・体部: L R 開文 底部: 刺突	B 1		2	沈線、刺突		A573

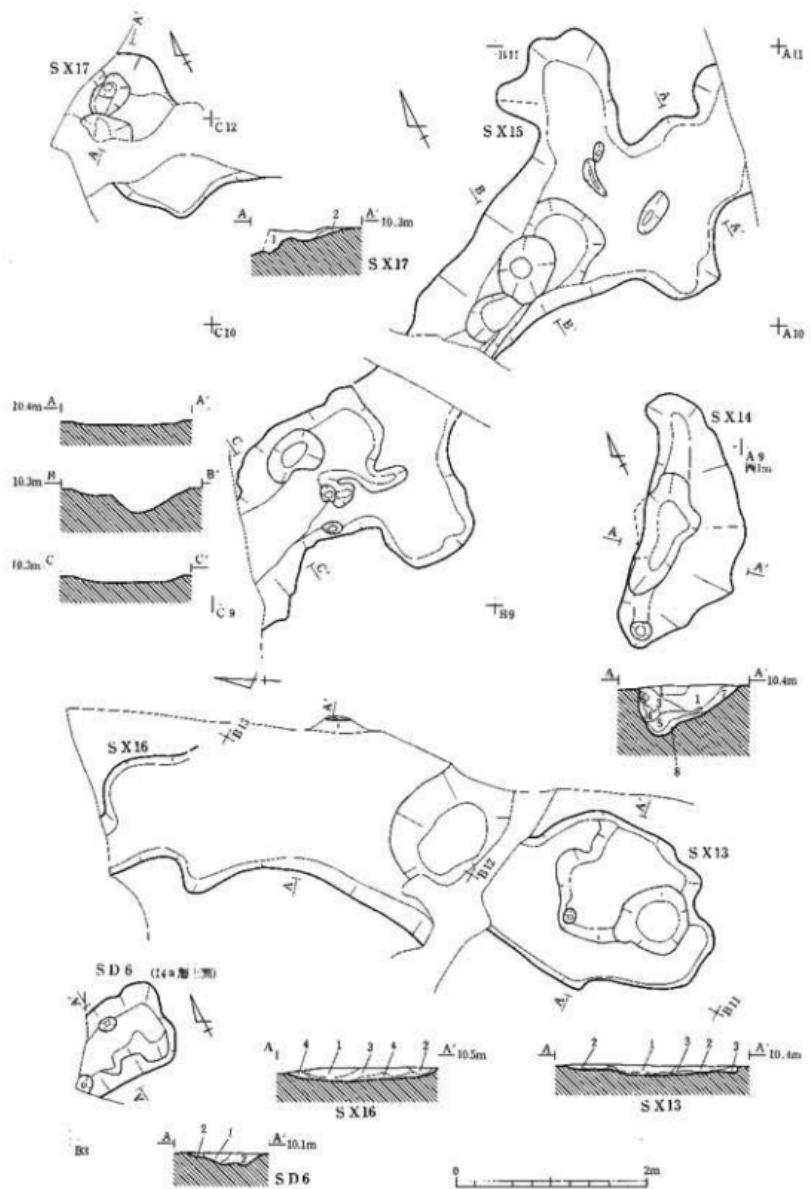
第60図 S X 15出土遺物

## 8 14a層上面の遺構

#### S D 6溝跡 (第61図)

B-4グリッドに位置し、旧荒川に切られており、ごく一部のみ検出された。長さ110cm、幅90cmで、底面は凹凸があり、深さ10~15cmである。遺物は出土しなかった。

7 9層上面の造構と遺物



第61図 9・14a層上面の造構

層位	二 名	三 名	四 名	五 名
S X13	1 黄褐色 10YR5/2	地上質シルト	黄・ハニカム多く、赤灰角土白む	
	2 細粒砂 10YR5/3	砂質シルト	炭・バクミス多く、炭灰土・砂を含む	
	3 黄褐色・細粒砂 10YR4/3	砂質シルト	炭・バクミス多く含む	
S X14	1 黄色 10YR4/4	砂質シルト	細礫を多く含む	
	2 に赤い黄褐色 10YR4/3	砂質シルト	細礫をわずかに含む	
	3 黄色 10YR4/4	細砂	細礫を含む	
	4 に赤い黄褐色 10YR4/3	砂質シルト	粗礫をわずかに含む	
	5 黄色 10YR4/4	細砂		
	6 黄色 10YR4/4	細砂		
S X15	1 黄褐色 7.5YR5/1	シルト	炭・過酸化物を含む	
	2 黄褐色 10YR5/1	砂質シルト	炭をわずかに含む	
	3 細粒砂 7.5YR5/3	砂質シルト	炭・灰・小礫を含む	
	4 細砂 7.5YR6/2	細砂		
S X17	1 黄褐色 7.5YR5/2	シルト	灰・褐色細砂を含む	
	2 黄色 7.5YR6/3	シルト	炭を含む	
SD 6	1 に赤い黄褐色 10YR4/3	シルト	炭を多く含む	
	2 に赤い黄褐色 10YR4/4	シルト	過酸化物を多く含む	

第61図 9・14a層上面の遺構

## 9 河川跡 (第62~64図)

12層上面で河川跡が検出された。グリッド4ライン以北全てが河川跡で、南岸のみ検出されている。河川の方向は東西方向で、旧荒川に平行するようである。標高8mまで掘り下げたが粗砂層が続いている。トレンチが狭まったため河床礫は検出できなかった。

出土遺物 (第63図) 繩文後期から晩期にかけての土器が出土している。1~4は後期前半のものと考えられる。5~14は後期後葉の土器と考えられる。6~8は入り組み文が描かれる。11~14は蓋と考えられる。15~38・64-1は晩期の土器である。晩期中葉を中心とした資料である。沈線文を主体とする23~28は大洞C2式の中でも新しい段階と考えておきたい。



第62図 河川跡

## 10 基本層出土遺物（第65図）

- 4層 非クロコ土師器坏(内黒含む)・甕、須恵器坏・甕・壺がある。いずれも小破片である。
- 5層 非クロコ土師器坏(内黒含む)・甕、須恵器坏・甕・蓋がある。いずれも小破片である。
- 6層（第65図1・2） 非クロコ土師器坏(内黒含む)・甕、須恵器甕、弥生土器が出土している。1は口縁部外面に交瓦刺突文が三段施されている。2は甕の体部だが、R L繩文が施文されており、粉痕が認められる（2-2）。6層出土資料は、弥生後期のものと考えられる。
- 8層（第65図3） 弥生土器が出土している。3は台部で、脚外面に沈線文が施されている。弥生前期頃のものと考えられる。
- 15層 磚石器（凹石）が出土している。また、14・15層から繩文土器が出土している（4～9・14）。6は太い沈線で弧状の文様が描かれる。7は隆線による文様が描かれている。6・7は中期後葉から後期前葉に位置づけられよう。
- 19層（第65図10～12） 繩文土器が出土している。10は沈線と刺突、11は口縁部に平行する沈線文が描かれている。後期の土器と考えられる。
- 層位不明（第65図13） 突起を持つ口縁部で、後期前半のものと考えられる。

## 11 まとめ

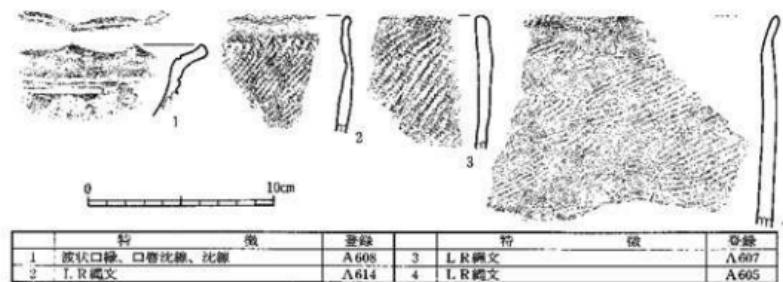
- II区からは各層より住居跡、溝跡、ピットなどが検出されたが、遺構に伴う遺物が少なく、多くはその所属時期が不明である。
- 4 b層上面から竪穴住居跡が1棟検出された。所属時期は7世紀末～8世紀初頭頃と考えられる。
- 6層と8層は弥生時代の堆積層と考えられる。出土遺物から、6層が弥生後期頃、8層が弥生前期頃と考えられる。
- 14層以下は繩文時代の堆積層である。堆積時期は後期頃と考えられる。
- 12層上面で河川跡が発見された。堆積土に含まれる遺物は、繩文晩期中葉頃のものもあるため、その頃には埋没過程にあったことがうかがわれる。河川が14層より上層であることと堆積土の遺物の所属時期から、河川の機能していたのは、繩文後期後半頃と考えられる。
- I・III区にある繩文後期初頭の遺物包含層は、この地点までは伸びていないことが確認された。



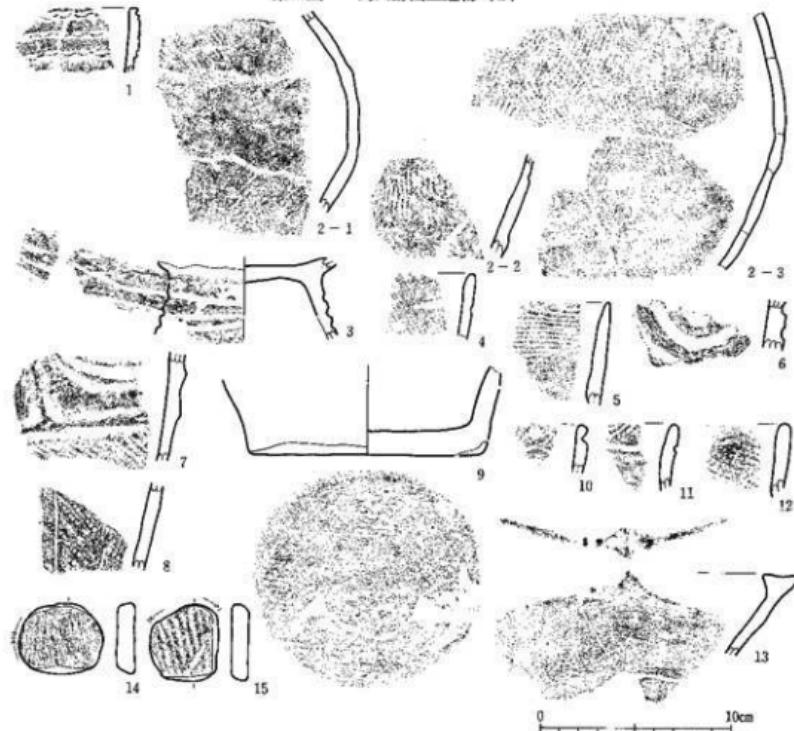
特 徴	登 録
1 R.L. 槍形付骨	A574
2 R.L. 槍形付骨	A574
3 拙縫、R.L. 繩文	A582
4 拙縫、縛文	A578
5 痢状點付、沈縫	A577
6 痢状點付、沈縫、凹面内に細沈縫充填	A576
7 痢状點付、沈縫、L.R. 繩文	A576
8 沈縫、縛文、刺突	A580
9 沈縫	A618
10 沈縫	A617
11 齢長船付、沈縫、R.L. 繩文	A604
12 沈縫、縛文、脇縫	A603
13 沈縫	A583
14 L.R. 繩文、沈縫	A602
15 沈縫	A598
16 沈縫	A597
17 沈縫、縛文	A592
18 沈縫、縛文(?)	A593
19 沈縫、L.R. 繩文	A595
20 沈縫、L.R. 繩文	A591
21 沈縫	A594
22 L.R. 繩文	A606
23 痢縫、沈縫、刺突、縛文、内面に炭化物付着	A583
24 沈縫	A610
25 沈縫、沈縫	A613
26 沈縫	A588
27 沈縫	A590
28 沈縫	A599
29 沈縫、R.L. 繩文	A587
30 口唇沈縫、沈縫、L.R. 繩文	A612
31 口唇沈縫、沈縫	A615
32 L.R. 繩文、沈縫、L.R. 繩文	A609
33 L.R. 繩文、沈縫、L.R. 繩文	A585
34 L.R. 繩文、沈縫、L.R. 繩文	A611
35 口唇沈縫、沈縫、縛文	A589
36 沈縫、沈縫、刺突	A601
37 L.R. 繩文、沈縫、刺突、R.L. 繩文	A586
38 沈縫、沈縫、L.R. 繩文	A584

第63図 河川跡出土遺物（1）

10 基木層出土遺物



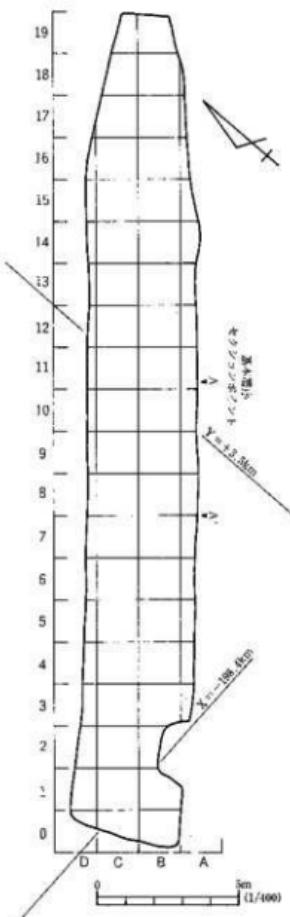
第64図 河川跡出土遺物（2）



第65図 基本層出土遺物

## V III区の調査成果

### 1 調査の方法と経過



第66図 グリッド配置図

市道「下の内・六反田」線の建設に伴い、南半分の約900m<sup>2</sup>を対象とし、約490m<sup>2</sup>の調査区を設定した。

地区設定にあたっては調査区の方向に合わせた任意の基準線を設定し、3×3 mのグリッドを設定した。基準線の方向は真北から49°東偏する。グリッドの名称は長軸方向のアラビア数字と短軸方向のアルファベットの組み合せとした(第66図)。図中の國土座標軸は現地で測量したものではなく、都市計画図より写したものである。

調査は昭和61年(1986)4月22日より開始した。5月に入り古代の小溝状遺構群、住居跡、掘立柱建物跡などが検出されたが、遺構の切り合いが著しく、検出作業は難しかった。8月5日には東北南部を中心とする記録的な集中豪雨に襲われ、調査区が水没する被害に見舞われた。9月以降は縄文時代の包含層の調査に入り、土坑や配石遺構などが検出され、多量の遺物が出土した。11月に調査区南端で縄文時代の住居跡の一部が検出されたため、急きょ調査範囲を拡張した。調査は12月25日をもって終了した。

## 2 基本層序 (第67図)

基本層序は11層まで確認された。

1層 盛土、表土 厚さ35cmで、調査区全体を覆う。1c層は旧水田作土であり、上面より溝跡が検出される。

2層 上層の水田作土に伴う酸化鉄集積層。厚さ5cm。上面より土坑が検出されている。

3層 灰黄褐色シルト 厚さ10cm。

4層 にぶい黄褐色粘土質シルト 4a層は厚さ5cm程でマンガンを多量に含み、4b層は5～10cmでマンガンは少ない。4c層は厚さ35cmである。4c層上面で小溝状遺構が検出された。

5層 黒褐色粘土質シルト 厚さ7～10cmで、上面より小溝状遺構、住居跡、掘立柱建物跡、土坑などが検出された。

6層 にぶい黄褐色粘土質シルト 厚さ20～30cmである。

7層 黄褐色砂質シルトの7a層と、褐色シルトの7b層に別れる。a層は5～8cm、b層は10～20cmである。

8層 黄褐色砂質シルト 厚さ10～15cmで、部分的である。層の下面は乱れる。

9層 9a(褐色粘土質シルト)、9a-2(にぶい黄褐色粘土質シルト)、9b(黒色粘土質シルト)に細分される。炭、繩文土器、石器を多量に含んでいる。厚さは9a・9b層それぞれ15cm程度である。各層の上より繩文時代の遺構が検出されている。

10層 にぶい黄褐色粘土 厚さ20cmである。上面から繩文時代の遺構が検出されている。

11層 黄褐色粘土質シルト、にぶい黄褐色砂、砂礫層など一様ではない。B-C-13・14グリッドは砂礫層が盛り上がっている。

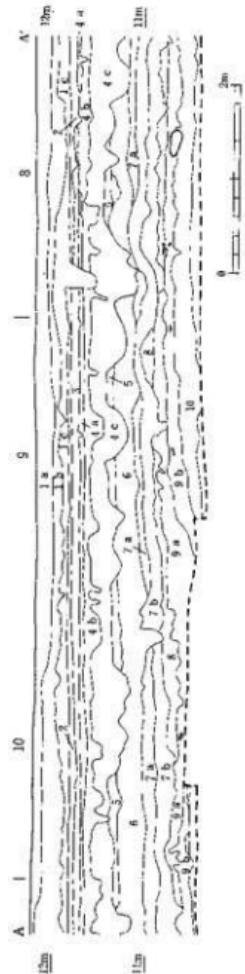
1～4層はほぼ水平に堆積しており、5層以下は起伏が目立ちはじめる。

## 3 4a層以降の遺構と遺物

4a層より上位で検出された遺構は土坑4、溝跡1である。検出層は異なるが4a層上面で調査されたので一括して取り扱う。4a層上面の地形は標高11.7～11.8mで、ほぼ平坦である(第68図)。

### S D 1 溝跡 (第68・69図)

1c層上面で検出された。調査区を縦断する。幅約1m、深さは15cmで、底面は丸みを持つ。底面のレベルは北東部がやや下がっている。堆積土は3層に分かれシルトが主体である。底面



層位	土	性	標	地盤の底上	等
1 a				砂土	
1 b	泥オリーブ色	3 YR 7/2	シルト	田水田耕作下	
2	褐色	7,5 YR 7/8	シルト	褐色灰岩地	
3	灰青褐色	10 YR 5/2	シルト	褐色灰岩地に含む 解体灰・マンガンを多量に含む	
4 a	灰青褐色	10 YR 5/4	粘土質シルト	マンガンを多量に含む	
4 b	灰青褐色	10 YR 4/4	粘土質シルト	マンガンを少量含む	
4 c	灰青褐色	10 YR 4/3	粘土質シルト	マンガンを少量含む	
5	灰褐色	10 YR 4/3	粘土質シルト	粘土質シルト	
6	灰褐色	10 YR 4/3	粘土質シルト	風を含む	
7 a	深褐色	10 YR 5/6	砂質シルト	砂の土を含む	
7 b	褐色	10 YR 4/4	シルト		
8	褐色	10 YR 4/6	砂質シルト		
9 a	褐色	10 YR 4/4	粘土質シルト		
9 b	褐色	10 YR 4/7	粘土質シルト	風を多量に含む	
10	灰褐色	10 YR 5/4	粘土質シルト	風を半量に含む	

第67図 基本圖序

#### 4 4 b 層上面の遺構と遺物

には酸化鉄集積層がある。堆積土より、近世かと考えられる陶器2点、青磁1点、非ロクロ土師器壺・甕が出土している。第71図1は、堆積土出土の須恵器壺底部片で、底部は回転糸切りである。

##### S K 1 土坑（第69図）

1 c 層～4 a 層上面で検出された。C-5グリッドに位置し、S K 2 より新しい。140×100cmの長方形で、深さ30cm、底面は平坦である。堆積土は2層に別れるが、ブロック状に混在したシルト層である。

##### S K 2 土坑（第69図）

1 c 層～4 a 層上面で検出された。C-5グリッドに位置している。125×60cmの長方形で、深さ30cm、底面は平坦で、南端がさらに10cm程くぼむ。

堆積土はS K 1 の1層に似ており、ブロック状に混在した層である。

##### S K 3 土坑（第69図）

2層上面で検出された。C-D-9グリッドに位置する。半分は調査区外であり、長さ80cm以上、幅85cmの長方形と見られる。深さは50cmで、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分かれるが、いずれもブロック状に混在した層である。

##### S K 4 土坑（第69図）

2層上面で検出された。半分は調査区外であり、長さ95cm以上、幅100cmの長方形と見られる。断面計はすり鉢状である。堆積土は2層に分かれるが、いずれもブロック状に混在した層である。近世かと考えられる陶磁器が1点出土している。

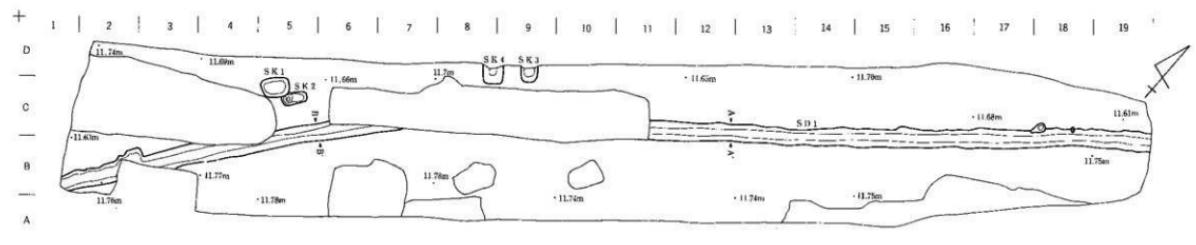
#### 小結

1・2層検出のS D 1、S K 4 は陶磁器を伴っていることから、近世以降に位置付けられよう。S K 3 もS K 4 に隣接し、堆積土が類似することから同様に考えたい。S K 1・2 は検出層位が1～4 a 層と確定できないが、堆積土がS K 3・4 同様のブロック状に混在したシルト層なので、2層から掘り込まれている可能性が高い。なお、S K 1～4 は1区3層検出土坑に類似している。

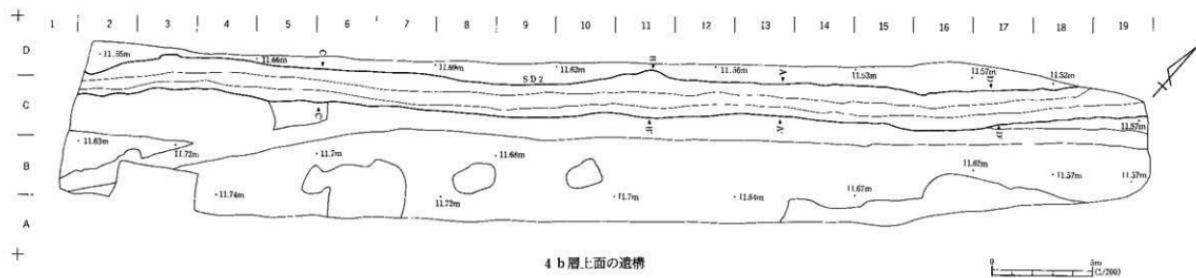
#### 4 4 b 層上面の遺構と遺物

4 b 層上面では、溝跡1が検出されている。上面の地形は標高11.6～11.7mで、ほぼ平坦である（第68図）。

##### S D 2 溝跡（第68・70図）



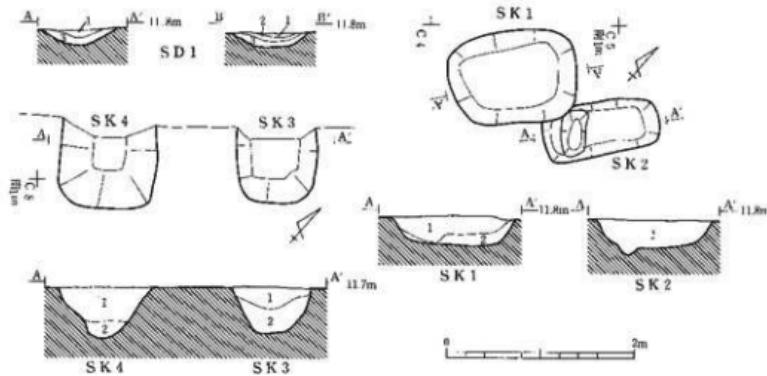
4 a 層上面以降の遺構 (標高は 4 a 層上面)



4 b 層上面の遺構

0  
3m  
(1/200)

第68図 4層の遺構



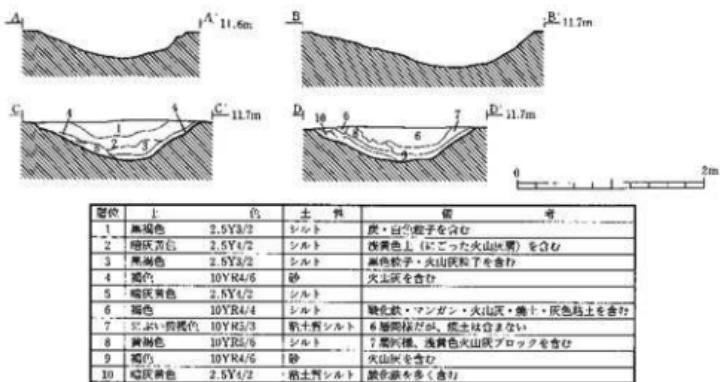
施構	層位	上		二		備 考
		色	性	色	性	
SD1	1	灰青色	2.5Y7/2	シルト	酸化鉄を含む	
	2	暗灰青色	2.5Y5/2	粘土質シルト	酸化鉄を含む	
	3	灰黄色	2.5Y6/2	シルト	底面に黒色鉄が埋積	
SK1	1	灰青色	2.5Y7/2	シルト	褐色土と混在	
	2	にじむ紫褐色	10YR2/4	シルト	褐色、含青色	
SK2	1	灰青色	2.5Y7/2	シルト	褐色土・褐色土と混在	
SK3	1	暗灰青色	2.5Y5/2	シルト	褐色土・褐色土・褐色、マンガンを含む	
	2	褐色	10YR4/4	粘土質シルト	暗灰青色土を帯びて含む	
SK4	1	褐色	10YR4/4	シルト	褐色褐介土・酸化鉄と混在	
	2	褐色	10YR4/4	粘土質シルト	暗灰青色土・酸化鉄を少含む	

第69図 4a層以降の遺構

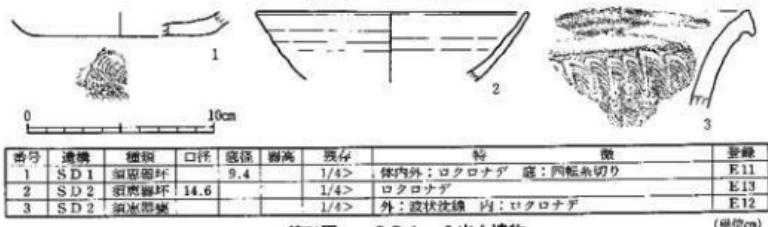
調査区の西端を縦断する。幅1.3~2.4mで、深さ30~45cm、断面計はゆるいV字形である。底面のレベルは北東方向に向かいやや下がっている。堆積土はおおむね5層程度に分かれるが、場所によって少しづつ違っている。底面に厚さ5cm程の砂層があり、その直上層と共に灰白色火山灰をブロック状に含んでいる。堆積土よりロクロ土師器壺・甕、非ロクロ土師器壺・甕、赤焼土器壺が、底面よりロクロ土師器壺、非ロクロ土師器壺・甕が出土している。第71図2は須恵器壺、3は須恵器甕の口縁部である。また、下層の遺物と考えられる砾石器が出土している。

遺構の所属時期は、底面からロクロ土師器が出土し、なおかつ層中に10世紀前半に降下したとされる灰白色火山灰が二次堆積していることから、平安時代と考えられる。

## 5 4c層上面の遺構と遺物



第70図 SD 2溝跡



第71図 SD 1・2出土遺物

(単位cm)

## 5 4c層上面の遺構と遺物

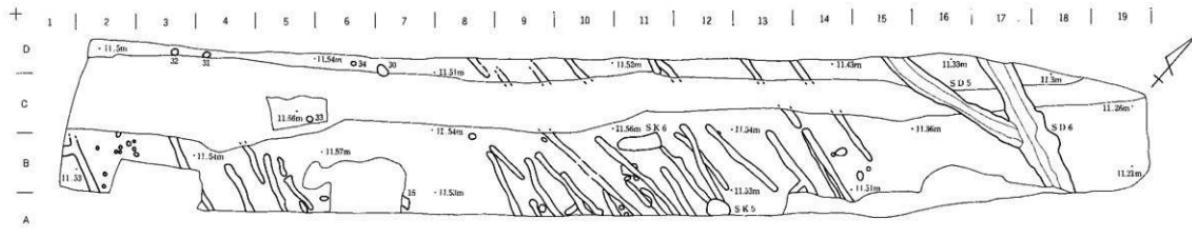
4c層からは土坑2、溝跡2、小溝状遺構群、ピット34が検出された。上面の地形は、標高11.2~11.5mで、北東部がやや下がっている(第72図)。

### S K 5 土坑(第73図)

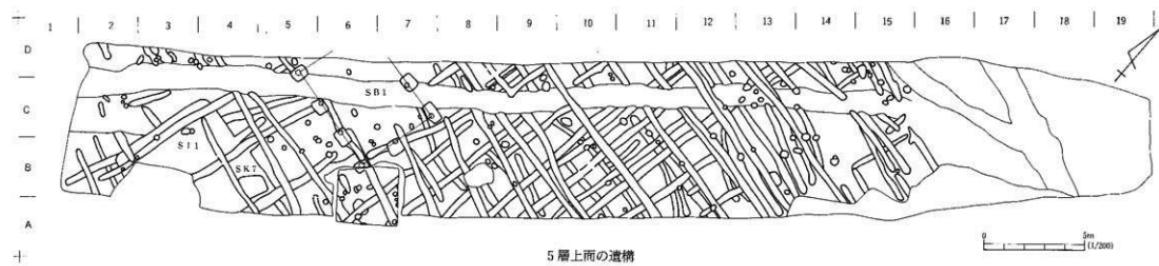
A-12グリッドに位置する。小溝状遺構群より新しい。一部が調査区外であり、長軸110cm、短軸80cm以上の梢円形と見られる。深さは10cmで、底面はほぼ平坦である。堆積土はにぶい黄褐色シルト1層である。

### S K 6 土坑(第73図)

B-11グリッドに位置する。小溝状遺構群より新しい。長さ200cm、幅70cmの不整長方形で、深さ6cm程度である。底面は平坦で、北半分がやや下がる。堆積土はにぶい黄褐色粘土質シルト1層である。



4c 層上面の遺構



5 層上面の遺構

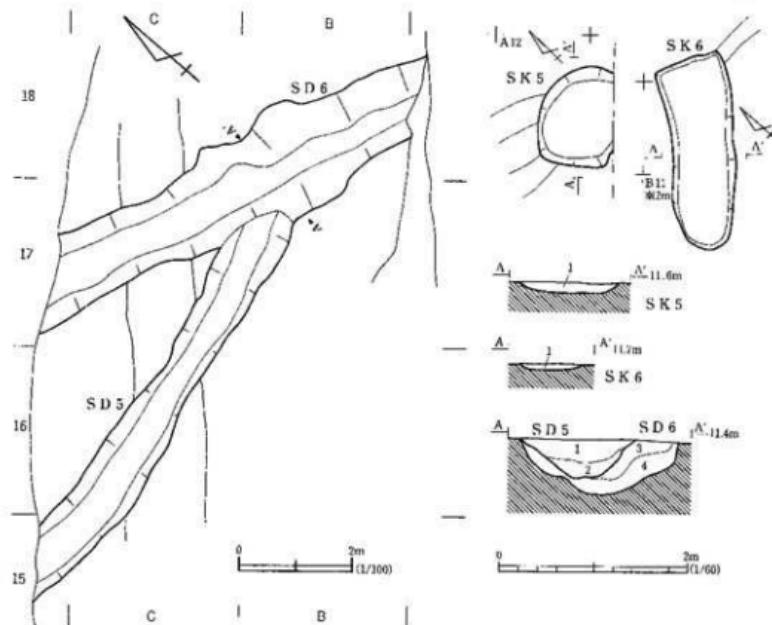
第72図 4c・5層上面の遺構

## SD 5・6溝跡 (第73図)

B・C-15~18グリッドに位置する。SD 6が古く、SD 5はSD 6が埋没した後に、斜めに合流し同じ流路を流れている。

SD 5は幅60~100cm、深さ40cmである。堆積土は粘土質シルトで、2層に分かれ。SD 6は幅110~200cmで、深さ60cmである。堆積土は粘土質シルトで、2層に分かれ。両方とも底面のレベル差はほとんどなく、流れた方向は不明である。SD 5堆積土から非クロロ土師器甕、SD 6堆積土から非クロロ土師器甕(内黒)・甕、底面より非クロロ土師器甕が出土している。

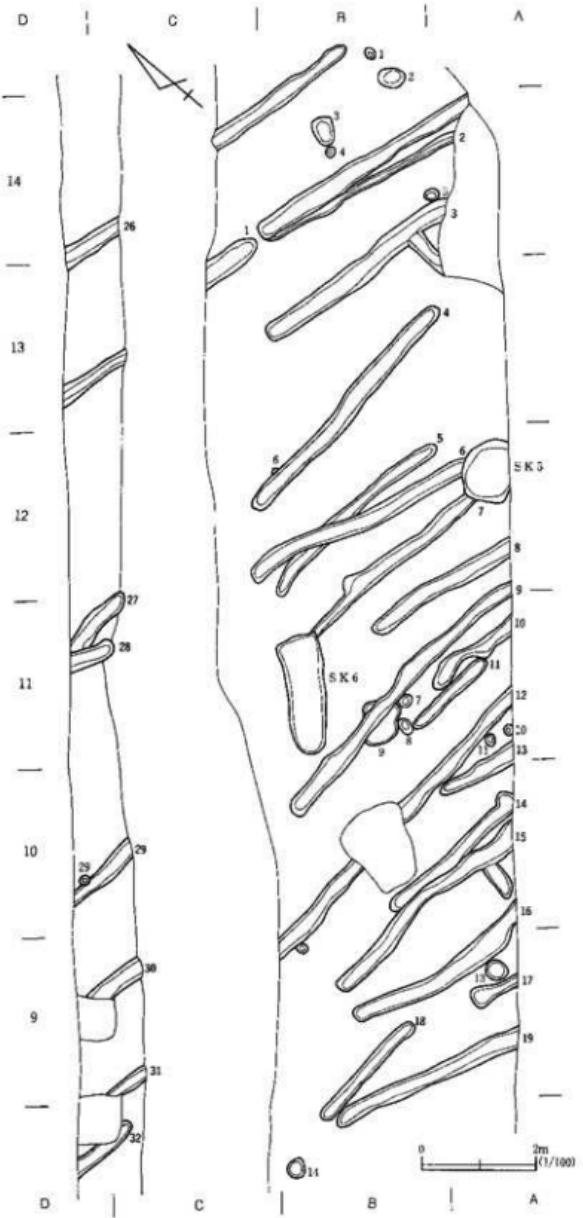
これらの溝は昭和51~53年調査時のB北区およびBハイ区の1号溝と同一と考えられる。



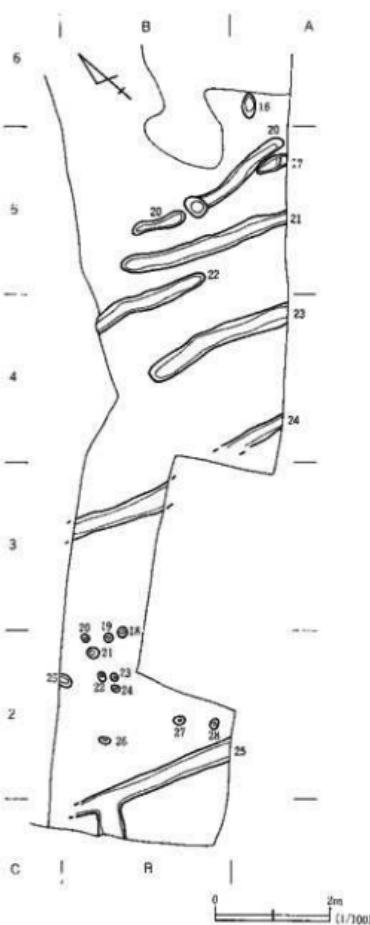
地盤	層位	土色	土性	面
SK 5	1	にほい黄褐色	10YR5/3 シルト	褐色小粒を含む
SK 6	1	にほい黄褐色	20YR4/3 粘土質シルト	白色砂を含む
SD 5	1	褐色	10YR4/4 粘土質シルト	マンガン・灰青色の粘土を含む
	2	にほい黄褐色	10YR4/3 粘土質シルト	粘土質シルト 乱入部1層より多い
SD 6	3	暗褐色	10YR3/4 粘土質シルト	マンガン粘土を少量含む
	4	褐色	10YR3/4 粘土質シルト	黄色砂を含む

第73図 SK 5・6、SD 5・6

5 4 c層上面の造構と造物



第74図 4c層上面の小溝状造構群 (1)



第75図 4c層上面の小溝状遺構群（2）

## 小溝状遺構群（第74・75図・第10表）

調査区の南端の1～5グリッドと、中央部の8～15グリッドにある。方向はいずれもほぼ東西方向である。

南のものは6条あり、幅20～32cm（平均28cm）、深さ5～8cm（平均6cm）である。ほぼ東西方向で、溝どうしの間隔は不均等である。

中央のものは26条あり、幅15～45cm（平均26cm）、深さ4～11cm（平均6cm）である。ほぼ東西方向で、方向のやや異なるものがあり切り合いもあることから、数時期に分けられる可能性がある。溝どうしの間隔が等間隔になるものもある。溝中の堆積土はどちらの群も基本層4b層である。遺物は非クロロ土師器壺の体部片が少量出土している。

## ピット（第74・75図・第11表）

ピットは34個検出された。深さは20cm近いものもあるが柱痕跡を持つものではなく、建物跡を構成するものは確認できなかった。

## 小結

4c層の遺構の所属時期は、SD6底面より非クロロ土師器壺が出土していること、4b層に平安時代の遺構があること、下層の5層に奈良時代の遺構があることから、奈良時代から平安時代にかけての時期に所属すると考えられる。

## 6 5層上面の遺構と遺物

第10表 4c層上面の小溝状遺構群計測表

番号	組合	上・中・下・性	番号	組合	上・中・下・性
1	28 - 5	にぼい黄褐色 10YR4/3 シルト	17	28	3 にぼい黄褐色 10YR5/3 シルト
2	15 - 6	にぼい黄褐色 10YR5/4 シルト	18	23	6 にぼい黄褐色 10YR5/3 シルト
3	37 - 8	にぼい黄褐色 10YR5/4 シルト	19	31	4 にぼい黄褐色 10YR5/3 シルト
4	26 - 8	板溝	20	20	6 にぼい黄褐色 10YR4/3 シルト 壁厚2cmの穴有
5	32 - 5	にぼい黄褐色 10YR4/4 シルト	21	26	5 にぼい黄褐色 10YR5/3 シルト
6	27 - 8	にぼい黄褐色 10YR5/4 シルト	22	27	5 にぼい黄褐色 10YR5/3 シルト
7	30 - 7	にぼい黄褐色 10YR5/4 シルト	23	31	7 にぼい黄褐色 10YR5/3 シルト
8	29 - 8	にぼい黄褐色 10YR5/4 シルト	24	32	8 にぼい黄褐色 10YR5/3 シルト (不明)
9	30 - 6	にぼい黄褐色 10YR5/4 シルト	46	1	6 板溝
10	25 - 7	にぼい黄褐色 10YR5/4 シルト	26	28	5 (不明)
11	24 - 9	にぼい黄褐色 10YR5/4 シルト	27	39	5 にぼい黄褐色 10YR5/3 シルト
12	28 - 8	にぼい黄褐色 10YR5/4 シルト	28	30	5 にぼい黄褐色 10YR5/3 シルト
13	27 - 6	にぼい黄褐色 10YR5/4 シルト	29	24	6 にぼい黄褐色 10YR4/3 シルト
14	27 - 6	にぼい黄褐色 10YR5/3 シルト	30	32	5 にぼい黄褐色 10YR5/3 シルト
15	29 - 11	にぼい黄褐色 10YR5/3 シルト	31	23	5 にぼい黄褐色 10YR5/3 シルト
26	5	板溝	32	27	6 にぼい黄褐色 10YR4/3 シルト
16	45 - 7	にぼい黄褐色 10YR5/3 シルト			(準定)

第11表 4c層上面のピット計測表

番号	長径	短径	深さ(cm)	土・色・性	番号	長径	短径	深さ(cm)	土・色・性
1	20	20	8	にぼい黄褐色 10YR5/4 シルト	18	16	11	にぼい黄褐色 10YR5/4 シルト	
2	44	30	9	にぼい黄褐色 10YR5/4 シルト	19	14	11	(不明)	
3	32	38	18	にぼい黄褐色 10YR5/4 シルト	20	12	20	(不明)	
4	18		10	(不明)	21	20	17	(不明)	
5	26	20	8	にぼい黄褐色 10YR5/4 シルト	22	18	6	(不明)	
6	36	16	8	(不明)	23	14	11	(不明)	
7	22		8	にぼい黄褐色 10YR5/4 シルト	24	14	9	(不明)	
8	28	20	11	にぼい黄褐色 10YR5/4 シルト	25	(24) (16) (13)	(13)	(不明)	
9	(84)		(5)	にぼい黄褐色 10YR5/4 シルト	26	18	10	8 (不明)	
10	(18)		8	にぼい黄褐色 10YR5/4 シルト	27	18	5	(不明)	
11	18		15	(不明)	28	16	8	(不明)	
12	18		10	にぼい黄褐色 10YR5/4 シルト	29	18	21	黑褐色 10YR5/2 シルト	
13	46	34	6	にぼい黄褐色 10YR5/4 シルト	30	36	46	黑褐色 10YR5/2 シルト	
14	36		10	にぼい黄褐色 10YR5/4 シルト	31	32	16	黑褐色 10YR5/2 シルト	
15	(52)	(36)	(14)	にぼい黄褐色 10YR5/4 シルト	32	30	16	黑褐色 10YR5/2 シルト	
16	42	24	16	にぼい黄褐色 10YR5/4 シルト	33	26	10	(不明)	
17	(38)	(22)	(14)	にぼい黄褐色 10YR5/4 シルト	34	29	-	(不明)	

## 6 5層上面の遺構と遺物

5層上面では、竪穴住居跡1、掘立柱建物跡1、土坑1、小溝状遺構群、ピットが検出された。上面の地形は、標高11.24~11.4mで、北東部がやや下がる。

### S I 1住居跡 (第76~78図)

〔位置〕 A~C-C-2~5グリッドに位置する。

〔重複〕 小溝状遺構群の一部を切り、一部に切られる。また、カマド煙道が2本あり、貼り床の下から柱穴が見つかったことから、建て替えられているようである。

〔平面形・規模〕 南東隅部は電柱があったため調査できなかった。南北5.8m、東西5.9mの方形である。

〔堆積土〕8層に分かれ。上部の1・2層はシルトで、その下は粘土質シルトである。埋没の途中で小溝状遺構群が掘り込まれている。

〔壁〕基本層を壁とする。急角度で立上り、高さは周溝底から約40cmである。

〔床面〕貼り床を施す。深さ10~20cmの掘り方があり、埋土の最上部に暗褐色粘土質シルトを貼っている。東壁付近には見られない。

〔周溝〕カマド部以外の壁下に周溝がめぐる。幅約40cm、深さ15~20cmで、断面「U」字形である。

〔柱穴〕床面よりいくつかのピットが検出されているが、配置状況と深さから、P1、P2、P6の3個が主柱穴と考えられる。調査できなかった部分にもう1個あり、4本柱であったと考えられる(第76図)。また、貼り床の下で検出されたP15、P19、P20も同様に建て替え前の主柱穴と考えられる(第77図)。

〔カマド〕北壁中央に設けられる。燃焼部は破壊されており、煙道のみ2本残っている。西側のものは(1号煙道)長さ180cm、幅45cmで、先端に向かい深くなり最深部で80cmである。東側のものは(2号煙道)長さ220cm、幅40cm、底面は45cmの深さで平坦に進み、先端部が70cmの深さで急激に落ち込み、奥壁は垂直に立ち上がる。堆積土より土師器壺の下半部が出土した。柱穴との位置関係から煙道1が古く、煙道2が新しいと考えられる。

〔貯蔵穴状ピット〕P3、P5がこれにあたると考えられる。いずれも径65cm程の円形で、P3は深さ15cm、P5は深さ10cmである。P3は焼土を多量に含む。

〔出土遺物〕堆積土出土遺物 非ロクロ土師器壺(第78図3)・甕、ロクロ土師器甕、須恵器壺(7)・甕(9・10)が出土している。 床面出土遺物 非ロクロ土師器壺(1・2・4)・甕(5)、須恵器壺(8)、鉄製品(11)が出土している。1・2の土師器壺は、体部外面に段を持たないものである。4は大型の壺である。11は刀子と考えられる。 煙道2出土遺物 土師器甕の下半部(6)が出土している。 ピット出土遺物 非ロクロ土師器壺・甕が出土している。

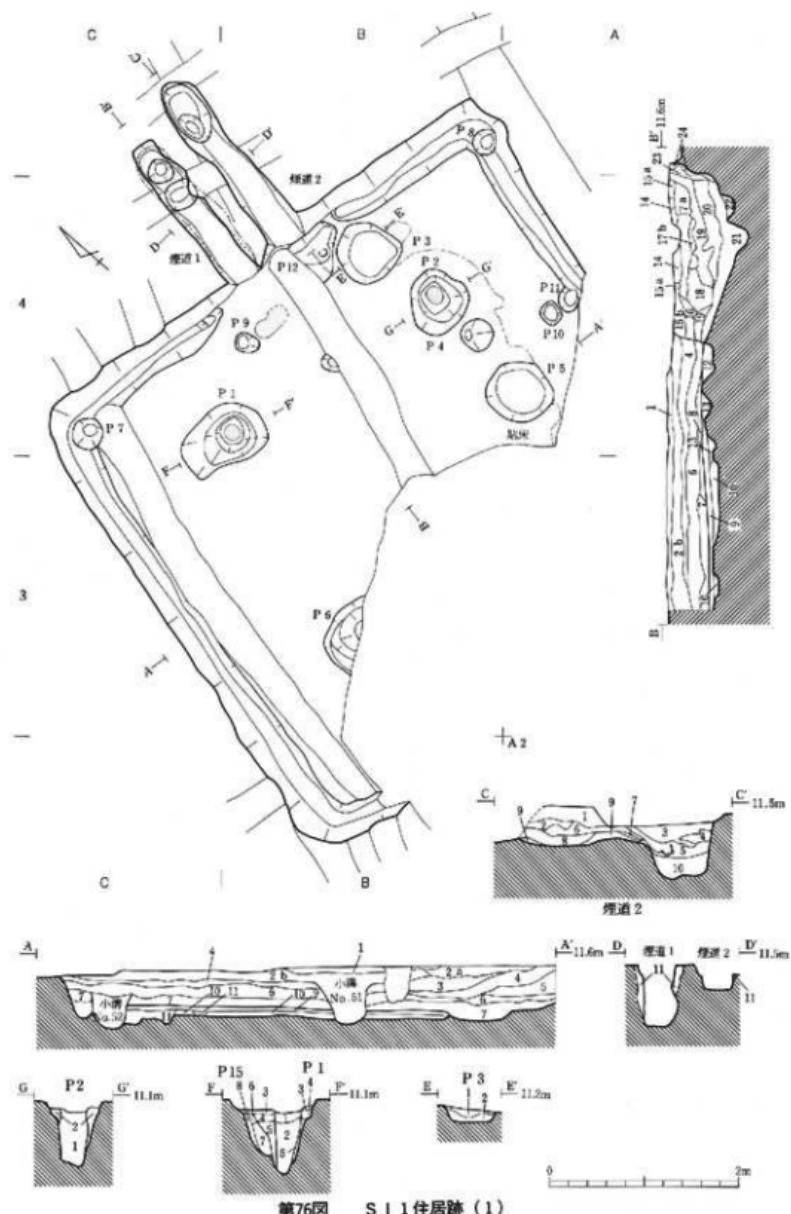
〔小結〕遺構の所属時期は、床面出土土師器の特徴から、奈良時代と考えられる。

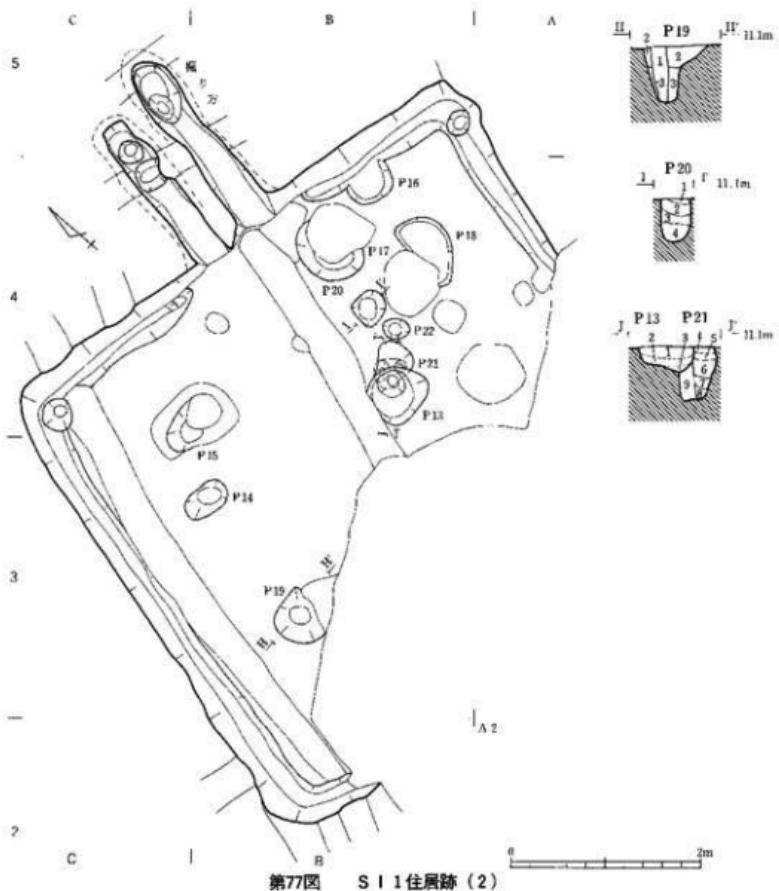
#### S B 1 建物跡(第79図)

B~D-5~7グリッドに位置する。小溝状遺構群より新しい。(昭和51年のAハイ区3の調査では小溝状遺構群が新しいとされており、矛盾が生じている。今後、周辺部の調査での検討が必要である。)堅穴住居跡との関係は、住居跡堆積土より掘り込まれる小溝状遺構群をこの建物跡が切っているので、住居跡より新しいことが分る。

建物跡は桁行2間、桁行3間の東西棟である。南北4.28m、東西5.58mである。柱穴掘り方は長さ80~100cm、幅60cmの長方形で、深さは50cm程である。柱痕跡は径20cm程の円形で、全ての柱穴で確認されている。掘り方底面で別の柱痕跡が検出されている。

6 5層上面の遺構と遺物





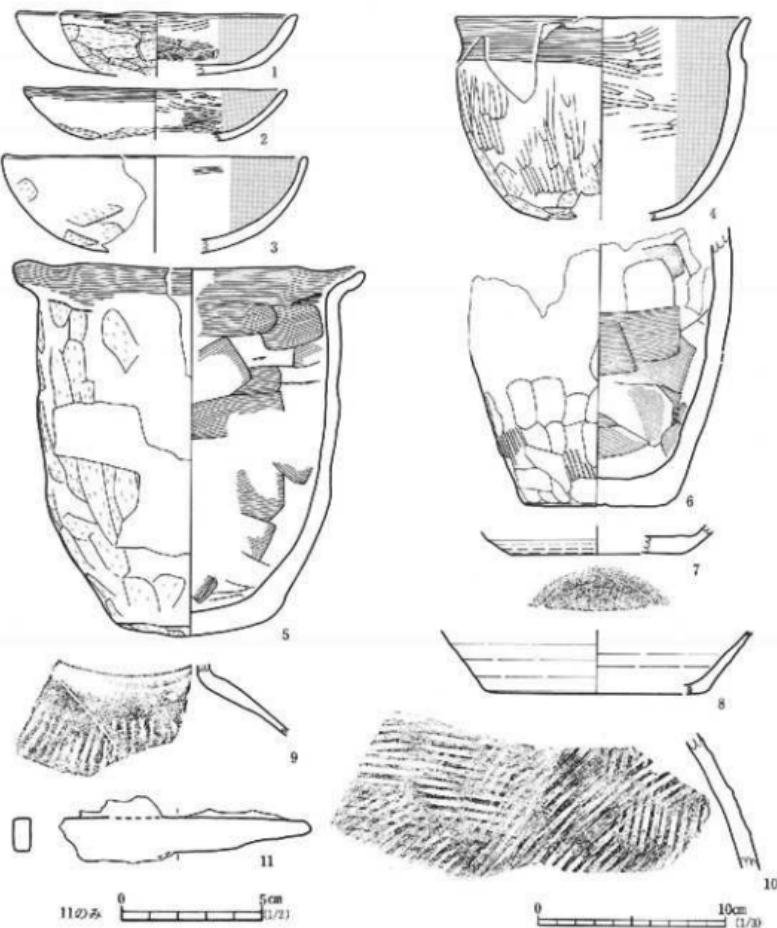
第77図 S I 1 住居跡 (2)

掘り方埴土より、非クロロ土器器坏（内黒）・甕、柱痕跡より非クロロ土器器坏（内黒）が出土しているが、細片で図示できない。また、剥片石器が出土している。

遺構の所属時期は、出土土器の特徴と検出層位から、奈良時代と考えられる。また、掘り方底面に別の柱痕跡があることから、建て替えられたと考えられる。

	名号	土色	土性	備考
S I 1 堆積土	1	紅褐色	10YR5/4	シルト マンガン・鐵土・黃褐色土を塊状に含む
	2 a	褐色	10YR4/4	シルト 土・鐵土・黃色土をブロック状に多量に含む
	2 b	褐色	10YR4/4	シルト マンガン・鐵土・鐵を含む
	3	に赤い黃褐色	10YR4/3	粘土質シルト 土・鐵土・黃色砂を含む
	4	に赤い青褐色	10YR5/4	粘土質シルト 土・鐵土を含む
	5	黃褐色	10YR4/4	粘土質シルト 土・多量に含む
	6	褐色	10YR4/4	粘土質シルト 鐵土・黃色砂を含む
	7	黃褐色	10YR5/6	粘土質シルト 鐵土・鐵土土を含む
第 2 層	8	褐色	7.5YR5/6	砂土
	9	暗褐色	10YR4/3	粘土質シルト 明黄褐色土・灰黃褐色土を含む、鐵土を含む
	10	褐色	10YR4/4	粘土質シルト 鐵土と粘土を含む
	11	暗褐色	10YR5/4	粘土質シルト 鐵土と鐵土を含む
	12	赤褐色	7.5YR3/4	シルト質粘土 粘土を多く含む、鐵土と粘土を含む
	13	暗褐色	7.5YR4/6	シルト質粘土 鐵土をブロック状に含む、鐵土と粘土を含む
	14	褐色	10YR4/4	砂土
	15a	褐色	7.5YR4/3	シルト 土をわざかに含む
	15b	褐色	7.5YR4/3	シルト 土を多量に含む、灰を含む
堆積 1 堆積土	16	暗褐色	7.5YR4/4	粘土質シルト 土・ブロック・鐵を多量に含む
	17a	褐色	7.5YR4/4	粘土質シルト 鐵土を少量含む
	17b	褐色	7.5YR4/4	粘土質シルト 粘土を17aより多く含む
	18	褐色	7.5YR4/4	粘土質シルト 鐵土ブロックを含む
	19	褐色	7.5YR4/3	粘土質シルト 鐵土ブロックを含む
	20	褐色	10YR4/4	粘土質粘土 粘土をわざかに含む
	21	褐色	10YR4/6	粘土 土・明黄褐色土と混在、鐵土をわざかに含む
	22	褐色	10YR4/4	粘土 明黄褐色土を含む、鐵土をわざかに含む
	23	褐色	10YR4/4	粘土 褐黃褐色土と・黃褐色土を含む
	24	褐色	10YR4/4	粘土 粘土を多く含む
堆積 2 堆積土	1	褐色	10YR4/4	シルト マンガン・鐵・白泥鉄・鐵土を含む
	2	褐色	10YR4/4	シルト 鐵砂・鐵・鐵土を含む
	3	暗褐色	10YR4/4	シルト マンガン・鐵・鐵土を含む
	4	に赤い黃褐色	10YR5/4	粘土質シルト 粘土を多量に含む
	5	黑褐色	10YR3/1	粘土
	6	に赤い黃褐色	10YR4/3	シルト 土を多量に含む
	7	に赤い黃褐色	10YR4/3	粘土質シルト 粘土を多量に含む
透過程付帯 堆積土	8	褐色	10YR4/4	粘土質シルト 土とを含む
	9	褐色	10YR4/4	シルト 土を少量含む
	10	に赤い黃褐色	10YR4/3	粘土 土を含む
	11	に赤い黃褐色	10YR4/5	シルト
	1	に赤い黃褐色	10YR4/3	粘土質シルト 土を含む
	2	褐色	10YR4/4	粘土質シルト 黃褐色土を含む
	3	暗褐色	10YR4/4	シルト 黑褐色土を塊状に含む
	4	褐色	10YR4/4	シルト 鐵土・灰を含む
	5	褐色	20YR4/4	粘土質シルト 黃褐色土を含む
	6	褐色	10YR4/4	シルト マンガン・鐵化鉄を少量含む
P 1	7	褐色	10YR4/4	粘土
	8	に赤い黃褐色	10YR4/3	粘土質粘土・マンガン・鐵をわざかに含む
	9	褐色	10YR4/4	シルト 土を少量含む
P 15	10	に赤い黃褐色	10YR4/3	粘土 土を少量含む
	11	に赤い黃褐色	10YR4/5	シルト 土を含む
	1	に赤い黃褐色	10YR4/3	粘土質シルト 土を含む
P 2	2	褐色	10YR4/4	粘土質シルト 色と土とを含む
	3	褐色	10YR4/4	シルト 土を塊状に含む
	4	褐色	10YR4/4	粘土質シルト 鐵土を多く含む
P 3	5	褐色	10YR4/4	粘土質シルト 鐵土を多く含む
	6	褐色	10YR4/4	粘土質シルト 鐵土を含む
	7	褐色	10YR4/4	粘土 土を含む
P 19	8	に赤い黃褐色	10YR4/3	粘土 複合岩・マンガン・鐵をわざかに含む
	9	褐色	10YR4/3	粘土質シルト 複合岩・鐵・黃褐色土を含む
	10	に赤い黃褐色	10YR4/6	粘土 複合岩と混在
P 20	11	褐色	10YR5/6	シルト 土を多く含む
	12	に赤い黃褐色	10YR5/4	粘土質シルト 混合地盤の粘土・赤黃褐色土をブロック状に含む
	13	に赤い黃褐色	10YR4/3	粘土質シルト 土の塊に、鐵・鐵土ブロックを含む
P 13	14	褐色	10YR4/4	粘土 複合岩地盤の土を多く含む
	1	褐色	10YR4/4	粘土質シルト 土を多く含む
	2	に赤い黃褐色	10YR5/4	粘土質シルト 土を多く含む
	3	に赤い黃褐色	10YR4/4	粘土質シルト 土を少量含む
P 21	4	褐色	10YR4/4	粘土質シルト 複合岩地盤の土・赤黃褐色土と混在
	5	褐色	10YR4/4	粘土質シルト 上部と粘土・鐵とわざかの状を含む
	6	褐色	10YR4/4	粘土質シルト 4層の粘土・鐵を含む
	7	褐色	10YR4/4	粘土 4層の粘土・鐵を含む
	8	に赤い黃褐色	10YR4/4	粘土 4層の粘土・鐵を含む
	9	に赤い黃褐色	10YR5/6	粘土質シルト 4層の粘土・鐵を含む

第77図 S I 1 堆積土

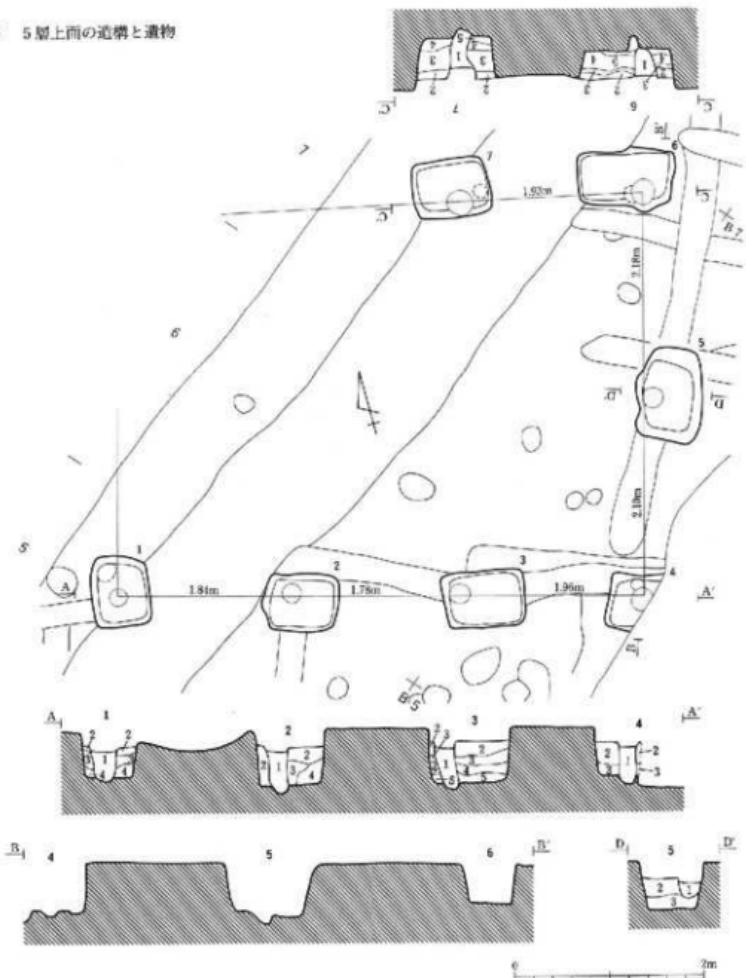


番号	種類	測定値	口 径	底 径	厚 度	残 高	特 徴	考 収
1	土器断片	鉢底面上	15.0		3.7	1/2	口外：ヘラミガキ。体外：ヘラケズリ。内：ヘラミガキ。黑色地盤	C27
2	土器断片	鉢底面上	14.0			1/4	口外：コロナガ。体外：ヘラケズリ。内：ヘラミガキ。黑色地盤	C26
3	土器断片	白 地	14.2			1/4	体外：ヘラケズリ。内：ヘラミガキ。黑色地盤	C25
4	土器断片	鉢底面上	15.6			1/4	口外：コロナガ。体外：ヘラケズリ。ヘラミガキ。体外縁外：ヘラケズリ。内：ヘラミガキ。黑色地盤	C24
5	土器断片	底面直上	18.0	8.3	20.0	底	口外：コロナガ。体外縁外：ヘラケズリ。体一側内：ヘラナゲ	C29
6	土器断片	底面直上				底	体外：ヘラケズリ。内：ヘラナゲ	C22
7	土器断片	底面直上				底	体一底内：頭面：ヘラケズリ。内：コロナガ	E 9
8	土器断片	底面直上	11.0			1/4	内：コロナガ。底：頭面：ヘラケズリ？	E 18
9	陶器断片	堆積土				1/4	頭外：コロナガ。体外：平行テカキ	E 7
10	陶器断片	堆積土				1/4	体外：平行テカキ。体外：オサル	E 6
11	刀子	鉢底面上	長9.0cm、幅3.2cm、厚0.6cm	基盤か？				N 5

第78図 S+I 出土遺物

(単位cm)

## 6 5層上面の造構と遺物

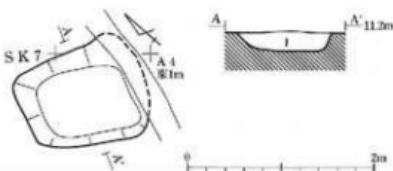


層位	土色	土性	備考	層位	土色	土性	備考
1	茶褐色 10YR3/3	シルト		3	こぶし黄褐色 10YR4/3	シルト	泥土を含む
	にぼい黄褐色 10YR4/3	シルト	泥土を含む	4	暗褐色 10YR4/3	シルト	
	褐色 10YR4/4	シルト	粘土を含む	5	褐色 10YR4/4	シルト	
	にぼい黄褐色 10YR3/4	粘土質シルト	粘土を含む	6	褐色 10YR4/2	シルト	
2	灰褐色 10YR3/2	粘土質シルト	粘土を含む	7	にぼい黄褐色 10YR4/3	シルト	
	白褐色 10YR3/4	シルト	粘土を多く含む	8	にぼい黄褐色 10YR4/3	シルト	
	灰褐色 10YR3/2	粘土質シルト	粘土質・泥土を含む	9	にぼい黄褐色 10YR4/3	シルト	
	にぼい黄褐色 10YR4/3	粘土質シルト	粘土を含む	10	褐色 10YR4/3	シルト	泥質褐色土を含む
3	にぼい黄褐色 10YR3/3	シルト		11	褐色 10YR4/4	シルト	
	にぼい黄褐色 10YR3/3	シルト	灰・泥土を含む	12	にぼい黄褐色 10YR4/3	粘土質シルト	
	にぼい黄褐色 10YR3/3	シルト	虎土を含む	13	褐色 10YR4/4	シルト	
	にぼい黄褐色 10YR3/3	粘土質シルト	褐色土を含む	14	褐色 10YR4/4	粘土質シルト	灰を少量含む
4	にぼい黄褐色 10YR4/3	シルト	泥土を少量含む	15	褐色 10YR4/2	シルト	
	褐色 10YR3/3	シルト	泥土を少量含む				

第79図 S B 1 建物跡

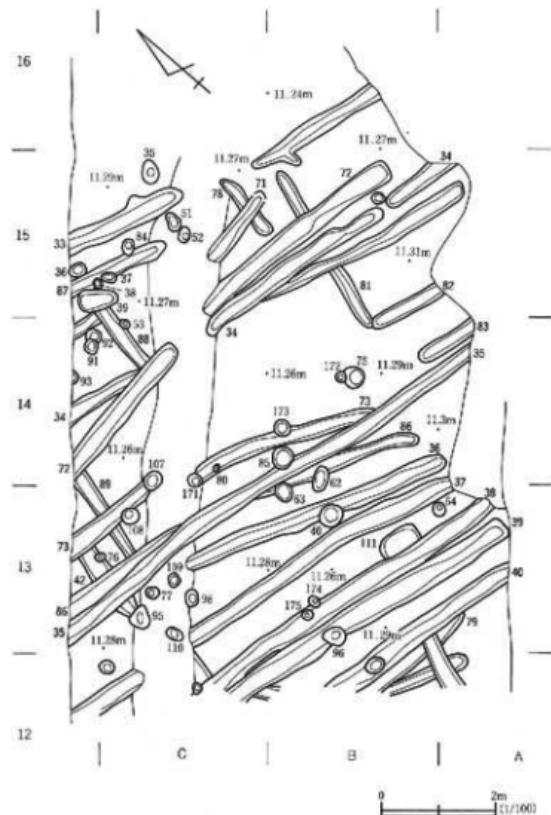
## SK 7 土坑 (第80図)

A・B-4・5グリッドに位置する。S I 1堆積土上面で検出され、小溝状遺構群より古い。135×110cmの長方形で、深さ22cm、底面はほぼ平坦である。堆積土はにぶい黄褐色シルト1層である。遺物は出土しなかつた。

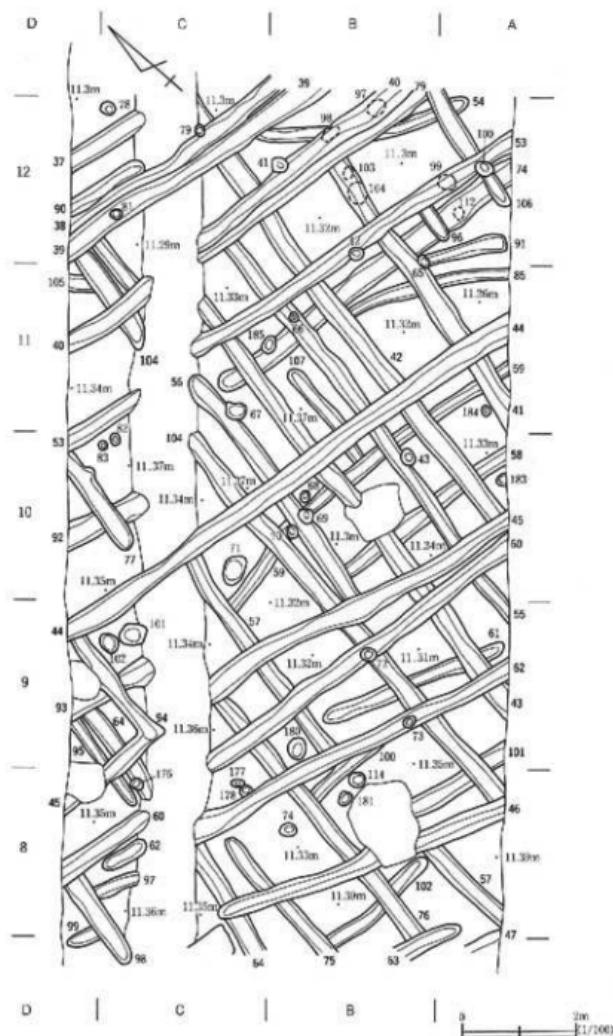


部位	上色	土性	備考
1	にぶい黄褐色 10YR4/3	シルト	堆土を少含む

第80図 SK 7 土坑

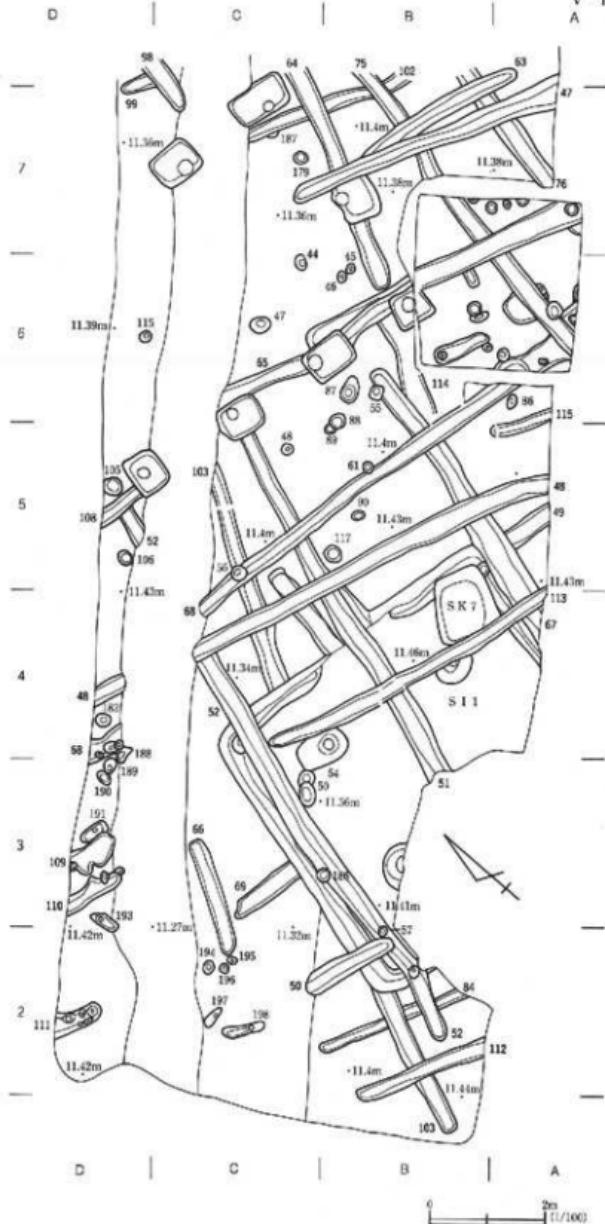


第81図 5層上面の小溝状遺構群 (1)



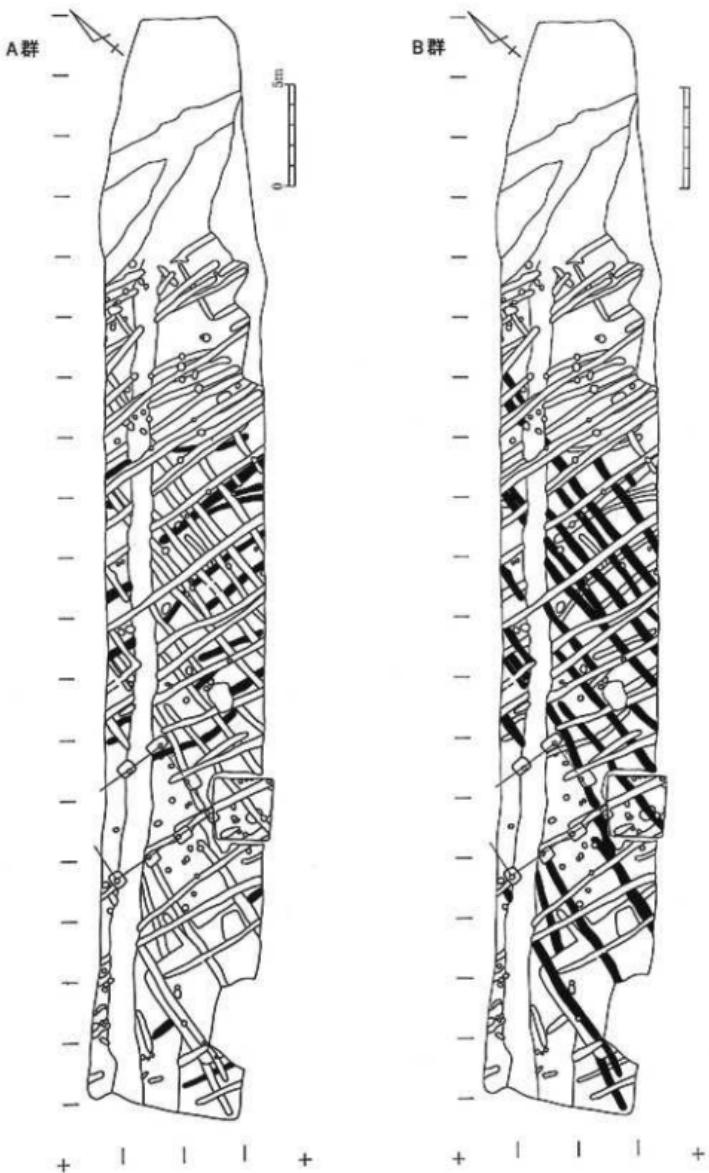
第82図 5層上面の小溝状造構群（2）

V III区の調査成果

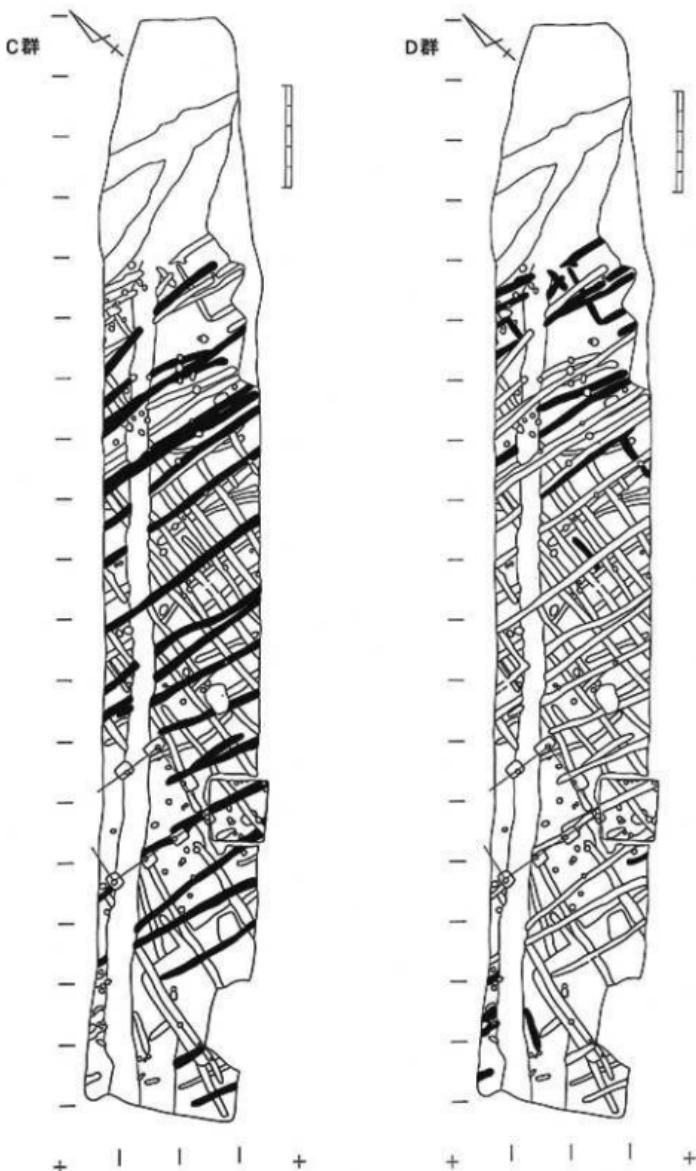


第83図 5層上面の小溝状遺構群 (3)

6 5層上面の遺構と遺物



第84図 小溝状遺構群の変遷（1）



第85図 小溝状遺構群の変遷（2）

第12表 5層上面の小溝状遺構群計測表

番号	層	深さ	土色・上性	番号	層	深さ	上色・土性
33	D	11	13 にぼい黄褐色 10YR4/3 シルト	73	C	33	10 にぼい黄褐色 10YR4/3 シルト
34	D	27	13 褐色 10YR4/4 黏土質シルト	74	A	40	8 暗褐色 10YR3/3 シルト
35	C	31	14 にぼい黄褐色 10YR4/3 シルト	75	B	28	8 褐色 10YR4/4 シルト
36	D	32	8 褐色 10YR4/4 シルト	76	B	33	11 暗褐色 10YR3/4 シルト
37	D	34	10 にぼい黄褐色 10YR4/3 シルト	77	B	35	9 にぼい黄褐色 10YR4/3 黏土質シルト
38	C	35	11 にぼい黄褐色 10YR4/3 シルト	78	D	23	7 褐色 10YR4/4 シルト
39	C	39	11 にぼい黄褐色 10YR4/3 黏土質シルト	79	D	21	6 にぼい黄褐色 10YR4/3 黏土質シルト
40	C	36	8 にぼい黄褐色 10YR4/3 シルト	80	D	26	7 にぼい黄褐色 10YR4/3 黏土質シルト
41	B	38	14 にぼい黄褐色 10YR4/3 シルト	81	D	26	6 褐色 10YR4/4 シルト
42	H	35	10 にぼい黄褐色 10YR4/3 シルト	82	D	26	7 褐色 10YR4/4 シルト
43	B	34	12 にぼい黄褐色 10YR4/3 シルト	83	D	27	10 にぼい黄褐色 10YR4/3 シルト
44	C	37	14 にぼい黄褐色 10YR4/3 シルト	84	A	19	9 (不明)
45	C	37	6 にぼい黄褐色 10YR4/3 シルト	85	A	23	10 暗褐色 10YR3/3 シルト
46	C	35	11 にぼい黄褐色 10YR4/3 シルト	86	C	23	11 (不明)
47	C	45	8 にぼい黄褐色 10YR4/3 シルト	87	D	28	11 (不明)
48	C	36	10 褐色 10YR4/4 シルト	88	D	26	11 (不明)
49	A	33	13 褐色 10YR4/4 シルト	89	B	24	9 (不明)
50	C	35	14 にぼい黄褐色 10YR4/3 シルト	90	A	26	12 にぼい黄褐色 10YR4/3 シルト
51	B	31	11 褐色 10YR4/4 シルト	91	A	27	6 (不明)
		33	S I 内	92	A	22	12 暗褐色 10YR3/3 シルト
		35	S I 北	93	A	36	12 暗褐色 10YR4/4 シルト
		38	S I 北	94	B	28	14 にぼい黄褐色 10YR4/3 シルト
52	B	39	9 褐色 10YR4/4 黏土質シルト	95	B	18	4 褐色 10YR4/4 シルト
		33	10 S I 内	96	B	23	10 (不明)
		36	S I 北	97	A	24	6 (不明)
		26	8 北端	98	B	34	8 褐色 10YR4/4 シルト
53	C	33	10 褐色 10YR4/4 シルト	99	A	21	6 (不明)
54	A	25	9 褐色 10YR4/4 シルト	100	A	21	8 (不明)
55	B	31	9 にぼい黄褐色 10YR4/3 シルト	101	A	34	12 褐色 10YR4/4 シルト
56	H	23	11 褐色 10YR4/4 シルト	102	A	27	10 (不明)
57	B	29	11 暗褐色 10YR3/4 シルト	103	B	35	10 (不明)
58	A	29	9 褐色 10YR4/4 シルト	104	B	35	9 褐色 10YR4/4 黏土質シルト
59	A	25	10 暗褐色 10YR3/4 シルト	105	A	30	10 (不明)
60	C	23	8 にぼい黄褐色 10YR4/3 シルト	106	D	30	9 (不明)
61	A	26	7 暗褐色 10YR4/4 シルト	107	D	30	9 (不明)
62	C	24	11 にぼい黄褐色 10YR4/3 シルト	108	D	23	7 (不明)
63	C	30	9 褐色 10YR4/4 シルト	109	C	25	10 (不明)
64	B	31	11 褐色 10YR4/4 シルト	110	D	29	7 (不明)
65	C	29	8 褐色 10YR4/4 シルト	111	D	32	7 (不明)
66	D	29	7 にぼい黄褐色 10YR4/3 シルト	112	D	34	10 (不明)
67	B	37	18 暗褐色 10YR3/4 シルト	113	C	28	6 (不明)
		54	32 S I 端	114	C	24	10 (不明)
68	D	27	11 褐色 10YR4/4 黏土質シルト	115	C	36	2 S I 内の西半
69	A	29	7 暗褐色 10YR3/4 シルト	116	B	36	6 (不明)
71	D	27	8 褐色 10YR4/4 シルト	117	D	19	7 (不明)
72	C	34	10 にぼい黄褐色 10YR4/3 シルト				

(単位: cm)

## 小溝状遺構群 (第81~86図・第12表)

16グリッド以西の全域で検出された。他の遺構との関係は、竪穴住居跡より古いものと新しいものがあり、掘立柱建物跡より古い。

溝の方向は大きく2方向に分かれており、さらに切り合い関係から4つの群を想定した(第84・85図)。

A群は東西方向のもので、真北より約60~80度西に傾く。切り合い関係から見て、一番古い。溝幅は19~42cm(平均28cm)、深さは6~13cm(平均9cm)である。

B群は南北方向のもので、真北から約10~20度東に傾く。切り合い関係から見て、中間に位置する。また竪穴住居跡より古いものと、新しいものとを含んでおり、さらに時期は細分され

よう。溝幅は18~54cm(平均33cm)、深さは4~32cm(平均12cm)である。住居跡の堆積土より掘り込まれる溝は、住居外よりも住居内の方が深くなる。

C群は東西方向のもので、真北より約60~80度西に傾く。切り合ひ関係から見て、一番新しい。溝幅は23~45cm(平均32cm)、深さは2~14cm(平均10cm)である。D群はその他のものである。

溝の断面形はU字形をしている。堆積土は基本層4c層である。出土遺物は、非クロロ土師器の壺(内黒)・甕、須恵器壺があるが、いずれも小片である。第86図1は小溝40出土の土師器壺である。体部外面に軽い段を持つ。2は小溝47出土の須恵器甕の口縁部である。他に、剥片石器と砾石器が出土している。

遺構の所属時期は、検出層位、出土遺物、切り合ひ関係から、古墳時代後期から奈良時代頃と考えられる。

#### ピット(第81~83・86図、第13表)

107個のピットが検出された。小溝状遺構群より新しいものと古いものとがある。柱痕跡の検出されたものではなく、建物跡を構成するかどうか、分析し得なかった。第86図3はピット53出土の須恵器高台壺である。ピット37からは砾石器、ピット61からは剥片石器が出土している。



番号	層 構	種 類	口径	底径	深さ	残存	特 徴	空跡
1	小溝No.40	土師器壺	14.0			1/4	口外:ヨコナデ、ヘラミガキ 体外:ヘラケズリ 内:ヘラミガキ、周側処理	C34
2	小溝No.47	須恵器甕				1/4	内外:ロクロナデ	E10
3	P53	須恵器高台壺	7.0			1/4	内外:ロクロナデ	E17

第86図 小溝・ピット出土遺物

(単位cm)

## 7 6層上面の遺構と遺物

6層上面からは溝跡1、ピットが検出されている。上面の地形は、北東方向にやや下がっている。

#### S D 3 溝跡(第87・89図)

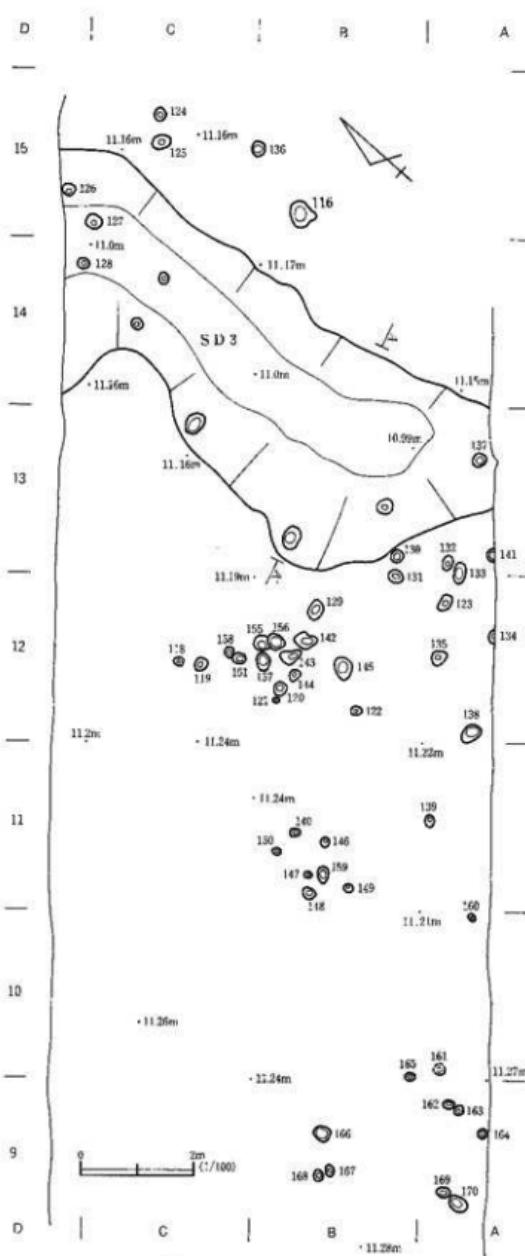
A~D-13~15グリッドに位置する。南北方向に伸び、調査区にはその南端部が位置するよ

第13表 5層上面のピット計測表

番号	長さ(cm)	幅さ(cm)	土 色・土 性		番号	長さ(cm)	深さ(cm)	土 色・土 性		
			上	下				上	下	
35	46	26	9	にぶい黄褐色	10YR4/3	シルト	91	28	15	暗め 10YR4/4 シルト
36	30	24	9	にぶい黄褐色	10YR4/3	シルト	92	(28)(20)	(16)	暗褐色 10YR3/3 シルト
37	26	16	9	にぶい黄褐色	10YR4/3	シルト	93	(29)(16)	(13)	にぶい黄褐色 10YR4/3 シルト
38	16	7	にぶい黄褐色	10YR4/3	シルト	94	26	14	暗褐色 10YR3/3 黏土質シルト	
39	70	40	8	にぶい黄褐色	10YR4/3	シルト	95	40	24	暗褐色 10YR3/4 シルト
40	48	8	褐色	10YR4/4	シルト	96	36	30	にぶい黄褐色 10YR4/3 黏土質シルト	
41	39	10	褐色	10YR4/4	シルト	97	31	28	褐色 10YR4/4 シルト	
42	24	11	にぶい黄褐色	10YR4/3	シルト	98	34	18	暗褐色 10YR3/3 黏土質シルト	
43	28	8	にぶい黄褐色	10YR4/3	シルト	99	30	14	にぶい黄褐色 10YR4/3 黏土質シルト	
44	26	18	11	褐色	10YR4/4	シルト	100	34	18	にぶい黄褐色 10YR4/3 黏土質シルト
45	18	5	褐色	10YR4/4	シルト	101	48	38	褐色 10YR4/4 シルト	
46	29	12	褐色	10YR4/4	シルト	102	36	28	褐色 10YR4/4 黏土質シルト	
47	38	28	29	褐色	10YR4/4	シルト	103	20	5	暗褐色 10YR3/3 黏土質シルト
48	22	13	暗褐色	10YR4/4	シルト	104	40	30	暗褐色 10YR3/3 シルト	
50	46	28	13	灰黒褐色	10YR5/2	シルト	105	32	11	にぶい黄褐色 10YR4/3 黏土質シルト
51	32	24	12	にぶい黄褐色	10YR4/3	シルト	106	26	7	にぶい黄褐色 10YR4/3 シルト
52	26	20	8	にぶい黄褐色	10YR4/3	シルト	107	34	28	にぶい黄褐色 10YR4/3 シルト
53	18	11	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘土質シルト	108	32	24	褐色 10YR4/4 黏土質シルト	
54	34	26	14	にぶい黄褐色	10YR4/3	シルト	109	22	13	にぶい黄褐色 10YR4/3 黏土質シルト
55	28	16	16	にぶい黄褐色	10YR4/3	シルト	110	30	20	にぶい黄褐色 10YR4/3 黏土質シルト
56	28	14	にぶい黄褐色	10YR4/4	シルト	111	(74)(42)	13	暗褐色 10YR3/3 黏土質シルト	
57	15	9	にぶい黄褐色	10YR4/3	シルト	112	29	10	褐色 10YR4/4 黏土質シルト	
58	24	18	22	灰黒褐色	10YR5/2	粘土質シルト	113	30	8	暗褐色 10YR3/3 シルト
59	16	9	にぶい黄褐色	10YR4/4	シルト	114	22	16	にぶい黄褐色 10YR4/3 シルト	
61	18	10	褐色	10YR4/4	シルト	115	30	9	(不明)	
62	44	26	15	褐色	10YR4/4	シルト	116	22	11	(不明)
63	36	20	14	にぶい黄褐色	10YR4/3	シルト	117	18	10	(不明)
64	22	10	褐色	10YR4/4	シルト	118	28	10	(不明)	
65	22	13	にぶい黄褐色	10YR4/3	シルト	119	20	21	(不明)	
66	18	12	24	褐色	10YR4/4	シルト	120	(20)(14)	8	(不明)
67	36	28	15	褐色	10YR4/4	シルト	121	21	20	(不明)
68	29	12	褐色	10YR4/4	粘土質シルト	122	22	12	(不明)	
69	28	13	にぶい黄褐色	10YR4/3	シルト	123	20	8	(不明)	
70	24	14	にぶい黄褐色	10YR4/3	シルト	124	26	20	(不明)	
71	34	36	14	褐色	10YR4/4	シルト	125	40	39	(不明)
72	28	12	にぶい黄褐色	10YR4/3	シルト	126	21	8	(不明)	
73	21	18	9	暗褐色	10YR5/4	粘土質シルト	127	26	19	(不明)
74	30	15	にぶい黄褐色	10YR4/3	シルト	128	(22)(11)	(5)	(不明)	
75	(40)	(21)	褐色	10YR4/4	粘土質シルト	129	20	9	(不明)	
76	20	14	8	褐色	10YR4/4	シルト	130	23	24	(不明)
77	22	26	褐色	10YR4/4	粘土質シルト	131	26	7	(不明)	
78	24	9	暗褐色	10YR4/4	粘土質シルト	132	(20)(8)	(2)	(不明)	
79	20	15	にぶい黄褐色	10YR5/4	シルト	133	30	18	にぶい黄褐色 10YR5/4 シルト	
80	16	10	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘土質シルト	134	24	9	にぶい黄褐色 10YR5/4 シルト	
81	18	8	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘土質シルト	135	24	18	にぶい黄褐色 10YR5/4 シルト	
82	29	7	にぶい黄褐色	10YR4/3	シルト	136	32	26	17	暗褐色 10YR2/3 シルト
83	18	7	にぶい黄褐色	10YR4/3	シルト	137	18	8	にぶい黄褐色 10YR4/3 シルト	
84	26	7	にぶい黄褐色	10YR4/3	シルト	138	34	22	17	暗褐色 10YR2/3 シルト
85	40	34	12	にぶい黄褐色	10YR4/3	粘土質シルト	139	22	22	にぶい黄褐色 10YR5/4 シルト
86	24	17	にぶい黄褐色	10YR4/3	シルト	140	18	7	褐色 10YR4/4 シルト	
87	48	30	34	にぶい黄褐色	10YR4/3	シルト	141	18	7	にぶい黄褐色 10YR5/4 シルト
88	26	14	にぶい黄褐色	10YR4/3	シルト	142	40	16	褐色 10YR4/4 粘土質シルト	
89	(38)(14)	(11)	暗褐色	10YR2/3	シルト	143	74	15	にぶい黄褐色 10YR4/3 粘土質シルト	
90	24	16	14	褐色	10YR4/4	粘土質シルト				

うである。幅2.5~4 m、深さは16cm程度底面の傾斜はほとんどない。底面の所々がピット状にくぼんでいる。堆積土は4層に分かれ、粘土および粘土質シルトが堆積する。堆積土より非クロト師器環(内黒と非内黒)・甕の小破片が出土している。

ピット(第87~89図、第14表)

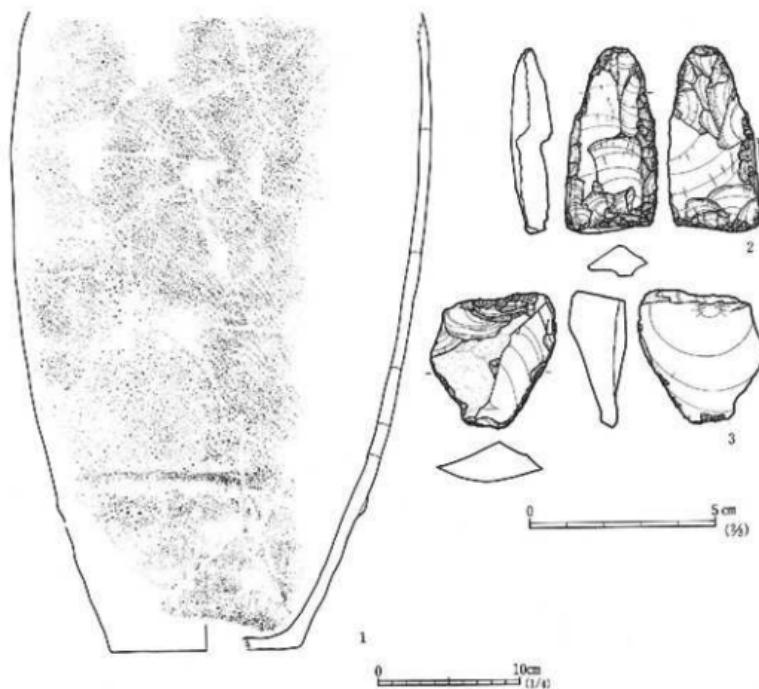


第87図 6層上面の遺構

A～D-9～15グリッドから51個検出された。SD 3より新しい。柱痕跡の確認されたものはない。その中でピット116から一括土器が出土している。P116はB15グリッドに位置し、113×80cmの楕円形で、壁の一部が張り出している。深さ55cmで、底面はくぼむ。堆積土上部に縄文土器の下半部の破片がまとまっていた。88-1は器高の高い深鉢型土器で、胴部がゆるやかにふくらむ。下部には隆帯を巡らし、外面にはLR縄文が施文されている。このピットからは他に剥片石器が出土している(88-2・3)。

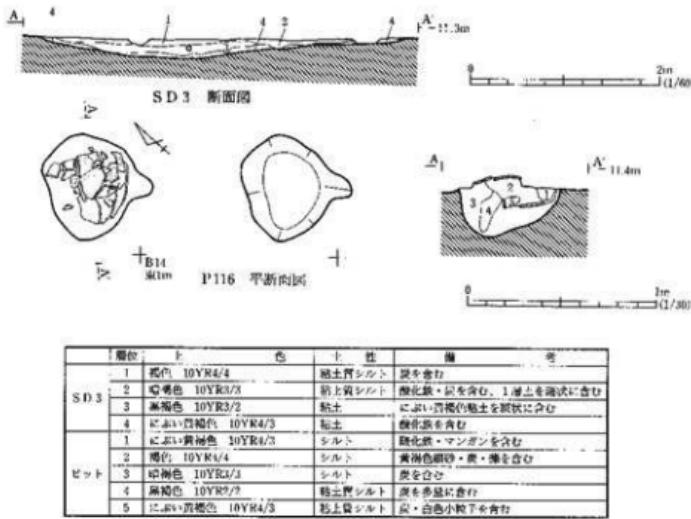
## 小結

SD 3は出土遺物から古代の遺構と考えられ、P116は縄文時代の遺構と考えられる。このことから、6層上面の遺構は所属時期にかなり幅を持っている。



文様の特徴										分類						
深鉢	分類	長mm	幅mm	厚mm	重g	石材	登録	部位	分類	長mm	幅mm	厚mm	重g	石材	登録	
深鉢	13.4	体上面: LR縄文 体下面: 陶器底	底: 創代板												A130	
深鉢上	P116-13	51.5	29.4	10.8	12.5	地質資料	Ka174	3	堆積土	不透明	40.5	31.8	14.5	13.7	地質資料	Ka173

第88図 ピット116出土遺物



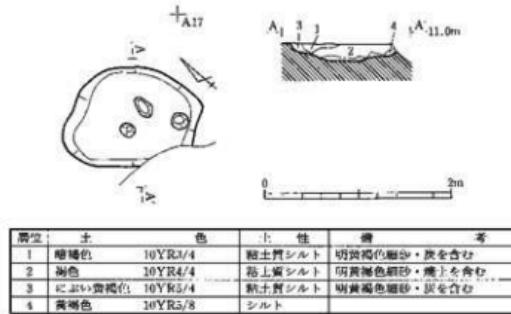
第89図 SD 3・ピット116

第14表 6層上面のピット計測表

番号	高さ	幅員(m)	土色・土性	高さ	幅員	深さ(cm)	土色・土性
II	37	50	23 (斜面試験面)	10	10	5	にじみ黄褐色 10YR4/3 粘土質シルト
II	24	9	褐色 10YR4/4 粘土質シルト	16	16	21	褐色 10YR6/3 粘土質シルト
II	36	9	褐色 10YR6/3 粘土質シルト	16	16	8	にじみ黄褐色 10YR6/3 シルト
II	24	3	褐色 10YR4/4 シルト	16	16	6	にじみ黄褐色 10YR6/3 粘土質シルト
II	14	4	褐色 10YR4/4 シルト	16	22	10	黄褐色 10YR6/3 シルト
II	26	16	褐色 10YR4/4 粘土質シルト	4	16	9	10YR4/4 シルト
II	36	22	25 褐色 10YR4/4 粘土質シルト	16	16	6	にじみ黄褐色 10YR6/3 粘土質シルト
II	26	9	褐色 10YR4/4 シルト	16	26	16	にじみ黄褐色 10YR6/3 粘土質シルト
II	32	26	33 褐色 10YR4/4 粘土質シルト	16	16	6	褐色 10YR6/4 粘土質シルト
II	22	23	にじみ黄褐色 10YR6/3 粘土質シルト	16	16	10	褐色 10YR6/4 粘土質シルト
II	29	19	にじみ黄褐色 10YR6/3 粘土質シルト	16	16	10	褐色 10YR6/4 粘土質シルト
II	22	9	褐色 10YR4/4 粘土質シルト	16	16	19	褐色 10YR6/3 粘土質シルト
II	34	24	12 褐色 10YR4/4 粘土質シルト	16	26	10	にじみ黄褐色 10YR6/3 粘土質シルト
II	22	8	にじみ黄褐色 10YR6/3 粘土質シルト	16	26	13	褐色 10YR6/3 粘土質シルト
II	24	15	褐色 10YR4/4 粘土質シルト	16	26	16	にじみ黄褐色 10YR6/3 シルト
II	24	8	褐色 10YR4/4 シルト	16	26	9	にじみ黄褐色 10YR6/3 粘土質シルト
II	36	20	8 褐色 10YR4/4 シルト	16	16	10	褐色 10YR6/4 シルト
II	23	110 (77)	褐色 10YR4/4 粘土質シルト	16	110 (77)	6	褐色 10YR4/4 シルト
II	26	126	褐色 10YR4/4 粘土質シルト	16	16	9	褐色 10YR4/4 粘土質シルト
II	24	8	褐色 10YR4/4 粘土質シルト	16	16	12	褐色 10YR4/4 シルト
II	24	10	にじみ黄褐色 10YR6/3 粘土質シルト	16	16	8	にじみ黄褐色 10YR6/3 粘土質シルト
II	36	26	19 褐色 10YR4/4 粘土質シルト	16	16	14	褐色 10YR6/4 粘土質シルト
II	20	20	にじみ黄褐色 10YR6/3 粘土質シルト	16	32	37	にじみ黄褐色 10YR6/3 粘土質シルト
II	16	5	褐色 10YR6/3 シルト	16	38	12	褐色 10YR6/4 粘土質シルト
II	160 (122) (9)	16	褐色 10YR4/4 粘土質シルト	16	18	7	にじみ黄褐色 10YR6/4 粘土質シルト
II	42	30	14 褐色 10YR4/4 粘土質シルト	16	24	14	褐色 10YR6/4 粘土質シルト
II	38	22	11 褐色 10YR4/4 粘土質シルト	16	36	22	褐色 10YR6/4 粘土質シルト

## 8 7層上面の遺構と遺物

7層上面からは土坑が1基検出された(第90図)。SK23土坑はA・B-17グリッドに位置する。一部を欠くが、155×110cmの楕円形で、深さ20cm、底面は北側がやや高い。堆積土は4層に分かれ、粘土質シルトが主体である。出土遺物はないが、検出層位から縄文時代の遺構と考えられる。



第90図 SK23土坑

## 9 8層上面の遺構と遺物

8層上面からは竪穴遺構1、土坑1、ピットが検出されている(第91図)。

### S I 3 竪穴遺構(第91・93図)

A・B-11グリッドに位置する。調査区壁際にあり全形不明だが、2.2m四方の方形と見られる。深さは30cm程で、壁の傾斜はゆるやかである。堆積土は暗褐色(7.5YR3/4)粘土である。底面に施設はなく、堆積土と底面の境も明瞭でなかったので人為的なものかどうか疑問であるが、堆積土から多くの土器や石器が出土している(93図)。1は深鉢型土器の口縁部で、隆線により文様が区画され、隆線の一部が鏡状になる。2は網目状燃糸文が施文される。石器は石鏃(5)、石錐(6)、不定形石器(7・8)、礫石器(3・4)、剝片がある。

### S K 26 土坑(第92図)

B・C-15・16グリッドに位置する。長さ100cm、幅55cmの不整形で、東半がピット状に深くなり、深さ40cmである。

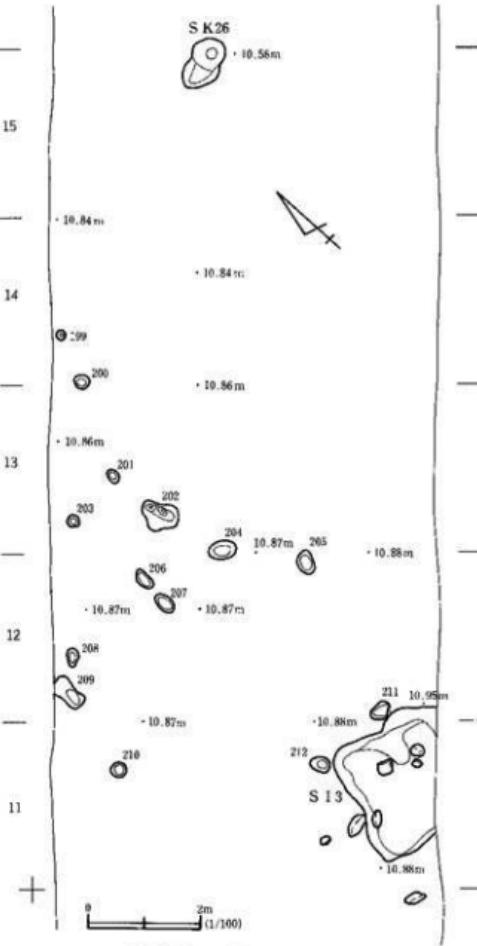
### ピット(第91・93図・第15表)

A～C-11～14グリッドより15個検出されている。柱旋跡は確認されなかった。

第15表 8層上面のピット計測表

番号	井位	深度 (cm)	上・中・土性			番号	深度	延伸	測定点	上・中・土性			
			1	2	3					1	2	3	
29	14	9	にふい黄褐色	10YR5/4	粘土質シルト	36	36	22	14	にふい黄褐色	10YR5/4	粘土質シルト	
30	26	22	褐色	10YR4/4	粘土質シルト	37	32	18	13	褐色	10YR4/4	粘土	
31	26	18	にふい黄褐色	10YR5/4	粘土質シルト	38	64	34	15	にふい黄褐色	10YR4/3	粘土	
22	68	69	にふい黄褐色	10YR4/3	粘土	.....	.....	.....	.....	灰褐色	7.5YR1/1	粘土	
23	22	94	にふい黄褐色	10YR5/4	粘土	39	28	19	19	にふい黄褐色	10YR4/3	粘土	
24	66	22	19	にふい黄褐色	10YR5/2	粘土	40	38	27	18	褐色	10YR3/2	粘土質シルト
25	40	38	9	褐色	10YR4/4	粘土質シルト	35	35	26	12	褐色	10YR3/3	粘土質シルト
26	36	15	にふい黄褐色	10YR5/4	粘土	36	74	61	16	.....	.....	.....	

D | C | B | A

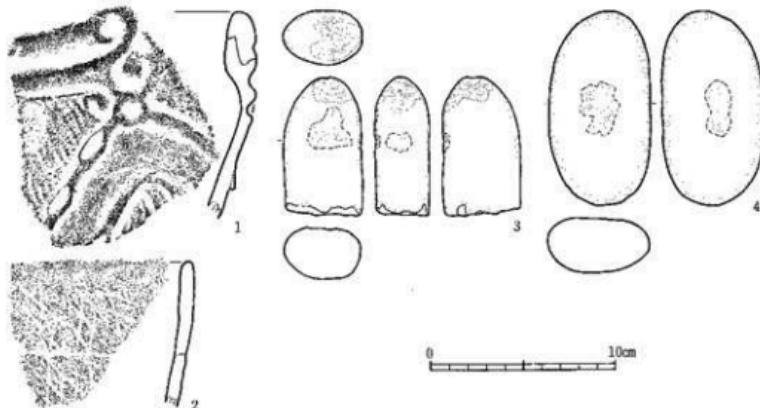


第91図 8層上面の遺構

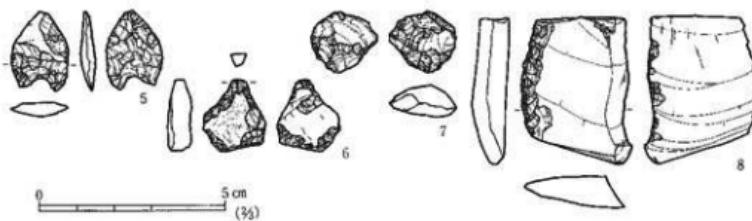
9 8層上面の造構と遺物



第92図 SK 26土抗

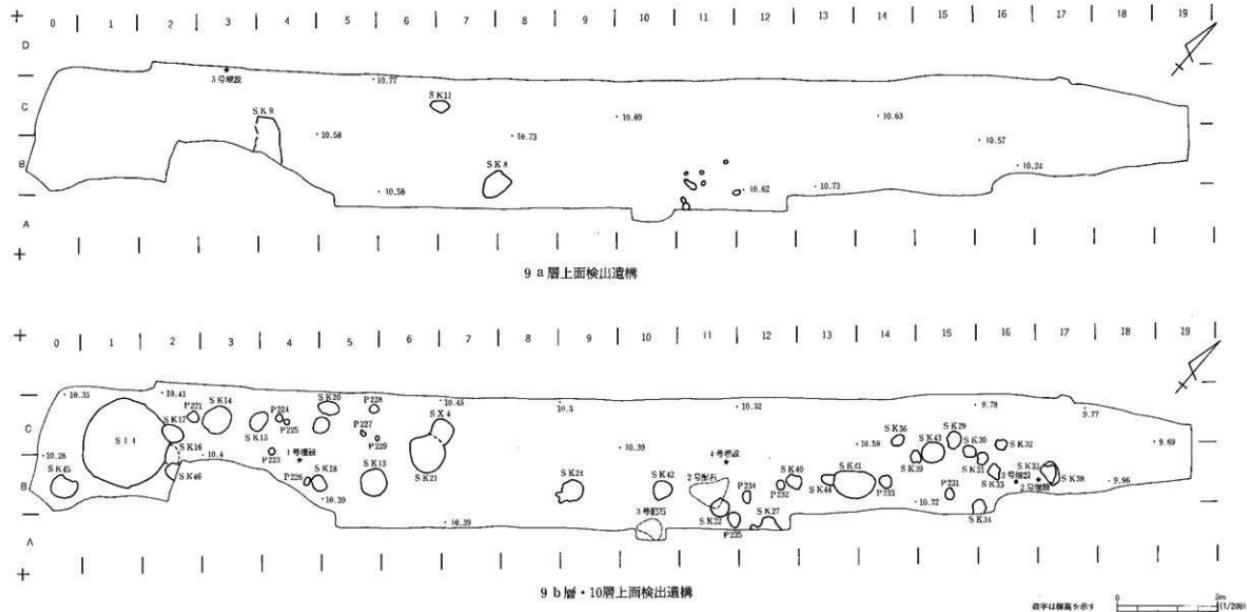


遺構 分類	行 数	高 度	横 幅	厚 さ	造構 分類	行 数	高 度	横 幅	厚 さ	重 量	材 料	量			
1 S13 滅跡 離塊、洞穴、R.L.細文、沈緑	1	A246	2	S13 滅跡 網目状細孔文	N	A222									
2 破片 分類	2	10cm	1cm	0.5cm	3	10cm	1cm	0.5cm	0.5cm	1g	骨	1g			
3 S13 石器 三才器	7.4	4.1	2.7	1.0	安山岩	Kcl17	4	P212 11号	即西	10.5	5.5	2.9	240	安山岩	Kcl7



遺構	分 類	行 数	高 度	横 幅	重 量	石 材	寸 法	遺構	分 類	行 数	高 度	横 幅	重 量	石 材	色 味
5 S13 石器 IA		21.0	15.0	3.9	1.0	安山岩	Kal1	7 S13 不規形石器 IA		13.0	16.4	7.5	1.7	黒曜岩	Ka44
6 S13 石器		19.1	17.0	6.2	1.9	地質百貨	Ka42	8 S13 下形石器 IB		14.6	36.7	8.9	12.3	柱状玄武岩	Ka43

第93図 S13 出土遺物



第94図 9・10層の遺構配置図

## 10 9 a 層上面の遺構と遺物

縄文時代後期の遺物包含層の上面から、土坑3、埋設土器1、ピット8が検出されている(第94図)。

### SK 8 土坑 (第95~97図)

A・B-7・8グリッドに位置する。150×110cmの梢円形で、深さは40cmである。堆積土は5層に分かれ、上層は乱れている。堆積土中より多くの遺物が出土している(第96・97図)。96-1は底部から直線的に外傾し、口縁部が屈曲する器形の深鉢である。4単位の突起を持ち、突起と頸部が環状につながる。体部にはワラビ手文と蛇行沈線文が施される。2は体部がふくらみ口縁部がのびる器形と考えられる。97-1は石錐の基部で、端部を欠く。2は不定形石器で、剥片の周縁全体に二次加工が施される。他に剝片が出土している。

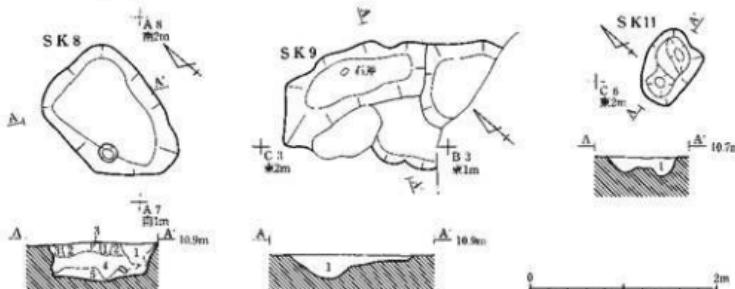
### SK 9 土坑 (第95図)

B・C-3・4グリッドに位置する。南部が調査区外であるが、長さ250cm以上、幅140cmの不整形の土坑である。底面には、凹凸がある。堆積土は1層である。底面から磨製石斧が出土している(第97図3)。石斧は基部を欠くものである。

### SK 11 土坑 (第95図)

C-6・7グリッドに位置する。80×55cmの梢円形で、底面は凹凸があり、最深部で20cmである。堆積土は1層である。

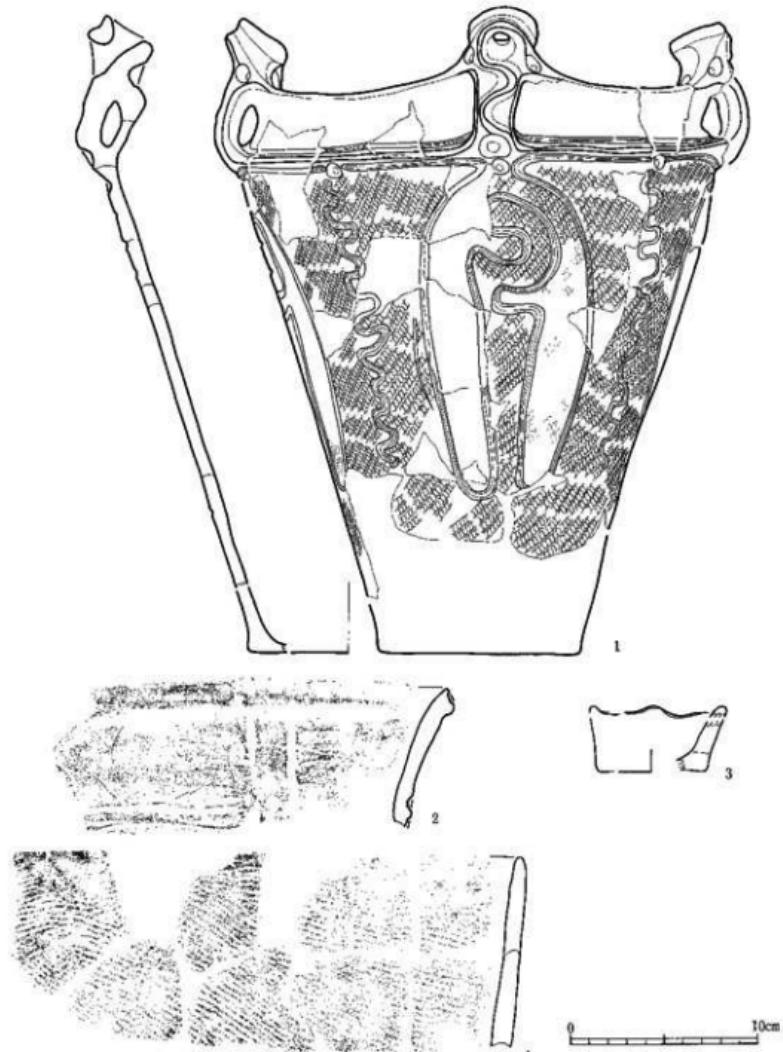
### 5号埋設土器 (第98図)



遺構	層位	二 色	土 性	備 考
SK 8	1 黄色 10YR4/4	シルト	灰・灰土・鐵・マンガン結晶を含む	
	2 に赤い斑褐色 10YR5/4	シルト	灰・鐵土・鐵をわずかに含む	
	3 黄色 10YR4/4	シルト	灰・灰土・鐵をわずかに含む	
	4 黄褐色 10YR4/4	砂質シルト	灰・鐵土・鐵をわずかに含む	
	5 黄色 10YR4/4	砂質シルト	灰・鐵土・鐵をわずかに含む	
SK 9	1 黄色 10YR4/4	粘土質シルト	皮・酸化鉄・マンガン結晶を含む	
SK 11	1 に赤い斑褐色 10YR5/4	シルト	皮・酸化鉄をわずかに含む	

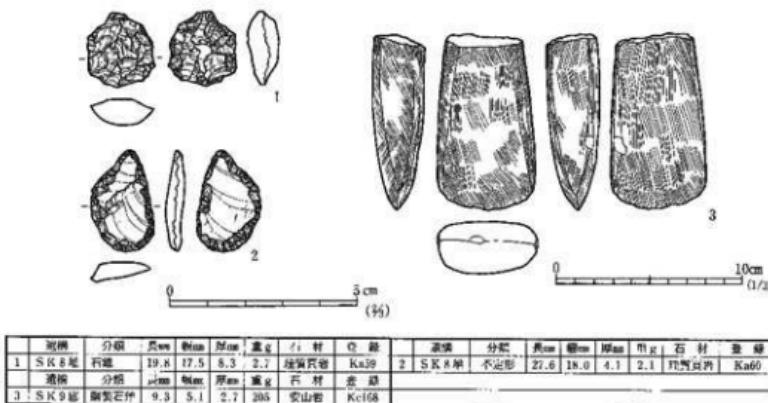
第95図 SK 8・9・11土坑

10 9a層上面の遺構と遺物



遺構	分類	口径cm	底径	高さ	特	備	施合	遺跡
1 SK 8号	脚2	22.2	16.6	34.6	口縁：突出、錐状把手、刺突 体部：LR斜文、比較		0	A47
2 SK 8号	脚3	口：刺突 下：沈線、刺突	0	A296	4 SK 8号 脚3 L斜文		0	A226
3 SK 8号	小形	口6.7	底5.7	高3.5cm		A204		

第96図 SK 8出土土器

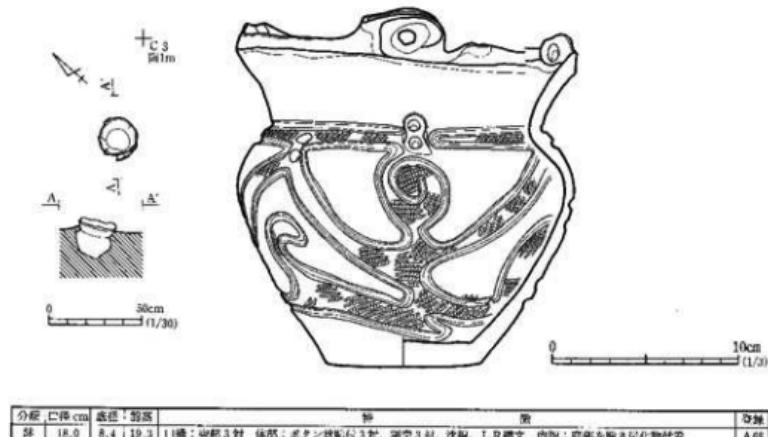


第97図 SK 8出土石器

D-3グリッドに位置する。正位に掘えられている土器であるが、掘り方は確認できなかった。土器は腹部がふくらみ口縁部が外反する器形の鉢型土器である。3単位の有孔の突起を持ち、内一つが大きい。頸部には2個一对の刺突が施され、体部には磨消旋文による文様が描かれている。

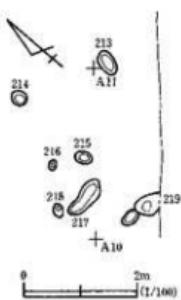
#### ピット（第99図・第16表）

A・B-11・12グリッドで8個のピットが検出された。いずれも柱痕跡は確認されなかった。



第98図 5号埋設土器

## 11 9 b層上面の遺構と遺物



第99図 9 a層上面のピット

## 11 9 b層上面の遺構と遺物

9 b層は縄文時代の遺物を多量に包含する層であり、その上面から土坑1、埋設土器3、配石2が検出された（第94図）。

### S K22土坑（第100・106図）

A・B-11グリッドに位置する。2号配石の東端でやや重なり、配石より古い。径95cmの円形で、深さは13cmである。堆積土は2層に分かれている。堆積土から、土器片、剥片石器が出土している。106-5・6は石錐である。6は未製品と考えられる。

### 2号埋設土器（第100・101図）

B-17グリッドに位置する。土器がやや斜めに埋設されている。土器は（101-1）器高の高い粗製の深鉢型土器である。体部全体にLR縄文が施文されている。また、土器内堆積土中から不定形石器が出土している（101-4）。

### 3号埋設土器（第100・101図）

B-16グリッドに位置する。土器がやや斜めに埋設されている。土器は（101-2）深鉢型土器で、外面全体に網目状燃糸文が施文されている。

### 4号埋設土器（第100・101図）

B-11グリッドに位置する。土器の上半分がやや斜めに埋設されている。土器は（101-3）深鉢型土器の上半部で、外面にはLR縄文が施文されている。また、土器内堆積土の最上部より、磨製石斧が出土している（101-5）。石斧は基部を欠き、表面に敲打痕が残る。

### 2号配石遺構（第102・103・106～108図）

A・B-11グリッドに位置する。全体で $2 \times 3$ mの範囲に疊が分布し、特に一辺1.8mの三

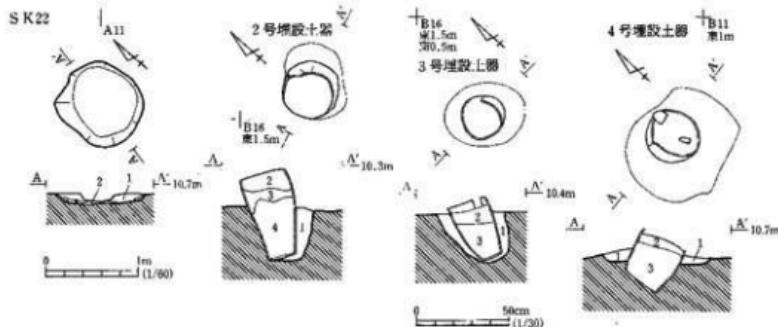
第16表 9 a層上面のピット計測表

番号	長径	短径	深さ(cm)	番号	長径	短径	深さ(cm)
213	46	24	11	217	78	24	7
214	28	22	9	218	26	18	19
215	30	22	9	219	(48)	36	(10)
216	18			220	(32)	20	3

角形状に疊が集中する。疊の大きさは長さ10~60cmであり、平らに分布している。配石の下部に掘り込みは認められなかった。配石周辺からは土器、剝片石器が出土し、配石には疊石器が用いられている。103-1~3は出土土器である。2は口縁部に横長の刺突が施される。106-7・8は石錐である。107-1~6・108-1~3は疊石器で、大型の疊も使われている。107-6は縦長の疊の片端に剥離痕があり、タタキ石として用いられたものであろう。108-3は板状の安山岩片に二次加工を施しており、打製石斧の可能性がある。

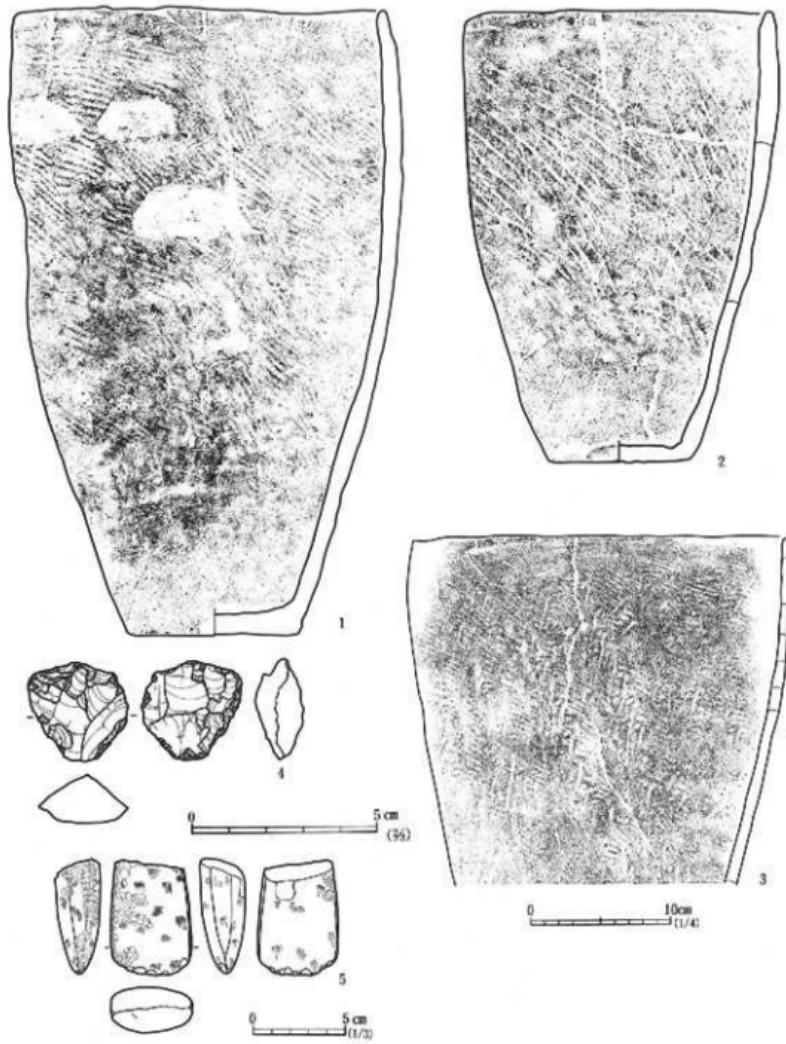
### 3号配石遺構 (第102~106・108図)

A-10グリッドの調査区間に位置する。1.4m四方の範囲に20~35cmの疊が集中している。また疊のレベル差は最大で約90cmある。土層の観察より、配石構築後で8層堆積以前の倒木痕によって壊されており、本来の形状は不明である。配石の下部に掘り込みは認められなかった。配石周辺から土器、剝片石器が出土し、配石には疊石器が用いられている。土器は沈線文を主とするもの(103-4~6・104-2)、陰線を用いるもの(104-1・3・4)、地文のみのものなどがある。上製円盤が1点出土している(106-4)。剝片石器は、尖頭器(106-9)、石錐(10)、不定形石器(11・12)、両極剥離痕を持つ剝片(13)があり、疊石器は凹石(108-3)、磨製石斧(108-4)が出土している。



遺構	層位	土 色	土 性	備 考
SK22	1	にぼい黄褐色 10YR5/4	粘土質シルト	炭を含む
	2	灰黄褐色 10YR4/2	粘土質シルト	炭を含む
2号埋設	1	褐色 10YR4/1	粘土	
	2	暗褐色 10YR3/4	粘土	
	3	暗褐色 10YR3/3	粘土	
	4	褐色 10YR4/4	粘土	
3号埋設	1	黒褐色 7.5YR3/2	粘土質シルト	
	2	褐色 7.5YR4/3	粘土質シルト	
	3	黒褐色 7.5YR3/2	粘土質シルト	
4号埋設	1	褐色 10YR4/4	粘土質シルト	炭を多量に含む
	2	暗褐色 10YR3/3	粘土質シルト	炭を多量に含む
	3	にぼい黄褐色 10YR5/4	粘土質シルト	炭わずか、黑褐色土ブロック含む

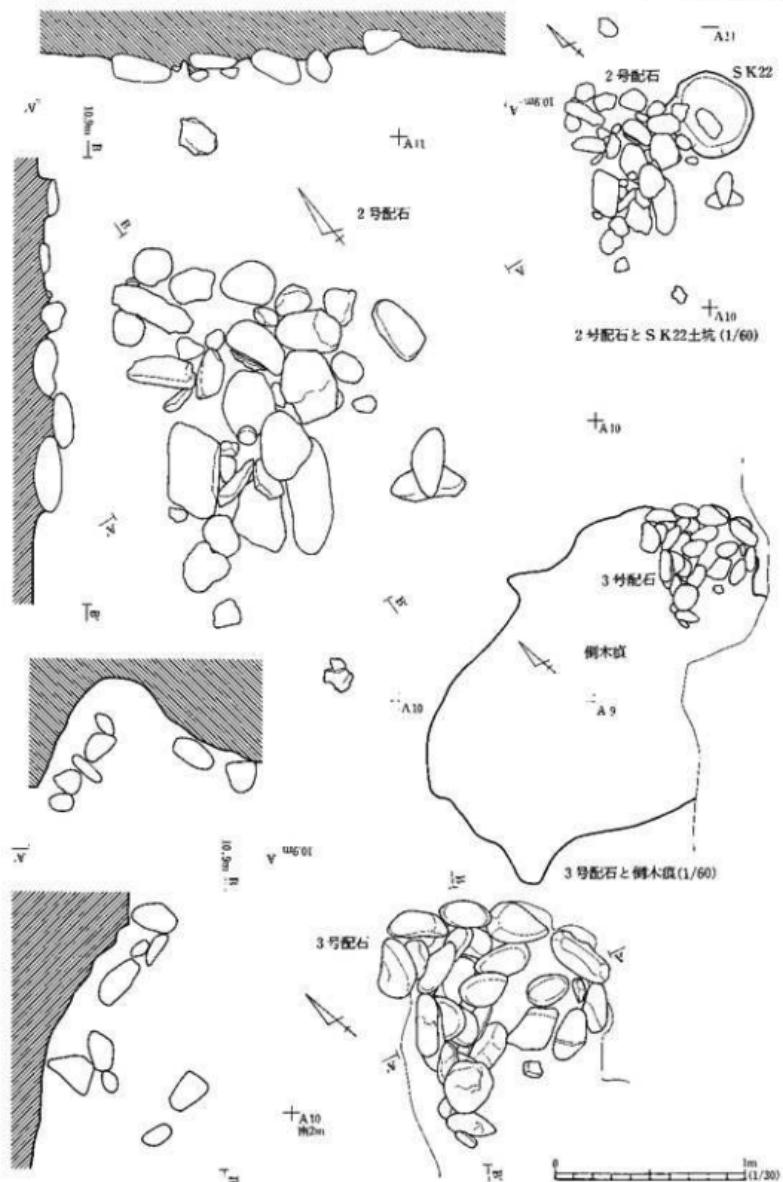
第100図 SK22・2~4号埋設土器



遺構	分類	口径cm	底径cm	高さcm	特徴	測定	遺構	分類	口径cm	底径cm	高さcm	特徴	測定		
1 2号型	深鉢G	26.4	12.9	45.0	L縞文、平行沈板	A 3	3 4号型	高鉢G	27.1	27.8	LR縞文、縦斜凹版		A12		
2 3号型	深鉢G	21.4	9.9	32.2	網目状凹凸文R	A 7									
遺構	分類	高さcm	底径cm	厚さcm	重さg	石材	遺構	分類	高さcm	底径cm	厚さcm	重さg	石材	測定	
4 1号型 不完形A	深鉢G	28.1	28.8	13.7	6.8	三動	Ka276	5 1号型	高鉢G	6.0	4.3	2.5	105	角尖石岩	Kc166

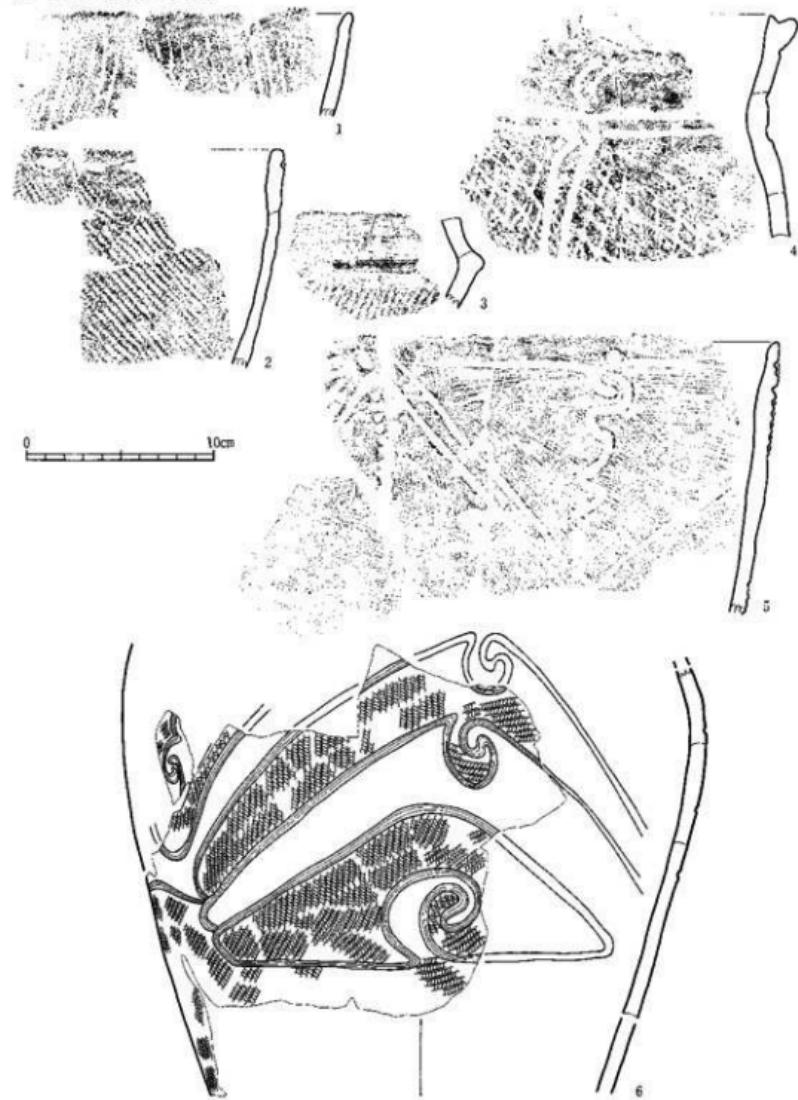
第101図 2～4号埋設土器

V III区の調査成果



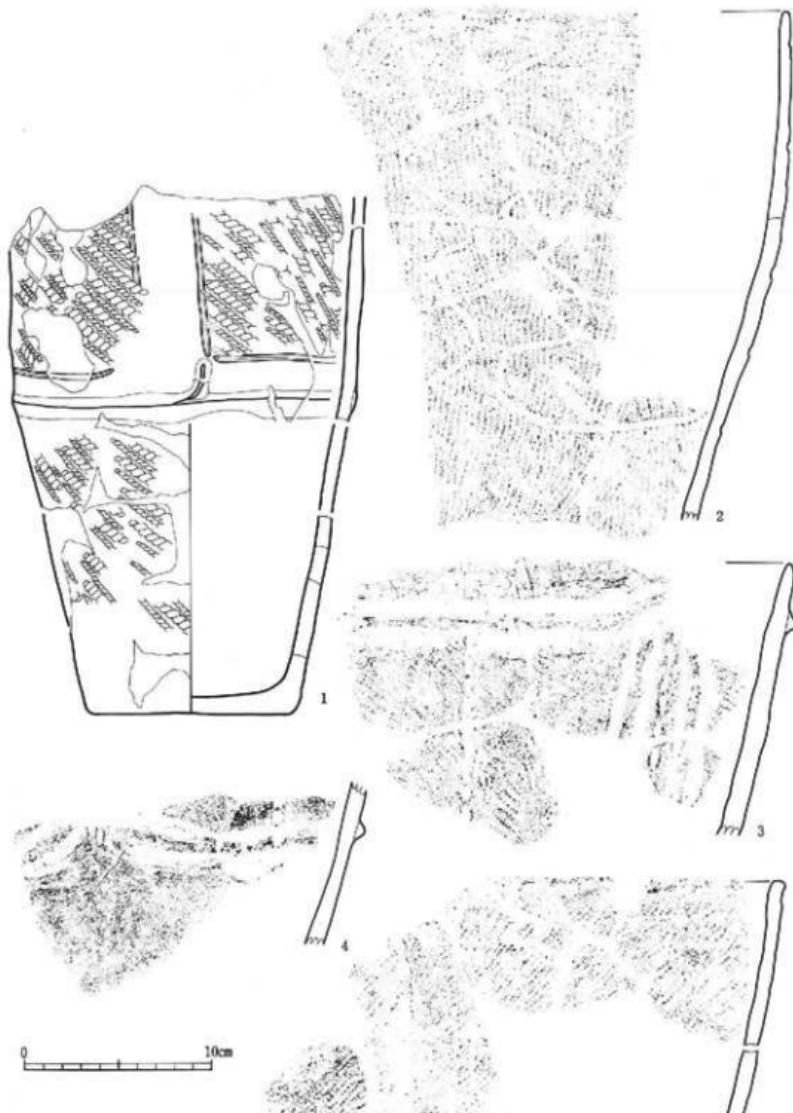
第102図 2・3号配石

11. 9 b 層上面の遺構と遺物



番号	分類	約 数	備	組合	茎線	分類	約 数	備	組合	茎線
1	陶器	N種未文		2	A249	1	漆器片	尖起、側面状模文A、沈縫	8	A256
2	2号	漆器G 刺突、R.L表調文		0	A254	5	漆器F 反側余文、刺突、沈縫		6	A258
3	配石	I 織文		0	A259	6	漆器C 沈縫、L表織文		2	A233

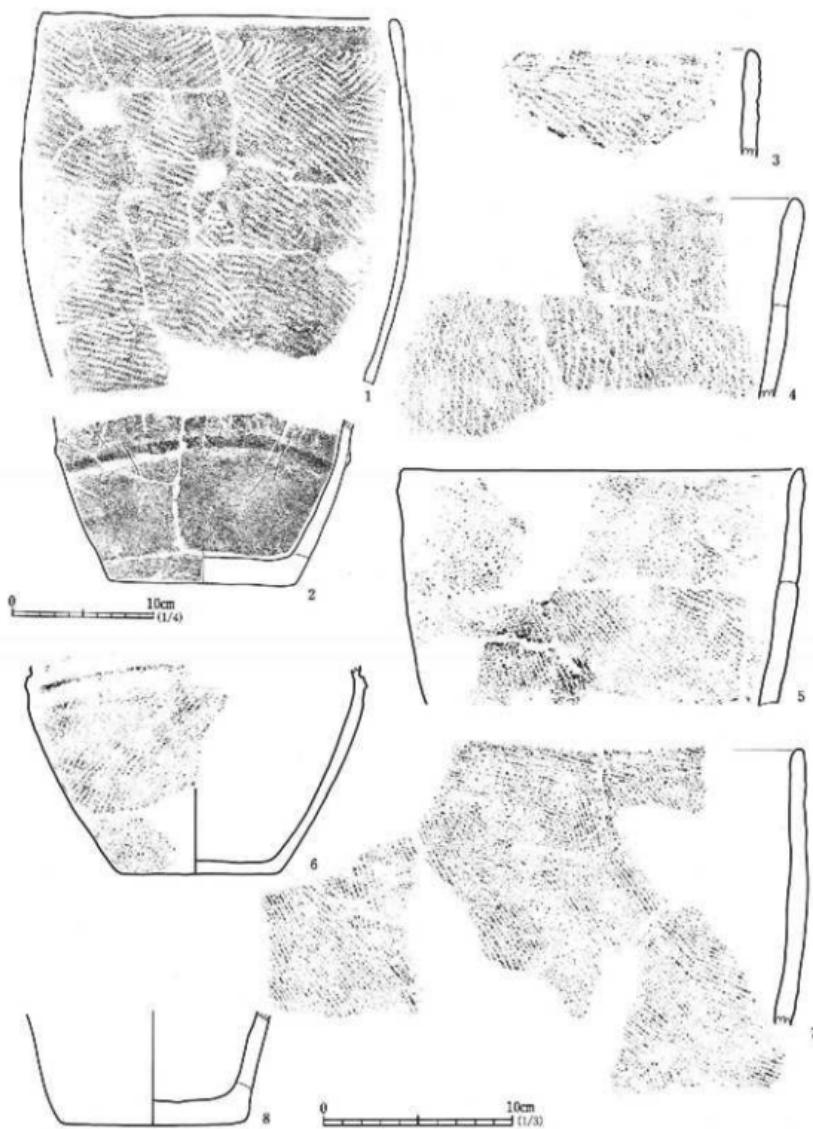
第103図 配石出土遺物（1）



遺構	分類	特徴	結合	層	遺構	分類	特徴	結合	層	
1	3面石	側面入	高10.8cm、底面、側面、L.R.斜文	0	A36	4	3面石	側面下 (3と同一層)	0	A257
2	3面石	側面入	底面高文、底面	7	A208	5	3面石	R.I. R.斜文、側面	9	A255
3	3面石	側面入	底面: L.R.、側面、側面、L.R.斜文、傾斜	6	A222					

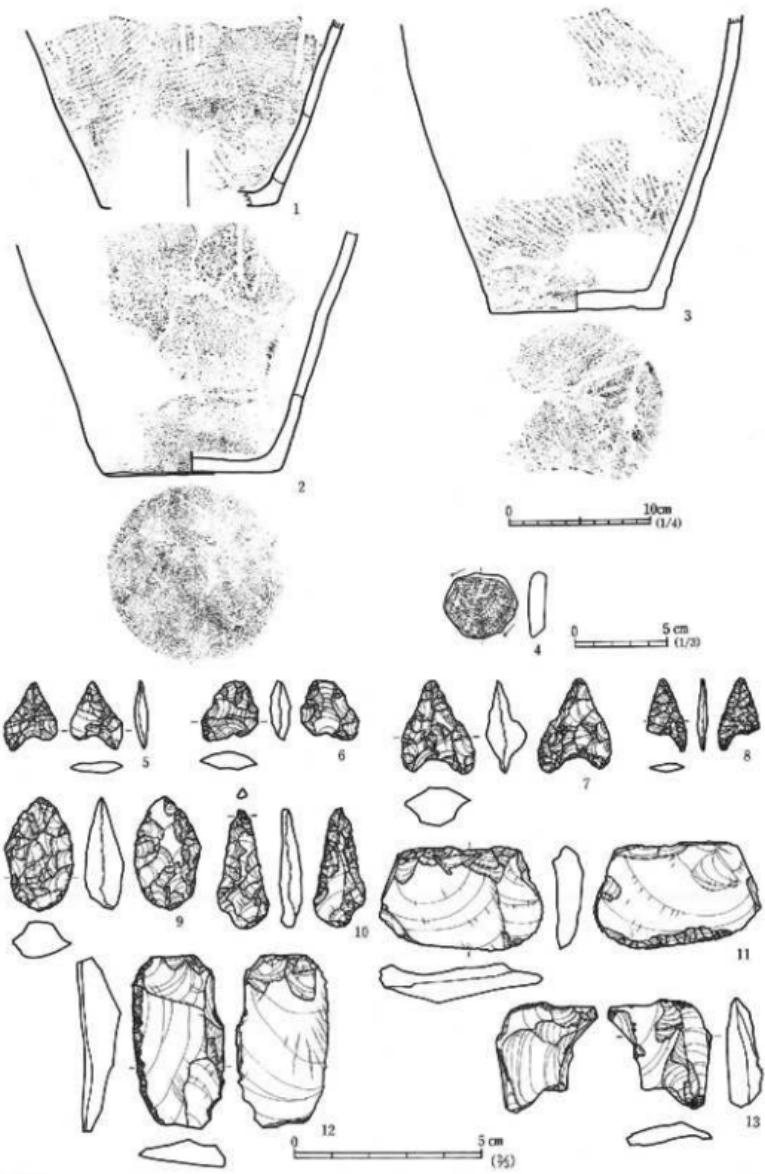
第104図 配石出土遺物 (2)

11 9 b 層上面の遺構と遺物



遺構	分類	特徴	結合	層	遺構	分類	特徴	結合	層
1	3配石	鉢形A, L型嘴文	0	A74	5	3配石	鉢形F, 安達系文	2	A94
2	3配石	鉢形, 直径30cm, 脊縫, L型嘴文	0	A76	6	3配石	鉢形F, 氏様, L型嘴文	0	A173
3	3配石	鉢形, 安達系文, 106-3上田一模体	0	A75	7	3配石	鉢形G, 安達系文	0	A162
4	3配石	鉢形, 須田状嘴文A	0	A26	8	3配石	鉢形, 須田状嘴文A	0	A283

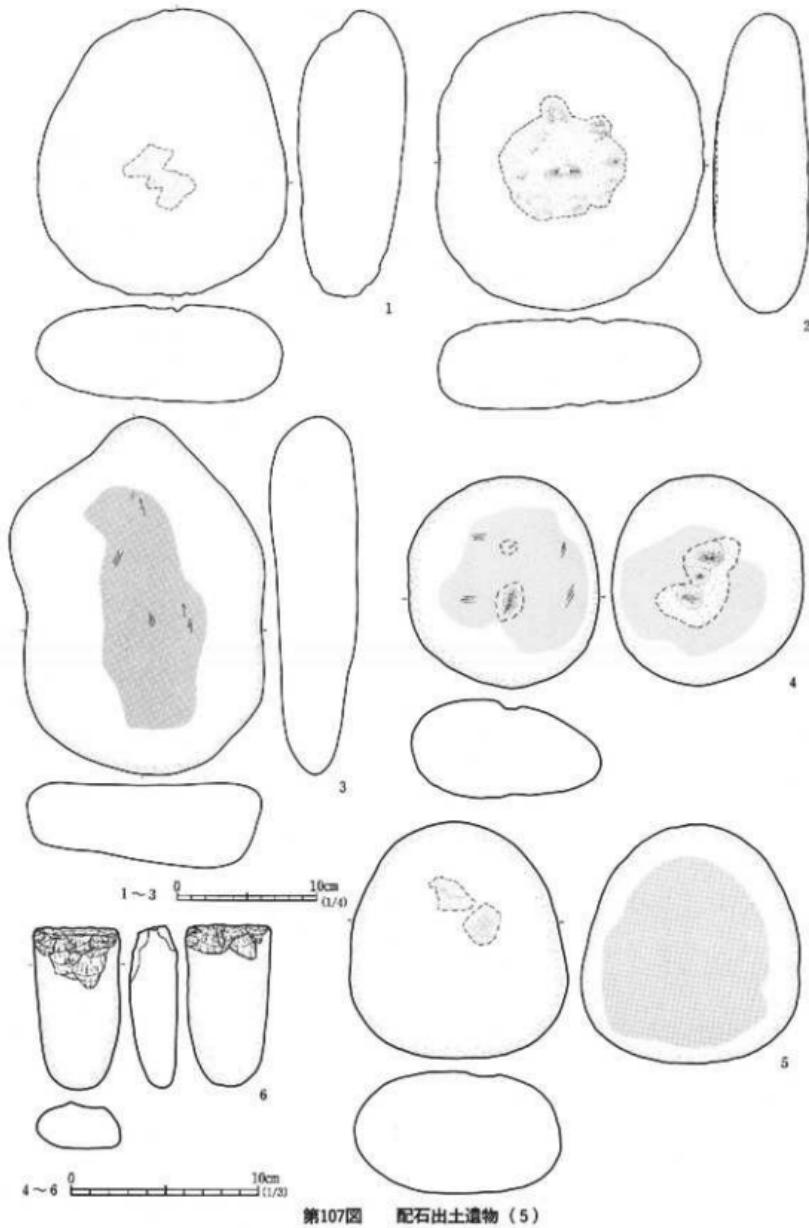
第105図 配石出土遺物（3）



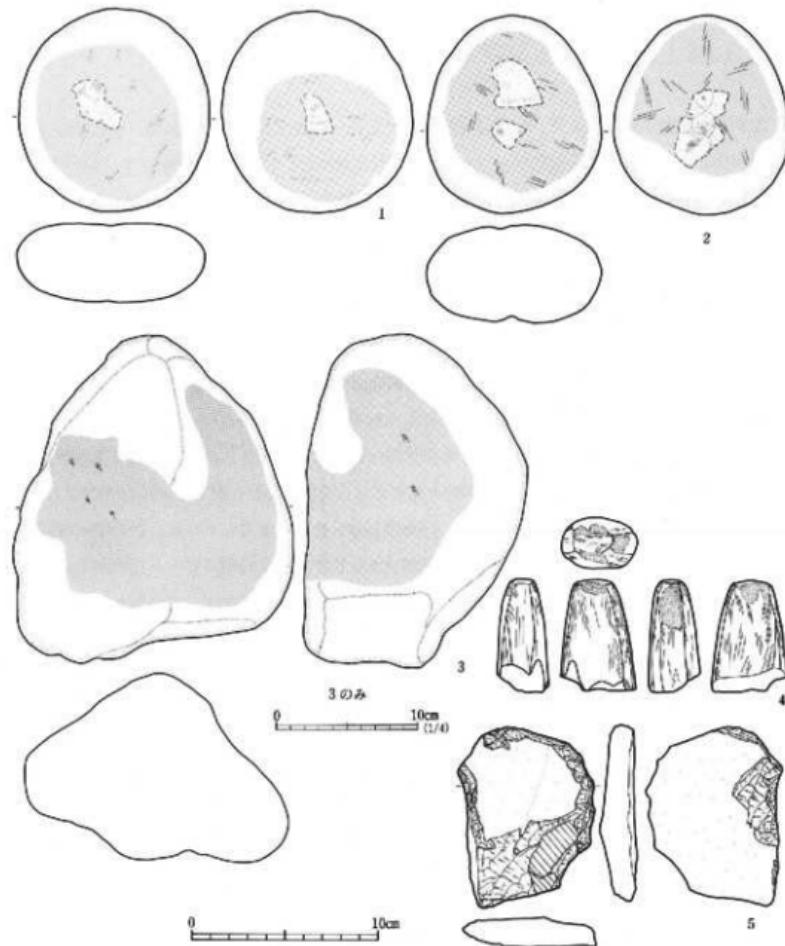
遺構	分類	特 徴	例	寸 跡	遺構	分類	特 徴	寸 跡	物 種	整 理
1 3配石	圓錐形	R.L.網文、沈縫	A77	3 3配石	圓錐形	R.斜朱文、木壓痕	A75			
2 3配石	圓錐形	沈縫、網代底→ナデ	A78	4 3配石	土燒内層	36×39×9mm 15.7g	L.R.網文?	P53		
3 遺構	分類	1cm < 高さ < 2cm	重さ g 石 材	遺構	分類	具足	寸 跡	寸 跡	石 材	整 理
5 SK22	石壺1A	18.7 13.8 3.5	0.6	玉錠	Ka78	10 3配石	右側	33.5 18.2 5.8	1.7	珠質貝殻
6 SK22	石壺1A	18.4 14.8 5.6	1.9	玉錠	Ka77	11 3配石	右側BC	44.0 29.2 7.6	11.3	珠質貝殻
7 2配石	石壺1A	24.8 19.2 10.3	2.8	透質貝殼	Ka219	12 3配石	不定形	47.2 24.4 10.4	16.4	透質貝殼
8 2配石	石壺1A	19.3 10.2 2.3	0.1	透質貝殼	Ka209	13 3配石	右側網目	36.1 25.0 9.6	3.8	透質貝殼
9 2配石	内輪物	30.4 18.1 9.4	4.4	透質貝殼	Ka183					

第106図 配石出土遺物 (4)

11. 9 b 層上面の遺構と遺物



第107図 配石出土遺物 (5)



	遺物	分類	長cm	幅cm	厚cm	重g	石材	特　　性	量総
107-1	2配石	LB類 四面	19.7	17.4	6.8	3489	安山岩	1面	Kc77
107-2	2配石	LB類 四面	29.6	18.5	6.2	3300	安山岩	1面	Kc72
107-3	2配石	9期 研	25.5	17.8	6.0	4150	安山岩	1面	Kc160
107-4	2配石	2期 四+磨	11.3	10.0	5.3	850	花崗閃雲岩	2面	Kc21
107-5	2配石	2期 四+磨	12.6	11.5	6.4	1230	安山岩	片面に凹み、片面に磨面	Kc31
107-6	2配石	13期 無	8.6	4.7	2.3	157	石英安山岩	尖端部に剝離あり	Kc178
108-1	2配石	2期 三+磨	19.9	16.1	4.2	670	安山岩	2面	Kc19
108-2	2配石	9期 研	21.5	19.5	13.0	6600	砂岩	1面	Kc12
108-3	3配石	2期 四+磨	19.5	9.3	5.2	700	花崗閃雲岩	2面	Kc16
108-4	3配石	磨撃石斧	5.9	4.4	2.7	90	頁岩	刃部欠損、基部に敲打痕残る	Kc165
108-5	2配石	打撲石斧	9.6	8.0	2.6	158	安山岩	未製品か?	Kc182

第108図 配石出土遺物（6）

## 12 10層上面の遺構と遺物

遺物包含層除去後の面より、堅穴住居跡1、土坑28、埋設土器1、ピット13、性格不明遺構1が検出されている。10層上面の地形は西半部は標高10.35mでほぼ平坦であるが、14グリッドより東は低くなり、東端部で標高9.69mであり、調査区の両端で約60cmの高低差がある（第94図）。

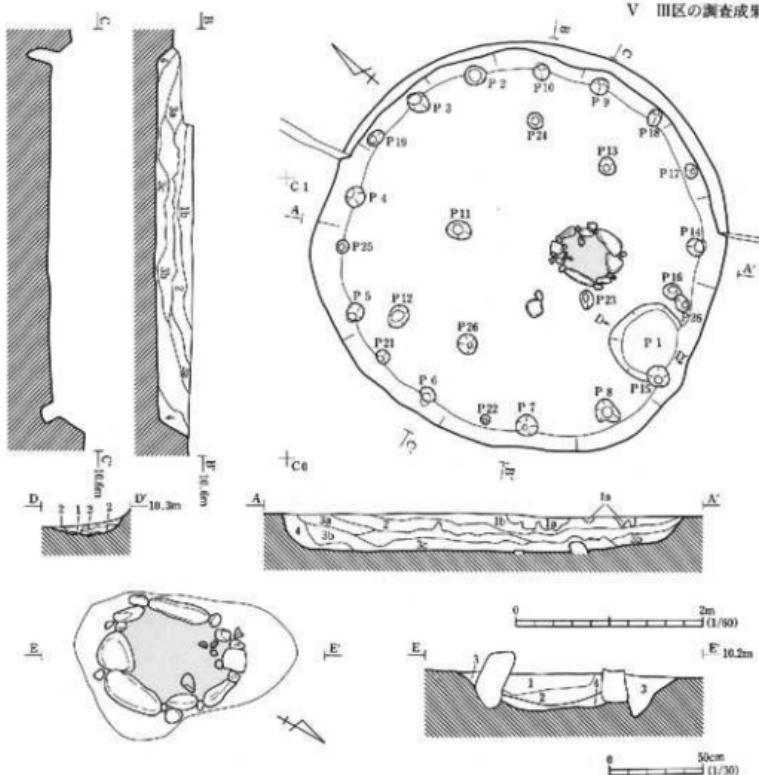
### S I 4 住居跡（第109～113図）

遺構（第109図） B・C-1・2グリッドに位置する。SK16・17より古い。径約4.2mの円形である。壁高は30～40cmである。堆積土は4層に分かれ、1～3層は全体に分布し、4層は壁際に堆積する。1・2層は基本層9層と考えられる。3層が床面のほぼ全体を覆う。4層中には焼土が多量に混じる部分があった。堆積状況は自然堆積と考えられる。床面は基本層11層をそのまま床としており、平坦であるが軟らかである。床面中央から南東寄りに石阱炉がある。80cm×65cmの楕円形に礫を配置しており、炉内部と礫は焼けて赤変している。炉の掘り方は、120×80cmの楕円形である。ピットは26個検出された。P1を除く25個のピット柱穴がそれに関連するものと考えられる。壁際には20個のピットが規則的に巡っており、そのうち数個は壁の方向に向かい斜めに掘り込まれている。南壁際にあるP1は、80×70cmの楕円形で、深さ10cmで皿状にくぼんでいる。堆積土中に炭化物・粘土が混じる。

遺物（第110～113図） 土器（110図） 1・6は4層の遺物である。1は深鉢型土器の上半部で、3単位の小突起を持つ。体部には網目状撚糸文の地文の上に不規則な沈線文が描かれている。3は2・3層の遺物で、突起を持つ深鉢片である。突起から鎖状隆線が垂下する。2・4・5は2層の遺物で、2は突起、4・5は壺型の土器かと考えられる。他に土製円盤（8）が出土している。 剝片石器（第111図） 2は4層出土の不定形石器である。縦長の剥片の両側縁に連続する二次加工が施されている。1・3・5・6は3層出土である。4は2層出土の両極剥離痕を持つ剥片である。他に剥片が出土している。 磨石器（第111～113図） 111-7・8、112-1は床面出土のもので、7・8には磨面、1には凹痕が認められる。8は磨面の中央が溝状にくぼむ。113-1はピット出土で、大型の礫の上面と側面に磨面がある。112-2～4は炉に用いられていた砾石器である。他に堆積土より凹み石（113-2～5・7）、礫の破片（6）が出土している。

小結 住居堆積土の最上層に基本層9層が存在することから、9層堆積時には住居が廃絶されていたことが分かる。しかし、その下の堆積土3・4層出土遺物の特徴は後述する遺物包含層（9層）の遺物よりも古い要素は認められないことから、住居の時期は、包含層の形成時より

## V III区の調査成果



剖面	土色	土性	目	考
1 a	黄褐色 10YR5/6	砂質シルト	底本層土層	
1 b	褐色 10YR6/4	粘土質シルト	炭を少量に含む	
2	褐褐色 10YR5/3	粘土質シルト	炭を多量に含む	
2 a	こぶい黄褐色 10YR4/1	砂質シルト		
2 b	こぶい黄褐色 10YR4/3	砂	炭1cmの層を含む	
2 c	こぶい黄褐色 10YR4/2	砂質シルト	炭・砂を少量含む	
4	褐褐色 10YR4/2	砂質シルト	砂を多量含む	
P 1	褐色 10YR4/4	砂質シルト	砂を少量含む	
1	褐色 10YR4/4	砂質シルト	炭を含む	
2	褐褐色 10YR4/4	シルト	炭・底土を含む	
3	褐褐色 10YR5/3	粘土	こぶい黄褐色底土を含む	
7	褐色 10YR4/4	砂質シルト	炭を含む	
2	こぶい黄褐色 10YR4/4	砂質シルト	炭・底土を含む	
3	こぶい黄褐色 10YR4/4	砂質シルト	炭を含む(砂の割り合)	
4	赤褐色 5 YR5/4	砂	砂を含む 砂を1kg(砂割り合)	

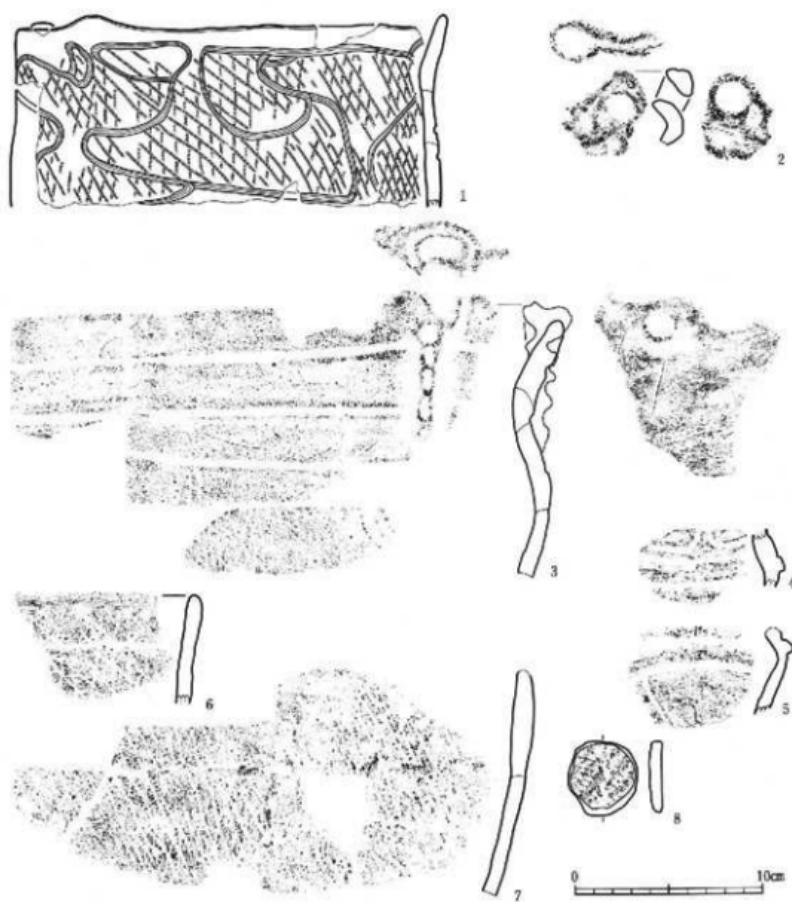
S 14 土層観察表

P	此	輪	型	輪	深	土	土	角	土	性
2	25		30	A	砂質シルト					
3	26	22	20	A	砂質シルト					
4	22		26	A	粘土質シルト					
5	20		20	B	粘土質シルト					
6	18	14	12	B	粘土質シルト					
7	24		36	B	粘土質シルト					
8	29	23	20	B	粘土質シルト					
9	18		26	A	砂質シルト					
10	18		26	A	砂質シルト					
11	26	29	13	A	粘土質シルト					
12	25	29	11	A	砂質シルト					
13	20	16	14	A	砂					
14	18		16	A	砂質シルト					
15	24		26	A	粘土質シルト					
16	17		15	B	粘土質シルト					
17	13		13							
18	20	15	26							
19	20	14	8							
20	18	14	20							
21	13		12							
22	16		14							
23	20	14	9							
24	16		3							
25	14		7							
26	20		12							

S 14 ピット計測表 (単位cm)

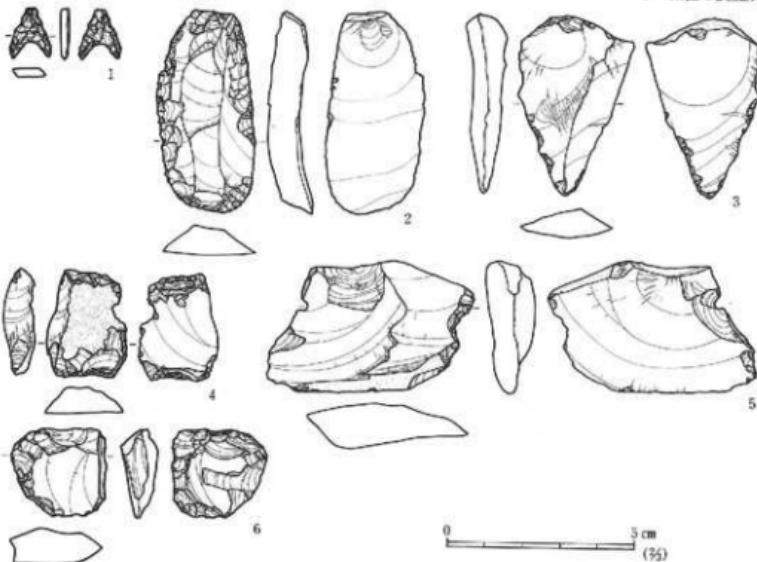
A : 褐色 10YR4/4

B : C. こぶい黄褐色 10YR5/4

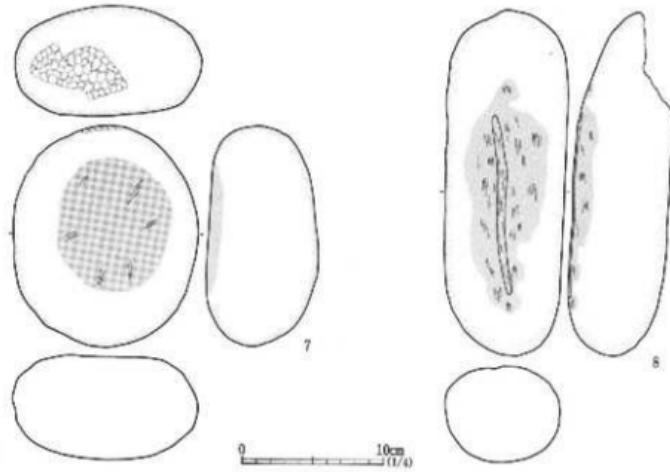


層位	分類	特 徴	組合	層位	分類	特 徴	組合	型款
1	4層 滅跡D	突起、網目状模条文R、改様	2 A25	5 2層 痕?	隆縫、比縫、4と同一個体	0 A223		
2	2層 滅跡	突起、有孔	9 A223	6 4層 滅跡	網目状模条文	0 A221		
3	2層 滅跡C	突起、隆縫、突窓、網目状模条文	13 A224	7 2層 滅跡	網目状模条文R	0 A245		
4	1層 痕?	隆縫、比縫	9 A223	8 3層 十割円盤	38×38×6.3mm 11.6g 网文、粒面	0 P34		

第110図 S 1 4 出土遺物 (1)



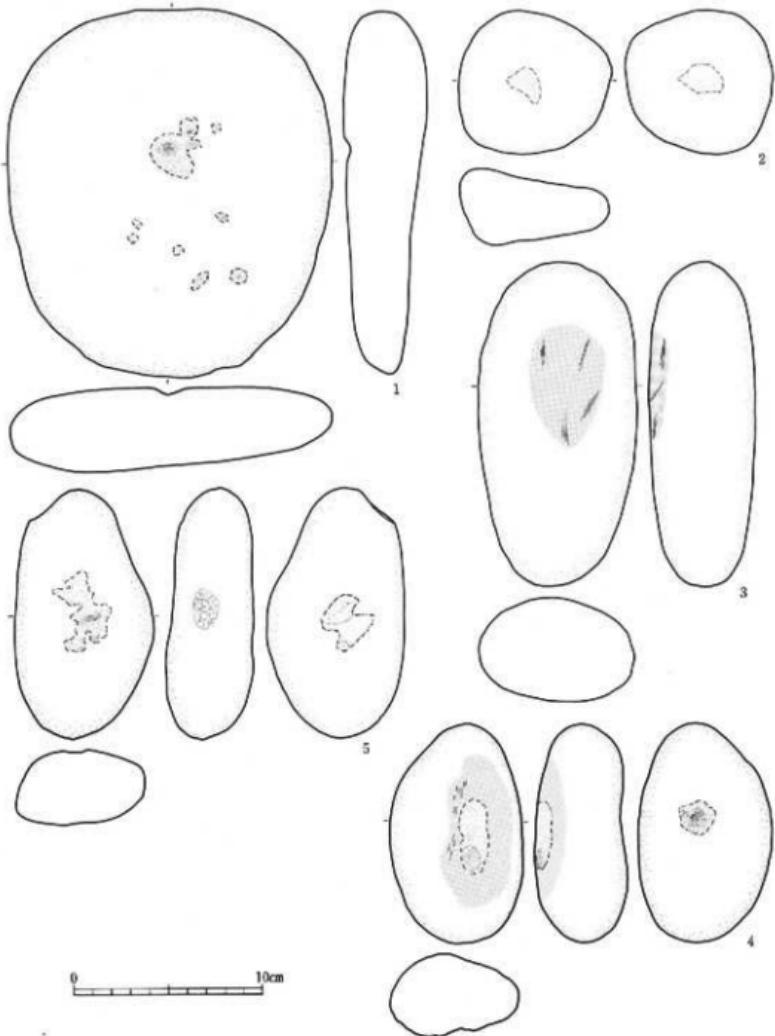
	層位	分類	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	登録	層位	分類	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	登録	
1	3層	石核ⅠA	13.2	11.6	2.3	0.2	麻績岩	Ka 1	4	2層	円錐形核	31.6	25.5	8.2	4.9	麻績岩	Ka 7
2	4層	不定形ⅠB	54.0	27.3	8.3	13.7	珪質頁岩	Ka 2	5	3層	不定形ⅡB	27.9	26.3	8.7	5.9	珪質頁岩	Ka 5
3	3層	不定形Ⅱ	49.6	30.7	7.9	10.1	珪質頁岩	Ka 3	6	3層	圓錐形核	59.6	40.2	11.5	20.6	珪質頁岩	Ka 4



	層位	分類	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	登録	層位	分類	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	登録	
7	3層	10層	15.5	12.8	7.2	22.6	安山岩	Kc161	8	9層	9層	23.9	8.3	6.7	19.6	安山岩	Kc163

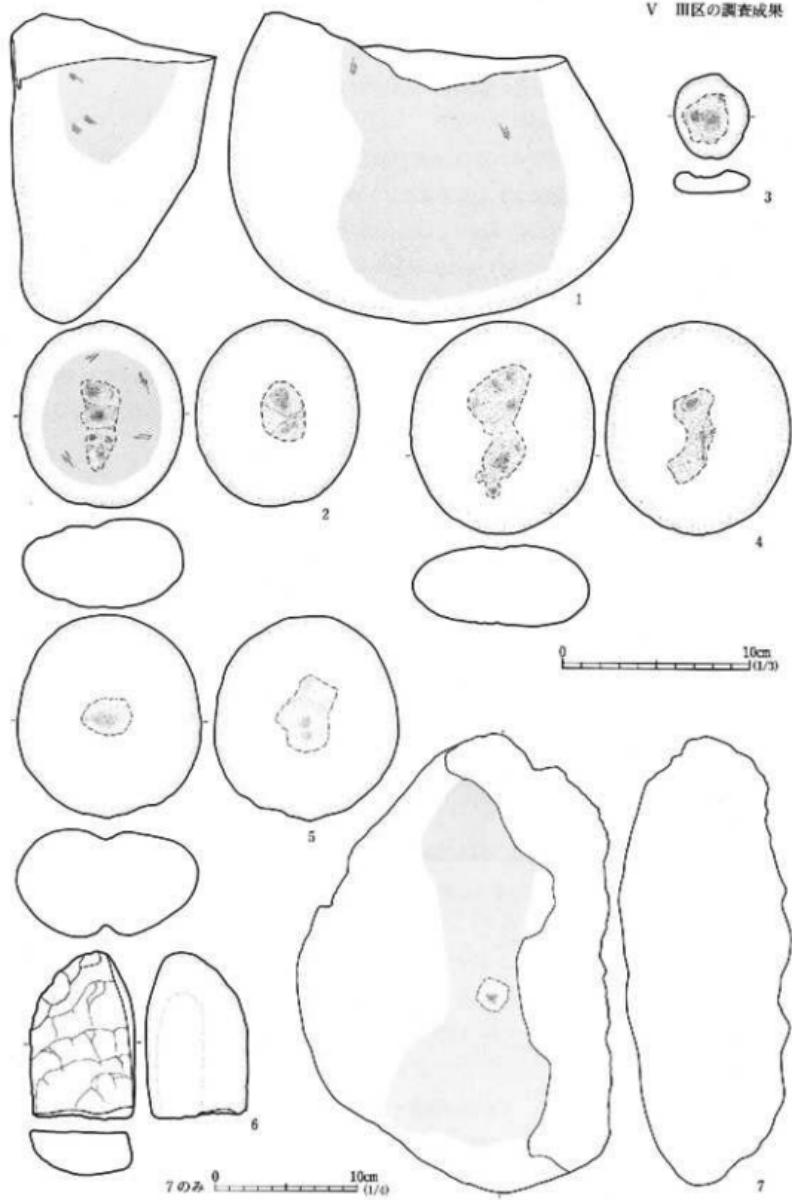
第111図 S14出土遺物（2）

## 12 10層上面の遺構と遺物



層位	分類	形	長cm	幅cm	高cm	重kg	石 特	法 種	層位	分類	形	長cm	幅cm	高cm	重kg	石 特	法 種
1 10層 上部	1-A種	圓盤	19.5	17.1	4.4	1750	砂岩	KcII	1 ビット	9種	圓盤	15.4	20.4	11.8	4500	安山岩	KcII
2 10層 中段	1-B種	圓板	7.6	8.0	0.9	315	安山岩	KcII	2 4種	2種 四+集	圓盤	10.0	8.7	1.7	500	安山閃綠岩	KcII
3 10層 下部	2種	卵	17.2	8.3	5.5	1180	安山岩	KcII	3 3種	2-A種	圓盤	4.5	4.6	1.2	20	玄武安山閃綠岩	KcII
4 10層 下部	2種	四+集	11.7	7.0	4.4	530	安山岩	KcII	4 2種	1-B種	圓盤	11.3	9.8	4.3	550	安山岩	KcII
5 ビット	2種	四+集	13.2	7.4	3.9	620	鈣長石?	KcII	5 2種	1-A種	圓盤	10.9	9.8	3.5	675	安山岩	KcII
									6 2種	圓片		9.0	5.5	2.2	360	6.安山岩	KcII
									7 2種	2種 四+集		32.1	21.6	11.8	6500	6.2	KcII

第112図 S 1 4出土遺物 (3)



第113図 S14出土遺物(4)

は古いものの縄文後期初頭～前葉の頃の中に位置づけられよう。

#### S K 13土坑（第114・118・125図）

B-5・6グリッドに位置する。径130cmの円形である。深さは40cmで、底面は平坦である。堆積土は4層に分かれ、1層に大きな疊があり、2層に炭を多量に含んでいる。堆積土から土器、剣片、疊石器が出土している。118-1は1・2層出土土器で、突起を持つ口縁部片であり、口縁部が屈曲し、口縁部外側に二段の刺突が施される。118-2は大部分の破片は土坑周辺の9層出土で、堆積土2層出土片が接合している。125-1は2層出土の疊石器である。

#### S K 14土坑（第114・118図）

C-3グリッドに位置する。145×120cmの楕円形である。深さは40cmで、底面は平坦である。堆積土は5層に分かれ、最上部に炭を多く含む。堆積土から土製円盤（118-3）、剣片が出土している。

#### S K 15土坑（第114図）

C-3・4グリッドに位置する。100×75cmの楕円形である。深さは20cmで、底面は平坦である。堆積土は4層に分かれている。

#### S K 16土坑（第114図）

B-C-2グリッドに位置し、S I 4より新しいが、平面実測図がなく詳細は不明である。深さは15cmで、底面は皿状にくぼむ。

#### S K 17土坑（第114図）

C-2グリッドに位置し、S I 4より新しい。110×78cmの楕円形である。深さは30cmで、すり鉢状にくぼむ。堆積土は3層に分かれている。

#### S K 18土坑（第114図）

B-4・5グリッドに位置する。85×65cmの楕円形である。深さは10cmで、底面は平坦であり、中央部に深さ10cmのピットがある。堆積土は1層である。

#### S K 19土坑（第114図）

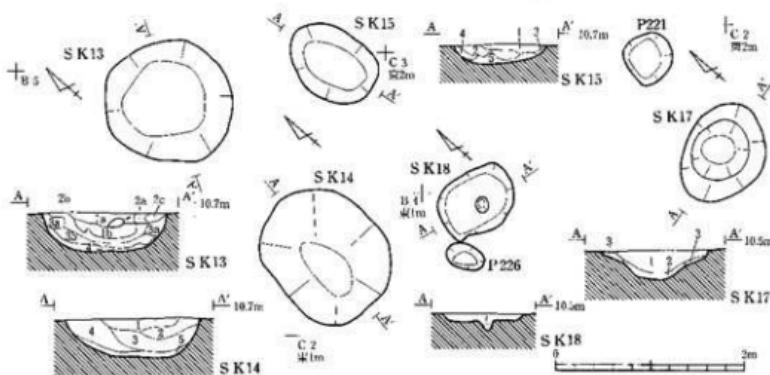
C-4・5グリッドに位置する。85×70cmの楕円形である。深さは40cmで、壁がオーバーハングしており、いわゆるフラスコ状の土坑である。底面は平坦である。堆積土は4層に分かれている。

#### S K 20土坑（第114図）

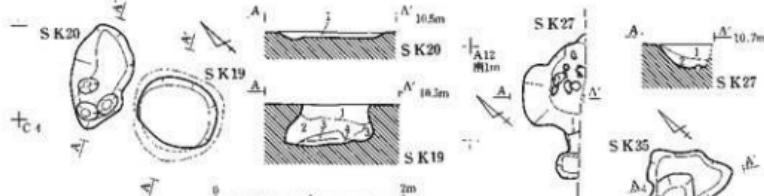
C-4・5グリッドに位置し、S K 19に隣接する。110×60cmの楕円形である。深さは5cmと浅く、底面は西半に凹凸がある。堆積土は1層である。

#### S K 21土坑（第115・118・124・125図）

B-C-6・7グリッドに位置する。S X 4と接するが前後関係は不明である。径180cmの円



層位	土色	土性	番号
SK13	褐色 10YR4/4	砂質シルト 炭をわずかに含む	
	にぼい黄褐色 10YR5/4	砂質シルト 炭を1%より多く含む	
	生褐色 10YR3/2	粘土質シルト 炭を多量に含む	
	黒褐色 10YR2/2	粘土質シルト 炭を多量に含む	
	2c 黑褐色 10YR2/2	粘土質シルト 炭を多量に含む	
SK14	2a 黑褐色 10YR2/2	粘土質シルト 炭を多量に含む	
	2c 黑褐色 10YR2/2	粘土質シルト 炭を多量に含む	
	3a にぼい黄褐色 10YR5/4	粘土質シルト 炭をわずかに含む	
	3b にぼい黄褐色 10YR5/3	粘土質シルト 炭をわずかに含む	
	4 にぼい黄褐色 10YR4/3	砂質シルト 炭を多量に含む	
SK15	1 黑褐色 10YR3/4	粘土質シルト 炭を多量に、泥土・砂を含む	
	2 褐色 10YR4/4	粘土質シルト 炭を少量含む	
	3 黑褐色 10YR3/4	粘土質シルト 炭をわずかに含む	
	4 黑褐色 10YR4/4	粘土質シルト 炭をわずかに含む	
	5 にぼい黄褐色 20YR5/4	砂	
SK16	1 黑褐色 10YR3/4	シルト 炭をわずかに含む	
	2 褐色 10YR4/4	シルト 炭をわずかに含む	
	3 黑褐色 10YR3/4	粘土質シルト 炭を少量含む	
SK17	1 黑褐色 10YR4/4	粘土質シルト 炭を少量含む	
	2 黑褐色 10YR4/4	粘土質シルト 炭を少量含む	
	3 にぼい黄褐色 10YR5/4	砂質シルト 炭を多量の塊を少量含む	
SK18	1 黑褐色 10YR3/4	シルト 炭をわずかに含む	
	2 黑褐色 10YR3/4	シルト 炭をわずかに含む	



層位	土色	土性	番号
SK19	褐色 10YR4/4	砂質シルト 炭を含む	
	褐色 10YR4/4	砂質シルト 炭を含む	
	にぼい黄褐色 10YR5/4	砂質シルト 炭を少量含む, 沈をブロック状に含む	
	4 黑褐色 10YR3/4	砂質シルト 炭を多量に含む	
SK20	1 黑褐色 10YR4/4	シルト 炭・鉱物含む	
SK21	1 黑褐色 10YR4/4	粘土質シルト 炭を多量に, 砂・土・塵を含む	
SK22	2 黑褐色 10YR4/4	粘土質シルト 炭をわずかに, 炭を含む	
SK27	1 黑褐色 10YR3/3	粘土質シルト 炭・沈を含む	
SK28	2 黑褐色 10YR2/2	シル・鉱物含む 炭・沈を含む	
SK33	1 にぼい黄褐色 10YR6/4	砂質シルト 炭を少量含む	
SK34	2 にぼい黄褐色 10YR5/3	粘土質シルト 炭を少量含む	
SK35	3 黑褐色 10YR3/2	粘土質シルト 炭を多量に含む	

第114図 10層上面の遺構(1)

形である。深さは100cmで壁の傾斜は急である。底面は平坦である。堆積土は5層に分かれ、最下層の5層に炭化したクルミ殻片が混じっている。SX4は一辺100cmの方形で、深さ40cm、底面は凹凸がある。堆積土から土器、剥片石器、剝片、礫石器が出土している。118-4は2・3層出土で、口縁部が内傾し、隆線が縦に貼付され、四段の刺突が施される。124-1は2・3層出土の不定形石器で、背面右辺に連続する二次加工が施されている。125-2は5層出土の磨石である。SX4からは凹み石(125-3)が出土している。

#### S K24土坑（第114・125図）

B-9グリッドに位置する。径100cmの不整円形である。深さは20cmで、底面は平坦である。堆積土は3層に別れ、最上層に多量に炭が含まれる。堆積土から剝片、礫石器(125-4)が出土している。

#### S K27土坑（第114・118・124・125図）

A-12グリッドに位置し、調査区外にのびる。長さ110cm、幅60cm以上で、楕円形と考えられる。深さは25cmで、底面は平坦である。堆積土は2層に分れ、炭、焼土が混じっている。底面には礫が多い。堆積土から土器、剥片石器、礫石器が出土している。118-5は注口土器である。二対の突起を持つ鉢型土器に短い注口が付く。他に石錐(124-2)、凹み石(125-5)が出土している。

#### S K29土坑（第115・119・124図）

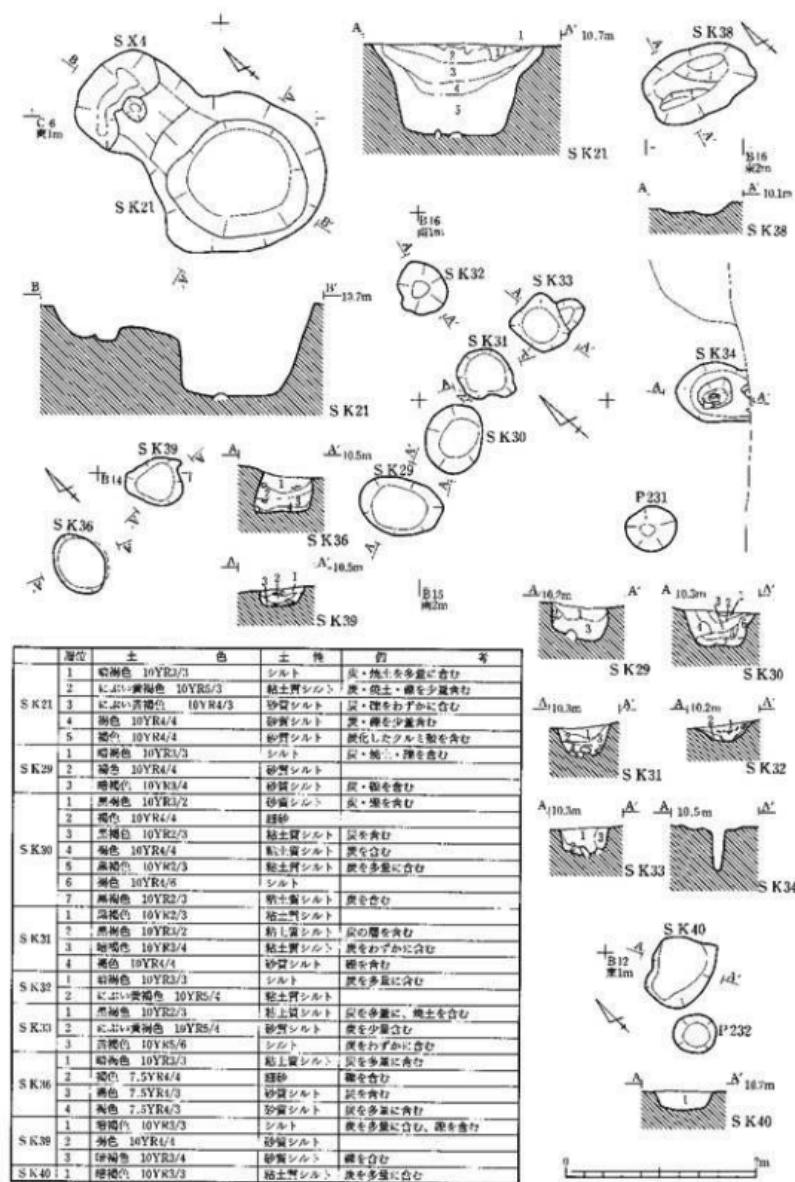
S K29~31・33の4基は一列に並んでいる。SK29はB-C-15グリッドに位置する。90×60cmの楕円形である。底面は東側が深く、最深部で35cmである。堆積土は3層に分かれ、礫が交じる。堆積土から土器、土製品、剥片石器、剝片が出土している。119-1はS字・C字状の立体的な装飾が付けられており、中期前半に位置づけられる。119-4は土製蓋で、環状のつまみがついていたものと考えられる。124-3は石錐である。

#### S K30土坑（第115・124・125図）

B-15グリッドに位置する。70×60cmの楕円形である。深さは38cmで、底面は平坦である。堆積土は7層に分かれ、5層に炭を多量に含む。堆積土から剝片石器、剝片、礫石器が出土している。124-4は不定形石器で、縦長の剝片の両側縁に二次加工が施されている。125-6は凹み石である。

#### S K31土坑（第115・124図）

B-16グリッドに位置する。径50cmの不整円形である。深さは30cmで、底面はやや凹凸がある。堆積土は4層に分かれ、4層には礫を多く含む。堆積土から、剥片石器、剝片が出土している。124-5は不定形石器で、背面左辺から端部にかけ連続する二次加工が施され、端部を尖らせている。



第115図 10層上面の構造(2)

**S K 32土坑（第115・119図）**

B・C-16グリッドに位置する。60×50cmの梢円形である。深さは20cmで、すり鉢状にくぼむ。堆積土は2層に分かれ、1層に炭を多く含む。堆積土から土器・剝片石器が出土している。119-5は外面に燃糸文が施される深鉢である。

**S K 33土坑（第115図）**

B-16グリッドに位置する。55×50cmの方形で、東にわずか張り出す。深さは30cmで、底面は平坦である。堆積土は3層に分かれ、1層に炭を多量に含む。

**S K 34土坑（第115・119・124図）**

A・B-15・16グリッドに位置し、調査区外にのびる。75以上×60cmの梢円形と考えられる。深さは5cmと浅く、深さ40cmのピットがある。堆積土は不明である。堆積土から土器・剝片石器・剝片が出土している。119-6はS K 36出土片と1グリッドおいたB-17出土片と接合している。124-6は石鏡で、基部の一部を欠く。

**S K 35土坑（第114・120図）**

B-17グリッドに位置し、S K 38より新しい。90×80cmの不整三角形である。底面は長軸方向に下がっており、深さは最大15cmである。堆積土は3層に分かれ、最下層に炭を多量に含む。堆積土から土器が出土している。120-1は体部にワラビ手文が描かれる。2は体部上半の外反する土器で、口縁部は肥厚し沈線が引かれ、体部は長方形の区画が並んで描かれる。

**S K 36土坑（第115・120・124図）**

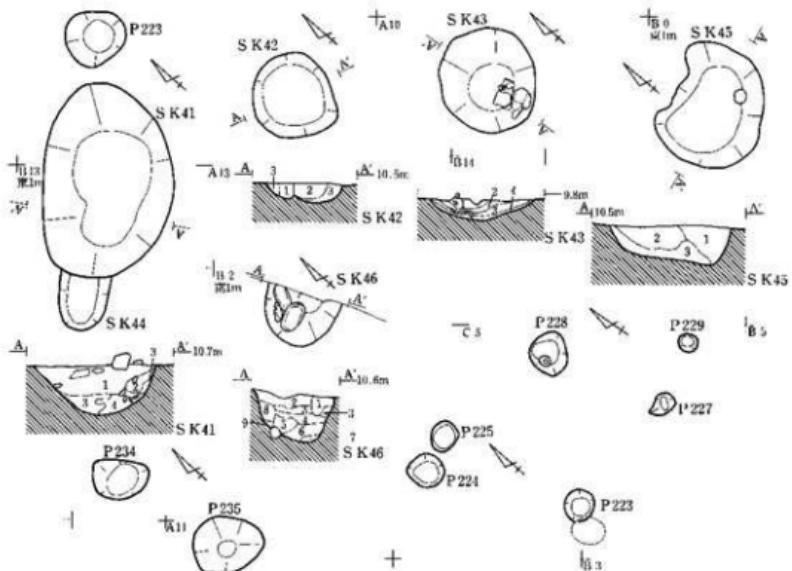
B・C-14グリッドに位置する。70×50cmの梢円形である。壁は直立に近く、一部はオーバーハングしている。深さは45cmで、底面は平坦である。堆積土は4層に分かれ、最下層は炭化物層である。堆積土から土器・剝片石器・剝片が出土している。120-5は口縁部に鱗状降線が貼付され、その区画内に横長梢円形の沈線文が描かれる。124-7は不定形石器で、横長の剝片の端部に二次加工が施されている。

**S K 38土坑（第114・120・121図）**

B-17グリッドに位置し、S K 35より古い。110×70cmの梢円形である。底面は凹凸があり、最深部で12cmである。堆積土は不明である。堆積土から土器が出土している。120-7は体部下端に隆線がめぐる。121-1はB-17グリッド9層出土片が主で、土坑出土片が接合している。二対の環状把手を持つ深鉢である。口縁部はゆるやかな波状で、口縁外面にC字状の隆線が貼付される。口縁下部には刻みを持つ隆線が巡り、体部には丁字状・三角形の沈線文が描かれる。

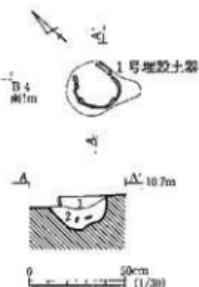
**S K 39土坑（第115図）**

B-14・15グリッドに位置する。60×50cmの不整梢円形である。深さは18cmで、底面は平坦である。堆積土は3層に分かれ、礫を含んでいる。



部位	土色	性 質	備 考
SK41	1 黄色 10YR4/4 2 红褐色 10YR4/3 3 棕褐色 10YR4/1 4 に2-4.黄褐色 10YR5/4	粘土質シルト 砂質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	褐色透明白色とブロックを含む 砂を多く含む 灰土質シルト 砂を含む
SK42	1 黄褐色 10YR3/4 2 棕色 10YR4/4 3 に2-4.黄褐色 10YR5/4	粘土質シルト 砂質シルト 粘土質シルト	砂を多量に含む 灰・砂を含む 砂を含む
SK43	1 黄褐色 10YR3/1 2 棕色 10YR4/4 3 黄色 10YR2/2	砂質シルト 砂 灰化物の層	砂を多量に含む 灰・砂を多量に含む 砂を含む
SK45	1 黄褐色 10YR3/4 2 に2-4.黄褐色 10YR4/3 3 に2-4.黄褐色 10YR5/4	粘土質シルト 粘土質シルト 砂質シルト	に赤褐色土上ブロックを含む 砂を多量に含む 砂を含む
SK46	1 明黄色 10YR6/8 2 黄色 10YR4/4 3 に2-4.黄褐色 10YR5/4 4 棕色 10YR4/4 5 に2-4.黄褐色 10YR5/4 6 棕色 10YR4/4 7 に2-4.黄褐色 10YR5/4 8 に2-4.黄褐色 10YR6/4 9 に2-4.黄褐色 10YR6/4	砂質シルト 砂質シルト シルト 砂質シルト 砂質シルト 砂質シルト 砂質シルト シルト 砂質シルト	褐色土・次第新土を含む 灰・砂を多量に含む 灰を含む 砂を多量に含む 砂をわざかに含む 灰を非常に多く含む 灰をわざかに含む 灰を含む 砂を含む
1号地盤	1 黄色 10YR4/4 2 红色 7.5YR4/6	シルト 粘土質シルト	灰・砂を含む 灰・鐵上を含む

0 1m (1/30)



第116図 10層上面の遺構 (3)

**S K 40土坑（第115・122図）**

B-12・13グリッドに位置する。75×60cmの楕円形である。深さは20cmで、底面は平坦である。堆積土は1層である。堆積土から土器が出土している。122-1・2は突起を持つもので、縁線が貼付される。

**S K 41土坑（第116・123図）**

B-13・14グリッドに位置し、S K 44より新しい。205×140cmの楕円形である。深さは50cmで、底面は皿状である。堆積土は4層に分かれ、疊を含んでいる。堆積土から土器、剝片か削土している。123-1は大部分がB-11グリッドの9 b層から出土しており、土坑出土片が接合している。口縁部がやや内湾する深鉢型土器で、R撫糸文の地文の上に蛇行沈線文が描かれる。

**S K 42土坑（第116図）**

B-10グリッドに位置する。径90cmの円形である。底面はやや凹凸があり、最深部で20cmである。堆積土は3層に分かれれる。

**S K 43土坑（第116・122図）**

B・C-15グリッドに位置する。径110cmの円形である。深さは22cmで、底面は皿状である。堆積土は4層に分かれ、最下層は炭化物層である。堆積土から土器が出土している（122-4・5）。

**S K 44土坑（第116図）**

B-13グリッドに位置し、S K 41より古い。60以上×50cmの楕円形と考えられる。深さは17cmである。堆積土は不明である。

**S K 45土坑（第116図・122～126図）**

B-0グリッドに位置する。125×110cmの楕円形である。底面は西に向かい下がっており、最深40cmである。堆積土は3層に分かれれる。堆積土から土器、土製品、剝片石器、剝片、礫石器が出土している。122-6は撫糸文の施文される深鉢の下半部である。大部分はB-17グリッド9 b層から出土しており、土坑出土片が接合している。土器片が約50m離れて接合している例である。123-2は土製円盤である。124-8は石鐵で基部の一部を欠く。125-7は大型の磨石で、126-1は凹みと敲打痕を持つ礫石器である。

**S K 46土坑（第116・124・126図）**

B-2グリッドに位置し、調査区外にのびる。55以上×80cmの楕円形と考えられる。深さは60cmで、底面は皿状である。堆積土は7層に分かれ、6層に多量の炭を含んでいる。堆積土から剝片石器、底面から石皿が出土している。124-9は不定形石器で、剝片の端部と側縁に二次加工が施される。126-2は底面出土の石皿である。一部を欠く。縁辺の一部を敲打している。底部にある磨面は使用時に擦れた部分であろう。

## 1号埋設土器 (第116・117図)

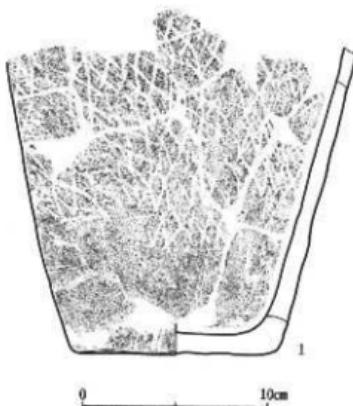
B-4グリッドに位置する。深鉢型土器の下半部が正位に据えられている。土器には網目状燃糸文が施文されている。

## ピット (第114~116・123・124図、第17表)

ピットは12個検出されている。柱痕跡は確認されなかった。ピット231から土器、剥片石器、剥片が出土している。123-3は口縁部が外半し、体部には刺突が施される。124-10は石錐である。

第17表 10層上面のピット計測表

番号	長径	短径	厚さ(cm)	土色・土性			番号	長径	短径	厚さ(cm)	土色・土性		
				上	中	下					上	中	下
221	58		20	褐色	10YR4/4	シルト	228	48	40	25	褐色	10YR4/4	シルト
				に赤い青褐色	10YR5/4	砂質シルト	229	18	21	23	褐色	10YR4/4	砂質シルト
223	30	(30)	11	褐色	10YR4/4	砂質シルト	231	54	48	49	(不明)		
224	38		8	褐色	10YR4/4	砂	232	42	32	22	(不明)		
225	34		9	褐色	10YR4/4	砂質シルト	233	64	58	25	(不明)		
226	42	26	15	褐色	10YR4/4	シルト	234	58	42	20	(不明)		
227	30	22	31	褐色	10YR4/4	砂質シルト	235	24	56	16	(不明)		



分類	底径	特 徴	登記
深鉢	10.6cm	網目状燃糸文 底:網代底(マメフ)	A72

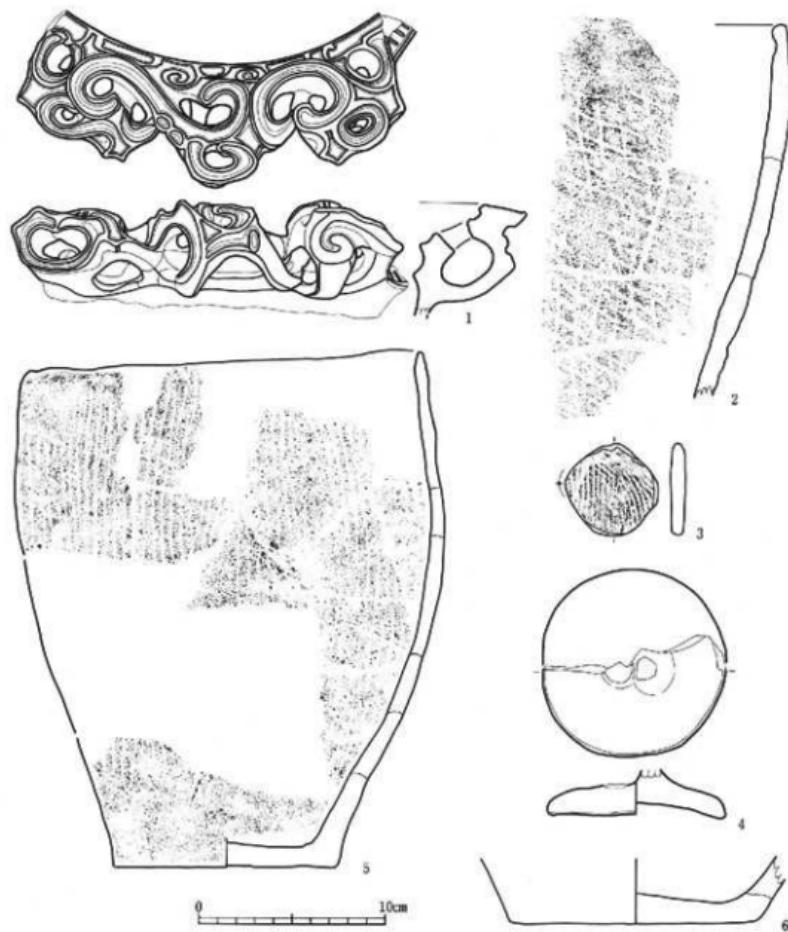
第117図 1号埋設土器

12 10層上面の遺構と遺物



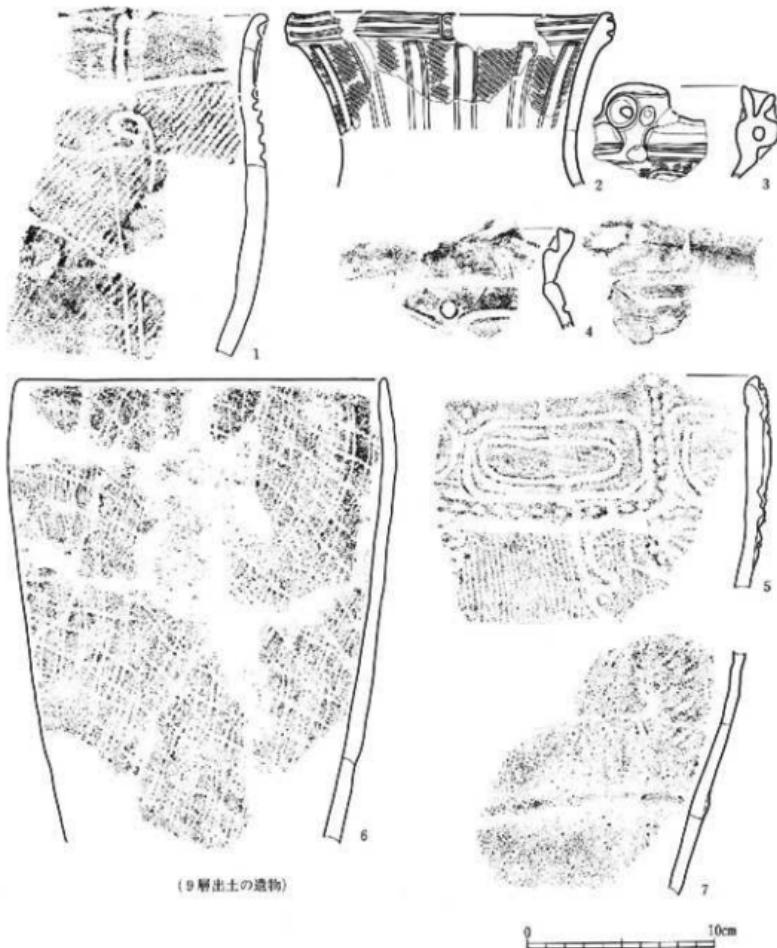
遺構	分類	特 徴	場合	規 格	遺 構	分類	特 徴	場合	性 質
1. SK1342	骨棒玉	丸形、表面、L.K.縫合、沈埋	1E	A31	4 SK21	骨棒玉	縫合、側面、沈埋	8 A23	
2. SK1343	骨棒玉	丸形、側面、L.K.縫合	6 A46		5 SK27	骨棒玉器	側面、L.K.縫合、内外に研磨面	1 A37	
3. SK1408	土鏡円鏡	30×28×5.3mm 11.6g	P31						

第118図 10層の遺構出土遺物（1）



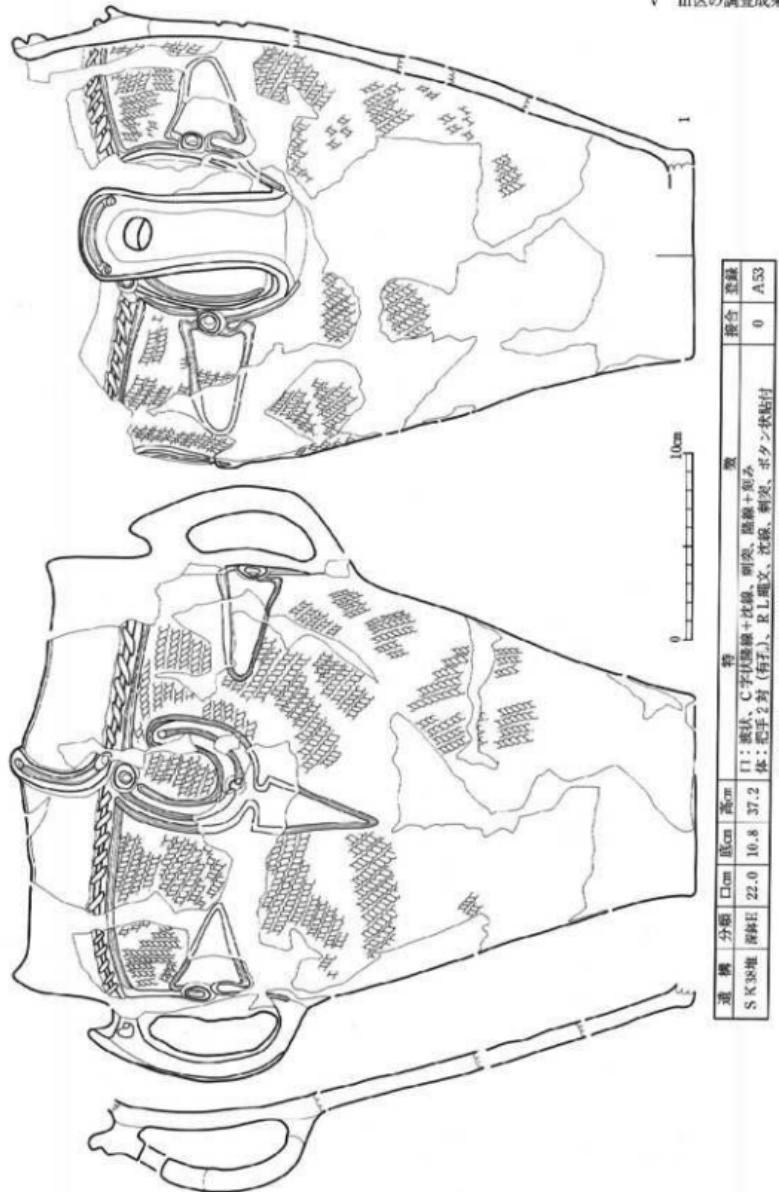
遺構	分類	寺 層	組合	登 場	法 統	分類	寺 層	組合	登 場
1 SK29E 2	漆跡	印手(捺文、S字紋)	0	A096	4	SK29地	面	0	144E2.5cm. つまみ漆器
2 SK29地	漆跡G	明日状捺赤文	0	A258	5	SK34±1	漆28G	1	120.0mE11.8mN28m. 朱漆高文
3 SK29地	土壤印痕	約5×30×8cm 23.1g 反側	F88	6	SK34±36	底	13.3cm	2	A205

第119図 10層の遺構出土遺物（2）

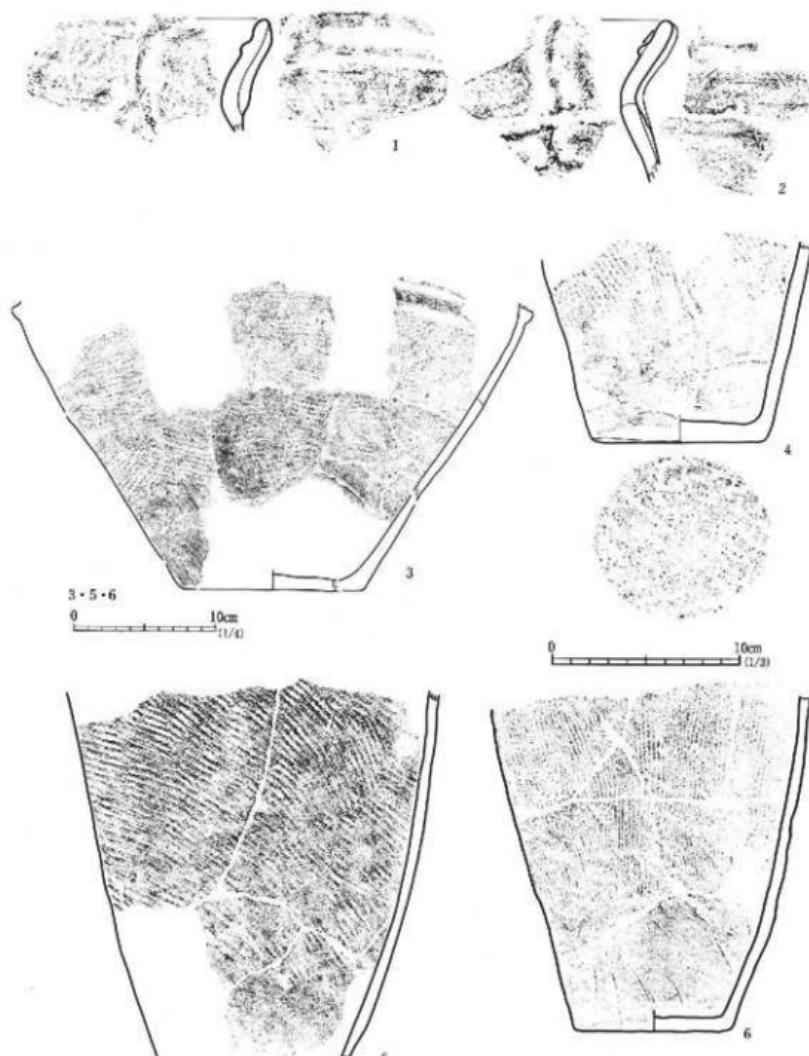


第120図 10層の遺構出土遺物（3）

法 種	分 類	野 場 図	組 合	亞 組	遺 墓	分 類	特 徴	度	生 殻
1 SK35地	陶器片	波状、網目、沈底、L.R.縦文	2	A349	5 SK30地	網目G	尖底、圓底、網目、沈底、R.西	8	A38
2 SK35地	灰陶C	C16.深、網目、沈底、L.R.縦	0	A63	6 B16.地	網目G	C.20cm、網目状縦条文（2-1本）	8	A79
3 SK36地	陶器	尖底、網目、沈底、L.R.縦文	3	A409	7 SK38地	網目	L.R.縦文、網目、尖底	8	A155
4 SK36地	陶器B	尖底、網目、沈底、L.R.縦文	0	A241					

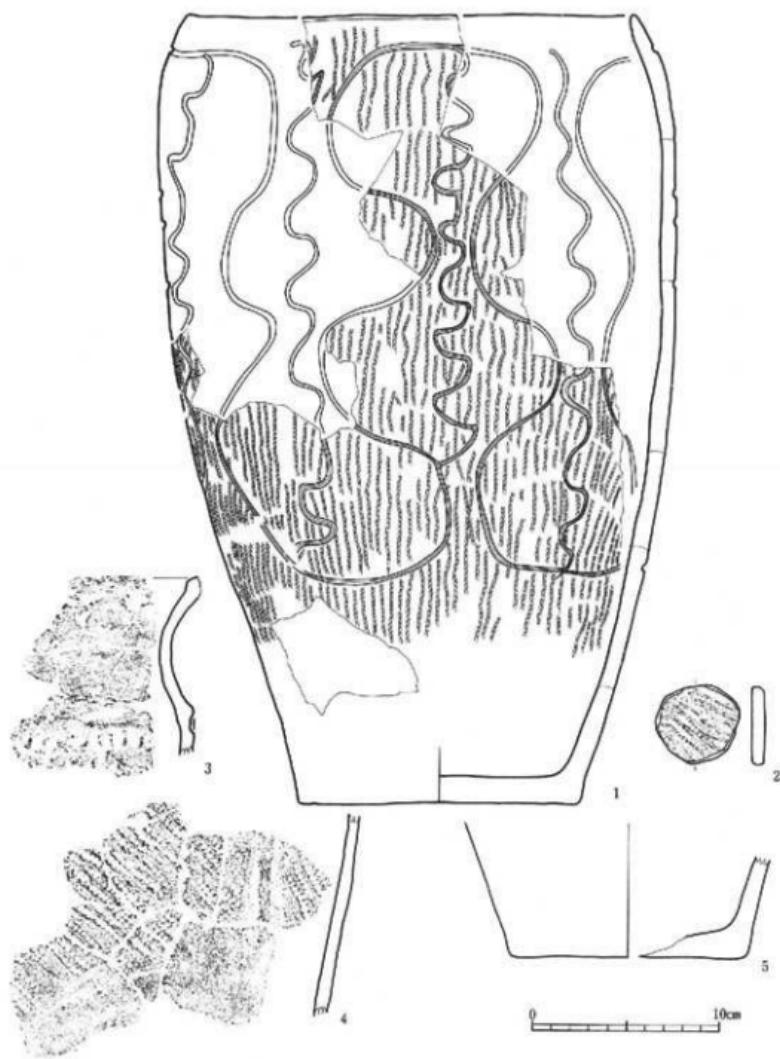


12 10層上面の造構と造物



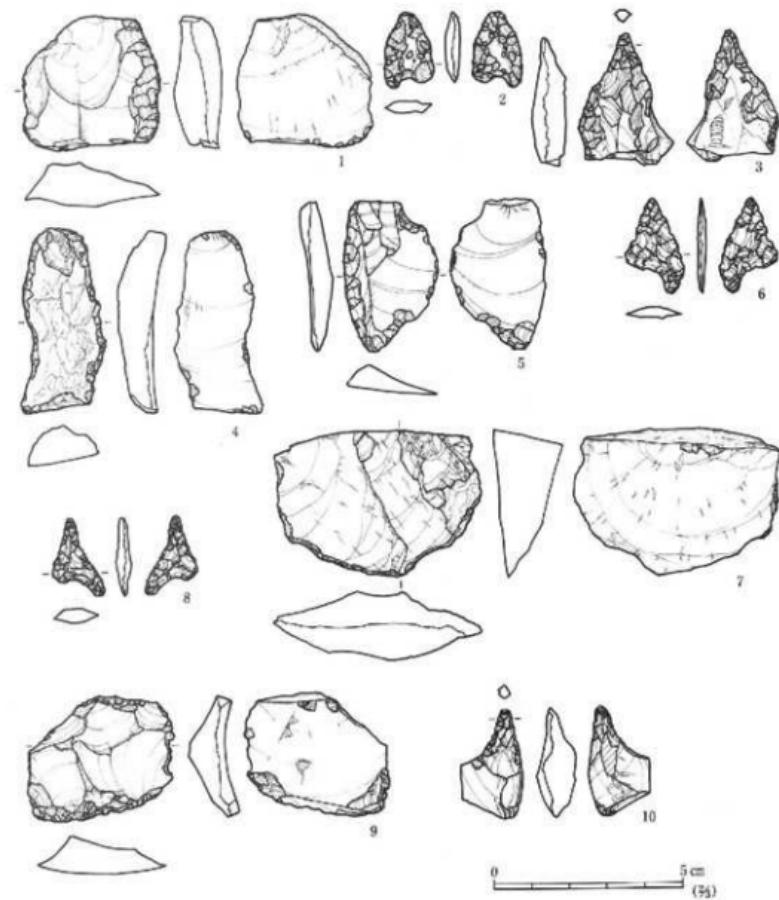
北 横	分 類	特 性	接合	金 属	遺 墓	分 類	特 性	接 合	金 属
1 SK40#1 実錐貝	尖端、鈎歯、出脚、灰土褐色	0	A243	4 SK43#1 鋼鉄 長さ2cm、R鉄赤文、鈎代灰	1 A129				
2 R-B-I#1 L5 深錐貝	I型同一個体、黒土褐色	0	A243	5 SK42#4 鋼鉄 L-R鉄文（5箇所赤文）	2 A78				
3 SK32#46 甲?	幅10mm、輪郭+刻み、L-R鉄文 内外赤形?	0	A25	6 SK45#1 鋼鉄 E鉄赤文 B17 L-R鉄ボルト 体	17 A156				

第122図 10層の造構出土遺物（5）



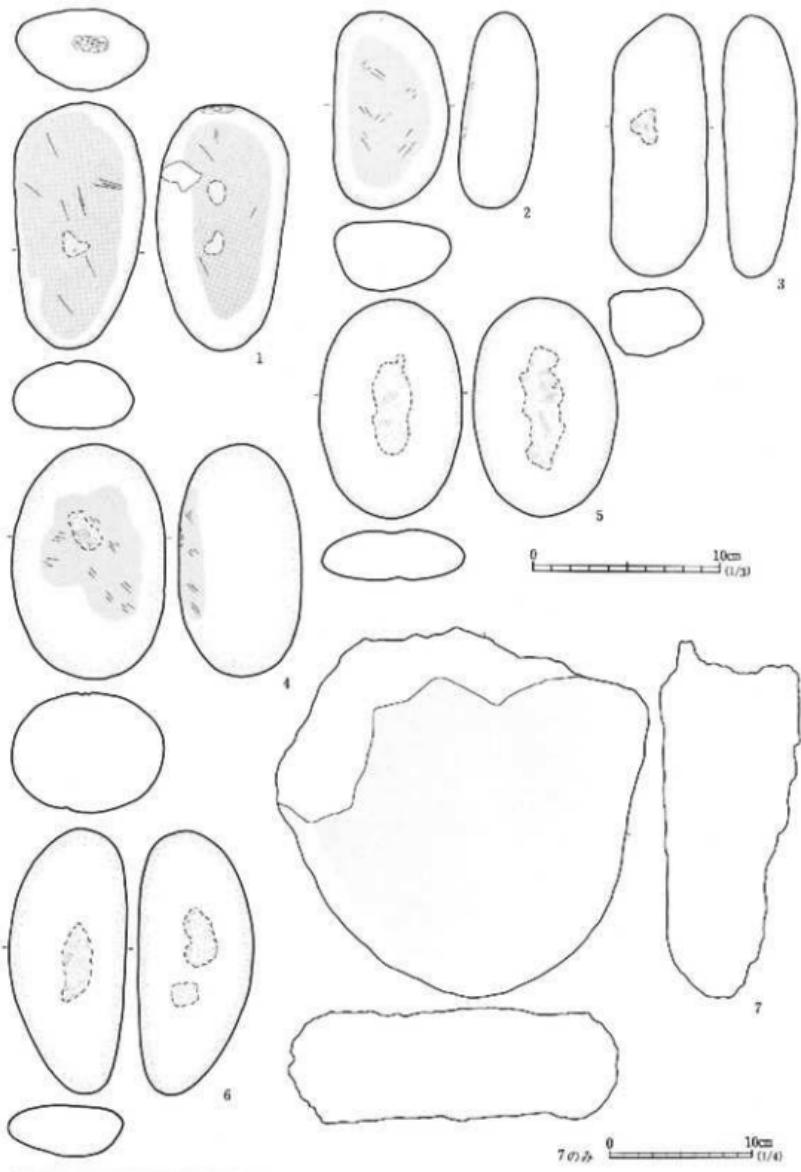
通 個	分 類	製 造	直 径	高 度	存 在	通 個	分 類	物 体	直 径	高 度	存 在
1 SK41堆	埋蔵H	又濃丸文、武進				2 A16	4 P221	陶片			
2 SK45堆	土器中盤	35×45×7cm 17.7kg	35cm	7cm	又濃丸文、3と同	0 P6	5 P233	陶片	17.4cm		0 A272
3 P221	埋蔵D	鉢底、斜面、泥土褐色				0 A272					0 A196

第123図 10層の遺構出土遺物（6）



品種	分類	形態	大きさ	厚さ	長さ	石材	効用	品種	分類	形態	大きさ	厚さ	長さ	石材	効用
1 SK2143	下部磨T.B	13.7 37.7 1.1	17.4	0.6	石質貝物	Ka74	6 SK3422	下部T.A	25.3 15.3 2.5	0.6	縫合長石	Ka127			
2 SK2798	下部T.A	20.1 19.9 3.7	0.5	0.6	石質貝物	Ka85	7 SK3606	下部T.B	36.7 41.4 16.4	22.4	縫合石	Ka129			
3 SK3999	下部	37.5 34.8 8.7	6.1	0.6	石質貝物	Ka109	8 SK4596	下部T.A	27.5 12.5 2.9	0.6	縫合貝物	Ka138			
4 SK3999	下部磨VI	50.2 26.5 9.5	10.5	0.6	石質貝物	Ka109	9 SK4600	下部磨VI	43.8 32.4 9.5	16.9	縫合貝物	Ka138			
5 SK3149	下部磨VI	40.2 24.9 6.2	0.2	0.6	石質貝物	Ka109	10 22.6	石	29.2 12.8 9.9	3.0	縫合貝物	Ka129			

第124図 10層の遺構出土遺物（7）



品種	分類	長さ cm	幅 cm	厚さ mm	重さ g	石 材	出 見	品種	分類	長さ cm	幅 cm	厚さ mm	重さ g	石 材	出 見
1 SK144-2	3段+筋+頭	11.1	6.8	3.6	343	安山岩	Kc11	3 SK23埋	1A 破壊	11.6	7.5	2.6	376	安山岩	Kc10
2 SK244-5	3 筋	10.3	6.8	2.7	270	石英安山岩	Kc1	6 SK30埋	1B 破壊	14.1	6.1	2.7	360	安山岩	Kc20
3 SK4-4	1段 四隅	14.0	3.1	3.5	380	石英安山岩	Kc45	7 SK35埋	2B	25.4	24.7	7.8	7100	安山岩	Kc102
4 SK244-6	2段 縞	12.6	8.0	6.4	490	安山岩	Kc28								

第125図 10層の遺構出土遺物 (8)

第126図 10層の遺構出土遺物 (9)



1	遺構	分類	Han	周長	幅	厚	形	質	分	面	Han	周長	幅	厚	形	質	分	面	Han	周長	幅	厚	形	質
1	S.K.688	2	筒+縁	17.6	8.3	6.5	1410	粘土質	KC13	2	5.605	6.93	25.6	7.7	3600	粘土質	KC19							

### 13 基本層出土遺物

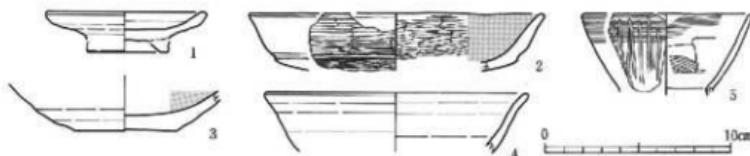
3層 ロクロ土師器壺、非ロクロ土師器壺・壺が出土している。

4a層 ロクロ土師器高台壺・壺、非ロクロ土師器壺・壺、赤焼土器壺、須恵器壺が出土している。

4b層 (第127図) ロクロ土師器壺 (127-3)、非ロクロ土師器壺・壺、赤焼土器壺・高台壺、須恵器壺・壺が出土している。

4c層 (第127図) ロクロ土師器壺・高台壺、非ロクロ土師器壺 (127-2)・壺、赤焼土器高台壺 (1)、須恵器壺 (4)・壺が出土している。

5層 (第127・130図) 非ロクロ土師器壺または壺 (127-5)・壺、須恵器壺、砾石器 (130-7・8) が出土している。5は古墳時代前期頃のものかと考えられる。砾石器は凹み石である。



番号	原位	地図	種類	形	口径	裏模	断面	保存	特	電	色
1	4c層	B13	赤焼土器高台壺	8.6			1/2		内外: ロクロナデ 武: 回転糸切り 高台剥離	D8	
2	4c層	A9	土器壺	15.9			1/4>		外: ヘラミガキ 内: ヘラミガキ、黒色の膜	C35	
3	4b層	B13	土器壺	5.5			1		外: ロクロナデ 内: ヘラミガキ、黒色の膜 武: 回転糸切り	D8	
4	4c層	B4	須恵器壺				1/4>		内外: ロクロナデ	E15	
5	5層	A13	土器壺				1/4>		外: フコナデ、ヘラミガキ 内: フコナデ、ナデ	C36	

第127図 4・5層出土遺物

6層 (第129~131図) 非ロクロ土師器壺、縄文土器、石器が出土している。6層は上面に縄文時代の遺構があるので、縄文時代の堆積層と考えられ、古代の遺物については何らかの理由で混入したものであろう。129-1・2は6層上面の倒木痕から出土しており、本来の所属層位は不明である。2は胸上部が内傾するもので、口縁部と胸部にそれぞれ二列の刺突文が施され、その間にスペード状の沈線文が描かれる。130-2は刺片の上下に敲打痕(スクリーン・トーン)がみられる。他に凹み石 (131-1・2) が出土している。

7層 (第129・130図) 非ロクロ土師器壺・壺、縄文土器、石器が出土している。6層以下は縄文時代の堆積層であるため、古代の遺物は何らかの理由で混入したものであろう。130-3は尖頭器、4は石錐、5・6は不定形石器であり、5は腹面の打面も含めた両側縁に二次加工が施される。

8層 (第131~135図) 縄文土器、石器が出土している。131-3は刺突文が二段にわたり施さ

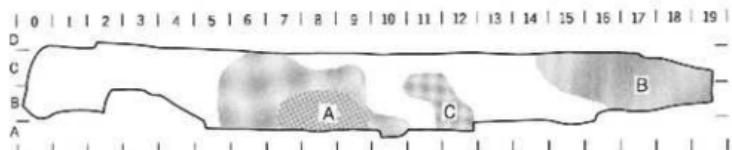
れ、129-2に似る。4・7は隆線が施される。6は鉢型土器の体部かと考えられ、磨消繩文による文様が描かれている。132-3は体部下端に隆線が巡る。第133・134図は剝片石器、第135図は礫石器である。

**9層（第128・136～200図）** 繩文時代後期初頭の遺物包含層である。この層は調査区全体に分布する9a層以外は部分的な堆積である。9a-2層はB-14とC-12のグリッドを結ぶ線から東側が河川の影響のため、北側に傾斜する一部に分布する層であり、9b層はS I 4付近とB-4とC-11のグリッドを結ぶ線から19ラインまで分布する層である。遺物は各層から出土しているが、特に炭化物を多量に混入、あるいは炭化物のみの層である9b層から多量に出土している。その出土状況は層中及び層理面に沿って、一括遺物、大形の破片などが一定の面をなした状態で、あるいは折り重なった状態で出土している。遺物が特に集中する地点は3箇所あり（第128図）、調査区中央のA地点と東端の北側に傾斜するB地点が特に多く、その間のC地点がそれに次ぐ。土器は同グリッド内で接合するものがもっとも多く、離れていてもほとんどが同一集中地点内で接合している。接合の距離については、観察表の「接合」に記載している。同一グリッド内の接合を0とし、隣接するグリッドとの接合を1、さらにグリッドが離れるごとに2、3、4…と示した。

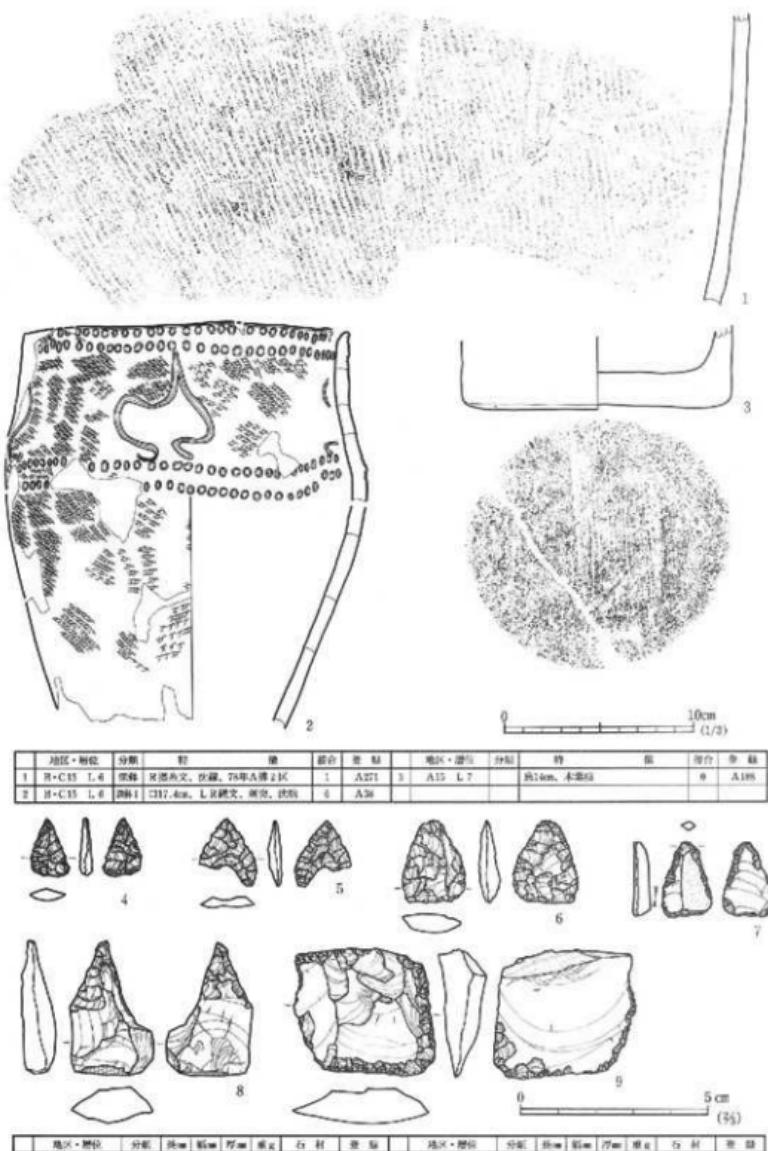
剝片石器は剝片も含めて約1000点出土しており、そのうち144点を図化している。礫石器は約100点出土しており、そのうち80点を図化している。199-7は蛇紋岩製の大形磨製石斧である。I区（41-1）と78年調査区から同様の石斧が出土している。

**10層（第201～203図）** 繩文土器、石器が出土している。201-1は注口土器である。二対の突起を持ち、一つは注口と一体である。器形はソロバン玉状で、体部上半に三角形状の区画がなされ、内部に細沈線が充填される。201-6は口縁部に隆線が貼付され、直下に角形の刺突が二段施される。202-1は体部上半に隆線による方形の区画がなされ、202-3は体部下端に隆線が巡る。203-3～8は剝片石器である。礫石器は188-5、190-6、195-6、196-3・6、200-5～7である。

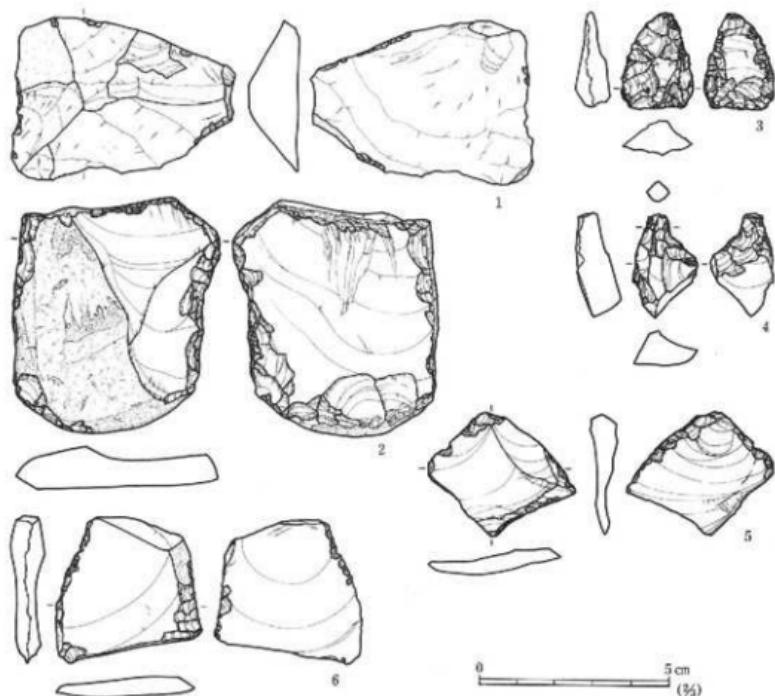
**土製円盤（第204～206図）** 7～10層から出土しており、9層からは135点出土している。



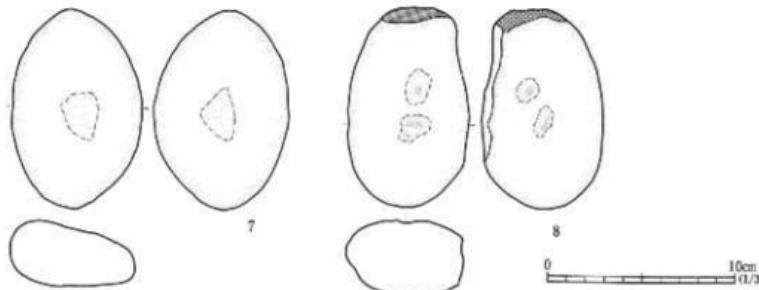
第128図 9層の遺物集中地点



第129図 6・7層出土遺物

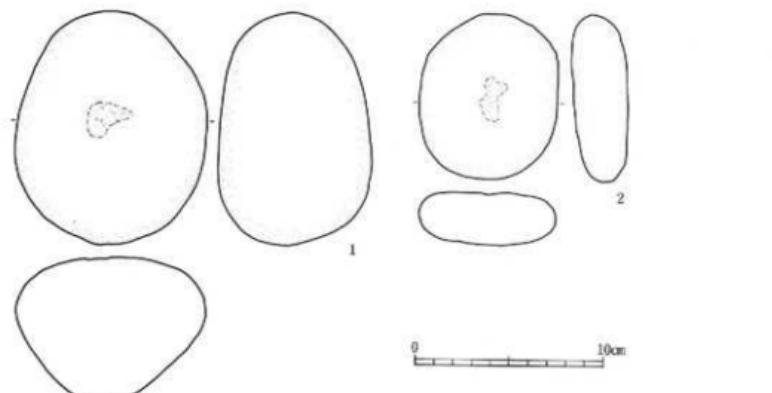


	地區・層位	分類	長cm	幅cm	厚cm	重g	石材	形狀	地區・層位	分類	長cm	幅cm	厚cm	重g	石材	形狀	
1	B+C15 L.6	石核	60.0	48.4	13.7	31.0	鵝卵石	Ka208	4	B12 L.7	石核	27.1	16.7	9.4	3.4	鵝卵石	Ka104
2	B+C15 L.6	石核	58.1	61.9	18.5	65.8	鵝卵石	Ka307	5	B10 L.7	石核	39.3	32.3	6.7	4.6	鵝卵石	Ka106
3	A11 L.7	尖圓器	26.0	28.7	9.0	3.2	鵝卵石	Ka305	6	C6 L.7	不規則	45.3	42.0	7.5	29.8	鵝卵石	Ka107

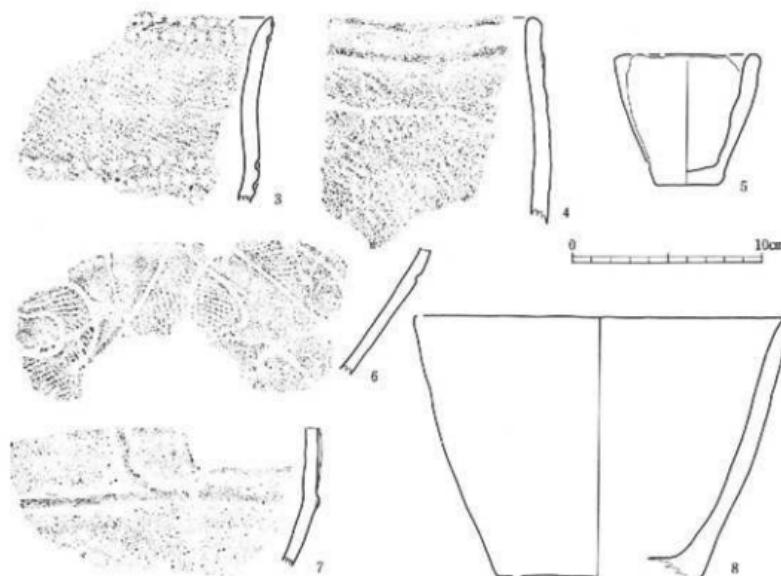


	地區・層位	分類	長cm	幅cm	厚cm	重g	石材	形狀	地區・層位	分類	長cm	幅cm	厚cm	重g	石材	形狀	
7	A10 L.5	IIB 不規	10.7	2.0	2.2	360	鵝卵石	Ke205	8	C15 L.5	II	16.8	4.5	4.0	430	鵝卵石	Ke215

第130図 5・6・7層出土遺物



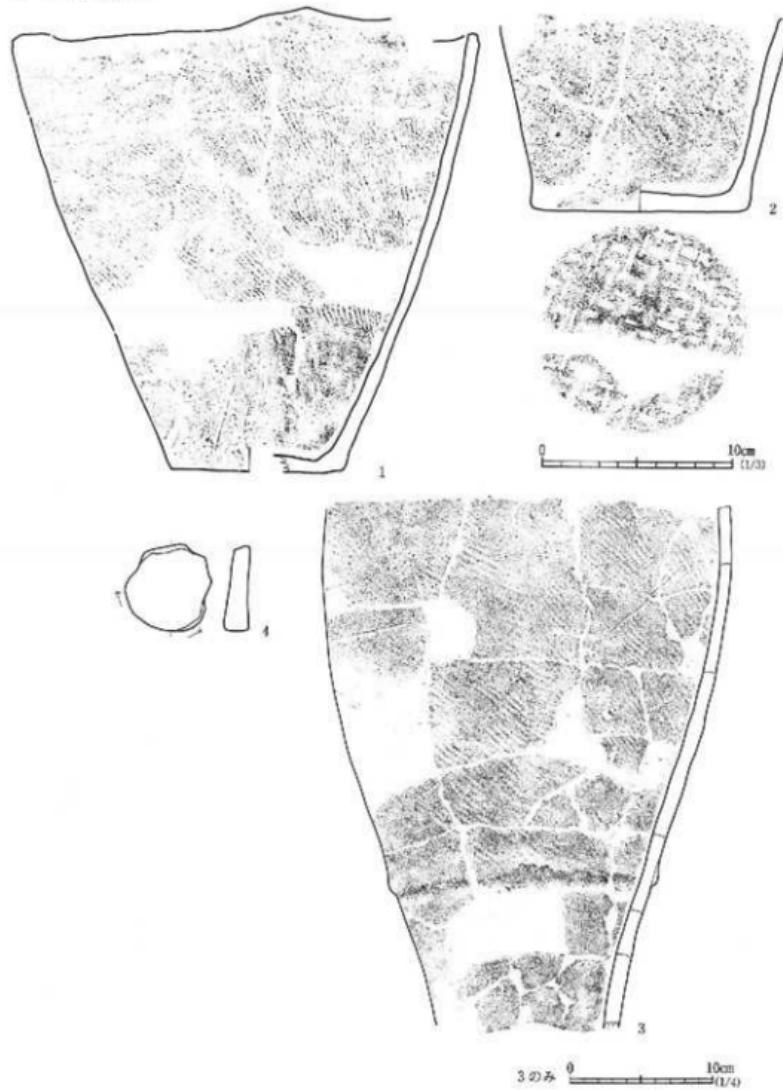
地区・層位	分類	形	径cm	厚cm	重g	石	材	性質	地区・層位	分類	形	径cm	厚cm	重g	石	材	性質
1 C11 L.6	1B 土器	12.4	10.2	2.8	1150	泥質陶	粘土	KoSe	2 H.17 L.6	1B 土器	8.9	7.7	2.6	530	泥質陶	粘土	ReSe



地区・層位	分類	形	径cm	厚cm	重g	石	材	性質	地区・層位	分類	形	径cm	厚cm	重g	石	材	性質
3 B-C10-II L.8	漆器	L.R.陶文、刻文				0	A230	6	B-C10-II L.8	漆器	L.R.陶文、模彫				2	A370	
4 B-C14 L.8	漆器	陶文、L.R.陶文				0	A356	7	B-C10-II L.8	漆器	模彫				3	A351	
5 B6 L.8	小形	ナフ				1	A214	8	C10 L.8	陶	L.有字				2	A328	

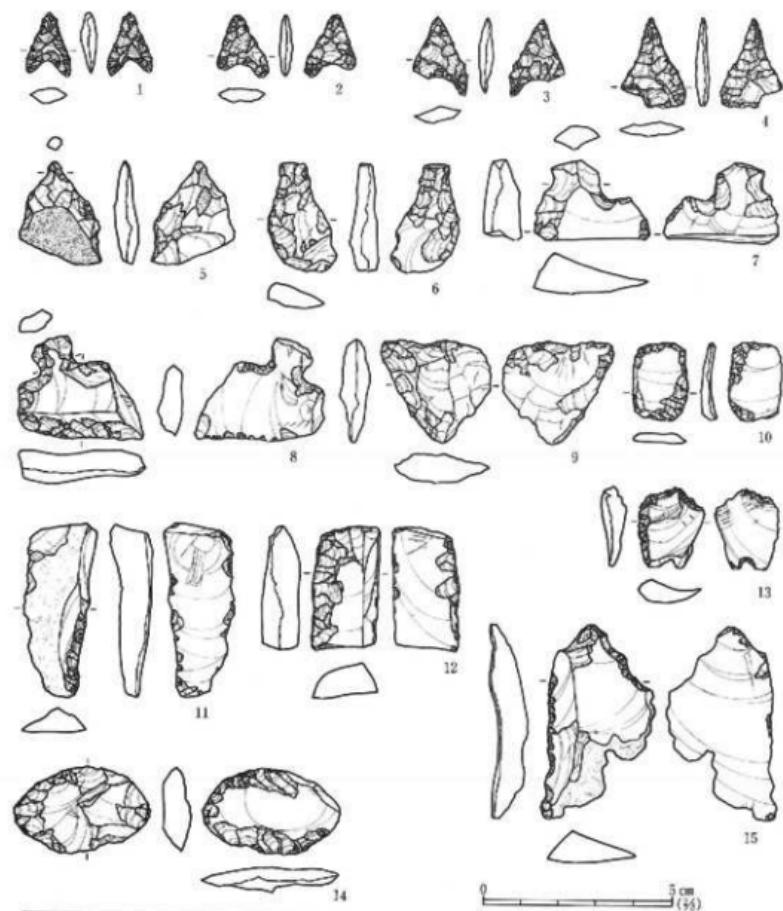
第131図 6・8層出土遺物

13 基本層出土遺物



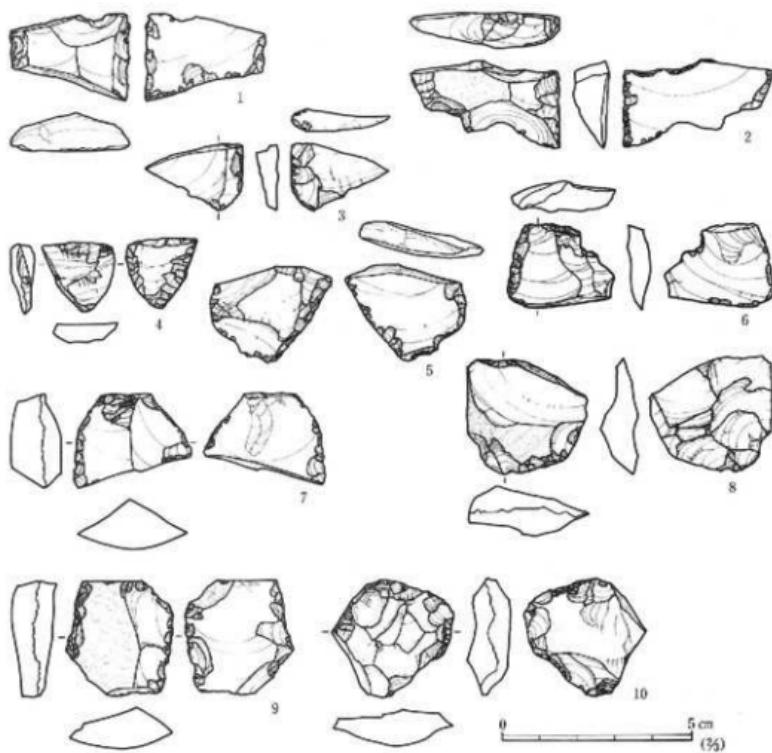
第132図 8層出土土器

地区・部位	分組	特 徴	個 数	組合	年 代	地 域	地区・部位	分組	特 徴	個 数	組合	年 代
1 B9 L8	28F	口74.3 高24.6cm 茶畠赤文	0	A84	3	B-C10-II	L8	38F	上灰褐色、毫毛、六瓣下垂壓定	0	A21	
2 A10 L9	28F	底11.3cm 茶文、新代灰	0	A113	4	B-C10-II	L9	29F	48×47×30cm 29.4kg	6	P118	



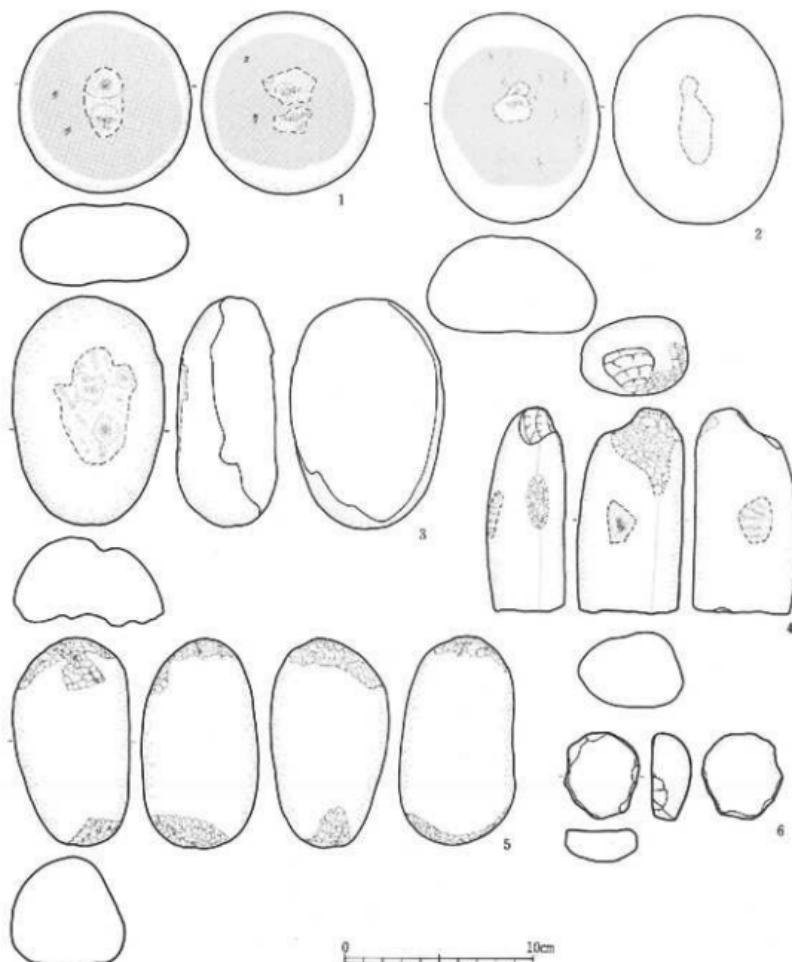
地 区	分 類	長 mm	幅 mm	厚 mm	重 g	石 材	特 徴	登 記
1 B・C10+11	石器 I A	16.4	11.8	4	0.5	珪質頁岩		Ka252
2 C14	石器 I A	16.5	13	3.5	0.4	鈍石英		Ka1381
3 C12	石器 I A	20.7	14.2	3.7	0.6	珪質頁岩		Ka1380
4 B11	石器 I B	23.4	16.6	3.5	0.9	珪質頁岩		Ka1378
5 B12	石器	28.8	21	5.7	2.7	珪質頁岩	板狀	Ka1385
6 A 8	石器	30.3	16.9	7.4	3.2	珪質頁岩		Ka1584
7 A10	石器	21.2	30.5	9.5	4.8	珪質頁岩		Ka1386
8 C12	石器 II	34.8	27.5	7.5	7	珪質頁岩		Ka1387
9 B13	不定形 I A	31.1	27.6	7.5	5.2	珪質頁岩		Ka1383
10 B12	不定形 I B	20.6	14.1	3.1	1	珪質頁岩		Ka1391
11 B12	不定形 I B	46.8	18.4	10	7.6	珪質頁岩		Ka1388
12 B16	不定形 I B	36.6	27	9.2	7.6	珪質頁岩		Ka1394
13 C 5	不定形 II	21.1	16.5	4.9	1.5	珪質頁岩		Ka1397
14 C12	不定形 I C	36.3	22.8	6.4	5.1	珪質頁岩		Ka1399
15 B12	不定形 III	52.9	30	8.2	9.5	珪質頁岩		Ka1389

第133図 8層出土剥片石器（1）



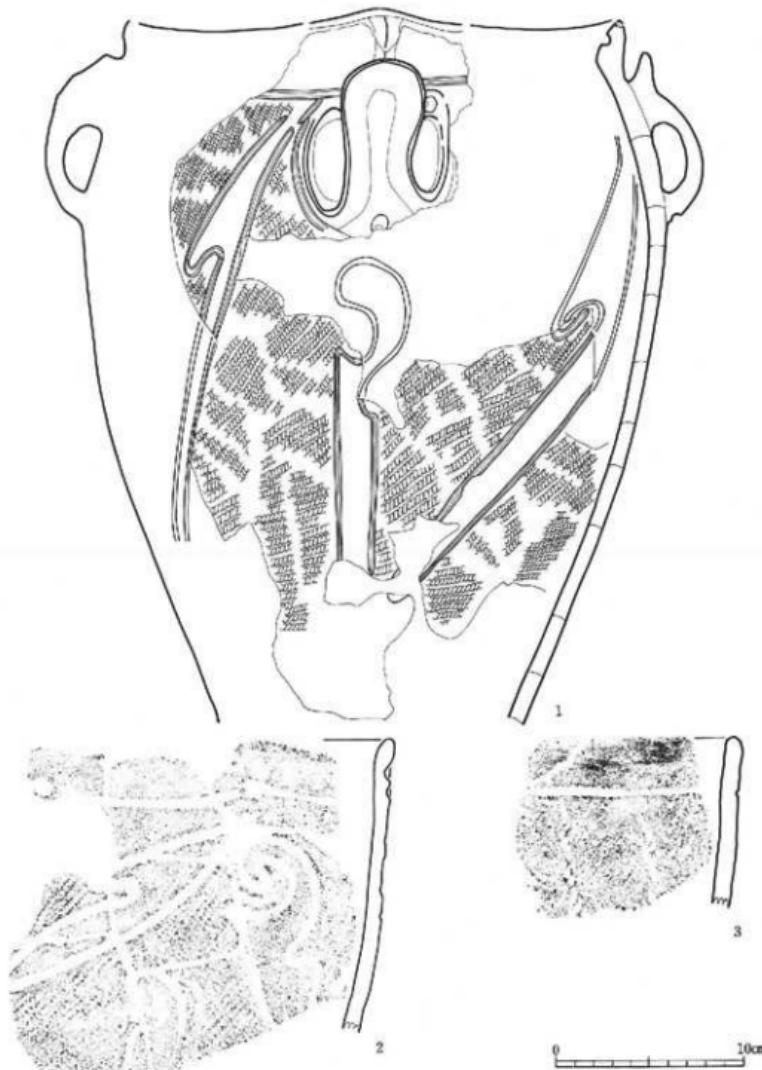
地 区	分 類	長mm	幅mm	厚mm	重g	石 材	特 殊	登 錄
1 B12	不定形IV	36	27.8	10.3	7.4	珪質頁岩		Ka1390
2 C2+3	不定形IV	44.3	25.1	9.9	7.9	珪質頁岩		Ka1396
3 C6	不定形IV	25.5	17.8	5.9	1.6	珪質頁岩		Ka1398
4 B+C10+11	不定形IV	20.6	18.6	5.2	1.9	珪質頁岩		Ka253
5 B12	不定形IV	33.5	25.2	6.1	5.2	珪質頁岩		Ka1392
6 C14	不定形IV	29.5	25.2	7.5	4.9	珪質頁岩		Ka1400
7 B12	不定形VI	32.8	22	12.8	8.5	珪質頁岩		Ka1393
8 B+C17+18	不定形VI	35.9	32.2	13.6	8.7	珪質頁岩		Ka1395
9 A8	凹極側壁狀	36	29.8	11.9	10.4	珪質頁岩	一対の凹極側壁状	Ka1405
10 B+C10+11	凹極側壁狀	32.9	31.3	9.7	9.1	珪質頁岩	二対の凹極側壁状	Ka255

第134図 8層出土剝片石器（2）



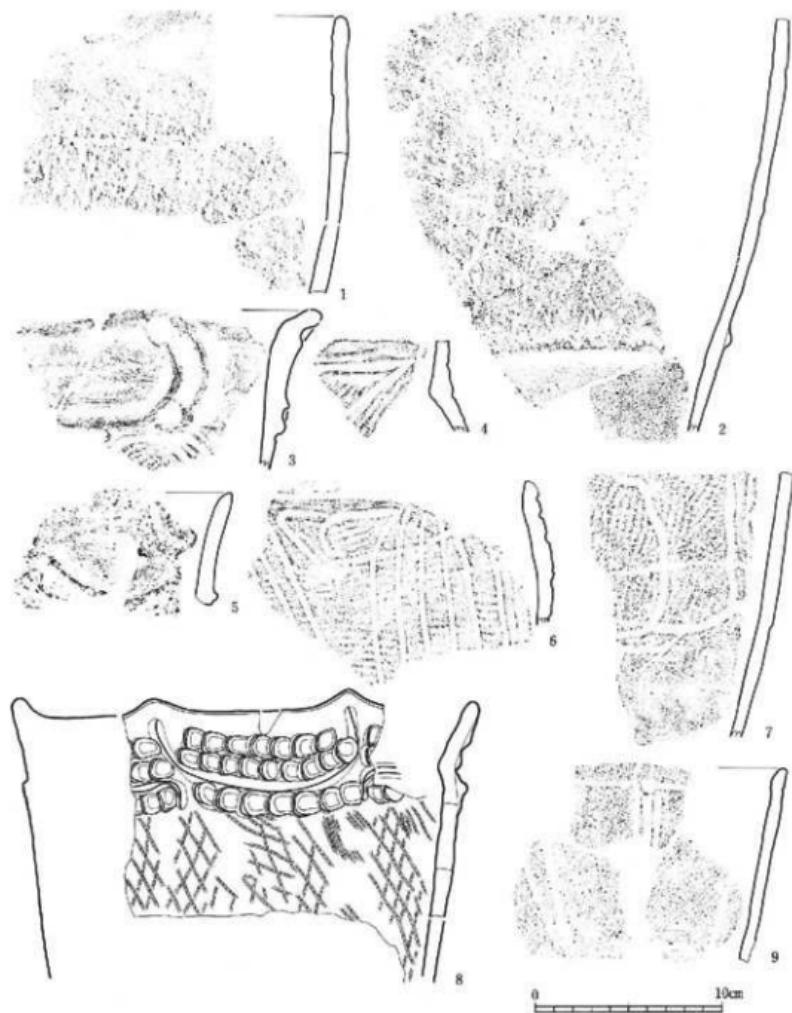
地区・層位	分類	高さ mm	幅 mm	厚さ mm	重さ g	石 材	形 様	地区・層位	分類	高さ mm	幅 mm	厚さ mm	重さ g	石 材	形 様
C11 L.8	2 打削	9.7	3.1	4.3	529	安山岩	Ket26	C5 L.8	7 打削	10.9	5.6	4.1	449	安山岩	Ket12
C14 L.8	2 打削	11.2	6.9	5.1	799	安山岩	Ket22	B+C10+II L.8	13 打削	11.1	6.0	5.7	829	安山岩	Ket10
C7 L.8	1A 破片	12.2	8.1	4.5	369	石英安山岩	Ket11	B5 L.8	石英安山岩	4.6	3.9	1.7	25	石英安山岩 剥離断片	Ket12

第135図 8層出土礫石器



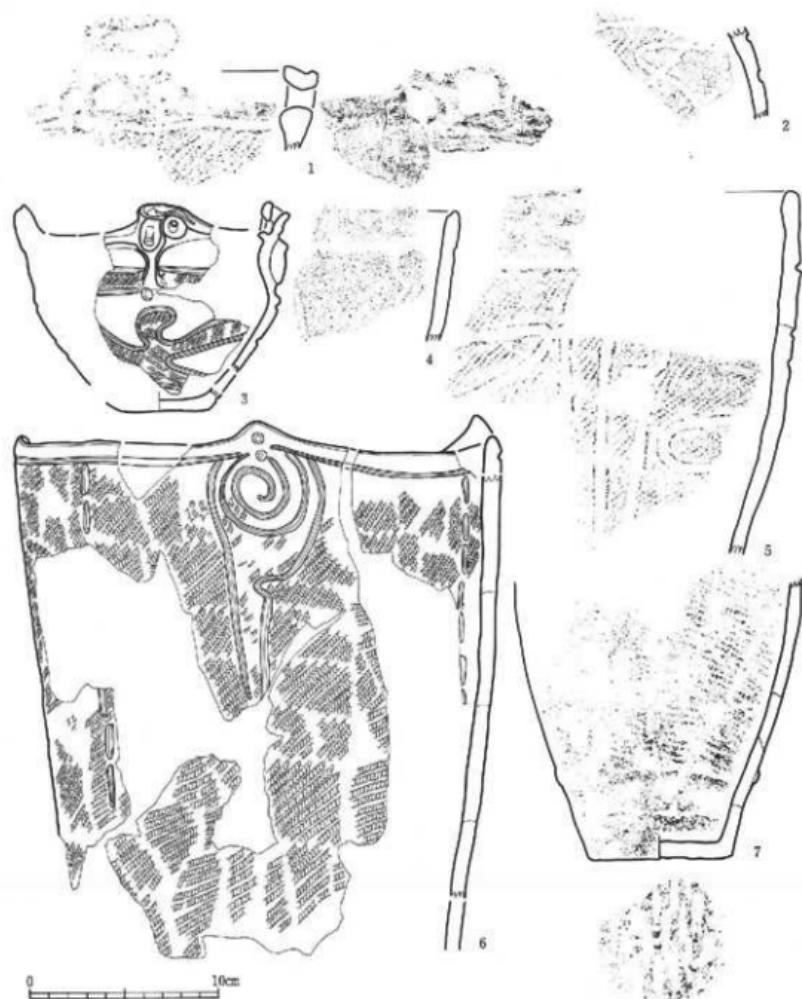
地区・層位	分類	種	直 径	深 度	地区・層位	分類	種	直 径	深 度
1 B 6 L 9 深層井	C: 鏊形 D: 瓢形	等: 離底把手 2 刻?	9	A 90	2 C 6 L 9 離底把手 2 刻	D: 鏊形 E: 瓢形	等: 離底把手 2 刻?	10	A 310

第136図 9層出土土器 (1)



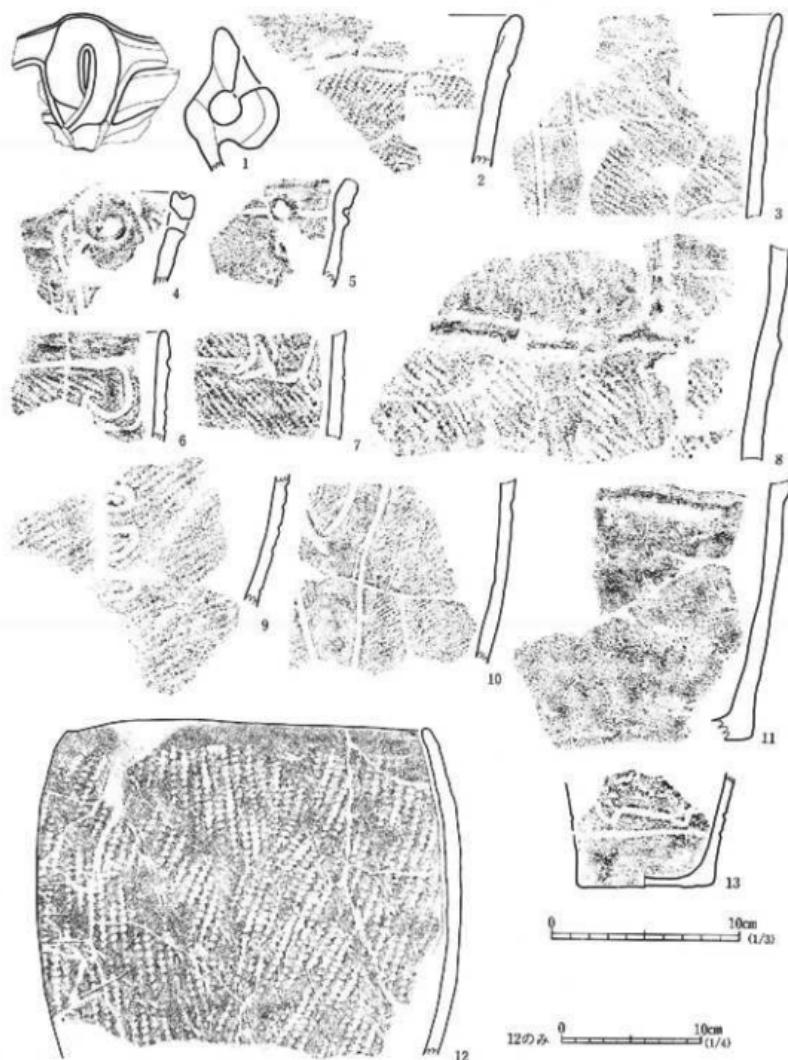
地区・部位	分類	特 徴	組合	全 数	地区・部位	分類	特 徴	組合	全 数
1 C 0 L 9	陶器G	圓口状鉢形文L。2と同一	9	A323	6 C 5 L 9	陶器L	圓文、武進	0	A278
2 A 9 L 9b	灰陶	圓口状鉢形文L。連續	6	A323	7 A 6 L 9b	陶器R	圓文、沈進	0	A284
3 C 5 L 9	陶器	圓形+沈縫+圓底、L.貝底文、沈縫	1	A227	8 B 5 L 9b	陶器G	圓文、復底縫、貝底、沈縫	6	A33
4 B 5 L 9	灰陶	L.R.圓文、分縫	0	A228	9 B 6 L 9b	陶器H	圓口状鉢形文L	0	A285
5 B 5 L 9	陶器	圓形、底上帶凸	0	A229	9 B 6 L 9b	陶器I	圓文、研磨、沈縫	0	

第137図 9層出土土器(2)



地区・层位	分組	特征	组合	层位	地区・层位	分組	特征	组合	层位
1 B 6 L 9 b	组Ⅱ	实底, L.R绳文, 沈底	0	A337	4 B 6 L 9	组Ⅱ	绳文?, 沈底	0	A385
2 B 6 L 9		L.R绳文, 沈底	1	A337	5 C 7 L 9	组Ⅱ	L.R绳文, 沈底	1	A386
3 B 6 L 9b	组Ⅲ	口14 高4.7 宽10.0cm 实底+把手, 沈底, L.R绳文, 沈底	2	A61	6 B 6 L 9	组Ⅱ	实底, 沈底, L.R绳文, 沈底	1	A38
					7 B 6 L 9	组Ⅱ	口7.4cm, L.R绳文, 沈底, 沈色	6	A39

第138図 9層出土土器(3)



第139図 9層出土土器 (4)

地区・層位	分類	物 品	接合	厚 級	地区・層位	分類	物 品	接合	厚 級
1 C 6 L 9	骨灰把手		0	A45	8 C 6 L 9	骨柄 L.R.縫文、葉形		0	A269
2 C 6 L 9 b	深鉢 沈鉢、L.R.縫文		0	A281	9 C 6 L 9	骨柄 縫文、沈鉢		0	A288
3 C 6 L 9 b	深鉢 F L.R.縫文、沈鉢		0	A380	10 C 6 L 9	骨鉢 縫文、沈鉢		0	A285
4 C 6 L 9	骨鉢 (有孔)、沈鉢、網目鉢矢穴貝		0	A380	11 C 6 L 9	骨鉢 縫文		0	A289
5 B 6 L 9	深鉢 沈鉢、網目		0	A278	12 B 6 L 9	骨鉢 口27cm、R.L.縫文、深津駒形底	1	A11	
6 B 6 L 9	深鉢 L.R.縫文、沈鉢	1	A280	13 C 6 L 9	骨鉢 造7.3cm、沈鉢	0	A174		
7 B 6 L 8	深鉢 L.R.縫文、沈鉢、3・6と同一	0	A280						

12のみ 0 10cm (1/4)

13 基本層出土遺物



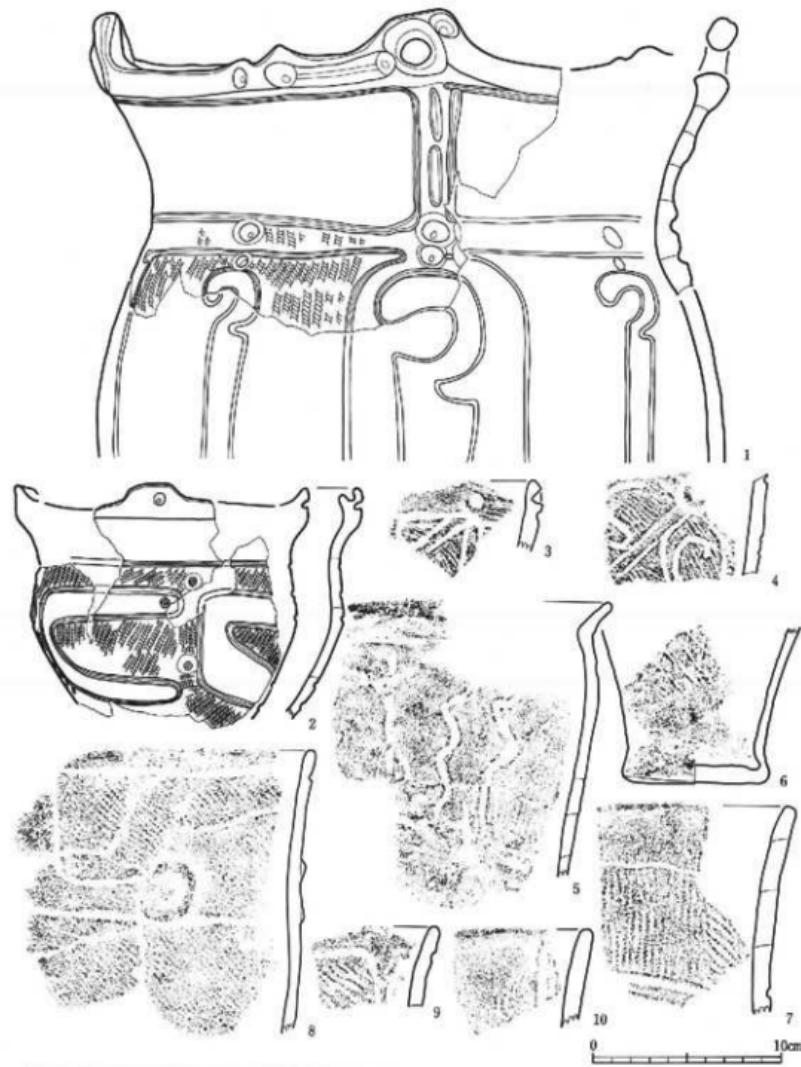
地区・測位	分類	性 質	格合	發 現	場所・層位	分類	性 質	層 位	發 現	性 質
1 A7 L9 b	陶器	L.R.陶灰、灰綠	0	A286	5 B7 L9	青 銅	口17cm、高13cm、腹以下深、灰 黑、陶灰、L.R.陶灰、下部邊緣	0	A15	
2 A7 L9 b	陶器	上部觀方形、底圓形、L.R.陶灰	0	A284						
3 A7 L9 b	陶器	底5.1cm、L.陶灰、細黑、灰綠	0	A51	6 B7 L9	陶 器	底起：堆狀把手、刻面	0	A116	
4 A7 L9 b	陶器	口15cm、突起（內面灰黑）、薄灰綠、 細黑、L.R.陶灰、胎土棕色	0	A59	7 B7 L9	陶 器	突起、孔	0	A207	
					8 B7 L9 b	陶 器	突起、刻痕、L.R.陶灰、灰綠	0	A299	

第140図 9層出土土器 (5)



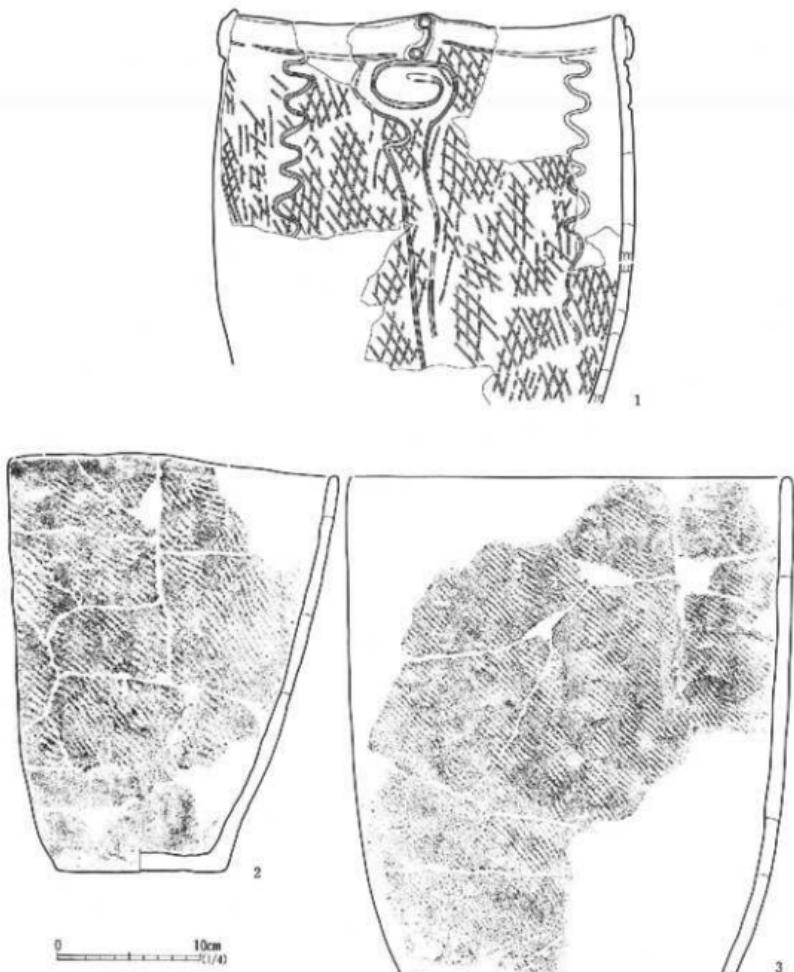
地区・部位	分類	形	蓋合	量	地	地区・部位	分類	特	備	標	出
1 B7 L9	漆器	C33.2cm 開口。漆材堅膜。L.直線文。柄突。浅縫。円形底付	0	A35	3	B7 L9	漆器	L.K.純文。沈縫	0	A295	
2 C7 L9	漆器	C20. 高11.8 幅30.4cm.円形底付。L.直線文。沈縫	1	A38	4	B7 L9	漆器	R.横文。漆材堅膜	0	A292	

第141図 9層出土土器（6）



地點・層位	分類	特　徴	調合	此　器	地點・層位	分類	特　徴	調合	此　器
1 A8 L9b	陶C	□33.2cm、実底、孔、沈底、黒灰、 L8調文	0	A54	5 B8 L9	陶D	波紋	0	A384
2 A8 L9b	鉢	□15cm、陶底(上・外) $\times$ 斜面)、波紋、 L8調文	1	A60	6 B8 L9	陶鉢	H11.6cm、網目状模条文	2	A178
3 B8 L9	鉢	直底、直側条文、沈底、黒灰	0	A294	7 C8 L9	陶鉢	L8調文、波紋	0	A301
4 A+B8+9 L9	R調文、波紋、L8調文		0	A295	8 D8 L9	陶鉢A	L8調文、沈底、逆C字斜線	0	A258
					9 A8 L9b	陶鉢B	L8調文、沈底	0	A101
					10 C8 L9	陶鉢C	L8調文、波紋、T字同一	0	A203

第142図 9層出土土器 (7)



	地区・層位	分類	特 徴	接合	有 数	地区・層位	分類	特 徴	接合	症 狀
1	B 8 L 9	鉢B	口27.5cm、腹起、足C字脚付、斜角、 網状状面文R、北端	1	A49	2	B 8 L 9	鉢F (多孔)、外側上半に變化物	2	A 4
3	B 8 L 9	鉢G	口30.6cm、L字脚付	1	A93					

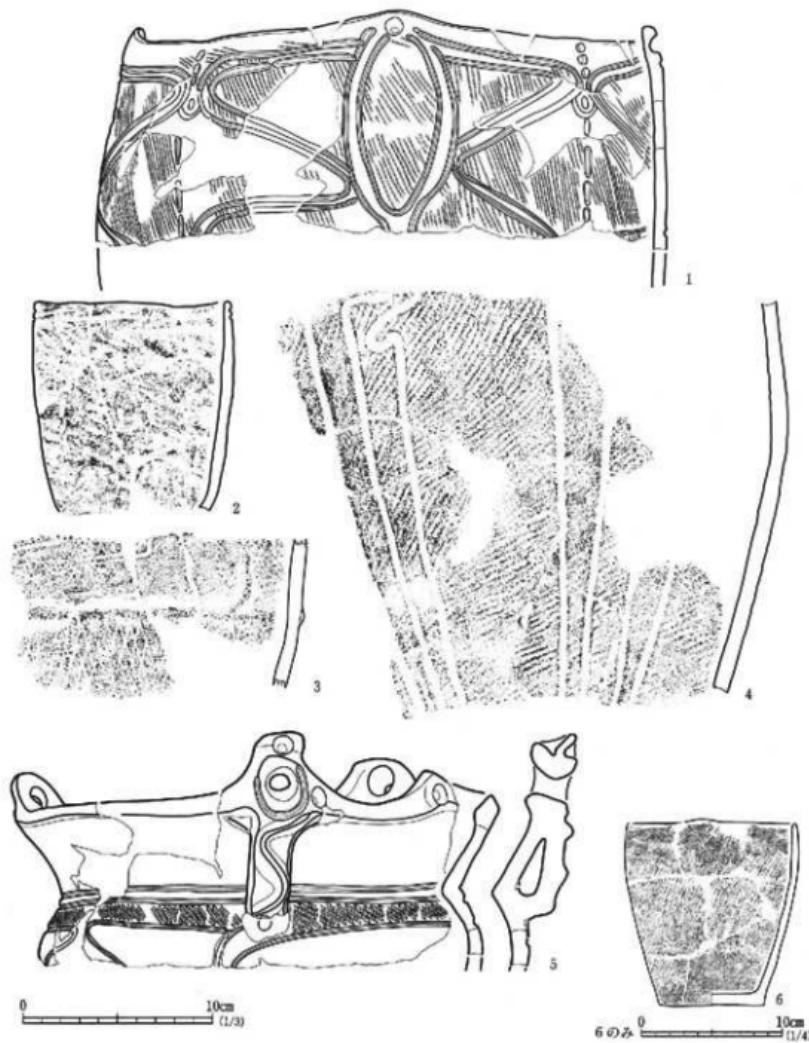
第143図 9層出土土器（8）

13 基本層出土遺物



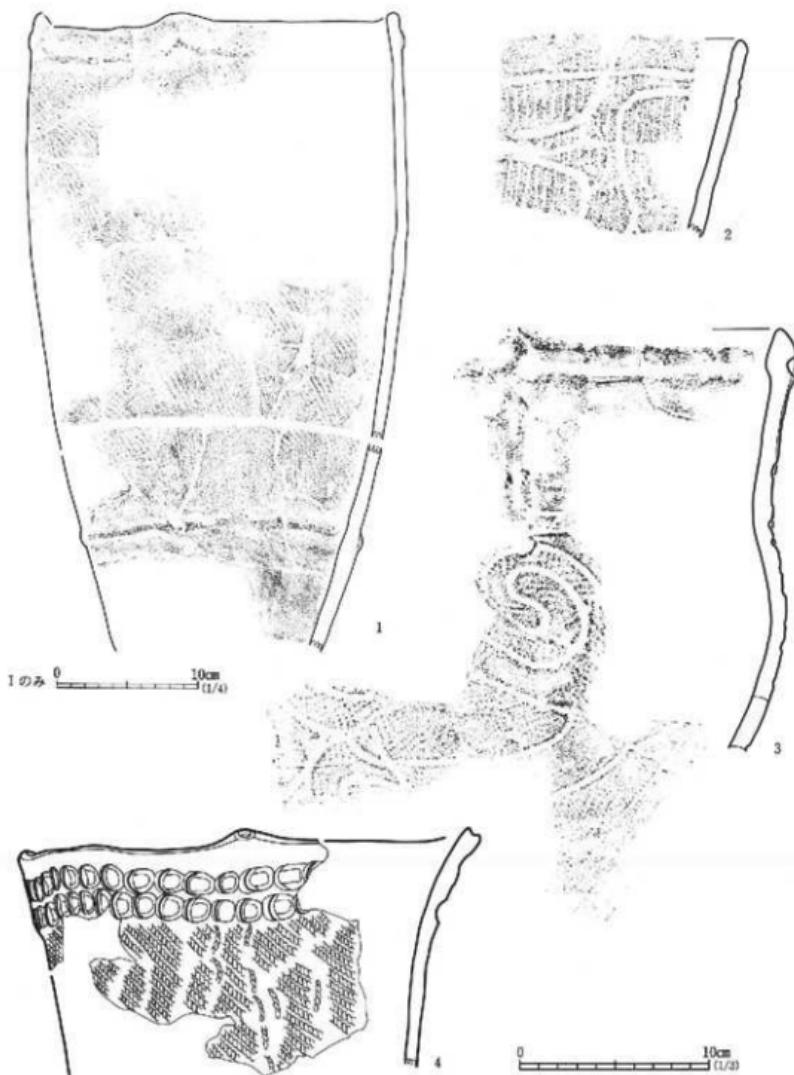
第144圖 9層出土土器（9）

地區・層位	分組	形 態	組合	出 現	地 區・層位	分組	形 態	組合	出 現
1 B 9 L 9	深鉢	L 9 繩文、波紋	0	A 366	4 A 9 L 9 b	深鉢	向起、云、波紋	0	A 365
2 A 9 L 9 b	深鉢C	波紋、網紋	0	A 317	5 A+B 9-E L 9 b	深鉢A (H20.5cm, 波紋、波狀、L 9 繩文(少 波狀)、網狀波紋)	0	A 40	
3 A 9 L 9 b	L 9 繩文、斜角	0	A 362						



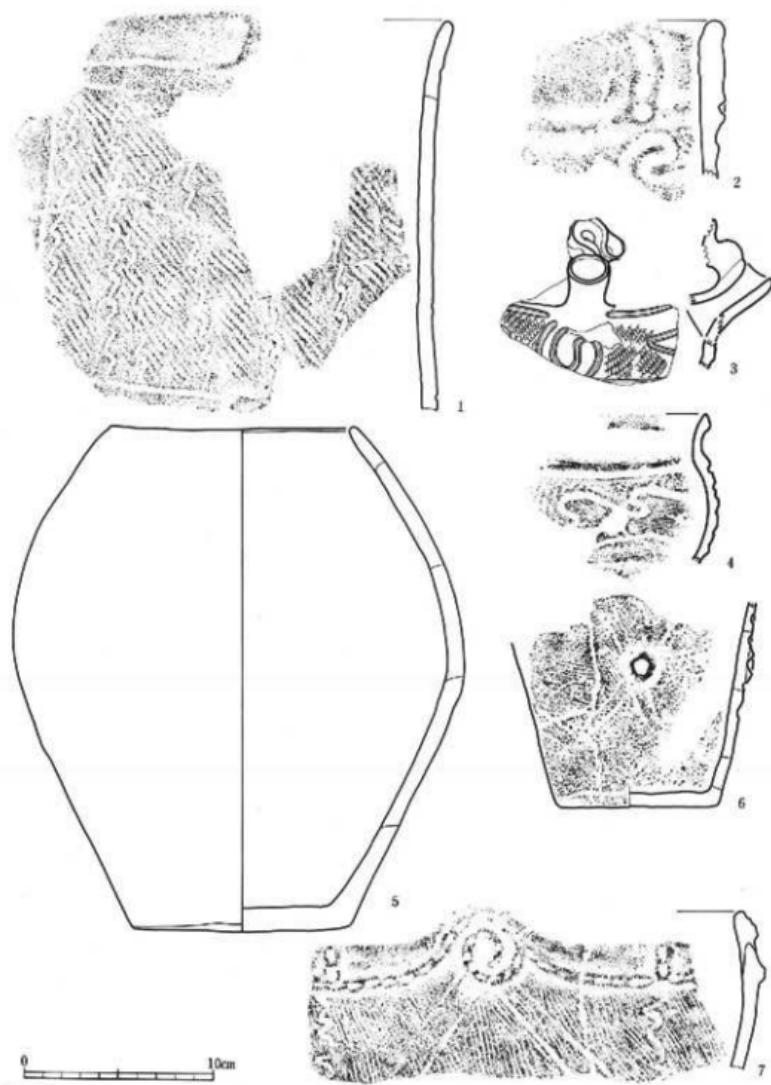
地番・層位	分類	特 徴	合 成	文 様	地番・層位	分類	特 徴	合 成	文 様
1 A 9 L 9 B	側面柱	口27.8cm、底径17.8cm、R管未充、直角、底鋸	2	A種	4 A 9 L 9 b	圓錐	L.R輪文、浅縫	0	A311
2 R 9 L 9	深部G	口19.4cm、L.束縫文、底鋸	8	A36	5 A-B 9 L 9	錐	口25.5cm、穴形4、繩状粒少、底鋸、R.L輪文	0	A32
3 A-B 9-E L 9	深部	圓底状底余文表、底鋸、底鋸	8	A383	6 A-B 9 L 9	圓錐G	口11.4 高7.3 高13.2cm、底尚堅厚斜	0	A32

第145図 9層出土土器 (10)



第146図 9層出土土器 (11)

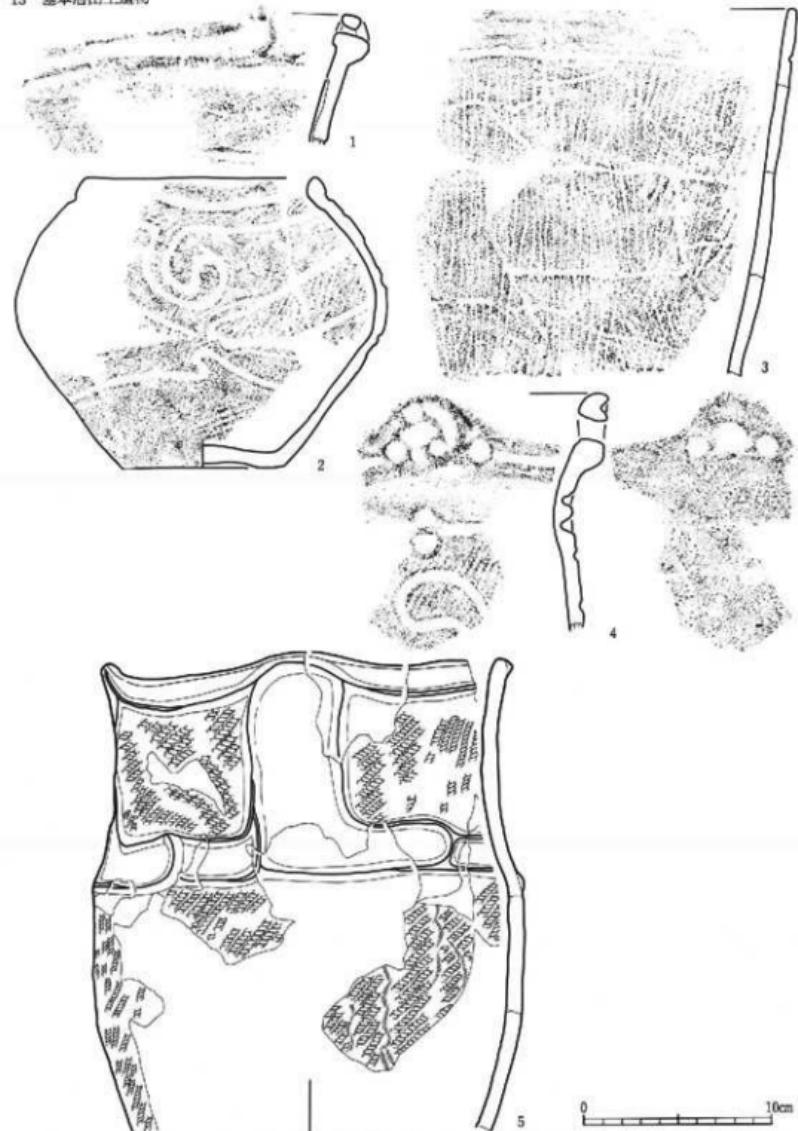
	地区・層位	分組	特徴	摺合	登録	地区・層位	分組	特徴	摺合	登録
1	B9 L9b	IGB	口25.5cm、突起（大4、小4） □：縦縫 体：L E 製文、深縫	0	A2	3 C9 L9	IGMC	突起、比較的堅硬。LR 製文。 IGC T出土片と複合	6	A367
2	C9 L9	IGBD	K 深文、沈縫	0	A310	4 A-B9 L9	IGBD	IGC Tに複合、軽突、R L 製文、絞縫	1	A36



地区・層位	分組	特徴	標合	量	地区・層位	分組	特徴	標合	量
1 C 9 L 9	鉢A	縁縫、沈縫、LR漢文、切縫	0	A366	5 C 9 L 9	鉢	C12.9 縁11.6 高26.9cm、1ガラ	1	A103
2 A10 L 9 b	鉢	突粒、縁縫、沈縫、明切、RL鉢文	0	A328	6 B10 L 9	鉢	高7.3cm、R鉢文、門形茎付、沈縫	0	A109
3 A10 L 9 b	注口	環状把手+注口、切縫、LR漢文	9	A419	7 A10 L 9 b	鉢G	突粒、側付縫縫、R鉢文、沈縫	0	A374
4 A11 L 9 b			0						

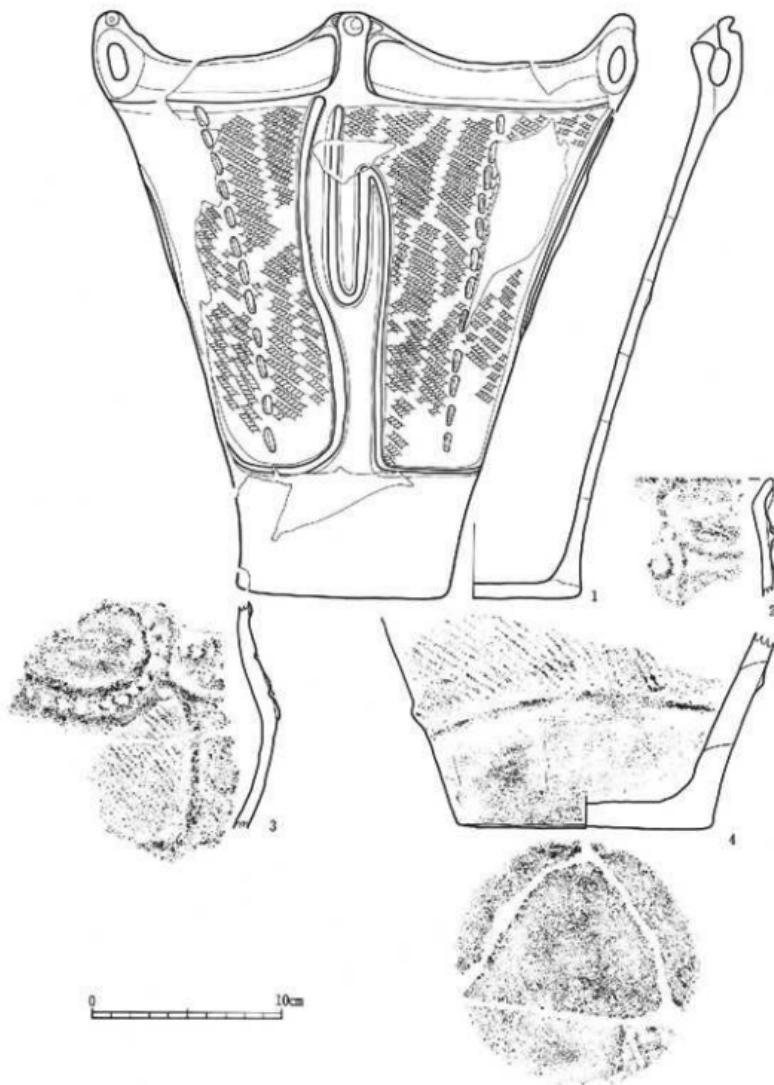
第147図 9層出土土器 (12)

13 基本層出土遺物



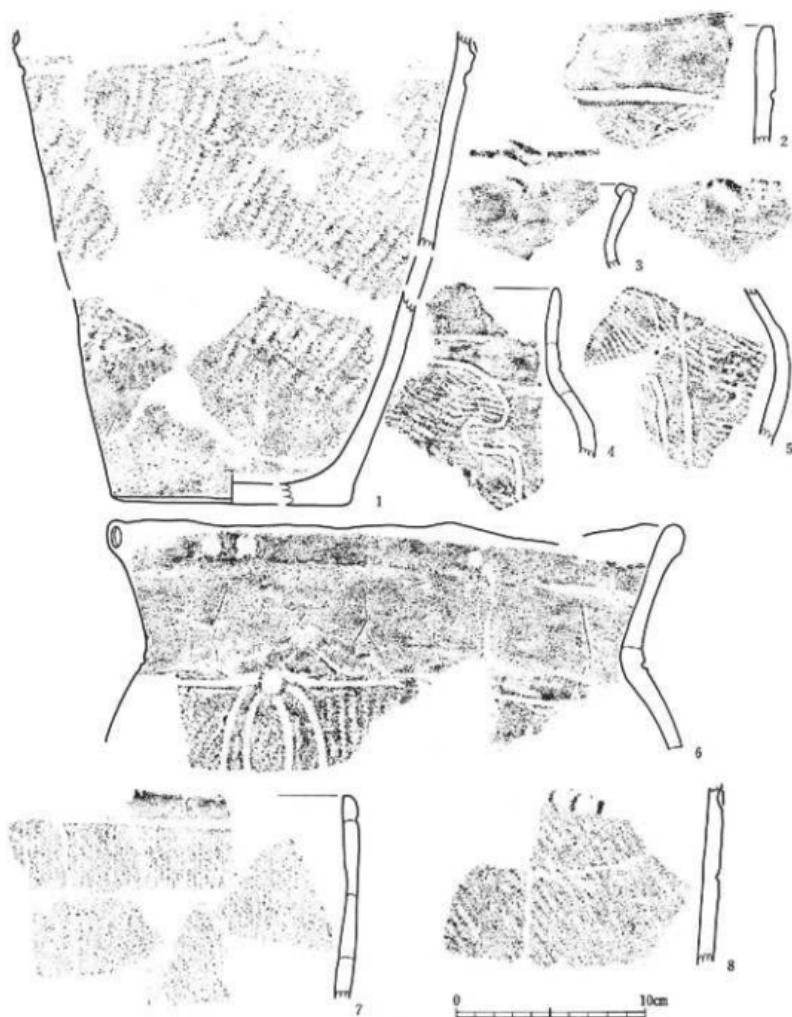
第148図 9層出土土器 (13)

地区・部位	分類	特徴	組合	世紀	地区・部位	分類	特徴	組合	世紀
1 C10 L 9	圓錐	乳頭、孔、沈縫	0	A229	4 C10 L 9	圓錐A	乳頭、孔、沈縫、L 9 繩文	0	A317
2 B10	安	C12 追8.4 高13.5cm. L 9 繩文、沈縫	0	A111	5 B10 L 9	圓錐B	L 12.5cm. 沈縫C口縫、繩縫、R 1.4cm 孔、細縫	1	A24
3 C10 L 9	圓錐F	沈縫、束縛系文	0	A227					



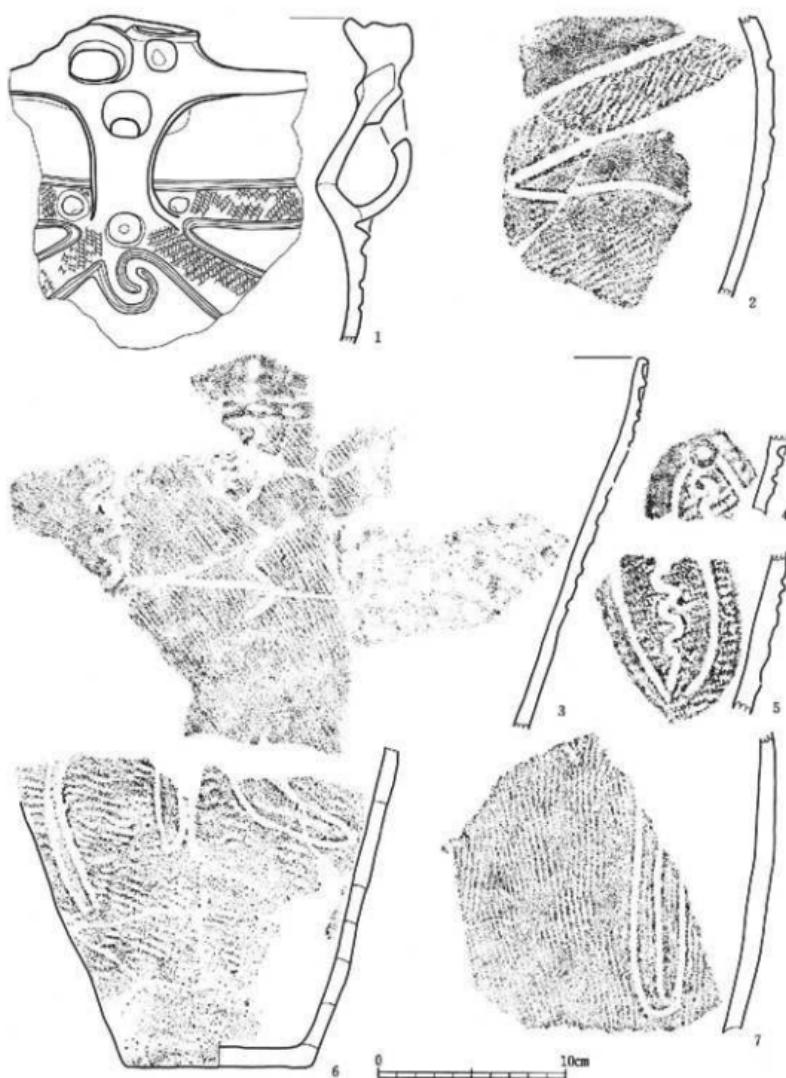
地区・層位	分類	特徴	擂台	立脚	地区・層位	分類	特徴	擂台	立脚
1 A11 L 9 b	器形E	口25.6 高19.7 菱3cm、波状口縁、把手、接縫、沈縫、LR認文、胎土 褐色	0	A42	2 A11 L 9 b	器形D	斜縫、側突、LR認文	0	A323
					3 A11 L 9 b	器形E	側突、側突、LR認文	0	A325
					4 A11-12 L 9 b	器形E	高13.5cm、LR認文、薄化、網状G→ニア	0	A323

第149図 9層出土土器 (14)



第150図 9層出土土器 (15)

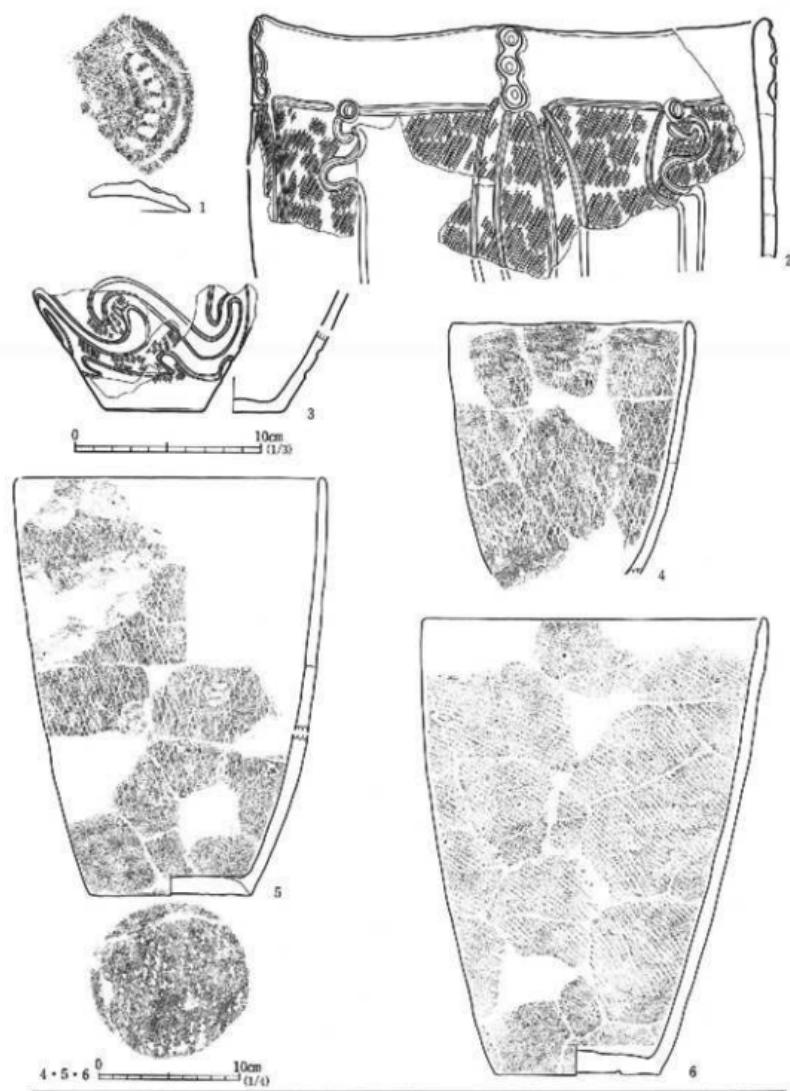
地区・部位	分類	特 徴	組合	發 現	地区・部位	分類	特 徴	組合	發 現
1 A11 L.9 b	石器	沈縫、側刃、R.L.縫文	3	A123	3 B11 L.9	石器	L.R.縫文、沈縫	6	A247
2 B11 L.9	石器	沈縫、沈縫、L.R.縫文	0	A235	6 B11 L.9 b	石器C	沈縫、L.R.縫文、沈縫	0	A129
3 B-C10-II L.9	石器	L.R.縫文、沈縫	0	A247	7 B11 L.9	石器	沈縫、新時代縫文H (2万年)	0	A239
4 C10 L.8	石器	L.R.縫文、沈縫	0	A247	8 B11+12 L.9 b	石器	縫文、側刃	0	A324



地区・層位	分類	特徴	度合	食 簡	地区・層位	分類	特 徴	度合	食 簡
1 B11 L 9	鉢	突起+把手、孔、網穴、L文網文、波線	0	A418	4 B11 L 9 b	網鉢	L R波文、波線、日的輪付	0	A315
2 B11 L 9		L文網文、波線	0	A229	5 B10 L 9 b			0	A115
3 B11 L 9 b	網付	網状、網状跡跡、X捺条、波線	0	A336	6 B11・12 L 9	網鉢	波10cm、L K網文、波線	0	A332

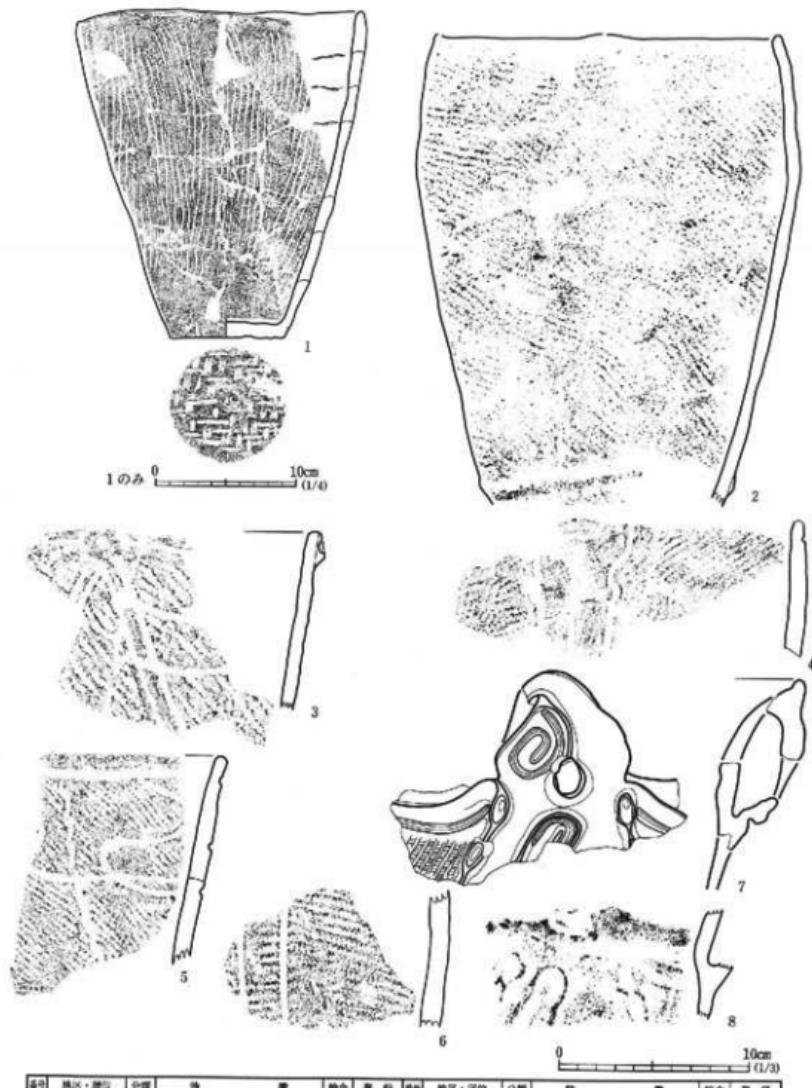
第151図 9層出土土器 (16)

13 基本層出土物



地区・層位	分組	符號	種類	組合	地圖	地区・層位	分組	符號	種類	組合	地圖
1 BII L 9 b	正	圓碟、刺突		0	A321	4 CII L 9 b	99IG	C16.6cm、網狀紋糸文瓦、1區I 3のL 9と接合		1 区	A114
2 CII L 9 b	99IG	C27.3cm、波狀口沿、貼付一側突、L 9網文、沈附		1	A43	5 BII + 12 L 9	99IG	E29.7 波29.7cm 網狀糸文文瓦、1區I 3のL 9と接合	3	A108	
3 BII L 9	正	C29.3cm、L 9捲足、沈附		0	A41	6 BII L 9	99IG	C21.5 鋼21.5 高29.5cm, L 9網文	0	A116	

第152図 9層出土土器 (17)



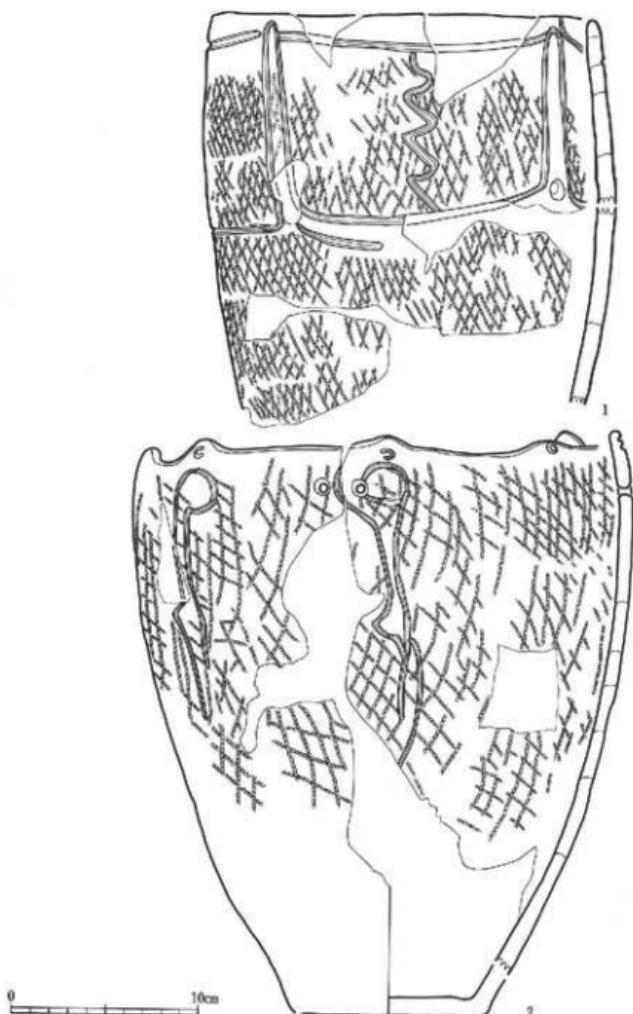
番号	地区・層位	分類	特徴	結合	書類	番号	地区・層位	分類	特徴	結合	書類
1	BII L.9	兩耳	C18.5 高8.2 高8.2 深2cm. 横内文R.	0	A6	5	BII L.9 b	兩耳?	L.R點文. 矩縞. 沈縞	6	A229
2	BII-12 L.9 b	兩耳	C18.1cm. L.R點文. 縞縞. 黑土褐色	0	A122	7	BII L.9 b	兩耳	突起. 深2cm. 沈縞. R.L點文	1	A429
3	A32 L.9 b	兩耳?	L.R點文. 向均變形. 沈縞	2	A345	8	BII L.9 b	兩耳	矩縞. 沈縞. 矩縞	1	A429
4	A32 L.9 b	兩耳	L.R點文. 沈縞	2	A337						

第153図 9層出土土器 (18)



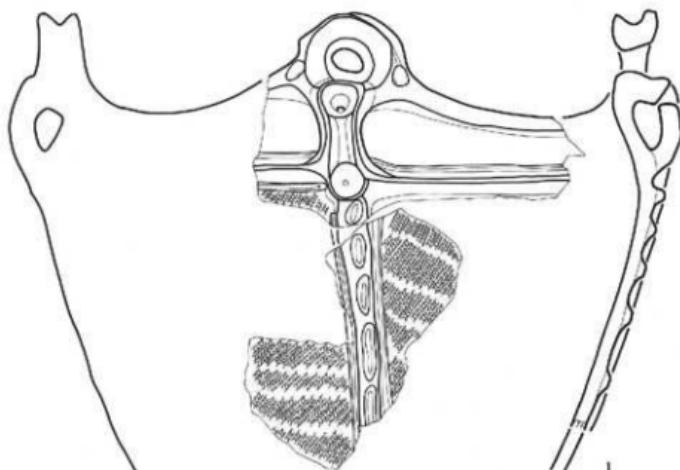
第154図 9層出土土器 (19)

番号	地区・層位	分組	特 徴	量	組合	セ イ	目 名	地区・層位	分組	特 徴	量	組合	セ イ
1	B12 L9	組合	L9網文、筋物	1	A133	3	A・B12 L9	組合	L9網文、筋物、瓦底	6	A340		
2	B12 L9b	組合	L9網文	0	A218								

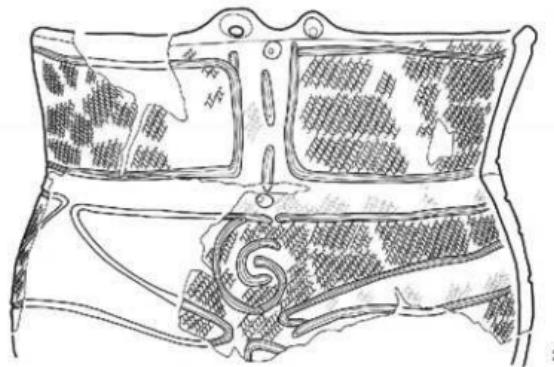


番号	地区・層位	分類	特徴	混合	番號
1	B-C12 L.9	深鉢	口20.4cm、側目状施条文R、沈縫、刺突	0	A41
2	C12 L.9b	深鉢G	口24.5 高10 深31.4cm、突起S、側面R押S、側目状施条文R、沈縫、補修孔	2	A19

第155図 9層出土土器 (20)



1



2

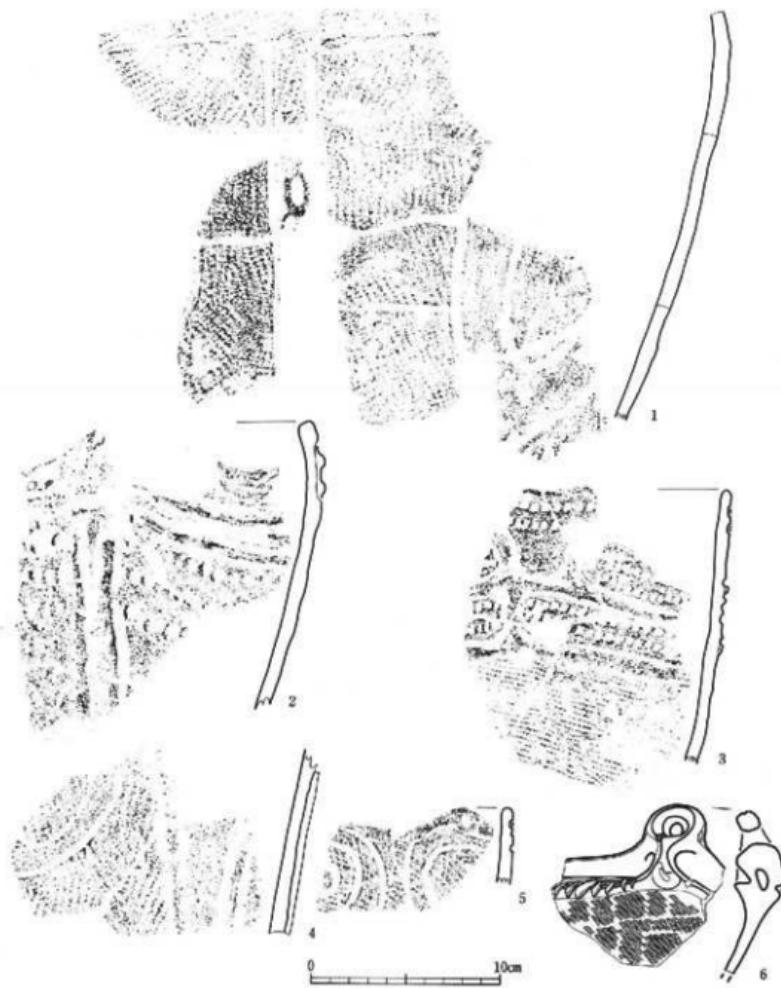


3

0 10cm

番号	地区・層位	分類	特徴	接合	登録
1	B・C12 L 9 b	器物E	□30cm、有孔突起+桶状把手、刺突、菱花線、L.R簡文	0	A30
2	C12 L 9 b	器物C	□26.4cm、突起+刺突(突起内面に刺突)、L.R簡文、沈線、刺突	0	A45
3	C12 L 9 b	器物C	突起+刺突、沈線、R.L簡文	0	A342

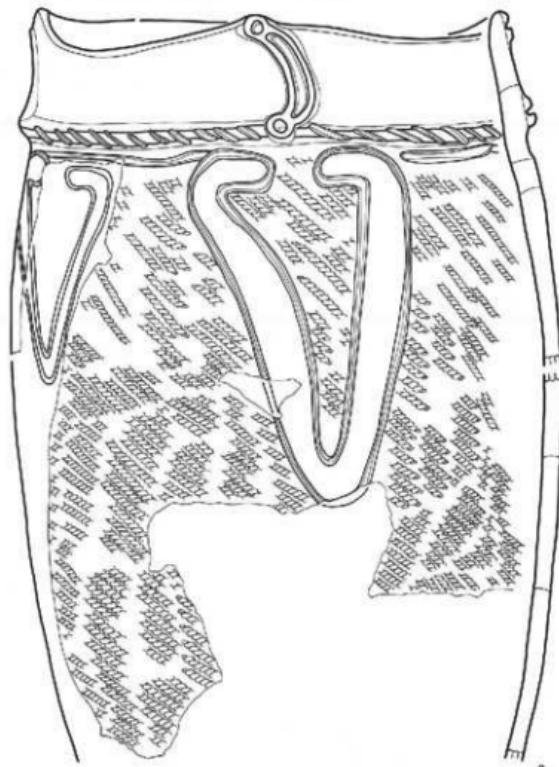
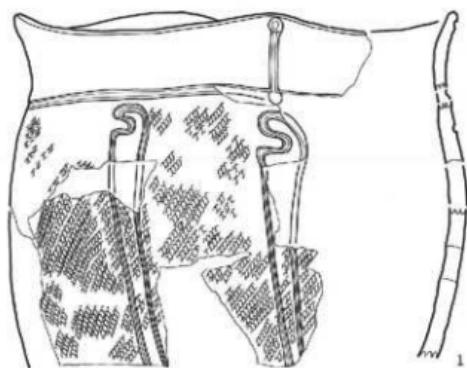
第156図 9層出土土器 (21)



番号	地区・層位	分類	性 別	年 代	組合	層 位	地区・層位	分類	性 別	年 代	組合	層 位	
1	C12 L9 b	深鉢			L.K織文→切妻切縫・沈縫(斜縫)	1	A344	4	B+C12 L9 b	K.L織文・陰縫・沈縫	0	A343	
2	C12 L9	深鉢			K.L織文、陰縫、斜縫、斜室	1	A347	5	C13 L9	深縫、尖縫、網目状織文系、陰縫、斜室	0	A341	
3	C12 L9	深鉢?			陰縫、陰曲、斜室、L.K織文	0	A338	6	C13 L9	井有孔切縫、縫口、L.K織文	0	A421	

第157図 9層出土土器 (22)

13 基本層出土遺物



0

10cm

番号	地区・層位	分類	物 質	成 分	混合	性 質
1	B12 L 9	圓底B	L123.8cm, 深狀(4單孔)、口:縫合縫+斜突、体:L R繩文、沈縫、75年A移2区と縫合、瓶土褐色		4	A39
2	C13 L 9 b	圓底BII	D125cm, 深狀(4單孔)、口:縫C式貼付、体:縫隙(窓目)、L R繩文、沈縫		9	A28

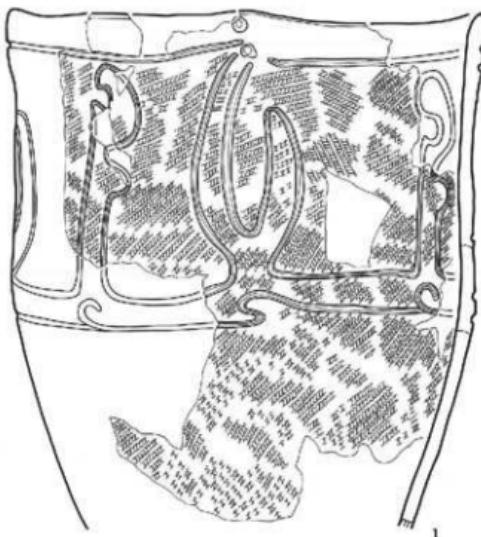
第158図 9層出土土器 (23)



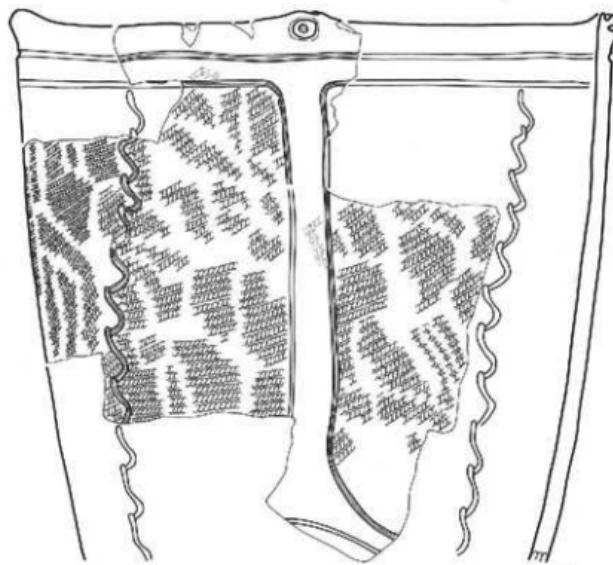
番号	地区・層位	分類	特徴	組合	筆 誌	番号	地区・層位	分類	特 徴	組合	筆 誌
1	B14 L 8	空軸 (縦一隻)		6	A422	7	B15 L 9 a	鉢形	穿孔、L 8網文、波線	0	A350
2	B16 L 9 b				A429	8	B15 L 9 b	鉢形	L 9網文、沈線	0	A379
3	C14 L 9 b	網文F	R撲点文、沈線	6	A227	9	B15 L 9 b	鉢形E	102cm、穿孔、縞線、網文	0	A32
4	B15 L 9 b	網文E	突起、網文、L 9網文、縞線	6	A234	10	B15 L 9 b	鉢文	網文	0	A350
5	C14 L 9	網文	網文突起、網文、L 9網文	1	A396	11	C15 L 9 b	有孔突起、網文		0	A405
6	A30 L 9 a	網文G	口21.5cm、L 9網文、波線、網文	1	A37						

第159図 9層出土土器 (24)

13 基本層出土遺物



1

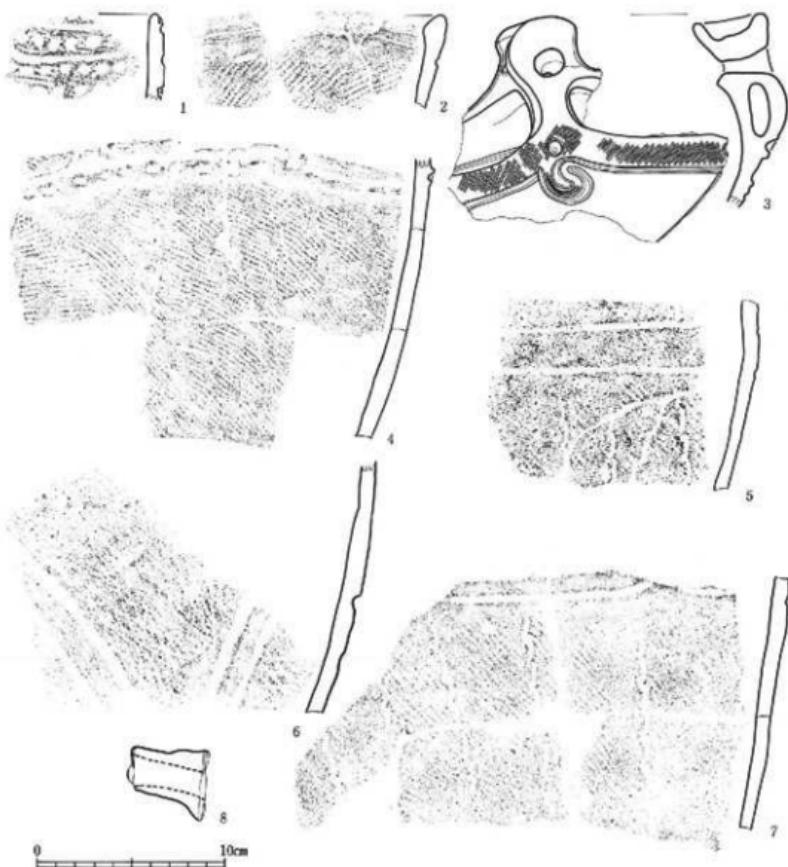


2

0 10cm

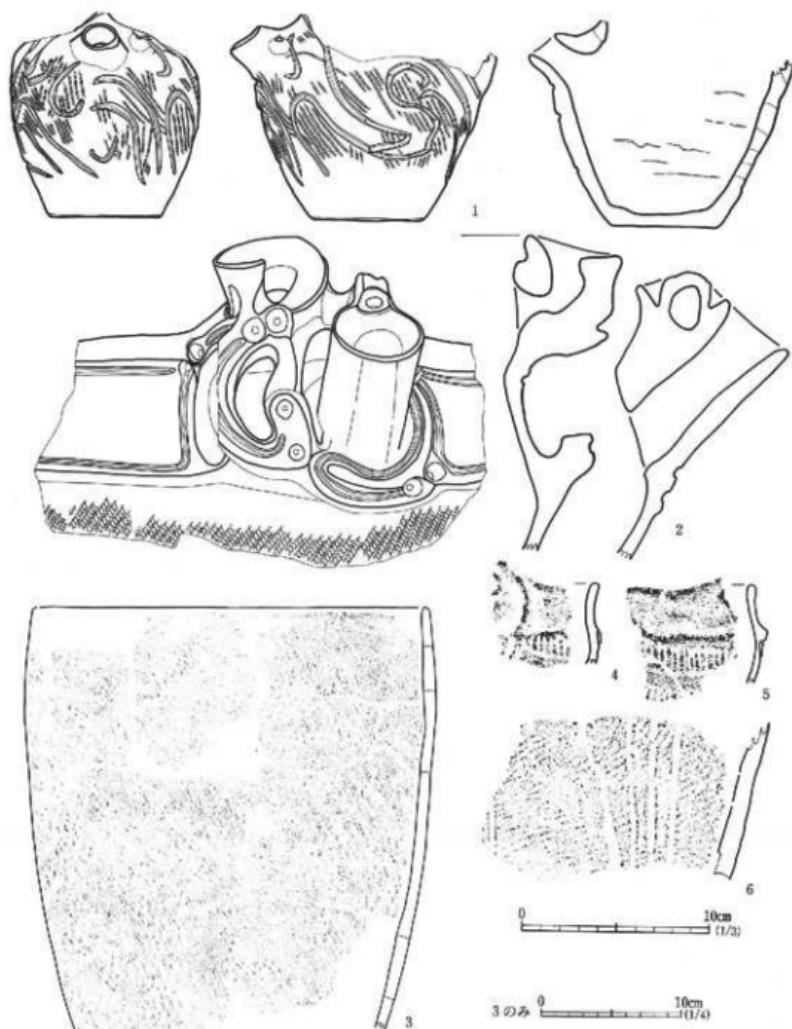
器名	地区・剖位	分類	特	體	接合	変	施
1	C15 L 9 b	深鉢A	小突筋(4単位)、口：突出部外に網突、体：LR攢文、沈線	口径25cm	Z	A26	
2	C15 L 9 b	深鉢G	小突筋(4単位)、口：突出部、外：頂部に網突、体：LR攢文、沈線	口径32.8cm	0	A30	

第160図 9層出土土器 (25)



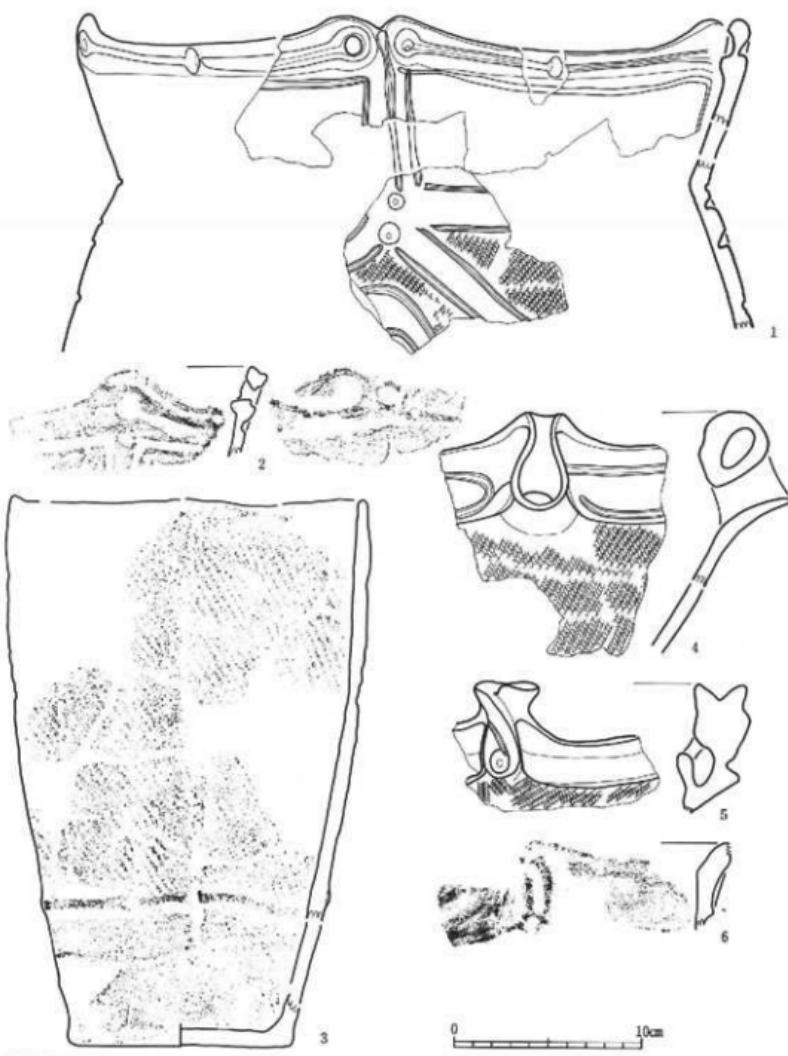
番号	地区・層位	分類	形	面	結合	墳	条件	柱灰・調性	分類	特	目	結合	空	縁
1	C15 L.9	深鉢	浅鉢、網目		2	A222	5	C15 L.9 a	深鉢	調文、網目、沈縁		3	A352	
2	C15 L.9 a	深鉢	浅鉢、L字脚丸		6	A349	6	C15 L.9 b	深鉢	圓目、網目、水文、沈縁		6	A348	
3	C15 L.9 b	鉢	支脚+軸中、L字網文、沈縁、無空		6	A426	7	C15 L.9 b	深鉢	L字網文、網目、沈縁		9	A379	
4	C15 L.9 b	深鉢	L字網文、網目、沈縁		1	A135	8	C15 L.9 b	口			9	A425	

第161図 9層出土土器 (26)



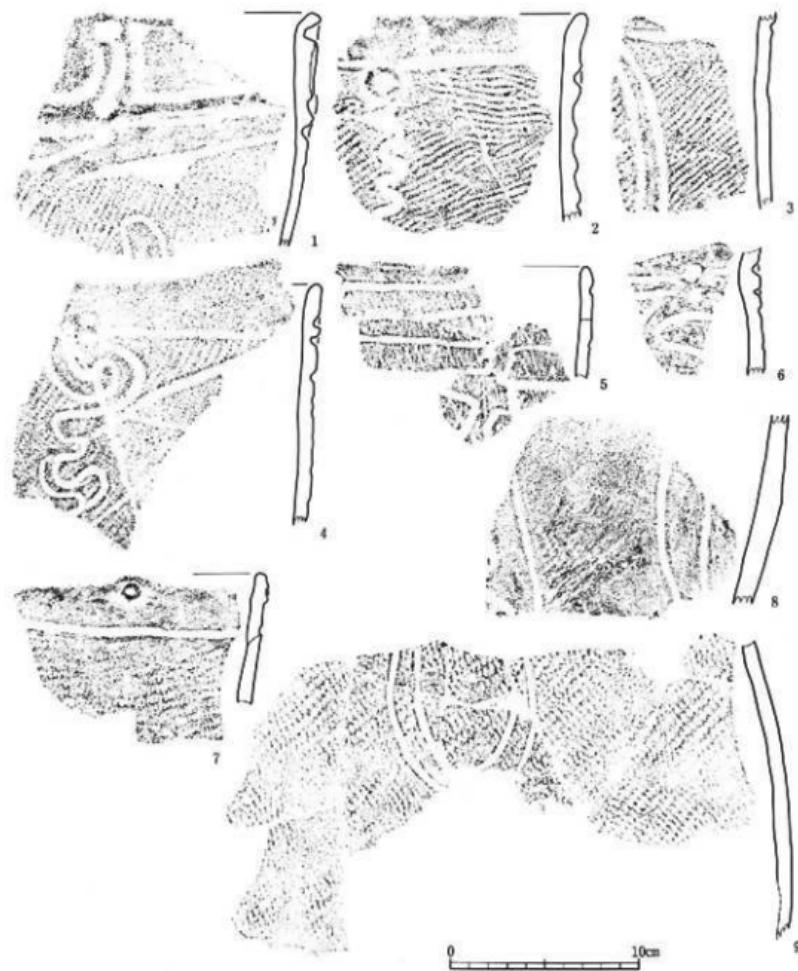
番号	地区・層位	分類	特 徴	波打 き	帶 輪	地紋	地区・層位	分類	特 徴	波打 き	帶 輪	地紋
1	C15 L 9 b	波口	直筒 T 形輪高10.8cm 背部凸文、 波線、波口縁に小突起	8	A 625		1 C15 L 9 b	波脚G	直筒状底面文	9	A 631	
2	C15-16 L 9 b	波口	突起-波口、波線、側突 L 9 縫文	9	A 458		4 B15 L 9 a	波脚B	突起-小孔、波線、波脚	9	A 604	縫文の追跡判定
							5 B16 L 9 b					波脚
							6 B16 L 9 a					波文、波脚
												3のみ

第162図 9層出土土器 (27)



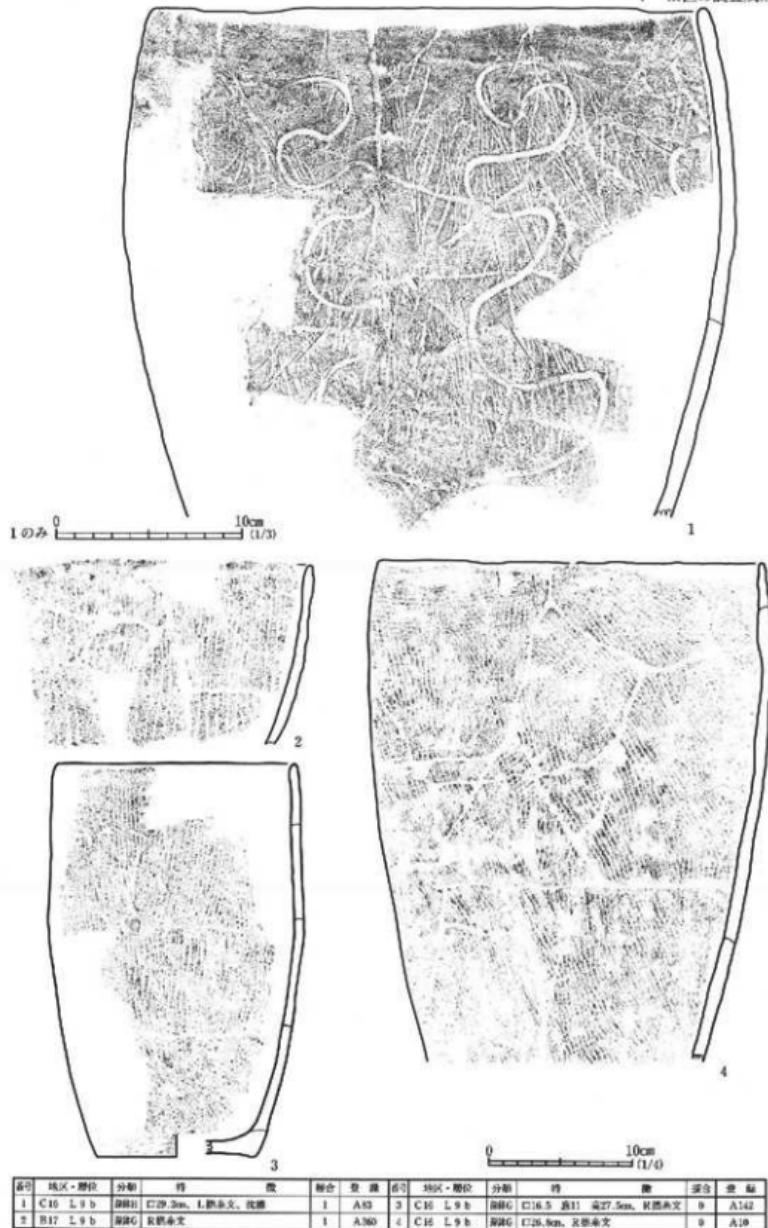
番号	地区・深度	分類	形 異 地	結合	性 質	寸	地色・層位	分類	形 異 地	結合	考 証
1	B16 L 9 a	BBG C	口33.5cm. 頂状(4手付)。 L.R.織文. 花継. 刺繡	1	A41	4	C16 L 9 b 柱口. 帽起+底口. 花継. L.R.織文	1	A430		
2	B16 L 9 a	深鉢	有孔向左. L.R.織文. 花継	1	A366	5	C16 L 9 b 移. 帽起+把手. L.R.織文	6	A423		
3	B16 L 9 b	BBG G	口18.8 高11.5 高29.8cm. L.R.織文. 刺繡. 体下部に花継	1	A48	6	C16 L 9 a 深鉢. BBG 手次取付	6	A363		

第163図 9層出土土器 (28)



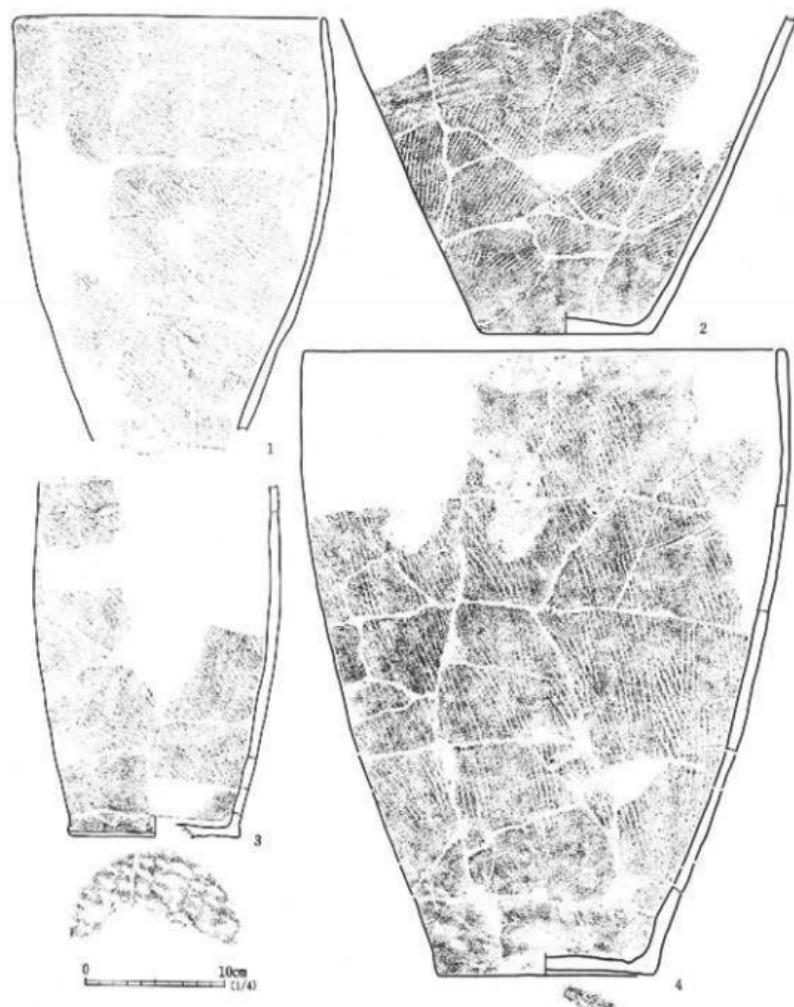
番号	種別・部位	分類	特　徴	組合	直　深	番号	地　区・部位	分類	特　徴	組合	直　深
1	C16 L 9	調理G	壺状、鉢C状點化、斜紋、L 12綱文、沈縫、網底	0	A371	5	C16 L 9 b	圓錐	網目状點化B、沈縫	B	A365
2			沈縫、網底			6	H18 L 9 a	圓錐	沈縫、網底	B	A362
3	C16-17 L 9 b	調理F	L 12綱文、円形點化、沈縫 3に歩?	0	A376	7	C16 L 9 b	圓錐	沈縫、H18斜付、沈縫、L 12綱文	D	A367
4	C16 L 9 a	調理I	壺状、L 12綱文、沈縫、網底	0	A372	8	C16 L 9 b	圓錐	沈縫、沈縫	B	A362

第164図 9層出土土器 (29)



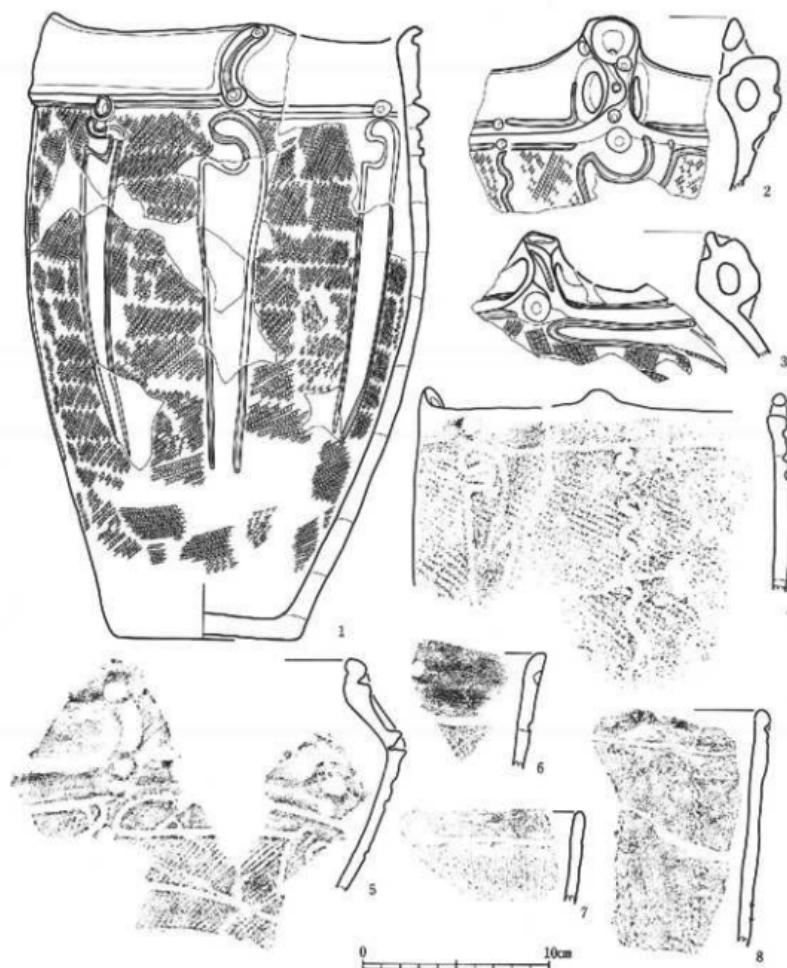
第165図 9層出土土器 (30)

13 基本層出土遺物



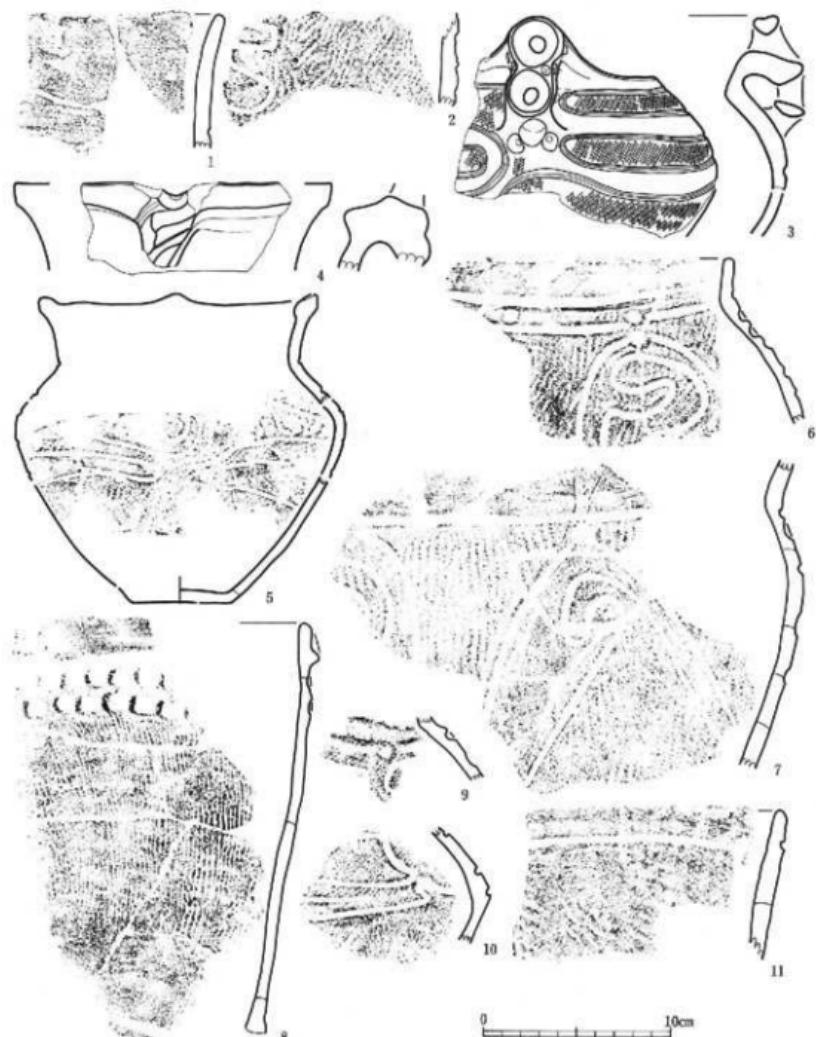
番号	地区・層位	分類	特　　徴	測定	虚　　跡
1	C16-17 L 9 b	陶片	口27.8cm, L 8mm, 壁厚4mm (分段4段)	0	A130
2	C16 L 9	陶片	口27.8cm, L 8mm, 壁厚4mm	0	A148
3	B10 L 9 b	陶片	口22.1cm, L 8mm, 壁厚4mm	0	A145
4	C16 L 9 b	陶片	E135.3 瓶底 直径42.8cm, 壁厚4mm, 水溝痕、内面下部に斜状に無窓	4	A146

第166図 9層出土土器 (31)



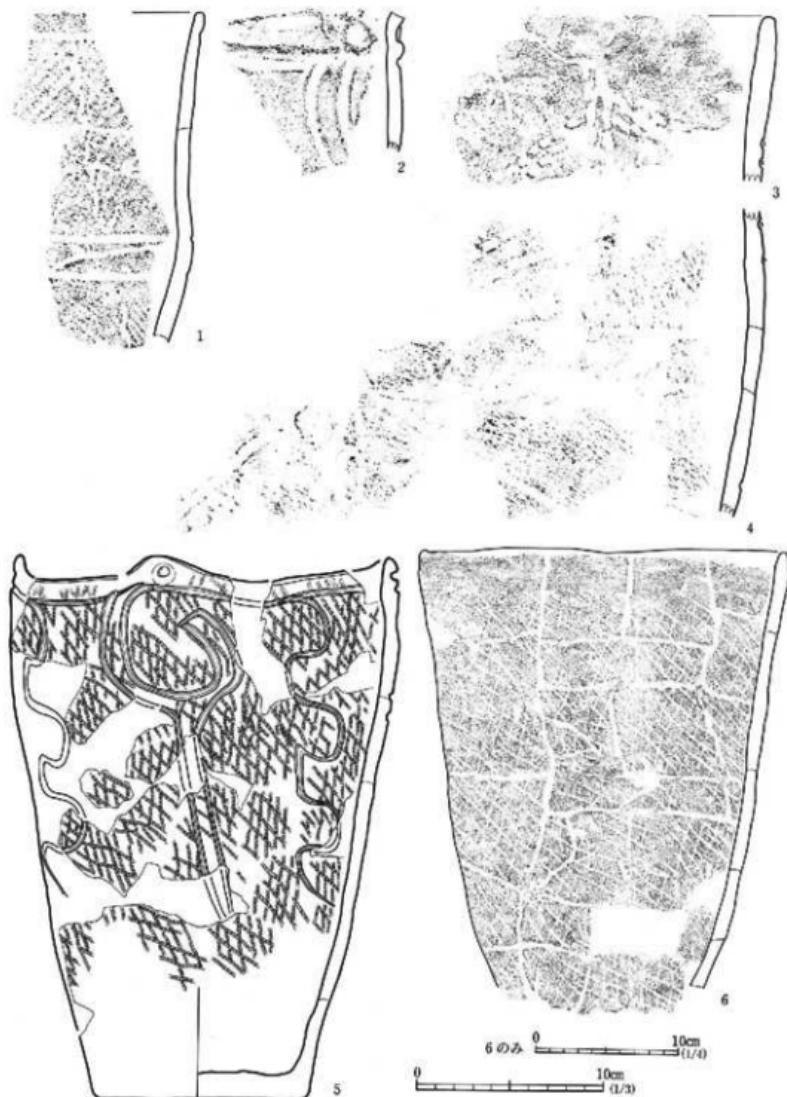
番号	地区・層位	分類	特徴	概観	番号	地区・層位	分類	特徴	概観	番号	地区・層位	分類	
1	C16-17 L 9 b	壺鉢	C17cm, LR縦文(9周4条)	6	A139	4	C16 L 9 b	壺鉢	F133 3 高15 周43.8cm, R縦文, 木裏面, 内底下部が壺状に高起	4	A146		
2	C16 L 9	壺鉢	高13cm, LR縦文	8	A148								
3	B16 L 9 b	壺鉢	高12.5cm, LR縦文, 剥離	9	A143								
4				0					10cm	8			
番号	地区・層位	分類	特徴	概観	番号	地区・層位	分類	特徴	概観	番号	地区・層位	分類	
1	B17 L 9 b	壺鉢	C19.2 高9.6 周33.2cm, 斜状口縁, C字型付, LR縦文, 沈鉢	0	A40	3	B17 L 9 a	壺鉢E 錐C斜口付, LR縦文, 沈鉢	1	A388			
2	B17 L 9	壺鉢	壺鉢, LR縦文, 刻実, 沈鉢	1	A409	7	B17 L 9 b	壺鉢 沈鉢, LR縦文	1	A338			
3	B17 L 9 a	壺鉢	CDT 壺鉢, LR縦文, 沈鉢	1	A432	8	B17 L 9 a	壺鉢F 壺鉢, 沈鉢, 刻実	0	A352			
4	B17 L 9 b	壺鉢	C16.8cm, RL縦文, 沈鉢	0	A196					0	A374		

第167図 9層出土土器 (32)



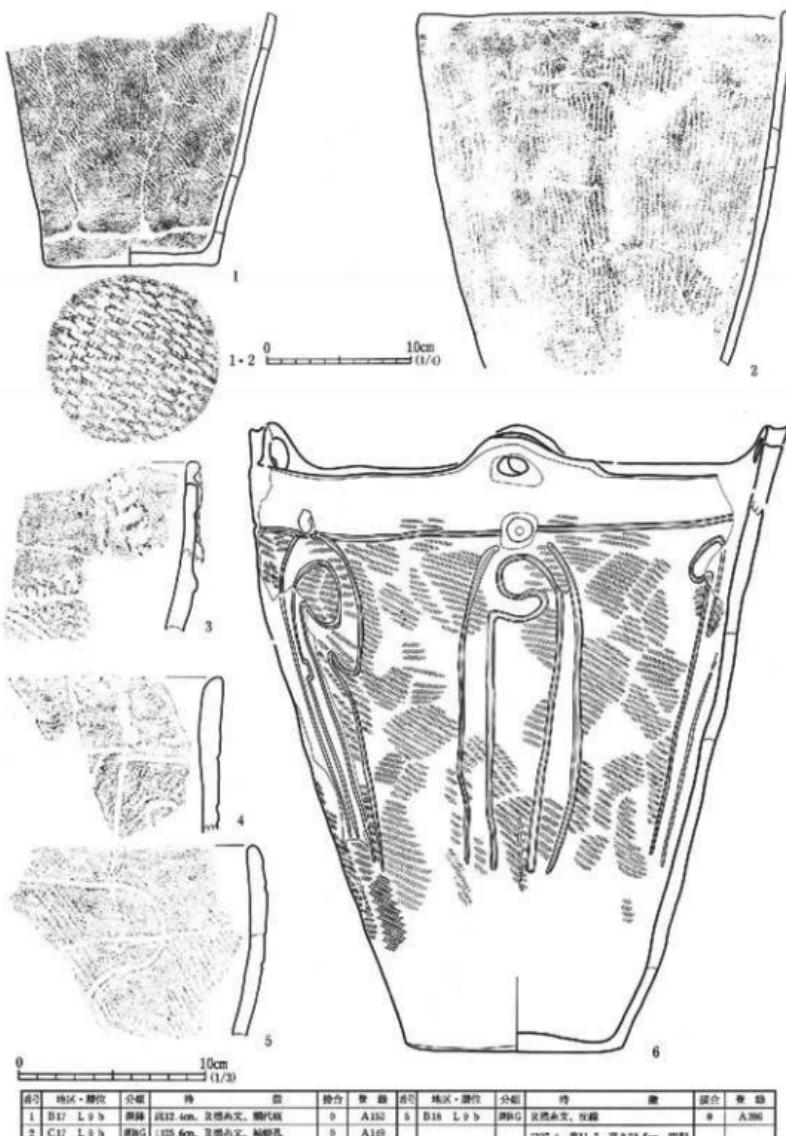
番号	地区・層位	分類	特　徴	組合	地點	分類	特　徴	組合	地　區
1	B17 L 9 a	甕鉢	浅腹	0	A378	6	C17 L 9 a	24	L R圓文、沈縫、斜凹
2	B17 L 9 b	鉢鉢	R.L.圓文、浅腹	0	A377	7	C17 L 9 a 2	25	L R圓文、沈縫、斜凹
3	B17+18 L 9 b	口?	尖底、L.R.圓文、浅腹	0	A368	8	B17+18 L 9 b	26	L R圓文、沈縫、斜凹
4	B17 L 9 b	?	把手	0	A413	9	C17 L 9 a	27	L R圓文、沈縫、斜凹
5	B17+18 L 9 b	?	(H14.6 W6.6 高36.4cm) 宽沿(内面褐色)、L.R.圓文、黏土褐色	0	A411	10	B17 L 9 a	28	L R圓文、沈縫、斜凹
						11	B17+18 L 9 b	29	L R圓文、沈縫(側・底)

第168図 9層出土土器 (33)



番号	地区・層位	分類	特徴	縦合	横縫	番号	地区・層位	分類	特徴	縦合	横縫
1	C17 L 9 b	網目A 及L	縞文、刷毛、沈縫	1	A223	5	C17 L 9 b	網目G	斜状口縫、刷毛、網目状縞文及L。	1	A17
2	C17 L 9 b	網目	L2縞文、波紋、隠縫、刷毛	0	A368			沈縫、板：網目版			
3	B17 L 9 b	網目F	網目状縞文、刷毛、沈縫	5	A117	6	B17 L 9 b	網目F	126cm、網目状縞文及		A161
4	B11-32 L 9 b	網目F	網目状縞文、刷毛、沈縫								

第169図 9層出土土器 (34)

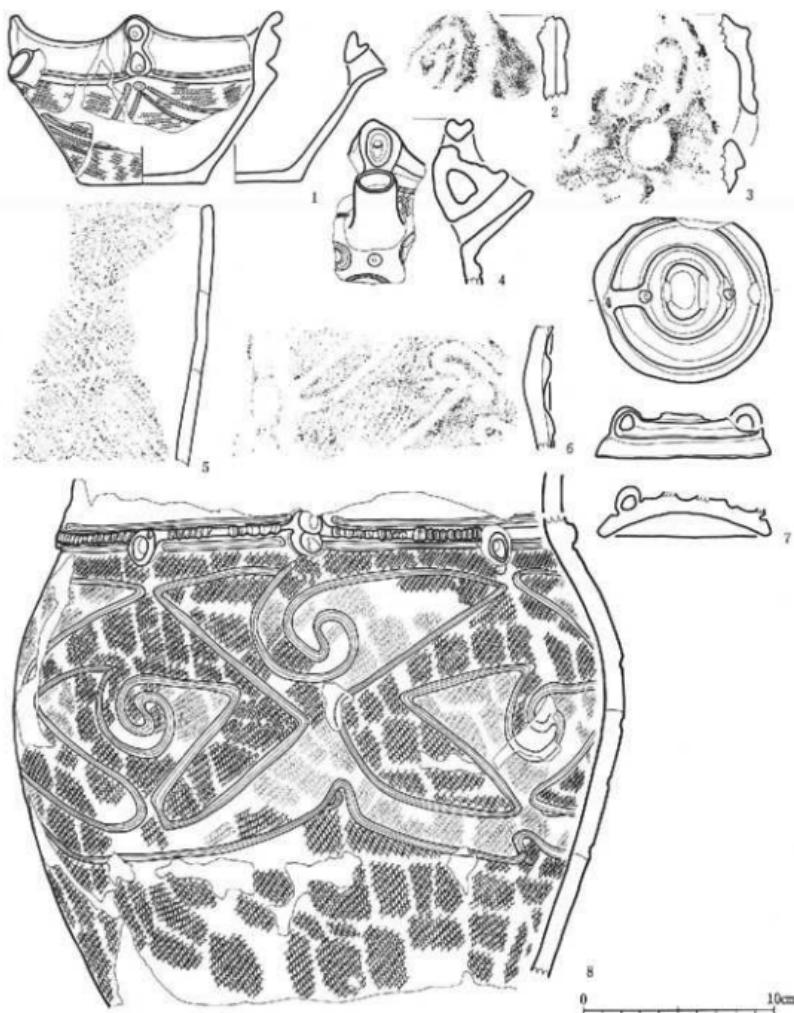


第170図 9層出土土器 (35)



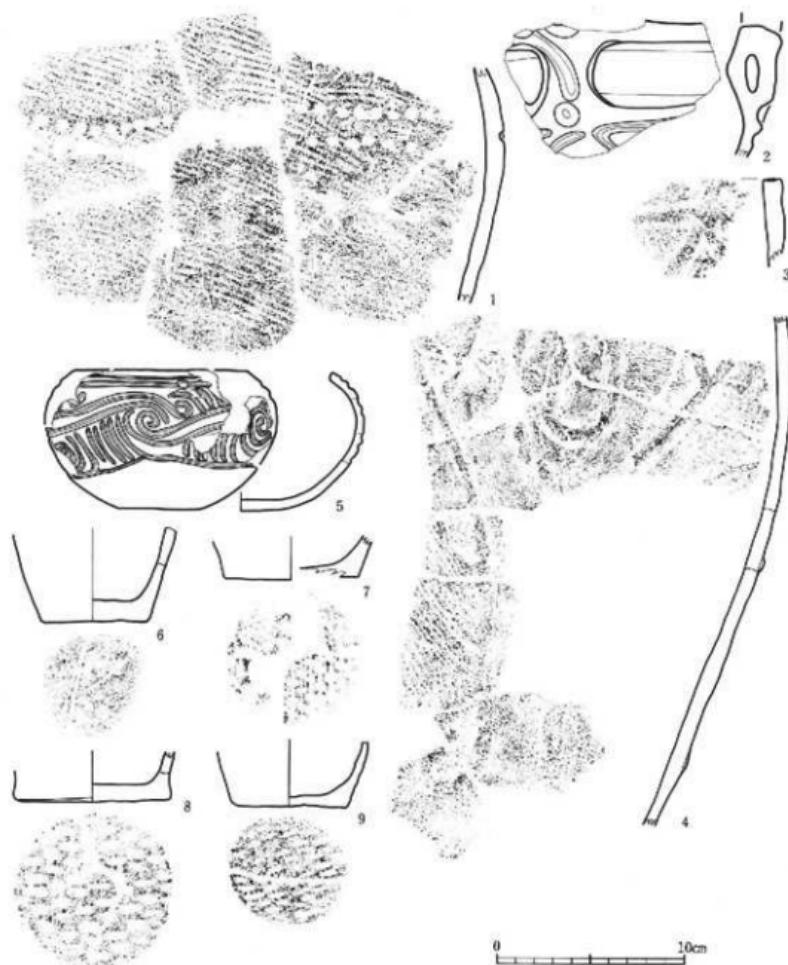
号	地区・層位	分類	形	量	組合	性	註	番号	地区・層位	分類	形	量	組合	性	註
1	D18 L.9.b	罐	束頸，L.9.陶文，沈器，赤陶	1	A31	5	直18	L.9.b	罐BG	束頸，網目狀點系文	0	A369			
2	B18 L.9.b	罐柄	C字形孔	1	A402	6	H18	L.9.b	深鉢	L.R.建文，點紋	0	A365			
3	B18 L.9.b	罐	尖底，L.9.陶文，沈器，褐陶	0	A359	7	H18	L.9.b	深鉢	L.R.建文，點紋，沈器	0	A360			
4	B18 L.9.b	罐口	網目狀點系文L，針織+網狀	0	A359	8	B18	L.9.b	直口	直10.4cm，L.R.陶文，網狀	0	A361			

第171図 9層出土土器 (36)



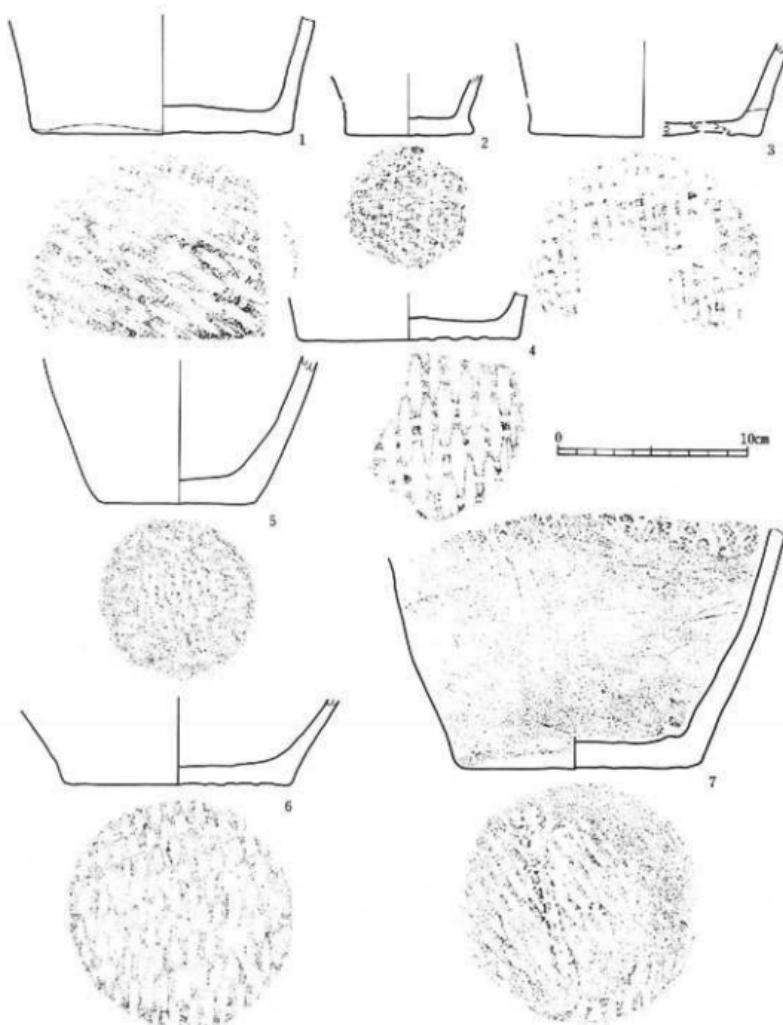
序号	地层・部位	分组	特征	组合	背景	编号	地层・部位	分组	特征	组合	背景
1	C18 L 9 b	纹口	口沿 扇形 8.8 cm, 高9.1 cm, 壁厚4 mm。 十字墨线。L R 镂文。内圈带环	1	A45	5	B18 L 9 b	带环G	L R 镂文。带环	1	A38
2	C18 L 9 a	圆饼	墨线。浅绿	6	A42	6	B19 L 9 a	带环	L R 镂文。带状带环。浅绿、刻划	9	A42
3	C18 L 9 b	圆饼	墨线。浅绿	7	A42	7	B19 L 9 b	直	9.0 cm, 直状把手。浅绿	9	A42
4	C18 L 9 b	纹口	深灰+浅口。L R 镂文。浅绿	8	A46	8	B19 L 9 b	带环C	最大径22.0 cm, 壁: 浅灰+深绿。内 带墨线。底: L R 镂文。浅绿	1	A32

第172圖 9層出土土器 (37)



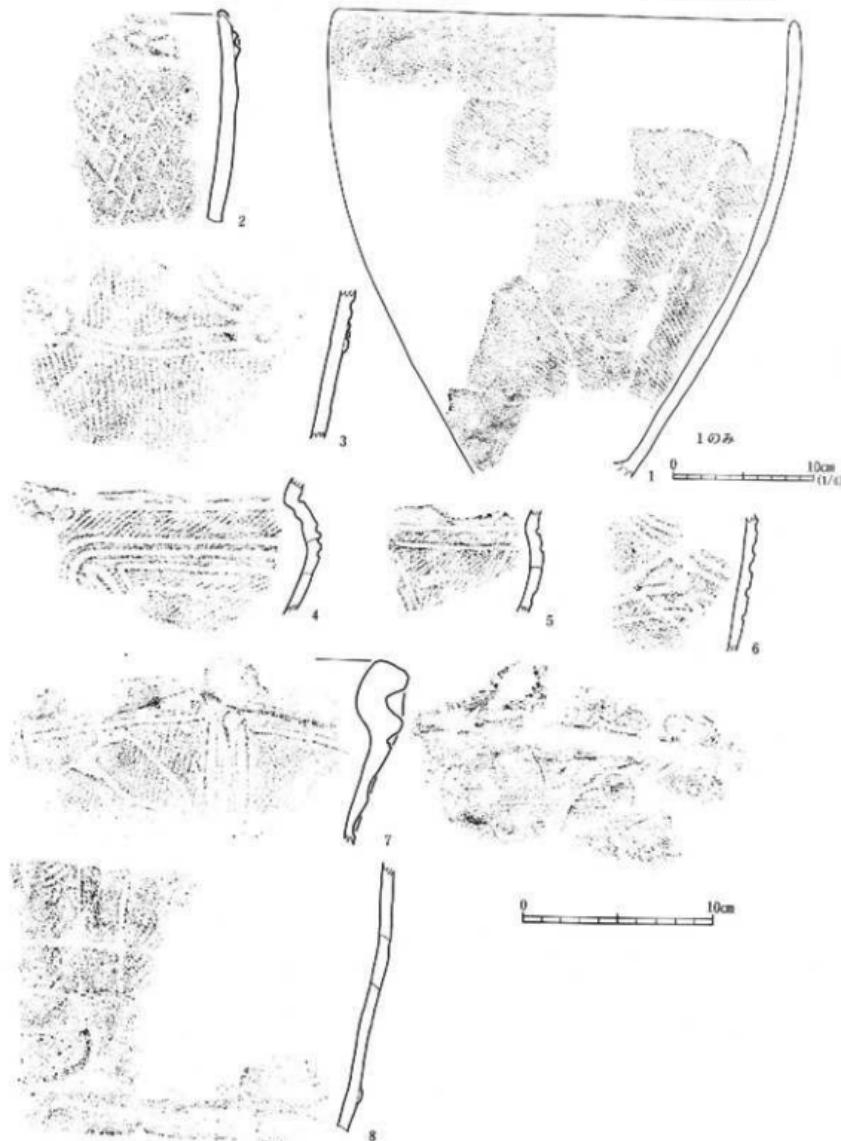
番号	地区・層位	分類	特　徴	縦合	横　縫	高さ	地区・層位	分類	特　徴	縦合	横　縫
1	B19 L10上	深鉢	L.R偏光、裏面 肥厚、底面	0	A106		C19	CB.2	高4.4cm、底7.4cm、浅鉢、外側 に黑色付着物	0	A162
2	B19 L3上	深鉢	肥厚、底面、裏面	0	A133		B.6	高7cm、銅代鉢	1	A176	
3	C19 L5上	深鉢	小突起(上部に凹み)、隨形、側面次 生縫	0	A209		A-B.9+B.1.95	高8.4cm、銅代鉢	0	A168	
4	C19 L5	器	高5.6cm、器把左支、本茎直	0	A185		A.9 L.D.b	高5cm、R側条文?、銅代鉢	0	A192	

第173図 9層出土土器 (38)



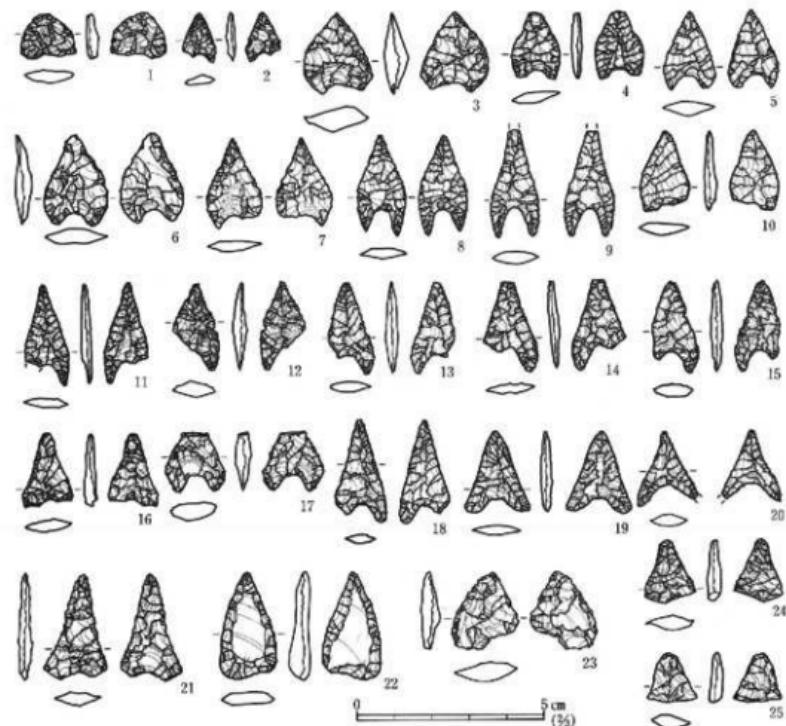
番号	地名・層位	分類	特征	検査	番号	地名・層位	分類	特征	検査
1	B 8 L 9	器	高13.4cm、喇叭狀	0	A 179	5 B 8 L 9	器	高8cm、喇叭狀	0 A 96
2	B+C 12 L 9 b	器	高6.2cm、喇叭狀、灰土粘色	0	A 269	5 B 17 L 9 a	器	高12.5cm、喇叭狀	0 A 196
3	C 7 L 9	器	高10cm、喇叭狀	0	A 175	7 B 18 L 9 b	器	高13cm、喇叭狀帶支足、喇叭狀、	0 A 164
4	B 16 L 9 b	器	高11.4cm、喇叭狀	0	A 191			透孔(Φ4.0)直徑(長さ)約0.8cm	

第174図 9層出土土器(39)



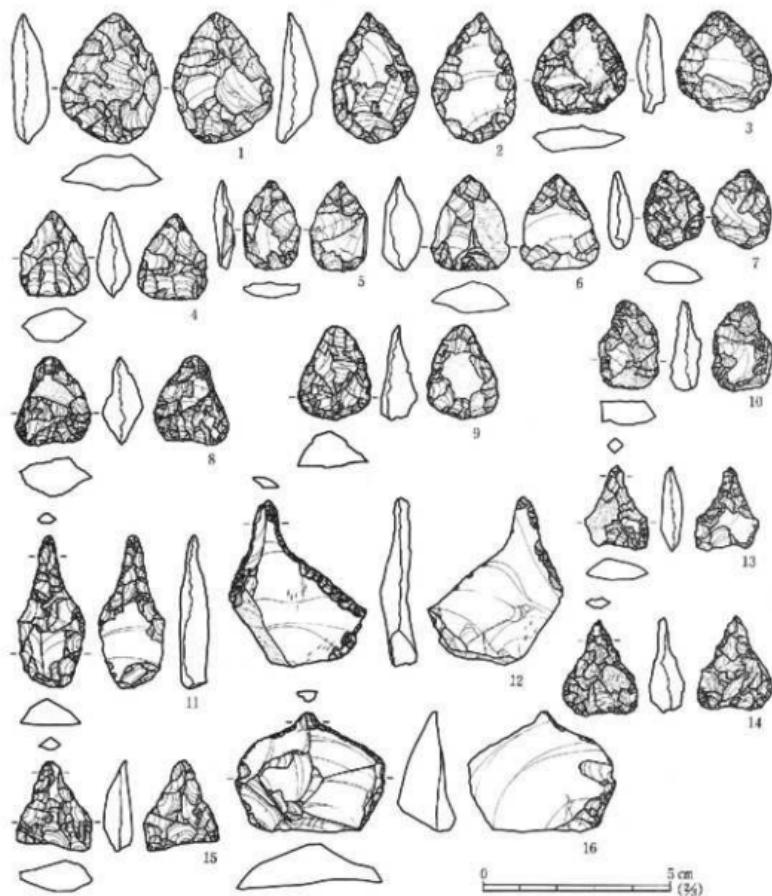
番号	出土地・地層	分類	特徴	測定	目	番号	測定	目	分類	特徴	目	操作	年 代
1	A7+8 L9b	骨器G	L:33cm, L:文鏡文	3	A81	4	A7 L9b					1	
2	B10 L9b	骨器G	側面長方形、斜状突起	0	A242	5	C11+12 L9		骨器C	L:文鏡文、比較、刺史		0	A729
3	B10 L9a	骨器G	L:文鏡文、沈頭、円形突起	0	A238	6	A7 L9b					0	
7	C15 L 9+2	骨器F	空腔、L:文鏡文、浅縫	0	A244	8	A76 L 9 b	骨針	長L:鏡文、細縫、縫跡、沈頭		1	A359	

第175図 9層出土土器 (40)



地 區	層 位	分 類	長 mm	幅 mm	厚 mm	重 g	石 材	特 徵	登 錄
1 B 5 d	9	石鏃 I A	11.6	14.2	3.3	0.5	黑曜岩	先端、圓鋒端を欠く	Ka332
2 B 11	9	石鏃 I A	13.3	8.6	1.9	0.1	黑曜岩	片側を欠く	Ka333
3 B 7 f	9	石鏃 I A	20.7	17.7	6.4	1.6	珪質頁岩		Ka336
4 B 10	9	石鏃 I A	18	12.8	2.7	0.6	珪質頁岩	先端を欠く	Ka340
5 B 12	9	石鏃 I A	21	13.4	4.1	0.8	珪質頁岩		Ka327
6 A 5	9 b	石鏃 I A	24.1	16.4	4	1.1	珪質頁岩		Ka321
7 A 12	9	石鏃 I A	24	14.6	3.7	0.9	珪質頁岩	片側を欠く。アスファルト付着	Ka325
8 A 11	9	石鏃 I A	26.4	12.8	2.9	0.7	珪質頁岩		Ka326
9 B 12	9	石鏃 I A	28.2	13	3.1	0.9	珪質頁岩	先端を欠く	Ka329
10 B 17 a	9 a	石鏃 I A	21.7	12.7	3	0.7	珪質頁岩	四脚を欠く	Ka315
11 C 14 b	9 b	石鏃 I A	27.1	11.3	2.5	0.5	珪質頁岩	片側を欠く	Ka323
12 B 11	9	石鏃 I A	23.4	12	3.6	0.6	黑曜岩	片側を欠く	Ka331
13 B 16 a	9 a	石鏃 I A	24.3	11.4	3.4	0.7	珪質頁岩	片側を欠く	Ka316
14 A 11 d	9 b	石鏃 I A	23.5	13.8	2.4	0.6	珪質頁岩	先端、片側を欠く	Ka322
15 A 11	9	石鏃 I A	24.6	11.8	3.4	0.6	黑曜岩	片側を欠く	Ka330
16 A 12	9	石鏃 I A	19.6	13.3	3.2	0.6	珪質頁岩	圓鋒端を欠く	Ka341
17 B 11 b	9	石鏃 I A	15.6	15.7	4.2	0.5	珪質頁岩	先端を欠く	Ka342
18 C 16 a	9 a	石鏃 I A	26.9	12.8	3.6	0.7	鈣石英	片側を欠く	Ka318
19 C 0 e	9	石鏃 I A	21.6	17.1	2.8	0.7	珪質頁岩		Ka337
20 C 11	9	石鏃 I A	18.9	15.3	2.6	0.4	珪質頁岩		Ka328
21 A 11	9	石鏃 I A	27.8	16.2	3.2	0.9	珪質頁岩	圓鋒端を欠く	Ka334
22 C 16 h	9 a	石鏃 I A	28.7	15.2	5.6	2.1	珪質頁岩		Ka317
23 B 6 e	9	石鏃 I B	21	17.5	5	1.4	珪質頁岩		Ka339
24 A 12	9	石鏃 I B	16.6	12.7	3.5	0.5	三鈷		Ka338
25 B 6 i	9 b	石鏃	13.1	12.6	3.2	0.4	黑曜岩		Ka319

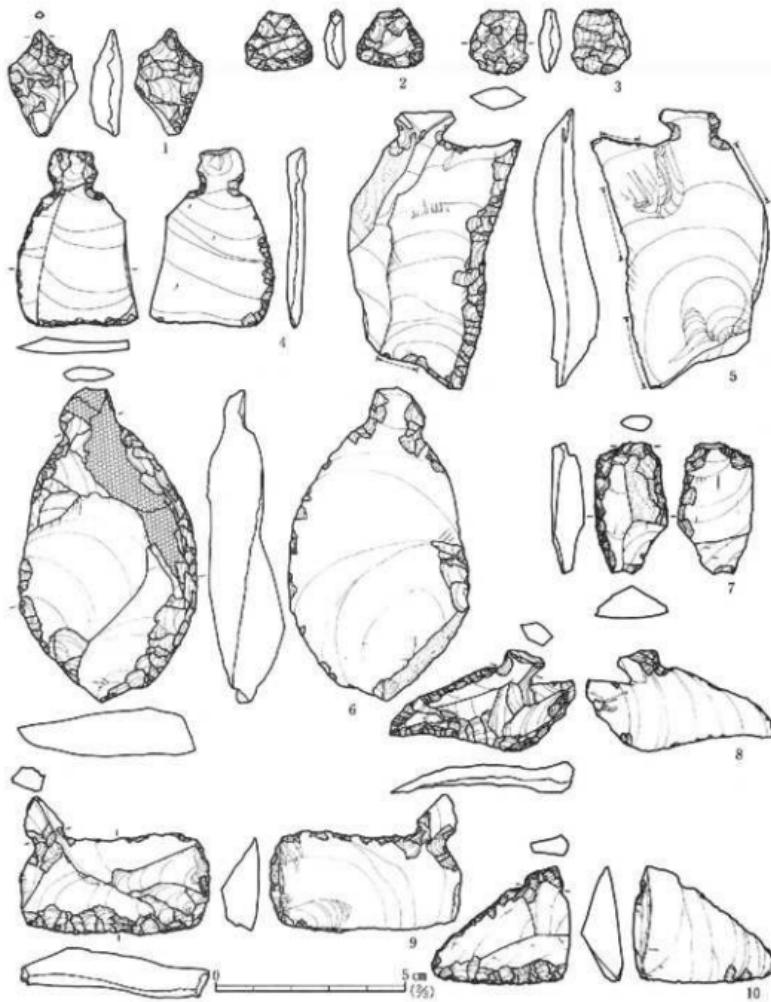
第176圖 9層出土剝片石器（1）



地 区	層 位	分 類	長 mm	幅 mm	厚 mm	重 g	石 材	特 備	登 錄
1	A 11	尖頭器	34.9	26.9	9.1	7.8	珪質頁岩		Ka365
2	A 10	尖頭器	35	22.7	9.4	6.8	珪質頁岩		Ka350
3	B 17 c	尖頭器	27.2	24.5	6.5	4.1	珪質頁岩		Ka354
4	C 7	尖頭器	22.8	18.5	8.3	3.1	珪質頁岩		Ka364
5	B 12	尖頭器	23.7	14.5	4.6	1.5	珪質頁岩		Ka361
6	B 6 i	尖頭器	25.5	21.3	9.8	4.6	珪質頁岩		Ka353
7	B + C 15	尖頭器	21.1	15.6	5.9	1.9	珪質頁岩	6層の遺物	Ka298
8	C 12 b	尖頭器	23.5	20	9.7	3.5	鐵石英		Ka349
9	B 16 g	尖頭器	25	18.9	9	3.4	鐵石英		Ka348
10	C 12 h	尖頭器	23.8	15.6	6.6	2.6	鐵石英		Ka355
11	A + B 12	石 鋸	40.5	17.5	7.2	4.6	珪質頁岩		Ka274
12	B 2	石 鋸	44.5	35.6	6.8	6.7	珪質頁岩		Ka372
13	C 11	石 鋸	21.9	16.5	5.4	1.6	珪質頁岩		Ka320
14	B 17 w	石 鋸	25.2	20.2	7.1	2.7	玉髓		Ka367
15	B 19 h	石 鋸	24.5	20	8.2	2.9	珪質頁岩		Ka366
16	A 6	石 鋸	32.8	39.5	12	11.4	珪質頁岩		Ka368

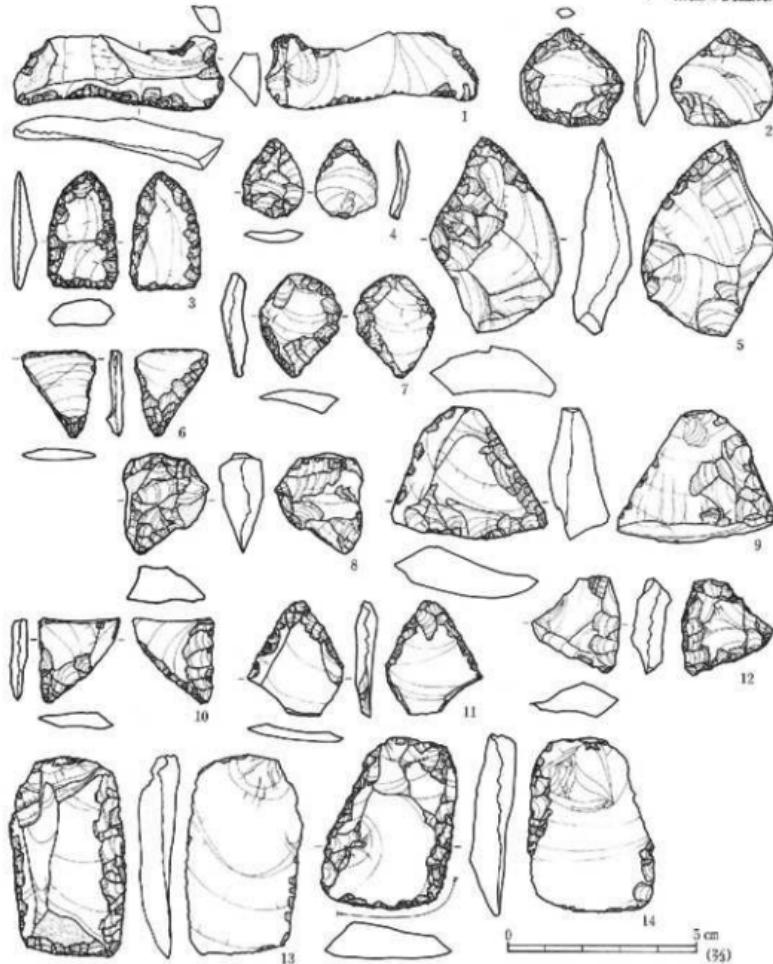
第177図 9層出土刺片石器（2）

(7は6層の遺物である)



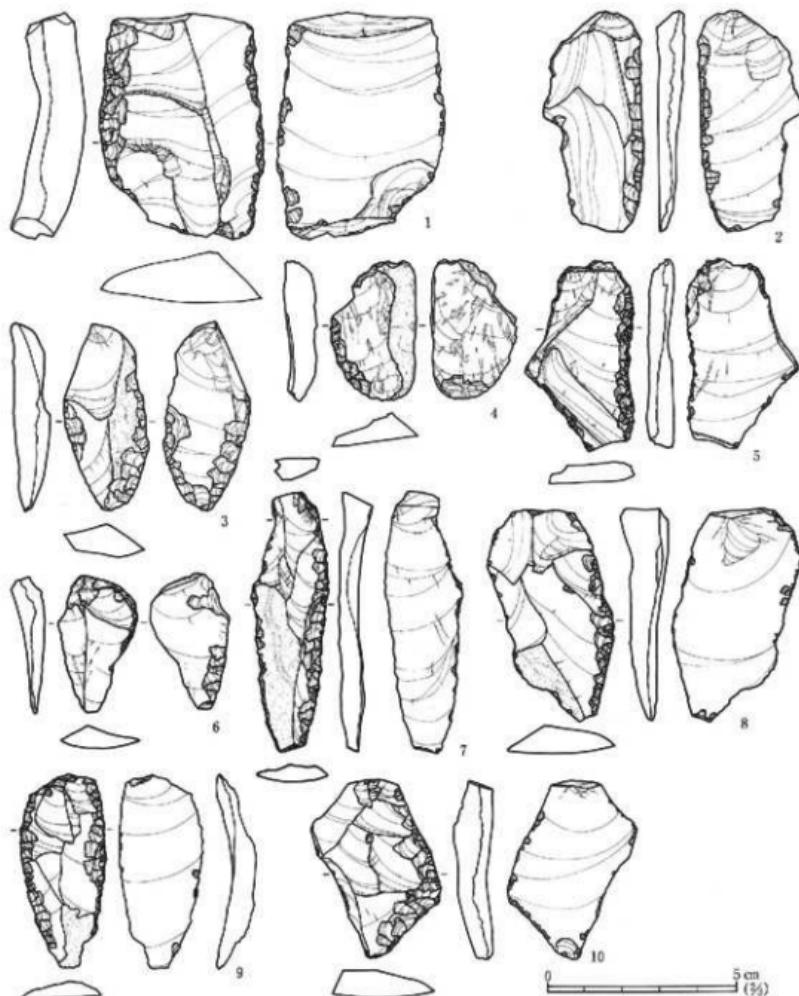
地 区	層位	分 類	長cm	幅cm	厚cm	重g	石 材	特 徴	登 錄
1	B12	9 b 石塊	28	18.2	8.1	3.5	珪質頁岩	側刃ツブレ	Ka369
2	A11	9 石塊	15.5	17.4	4.9	1.3	珪質頁岩	先端を欠く	Ka370
3	B11	9 石塊	17	15	6.0	1.3	麻尾岩	先端を欠く	Ka360
4	C12	9 石塊 I	47.4	34.3	3.1	5.4	珪質頁岩		Ka379
5	B10	9 b 石塊 I	72.7	38.8	11.7	35.8	珪質頁岩	横細削溝痕あり	Ka380
6	B 6 k	9 石塊 II	83	48.5	14.3	53.8	珪質頁岩		Ka376
7	B 6 i	9 石塊 II	35.1	19.1	8.7	5.5	珪質頁岩	つまみ部を欠く	Ka375
8	B 6 h	9 石塊 II	49.8	27	6.2	5.6	珪質頁岩		Ka374
9	B 6 e	9 石塊 II	50	37.6	10.4	16.8	珪質頁岩		Ka378
10	A 5	9 b 石塊	37.5	31.2	10	7.6	珪質頁岩		Ka387

第178図 9層出土剥片石器（3）



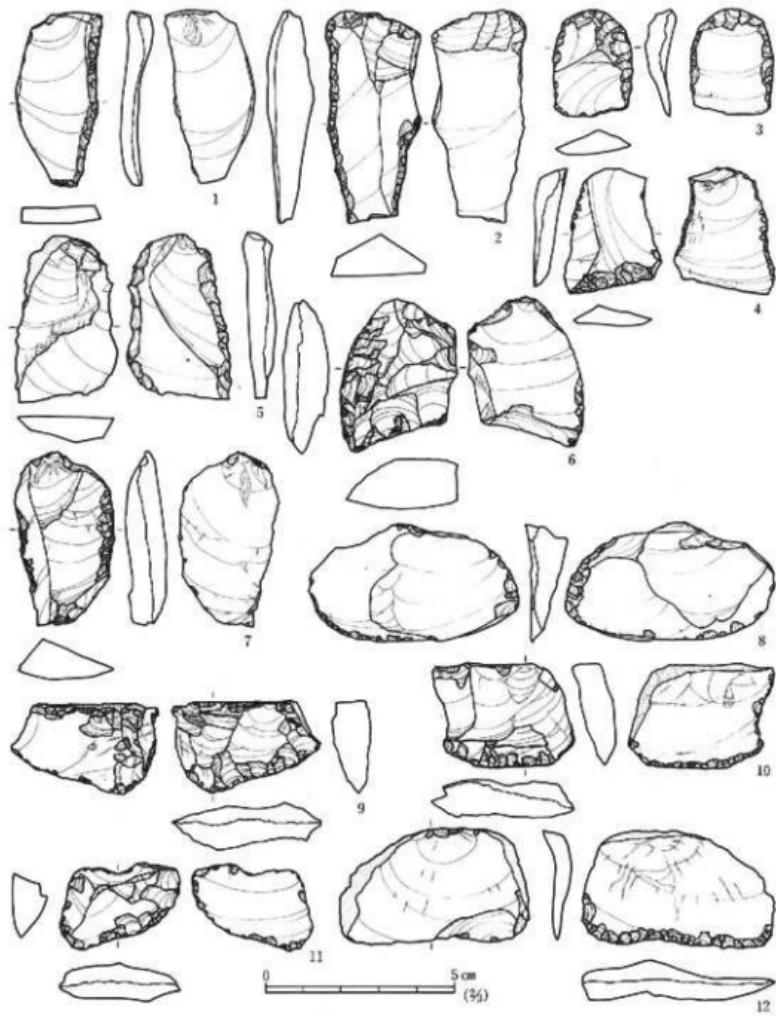
地 区	層位	分類	長mm	幅mm	厚mm	重kg	石 材	特 徴	登録
1 C16	9 b	石剣II	55.5	20	8.2	8.5	珪質頁岩		Ka396
2	9	不定形I A	27.1	24.9	5.8	4.4	珪質頁岩		Ka121
3 C16	9 a	不定形I A	31.8	19.2	6.2	3.4	珪質頁岩		Ka389
4 B12	9	不定形I A	20.8	15.9	2.8	0.9	珪質頁岩		Ka335
5 B12 i	9 b	不定形I A	51.9	34.8	12.2	17.8	珪質頁岩		Ka351
6	9 b	不定形I A	25.7	16.9	4.5	1.5	珪質頁岩		Ka362
7 B15 - 16	9 a	不定形I A	27.3	21.1	5.1	2.8	珪質頁岩		Ka546
8 B 6 R	9	不定形I A	28.2	23.1	11.1	6.9	珪質頁岩		Ka363
9 B15 f	9 a	不定形I A	40.4	37	12.7	15.3	珪質頁岩		Ka347
10 B11 h	9	不定形I A	29.8	19.3	3.6	1.8	珪質頁岩		Ka358
11 B 5 b	9	不定形I A	31.1	25.7	5.5	3.4	珪質頁岩		Ka454
12 C14 a	9 b	不定形I A	26.2	23.6	8.4	4.2	珪質頁岩		Ka352
13 B 7 b	9 b	不定形I B	54.2	30.6	9.3	16.4	珪質頁岩		Ka418
14	9 b	不定形I B	46.4	32.1	9.3	18.1	珪質頁岩		Ka388

第179図 9層出土剣片石器(4)



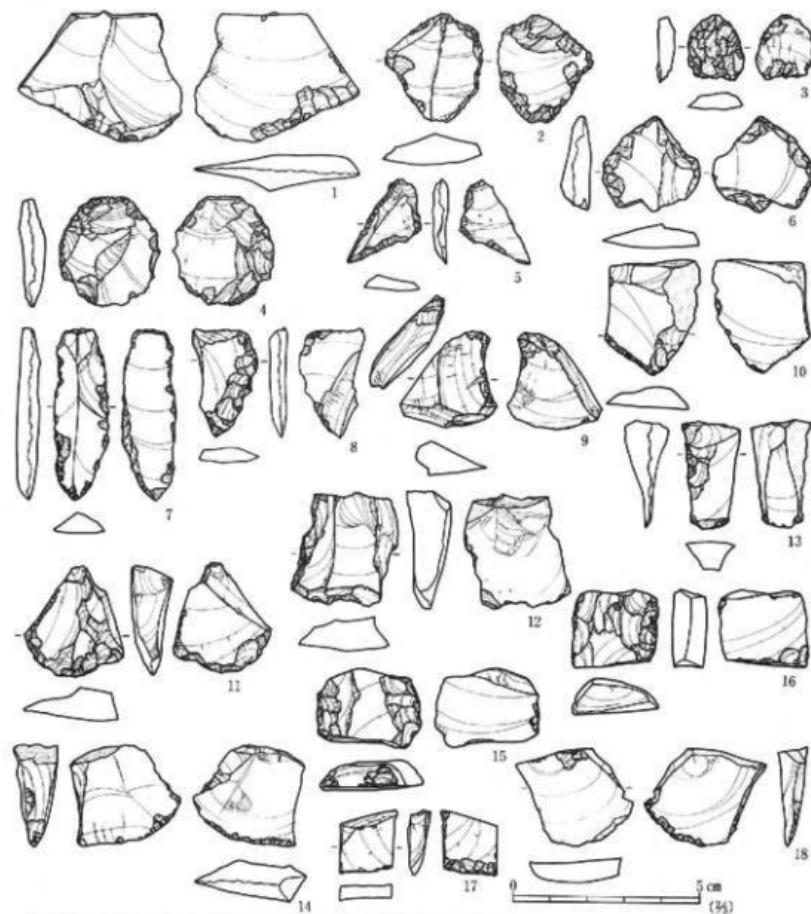
地 区	層位	分類	長mm	幅mm	厚mm	重g	石 材	特 徵	登 記
1	B10 b	不定形 I B	67.5	52.5	13.6	43	珪質岩		Ka417
2	C11	不定形 I B	59.1	26.2	6.7	9.5	珪質岩		Ka406
3	A 7 a	不定形 I B	24.7	11.3	4.5	9.0	珪質岩		Ka1768
4	A 11	不定形 I B	36.8	22.2	7.2	5.8	黑曜岩		Ka413
5	B 7 h	不定形 I B	50.7	30	5.3	8.2	珪質岩		Ka461
6	B16 c	不定形 I C	35.8	21	6.3	3.4	玉髓		Ka1769
7	A 10 a	不定形 I B	7.1	20.4	8	8.2	珪質岩		Ka384
8	B11 h	不定形 I B	58.6	29.8	11	14.6	珪質岩		Ka451
9	B 7 f	不定形 I B	31.5	23.5	6.3	6.7	連質岩		Ka377
10	A 11 d	不定形 I B	48	35	9	12.8	珪質岩		Ka408

第180図 9層出土剥片石器（5）



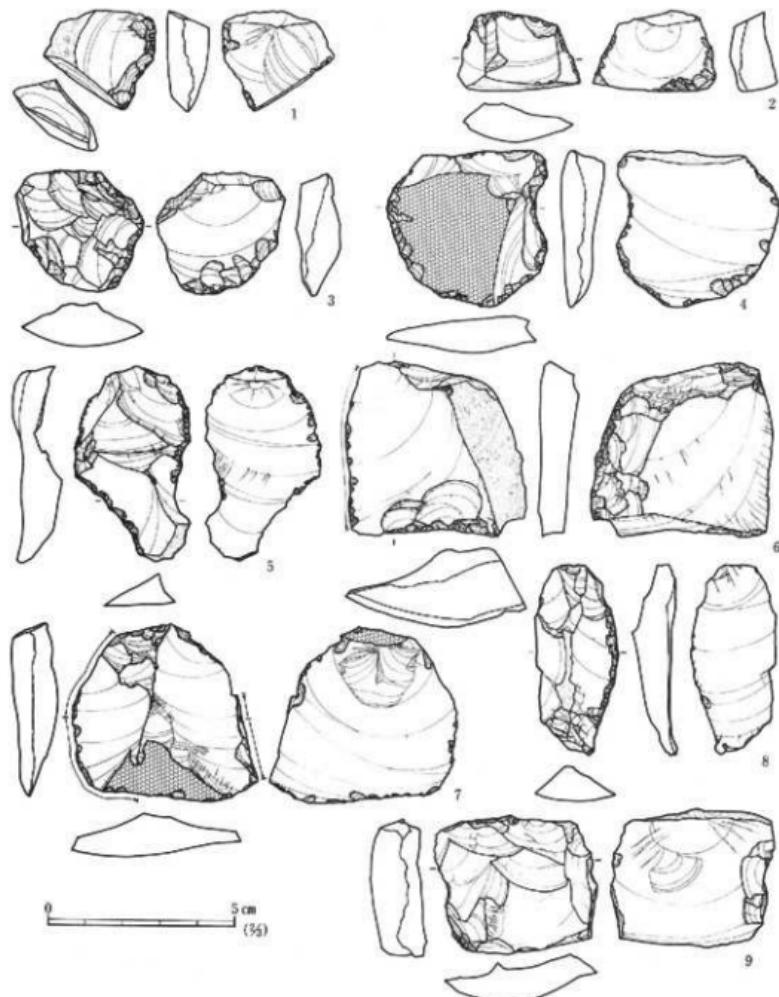
地区	層位	分類	長mm	幅mm	厚mm	重g	石材	特徴	登録
1	A 5	9 b 不定形 I B	46.6	22.2	5.8	5.8	珪質頁岩		Ka433
2	B・C15	6 不定形 I B	56.8	26.1	11.7	14.7	珪質頁岩	6層の遺物	Ka281
3	C15 K	9 a 不定形 I B	28.4	21.5	6	3.4	珪質頁岩		Ka404
4	B17 b	9 b 不定形 I B	37.2	30.8	5.4	4.8	珪質頁岩		Ka414
5	A 8 a	9 b 不定形 I B	46.3	27.7	7.7	8.8	珪質頁岩		Ka415
6	C12 d	9 b 不定形 I B	42.3	30.5	12.4	16	珪質頁岩		Ka407
7	B16 d	9 a 不定形 I B	46.4	27.5	10	11.1	珪質頁岩		Ka391
8	B19 h	9 a 不定形 I B	55.5	31.1	5.7	10.7	珪質頁岩		Ka392
9	B17 h	9 b 不定形 I C	40.7	27.8	10.3	10.3	珪質頁岩		Ka412
10	B17 e	9 a 不定形 I B	42.7	33	9.1	10.7	珪質頁岩		Ka390
11	B12 i	9 b 不定形 I B	35.4	22.8	9.1	6.1	珪質頁岩		Ka416
12	C13	9 不定形 I C	50.7	37.3	7	9.4	珪質頁岩		Ka462

(2は6層の遺物である)



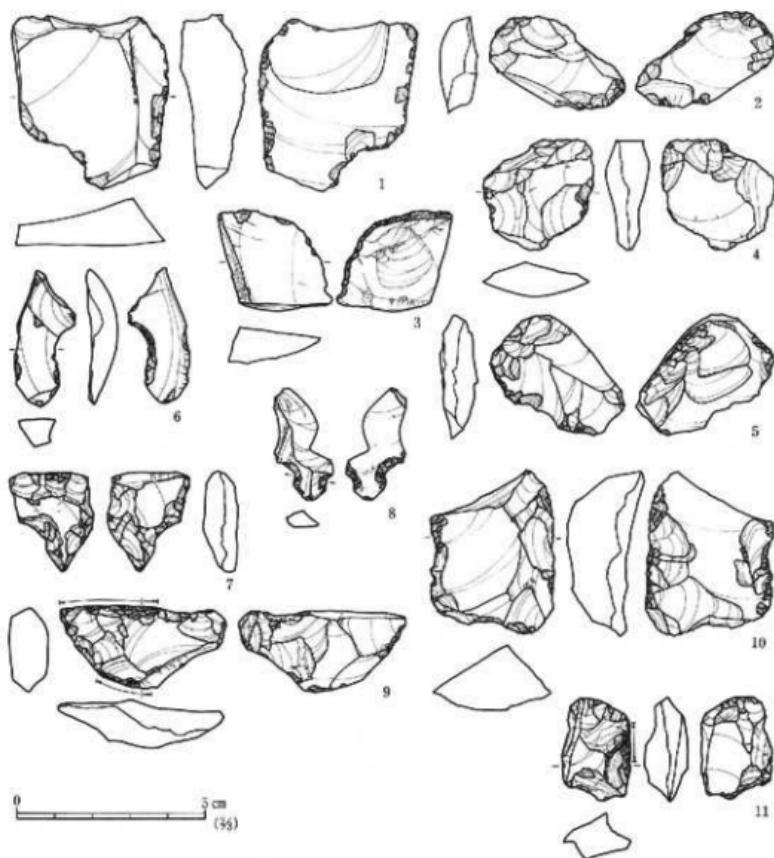
地 区	層位	分類	長mm	寬mm	厚mm	重g	石 材	特 徵	登 誌
1	B19 d	9 b 不定期 I C	43.9	34.8	9.2	12.5	珪質頁岩		Ka410
2	A 9 d	9 b 不定期 I C	29.2	25.5	7.4	4.5	珪質頁岩		Ka409
3	B11	9 不定期 I D	17.8	14.7	4.1	1.2	黑曜岩	石鋸か?	Kn359
4	B17+18	9 b 不定期 I C	29.3	26.9	5.6	4.5	珪質頁岩		Ka86
5	A11 d	9 b 不定期 II	26.2	13.2	3.4	1.2	珪質頁岩		Ka356
6	B16 d	9 b 不定期 II	26.1	25.7	6.9	4.3	珪質頁岩		Ka357
7	B+C12+13	9 不定期 IV	45.8	14.6	5.7	3.7	珪質頁岩		Ka436
8	B11 e	9 b 不定期 III	29.7	17.7	4.2	2.5	珪質頁岩		Ka422
9	B 6 h	9 b 不定期 IV	20.2	22.3	7.9	4.1	珪質頁岩		Ka420
10	B 6 c	9 b 不定期 I B	32	30.4	10.3	6.7	珪質頁岩		Ka423
11	B17 d	9 a 不定期 IV	30	26.8	11.1	5.9	珪質頁岩		Ka403
12	B12 h	9 b 不定期 IV	35.3	32.5	11.5	8.7	珪質頁岩		Ka405
13	C11	9 不定期 IV	29.1	16.2	9.5	2.8	珪質頁岩		Ka437
14	C11 e	9 b 不定期 IV	31.8	29.5	9.9	7.7	珪質頁岩		Ka421
15	B 6 h	9 不定期 IV	28.9	25.3	7.3	6.3	珪質頁岩		Ka455
16	B 0	9 不定期 IV	28.4	25.4	9.2	6.1	珪質頁岩		Ka440
17	B 9 i	9 不定期 IV	22.2	17.9	4.8	1.6	珪質頁岩		Ka438
18	C17	9 不定期 IV	33.4	27.4	8.2	4.3	珪質頁岩		Ka395

第182図 9層出土剥片石器（7）



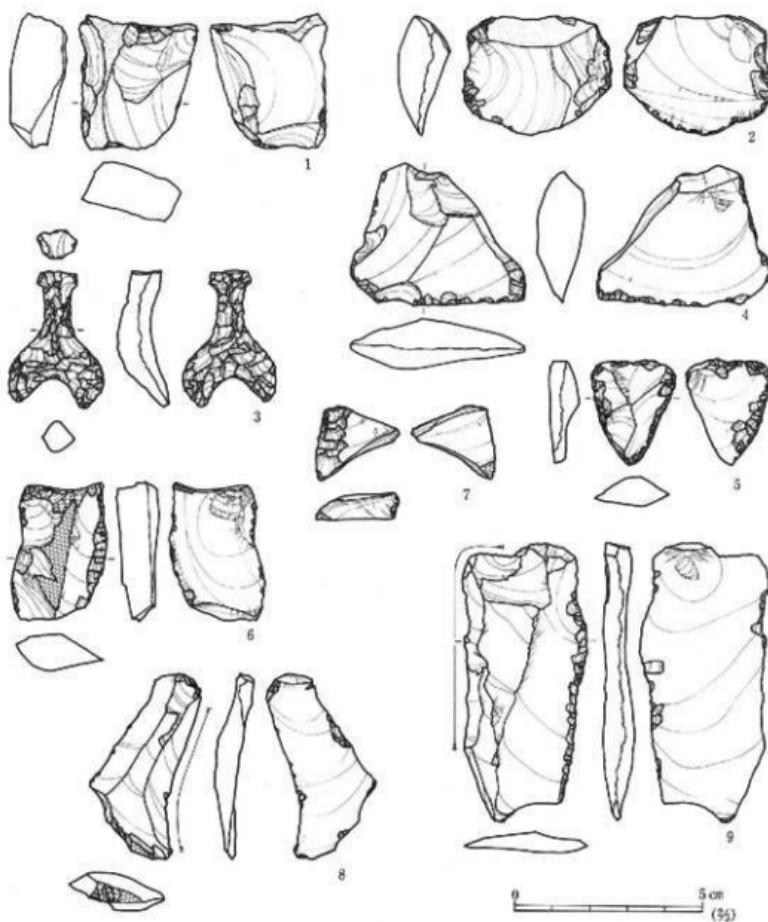
地 区	層位	分 類	長 mm	幅 mm	厚 mm	重 g	石 材	特 徴	登 記
1	B12	9 不定形IV	30.9	28.3	11.1	8.1	珪質頁岩		Ka439
2	B18h	9 a 不定形IV	33.5	27.8	10	7.2	珪質頁岩	ツブレ状	Ka394
3	C18e	9 a 不定形V	37.3	29.8	11.6	10.9	珪質頁岩	腹面の加工が凹凸	Ka396
4	B10	9 不定形VII	46.7	43.7	11.1	19.2	珪質頁岩		Ka442
5	B15 - 16	9 a 不定形VI	51.3	33.3	9	11.4	珪質頁岩		Ka393
6	B11	9 不定形VII	58.2	52.3	19.5	43.3	珪質頁岩		Ka493
7	A11d	9 b 不定形VI	53.8	47.8	11.5	21.8	珪質頁岩	微細網状有	Ka491
8	B17g	9 b 不定形VI	51.1	22.8	9.6	9	珪質頁岩		Ka419
9	C3c	9 不定形IV	50	44.3	13.1	26.2	珪質頁岩		Ka494

第183図 9層出土剥片石器(8)



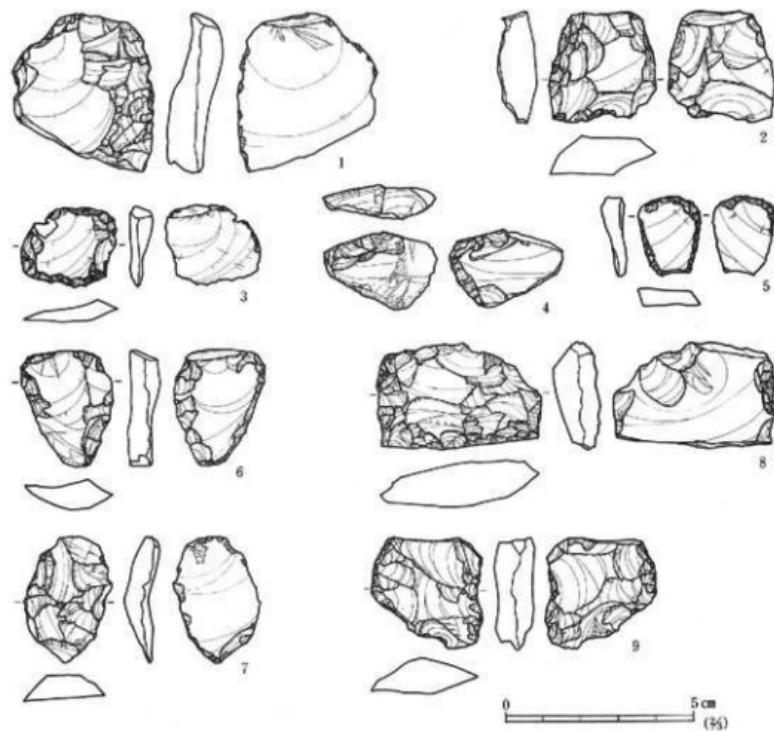
地 区	層位	分 類	長mm	幅mm	厚mm	重kg	石 質	特 殊	登 錄
1	A 6	9 b 不定形VI	53.6	42.7	13.6	22.4	珪質頁岩		Ka424
2	A 6	9 b 不定形Ⅶ	38.4	21.3	9.2	7.8	珪質頁岩		Ka432
3	B17e	9 b 不定形VI	37.8	26	9.1	7.5	珪質頁岩		Ka411
4	C 7 i	9 b 不定形Ⅶ	34	25.7	11.3	8.1	珪質頁岩		Ka489
5	B 5 c	9 不定形Ⅶ	37.8	25.8	10.1	8.2	珪質頁岩		Ka448
6	B 6	9 不定形Ⅶ	36.1	15.7	7.3	3.3	珪質頁岩		Ka453
7	A12	9 不定形Ⅶ	26.6	22.8	9.3	2.9	珪化木灰岩		Ka371
8	B19K	9 a 不定形Ⅸ	29.9	14.2	6.2	1.7	珪質頁岩		Ka382
9	C 17	9 a 四極制離	44.5	21.9	11.3	9.4	珪質頁岩	一対の四極制離直	Ka381
10	C 6 E	9 四極制離	45.3	41	17.9	23.3	珪質頁岩	一対の四極制離直	Ka475
11	C 16 i	9 a 四極制離	28	22	10.4	3.8	珪質頁岩	二対の四極制離直	Ka468

第184図 9層出土剝片石器（9）



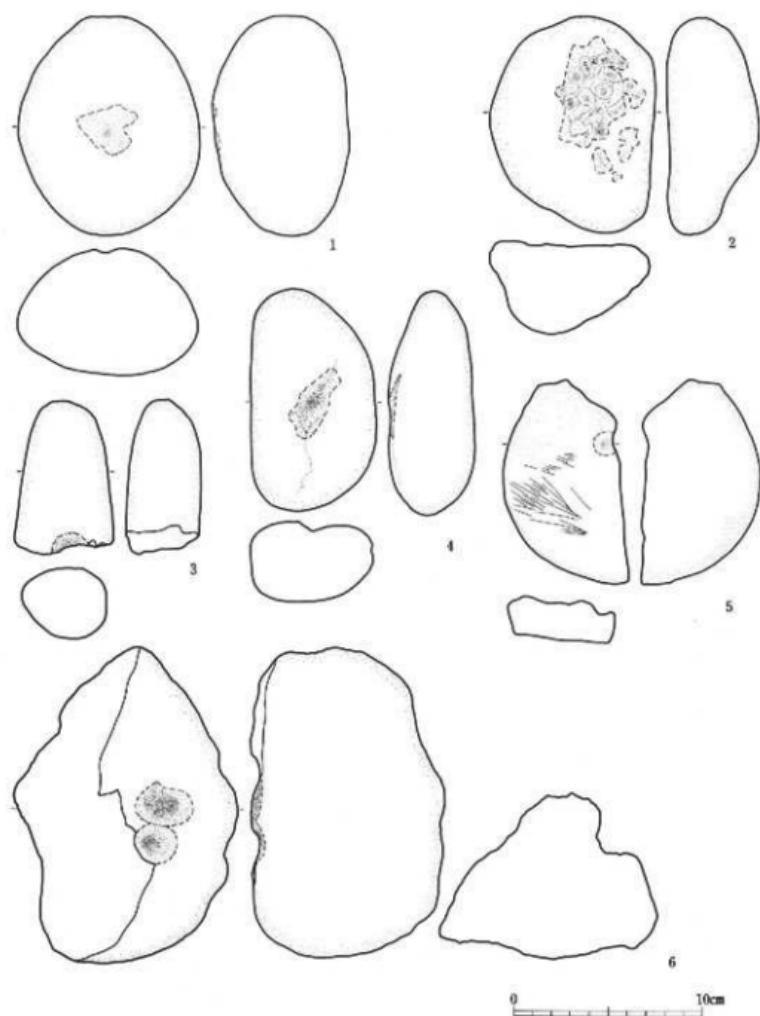
地 区	層位	分類	長mm	幅mm	厚mm	重g	石 材	特 値	登録
1 A 8	9 b	両極削離	43	36.2	13.9	19.7	珪質頁岩	一对の両極削離片	Ka490
2 C 12	9 b	両極削離	40.5	33.4	12	15.7	珪質頁岩	一对の両極削離片	Ka471
3 C 15	9 b	興形石器	35.2	25	8.9	5.5	鈍石英		Ka498
4 B 10	9	不定形 I A	50	37.2	13.1	17.7	珪質頁岩		Ka452
5 B 11	9	不定形 I A	27.9	22.4	7.9	3.8	珪質頁岩		Ka443
6 A 12	9	不定形 I B	42.1	31.1	10.9	10	珪質頁岩		Ka450
7 C 5	9	不定形 I D	24.1	15.6	6.3	2.2	珪質頁岩	破損品?	Ka456
8 A 7	9	不定形 I B	49	28.1	6.2	6.3	珪質頁岩		Ka445
9 A 8	9	不定形 I B	74.8	38.1	8	17.2	珪質頁岩		Ka444

第185図 9層出土剝片石器 (10)



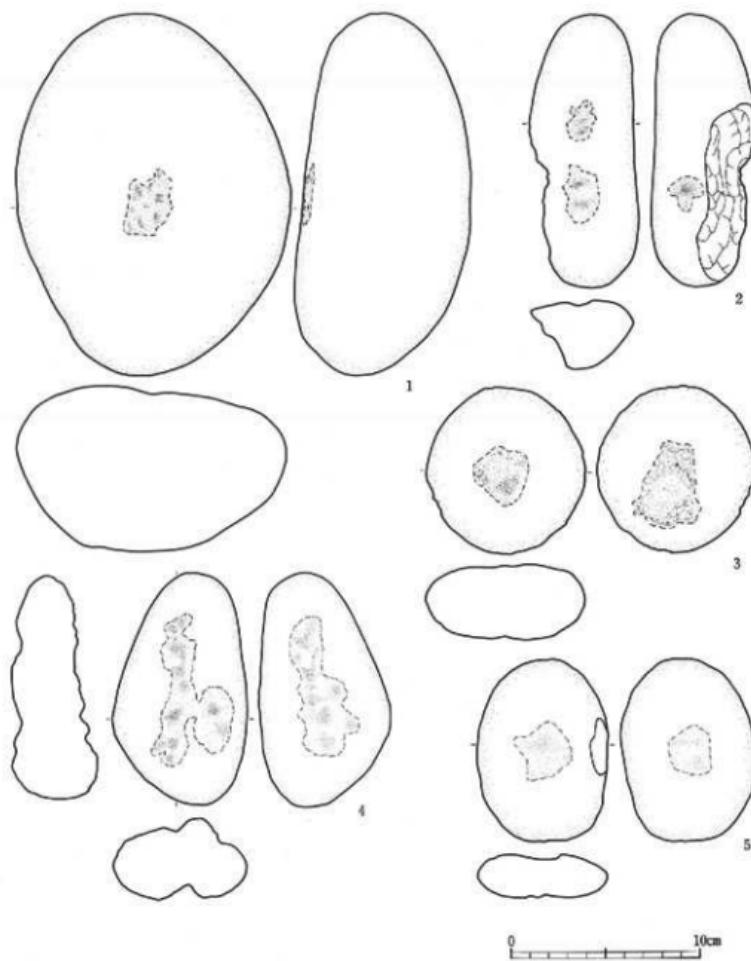
地 区	層 位	分 類	長 mm	寬 mm	厚 mm	重 g	石 材	特 徵	登 記
1	B 9 c	不定形 I B	46.2	38.7	9.2	16.1	瑪質頁岩		Kn449
2	B 4 a	不定形 I B	35.8	29.6	9.6	9.3	瑪質頁岩		Kn446
3	C 4	不定形 II	27.4	22.1	5.1	2.2	瑪質頁岩		Kn458
4	A 12	不定形 IV	30	20.8	7.9	5.4	瑪質頁岩		Kn441
5	B 10	不定形 VI	21	18.2	4.8	1.6	瑪質頁岩		Kn459
6	B 12	不定形 V	32.2	22.7	7.6	5.7	瑪質頁岩		Kn447
7	B 18 h	不定形 VII	34.2	22	6	4.5	瑪質頁岩		Kn481
8	B 12	兩種剝離	45.8	35.5	10.7	14	瑪質頁岩		Kn473
9	A 11 a	兩種剝離	36	28.6	9.5	9.2	瑪質頁岩		Kn470

第186圖 9層出土剝片石器 (11)



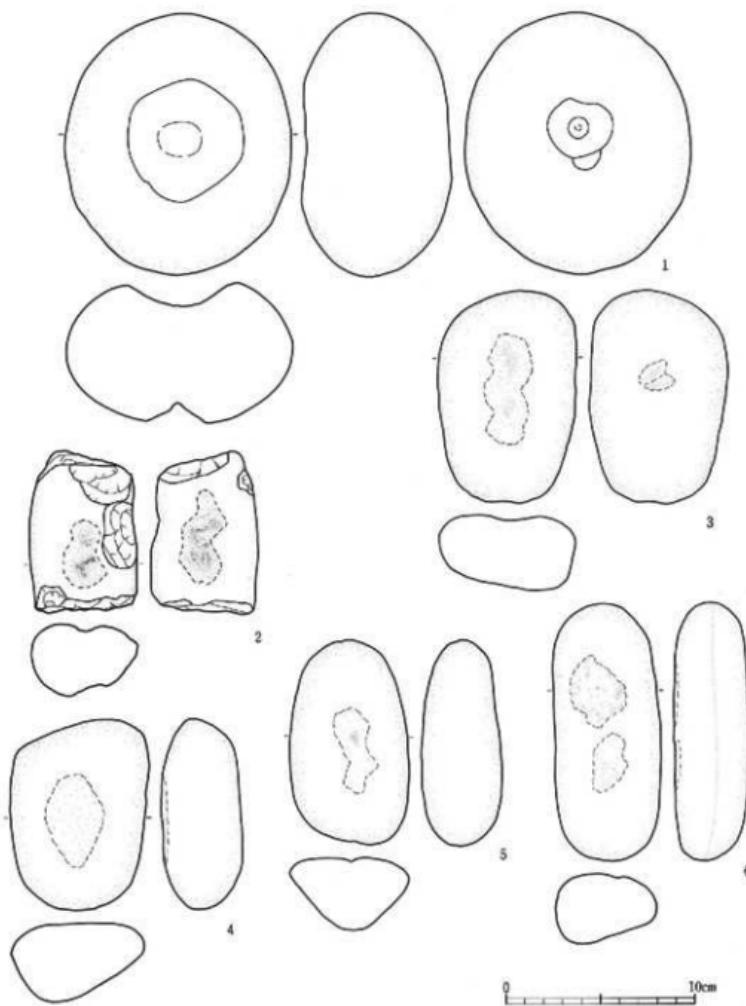
地区・層位	分類	長cm	幅cm	厚cm	重g	右	左	参考
1 B9 g L9	1A 四脚	11.6	9.6	5.8	1500	安山岩	1面	Kc92
2 A8 L9	1A 四脚	11.4	8.7	5.8	600	角礫岩	1面	Kc83
3 C14 L9	1A 四脚	8.1	5.2	3.7	240	安山岩	1面	Kc102
4 B7 f L9	1A 四脚	11.9	6.6	4.2	510	安山岩	1面	Kc44
5 B7 a L9	1A 四脚	10.3	6.2	2.1	150	石英安山岩鉈状剥離灰岩	1面、鉈状あり	Kc81
6 C16e L9	1A 四脚	16.7	11.7	8.9	1000	石英安山岩鉈状剥離灰岩	1面	Kc98

第187図 9層出土石器(1)



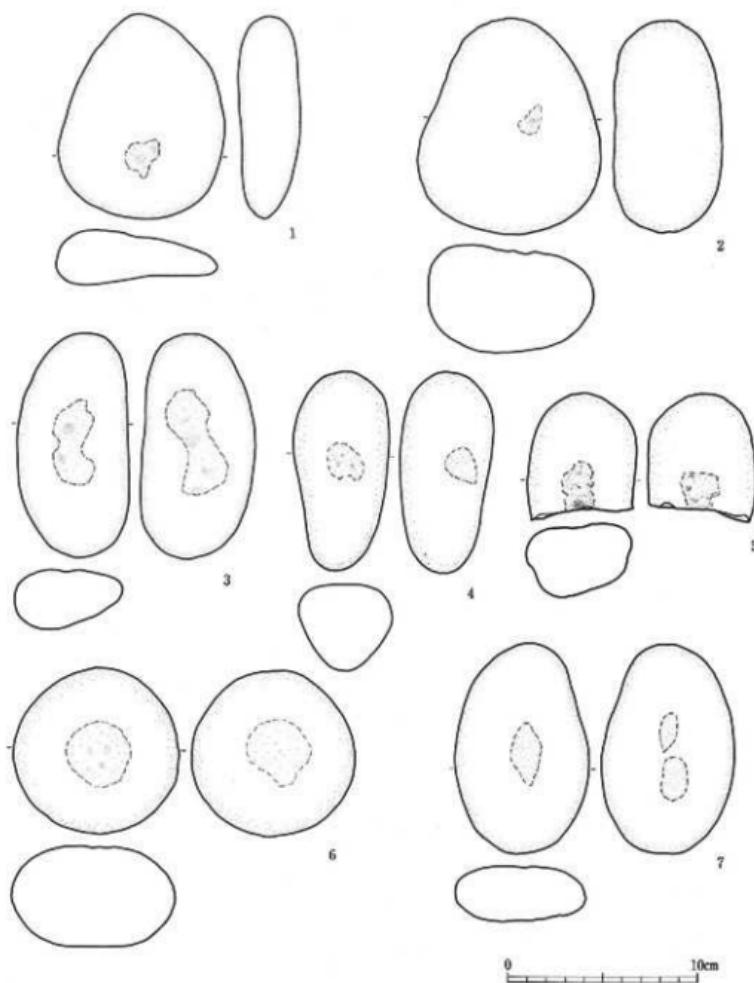
地區・層位	分類	長cm	幅cm	厚cm	重g	石 材	備	考 證
1 B17 L 9	1A 四瓣	19.3	14.5	8.6	3650	安山岩	1面	Kc66
2 C6e L 9	1A 四瓣	14.6	5.9	3.5	365	砾灰岩質砂岩?	1面	Kc57
3 C7f L 9	1A 四瓣	8.9	8.3	4.0	390	砂岩	2面	Kc58
4 C17h L 9 b	1A 四瓣	12.4	7.1	4.2	2800	石英安山岩質砂岩	2面	Kc64
5 C18f L 10上	1A 四瓣	9.7	6.9	2.3	235	安山岩	2面	Kc214

第188圖 9層出土石器（2）



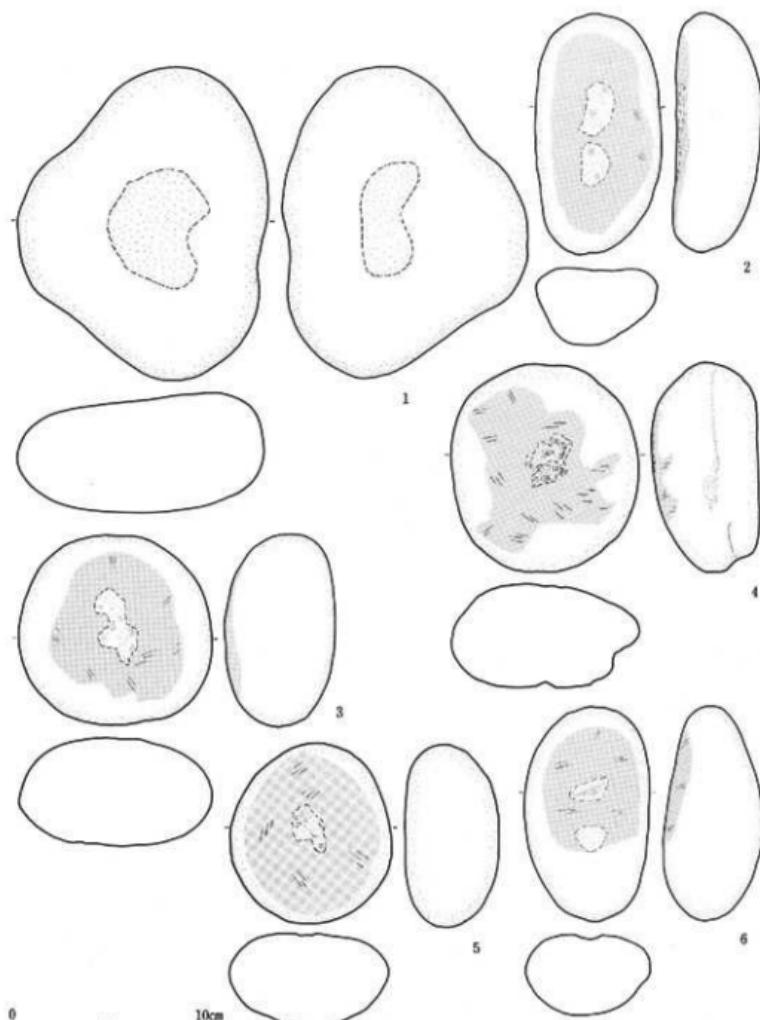
番号	地区・層位	分類	長cm	幅cm	厚cm	重g	石 材	備 考	登 録
1	C 7 L 9	1A 四隅	13.9	12.0	7.2	1265	石英安山岩質灰物	2面の深く大きな四み	Kc173
2	C 12 L 9	1A 四隅	8.5	5.1	3.8	290	安山岩	2面、鋸歯状あり。面右に使用か？	Kc56
3	B17e L 9 b	1A 四隅	11.3	7.3	3.9	480	石英安山岩	2面	Kc18
4	C 5 c L 9	1B 四隅	10.0	7.0	4.1	450	石英安山岩	1面	Kc193
5	C 17f L 9 a 2	1B 四隅	10.7	6.3	3.9	340	石英安山岩	1面	Kc74
6	C 15f L 9 b	1B 四隅	13.7	5.6	3.7	400	石英安山岩	1面	Kc115

第189図 9層出土石器（3）



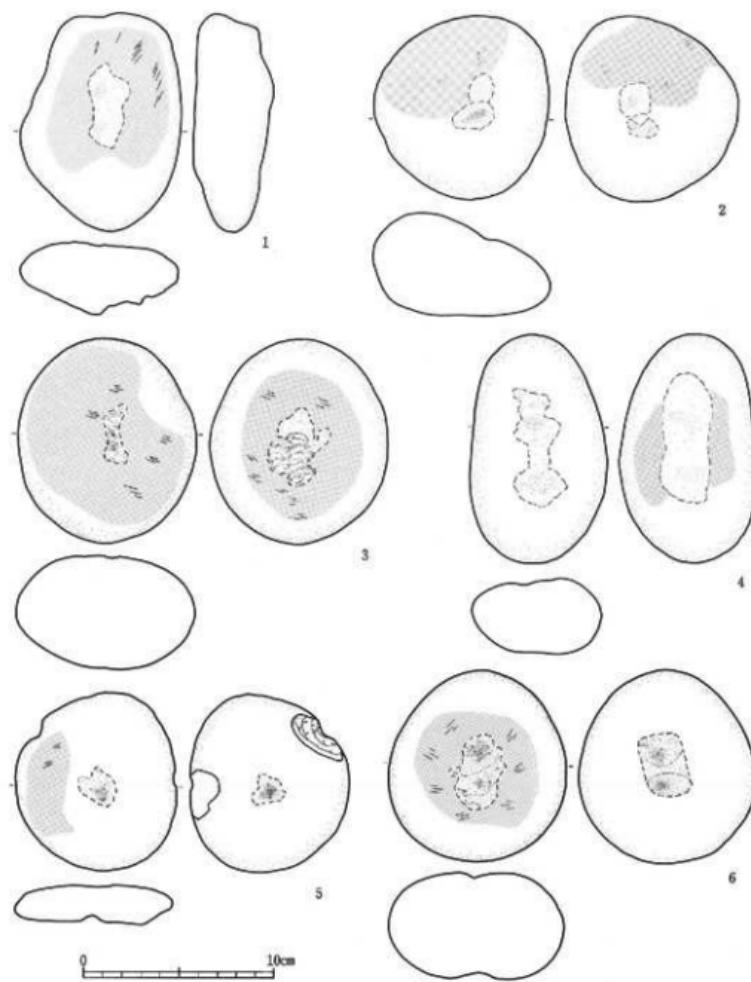
番号	地区・層位	分類	長cm	幅cm	厚cm	重g	石 材	備	号	筆
1	B7 I L9	1B 四浅	10.9	8.6	2.9	360	石英安山岩	1面	Kc13	
2	B6 g L9	1B 四浅	11.5	9.7	5.3	929	石英安山岩	1面	Kc15	
3	B18e L9 b	1B 四浅	12.6	5.9	3.1	300	安山岩	2面	Kc48	
4	B7 a L9	1B 四浅	10.6	5.1	4.5	340	安山岩	2面	Kc84	
5	C9 e L9	1B 四浅	6.2	5.7	3.7	220	花崗閃鈆岩	2面, 破損	Kc52	
6	B12c L10	1B 四浅	8.8	8.7	5.3	590	石英安山岩	2面	Kc119	
7	B8 a L9	1B 四浅	11.2	7.0	3.5	350	安山岩	2面	Kc42	

第190図 9層出土礫石器（4）



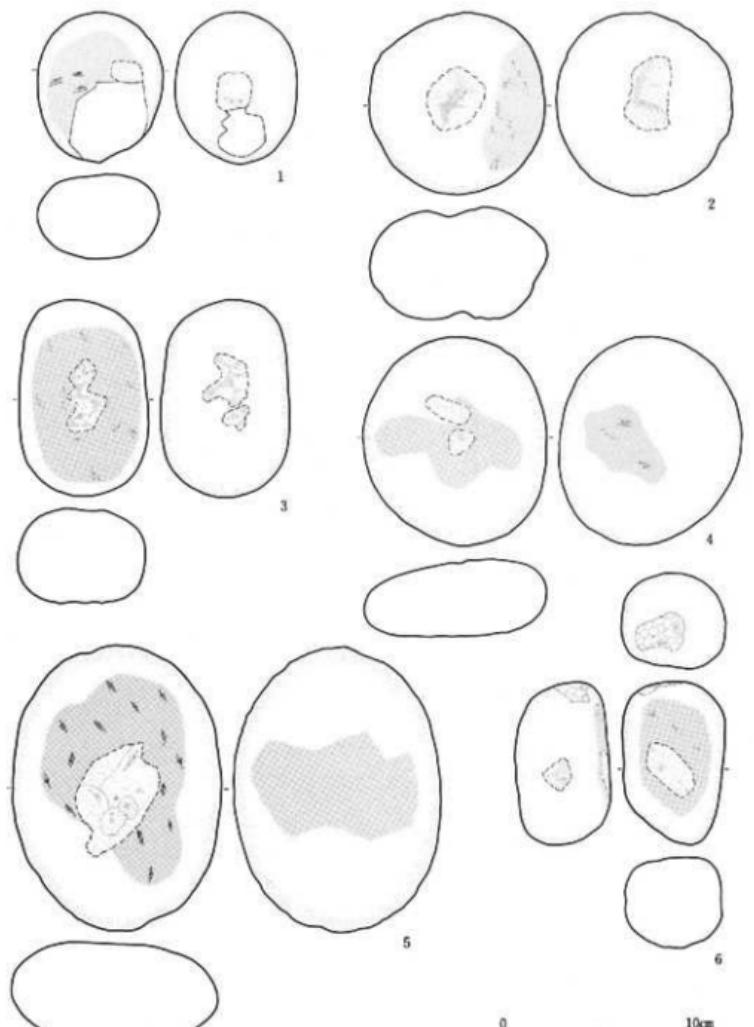
番号	地区	分類	長cm	幅cm	厚cm	重g	石	村	筆	性
1	C 10	L 9	1 B 四次	16.7	13.3	6.1	1940	安山岩	2面	Kc59
2	C 6 n	L 9	2 四+崩	12.8	6.6	4.1	520	麻武岩質砂岩?	1面	Kc99
3	B 7 b	L 9	2 四+崩	10.1	10.2	5.7	820	花崗閃長岩	1面	Kc17
4	B 10	L 9	2 四+崩	11.1	9.9	5.5	725	安山岩	1面	Kc11
5	C 7	L 9	2 四+崩	9.6	8.6	5.0	510	石英安山岩	1面	Kc23
6	B-C 2-3	L 9	2 四+崩	11.5	6.6	4.3	530	安山岩	1面	Kc112

第191図 9層出土石器 (5)



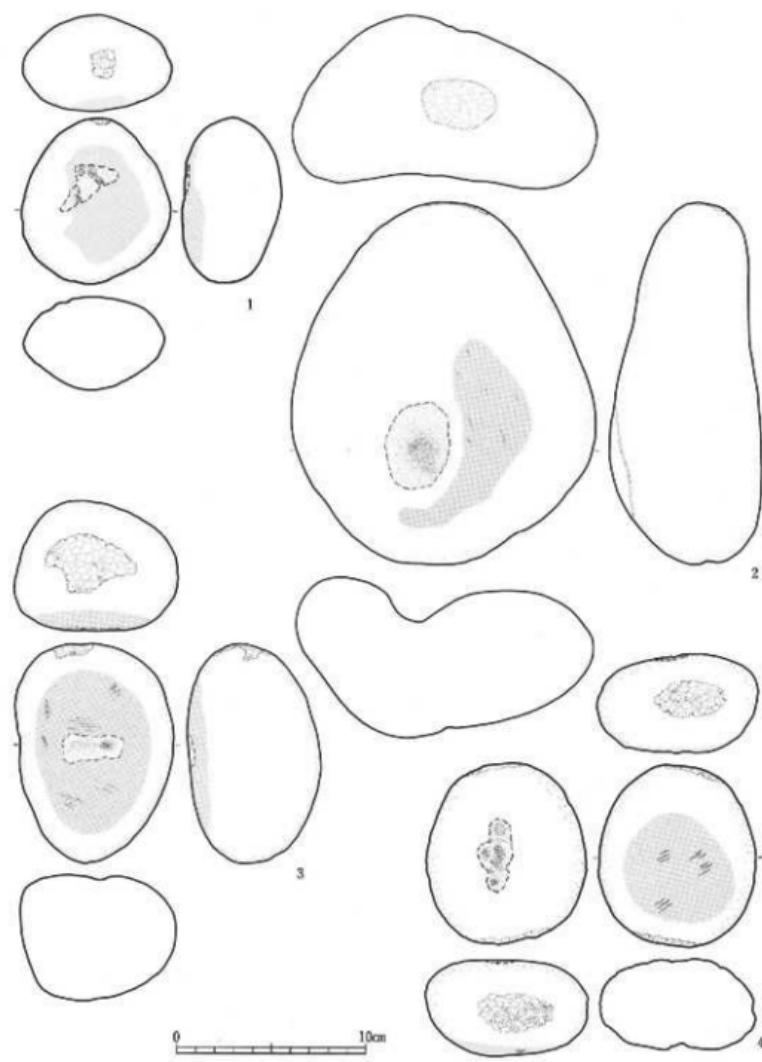
名号	地区・層位	分類	高cm	幅cm	厚cm	重g	石	材	傷	考	登録
1	C7e L.9	2 四+縫	11.6	8.4	3.7	500	安山岩		1面	Kc76	
2	B12 L.9	2 四+縫	9.2	9.7	8.8	615	石英安山岩		2面	Kc29	
3	C10i L.9	2 四+縫	10.9	9.4	6.0	940	安山岩		2面	Kc18	
4	C10d L.9b	2 四+縫	12.1	7.2	4.0	520	安山岩		1面 片面は凹みのみ	Kc71	
5	C14 L.9	2 四+縫	9.5	8.5	2.0	150	石英安山岩質凝灰岩		1面 片面は凹みのみ	Kc84	
6	C10 L.9	2 四+縫	10.2	9.4	5.6	650	安山岩		1面 片面は凹みのみ	Kc37	

第192図 9層出土砾石器（6）



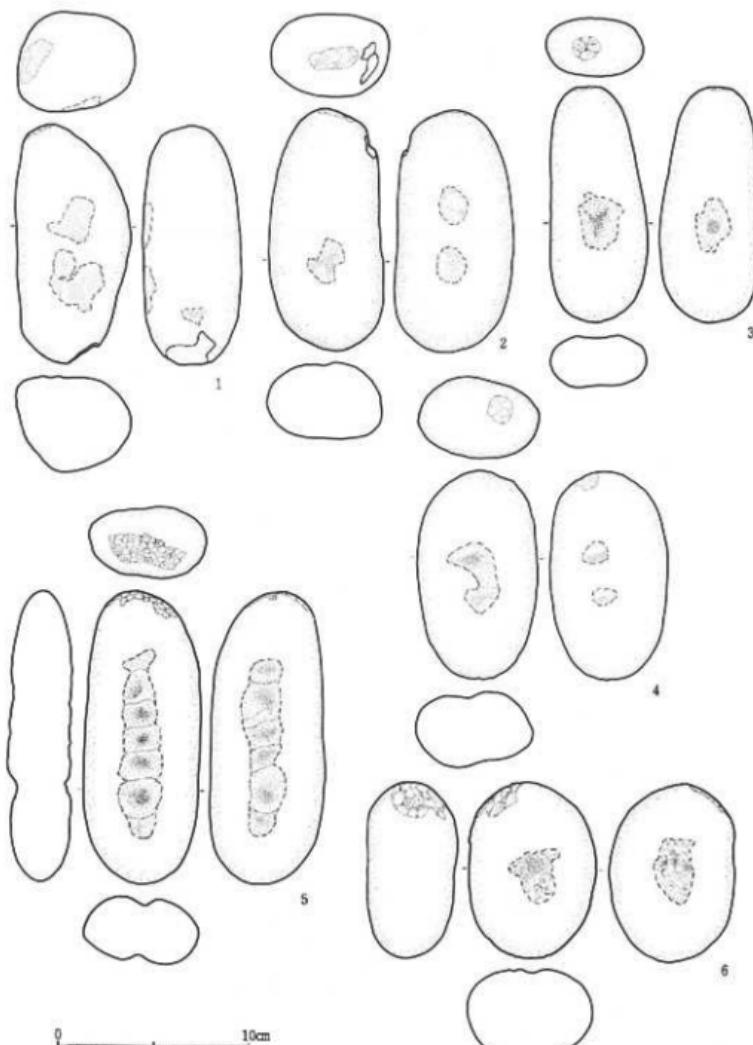
番号	地区・層位	分類	高cm	幅cm	厚cm	重g	石	材	型	考	◎ 論
1	A 11 L 9	2 四+磨	8.0	6.6	4.5	285	石英安山岩		1面、片側は凹みのみ		Kc46
2	C 16d L 10上	2 四+磨	9.7	9.2	5.9	689	花崗岩		1面、片側は凹みのみ		Kc19a
3	C 7 L 9	2 四+磨	10.5	6.7	5.9	579	安山岩		1面、片側は凹みのみ		Kc24
4	B 16c L 9 b	2 四+磨	11.2	9.6	4.0	640	安山岩		1面、片側は凹みのみ		Kc22
5	B 6 L 9	2 四+磨	15.2	11.0	5.1	1349	安山岩		1面、片側は凹みのみ		Kc25
6	C 9 i L 9	3 四+磨+磨	8.7	5.4	4.8	270	安山岩		3面、長軸片側に磨打痕		Kc33

第193図 9層出土石器（7）



號	地區・層位	分類	長cm	寬cm	厚cm	重g	石	材	備考	帶錄
1	B15b L 9 b	3 凹+凸+縫	8.8	7.9	4.9	440	安山岩		長動片端に敲打痕	Kc11
2	B16a L 9 b	3 凹+凸+縫	19.3	16.1	7.9	3500	砂岩		長動片端に敲打痕	Kc14
3	B16a L 9 b	3 凹+凸+縫	11.6	8.7	6.7	850	安山岩		長動片端に敲打痕	Kc15
4	C11 L 9	3 凹+凸+縫	9.6	8.4	4.8	500	安山岩		長動面端に敲打痕	Kc165

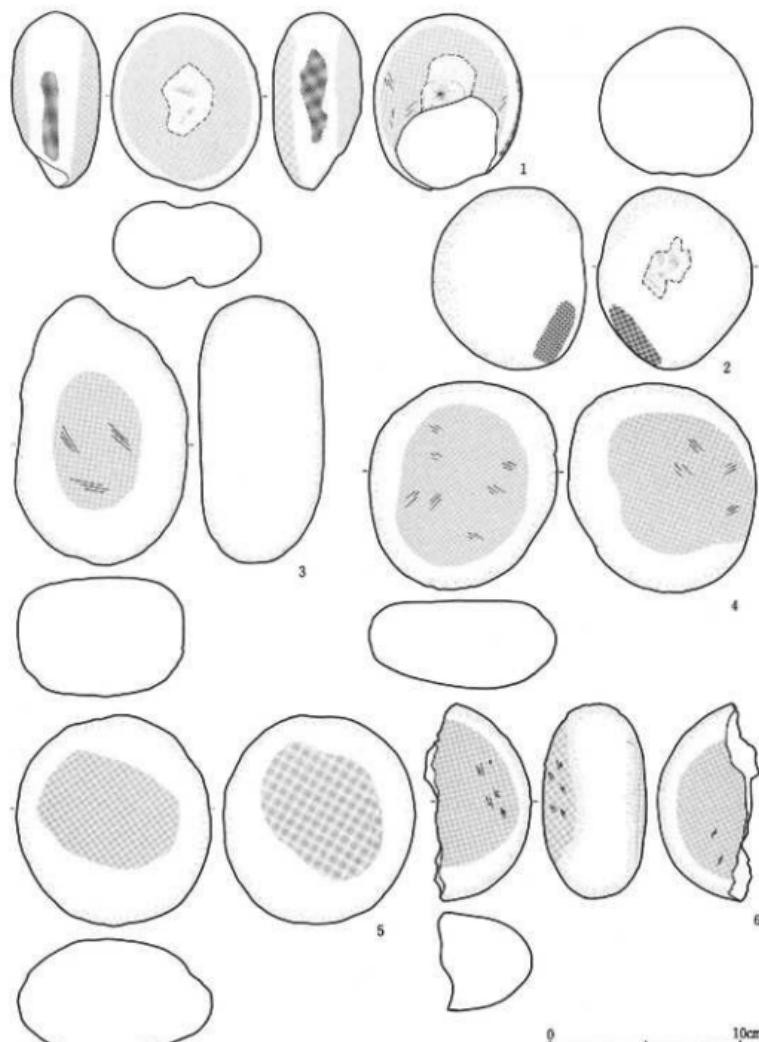
第194図 9層出土礫石器（8）



番号	地区・層位	分類	長cm	幅cm	厚cm	重kg	石種	材	備考	登録
1	B6e L.9	7 四+版	12.7	6.6	5.9	596	安山岩	四み1面、長袖片端に敲打痕	Kcl123	
2	C4g L.9	7 四+版	12.9	6.0	4.9	510	安山岩	四み2面、長袖片端に敲打痕	Kcl124	
3	C16 L.9 b	7 四+版	12.5	5.2	2.7	190	右阿斐山岩質凝灰岩	四み2面、長袖片端に敲打痕	Kcl127	
4	B10 L.9	7 四+版	11.1	6.3	3.8	389	安山岩	四み2面、長袖片端に敲打痕	Kcl125	
5	C16 L.9 b	7 四+版	15.6	6.1	3.4	449	安山岩	四み2面、長袖片端に敲打痕	Kcl116	
6	C16e L.10	7 四+版	9.3	6.7	4.7	295	安山岩	四み2面、長袖片端に敲打痕	Kcl110	

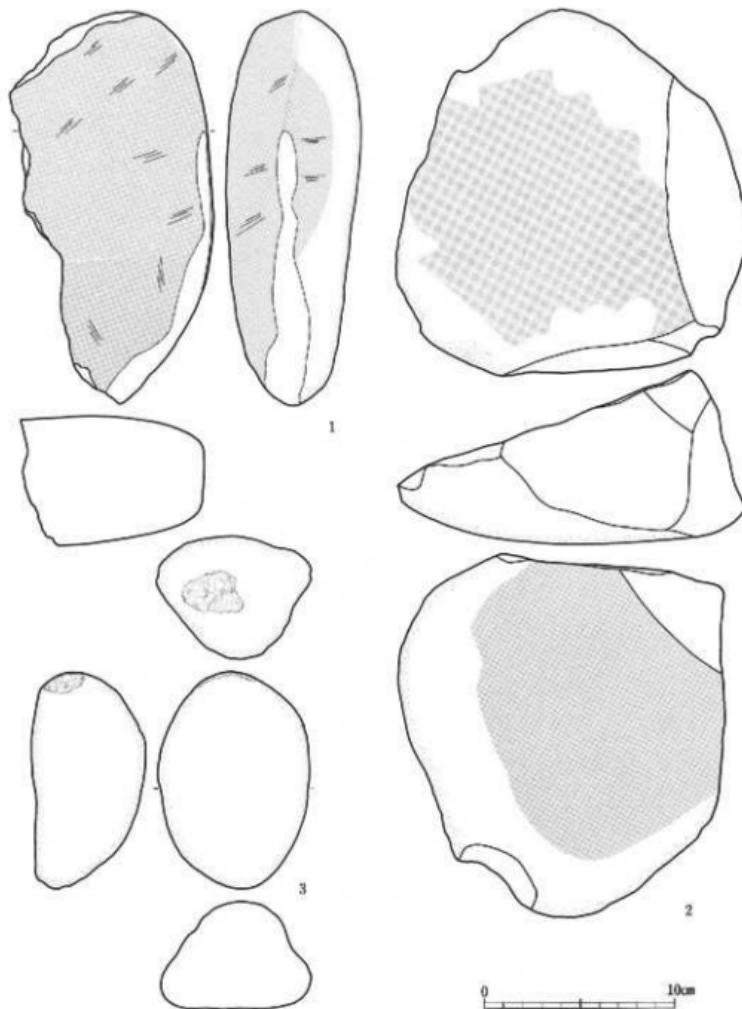
第195図 9層出土石器(9)

13 基本層出土物



番号	地区・層位	分類	高cm	幅cm	厚cm	重kg	石	材	備考	空缺
1	C9 f L9	5 四+磨+ザク	9.3	7.8	4.6	290	安山岩		Kc4	
2	B6 b L9	8 四+ザク	9.6	8.2	7.8	350	安山岩		Kc9	
3	C7 e L10	9 扇	14.2	9.0	6.2	1340	安山岩		Kc5	
4	C4 L9	9 扇	11.0	9.9	4.6	810	花崗岩		Kc3	
5	C9 d L9	9 扇	11.1	10.2	5.7	960	安山岩		Kc6	
6	B1b L10	9 扇	19.4	5.4	5.2	360	角礫凝灰岩		Kc10	

第196図 9層出土石器 (10)



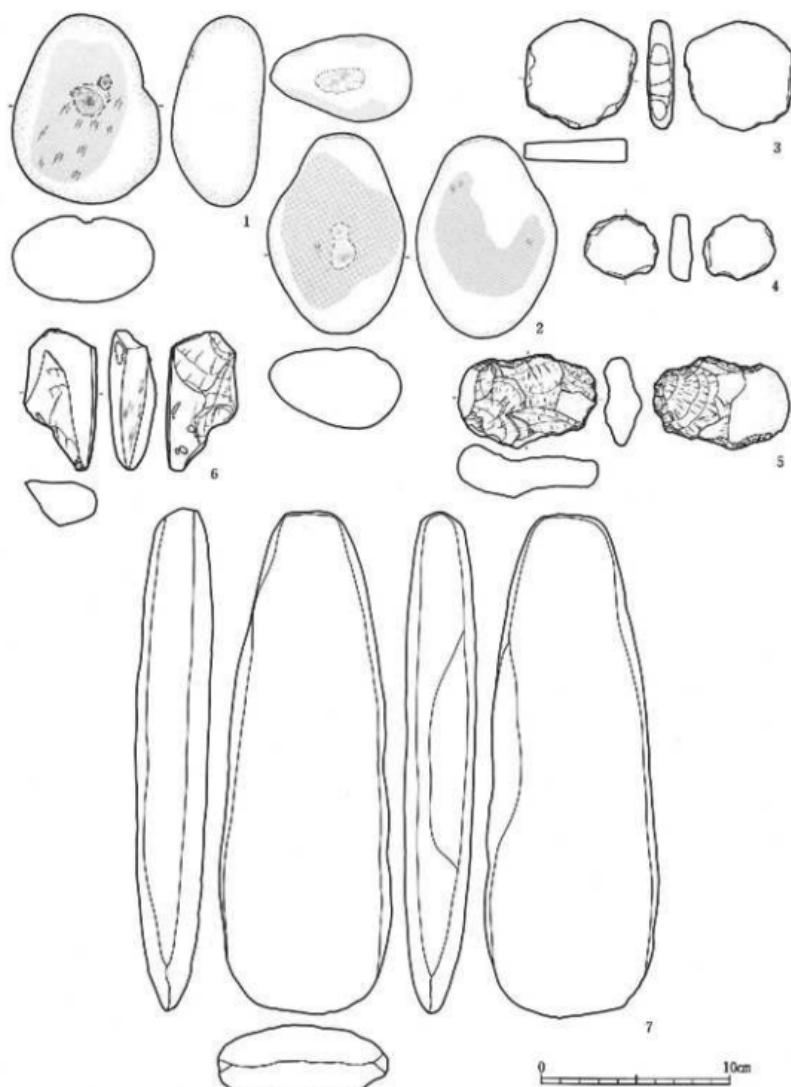
番号	地区・層位	分類	長cm	幅cm	厚cm	重g	石材	備考	登録
1	B17F L 9 b	9 破	12.0	6.8	4.5	580	安山岩	1面	Ke136
2	B 6 L 9	9 破	18.5	19.4	18.9	2880	砂岩	2面	Ke159
3	C 3 c L 9	13 破	11.6	8.0	5.7	690	安山岩	貝輪片端に敲打痕	Ke130

第197図 9層出土石器 (11)



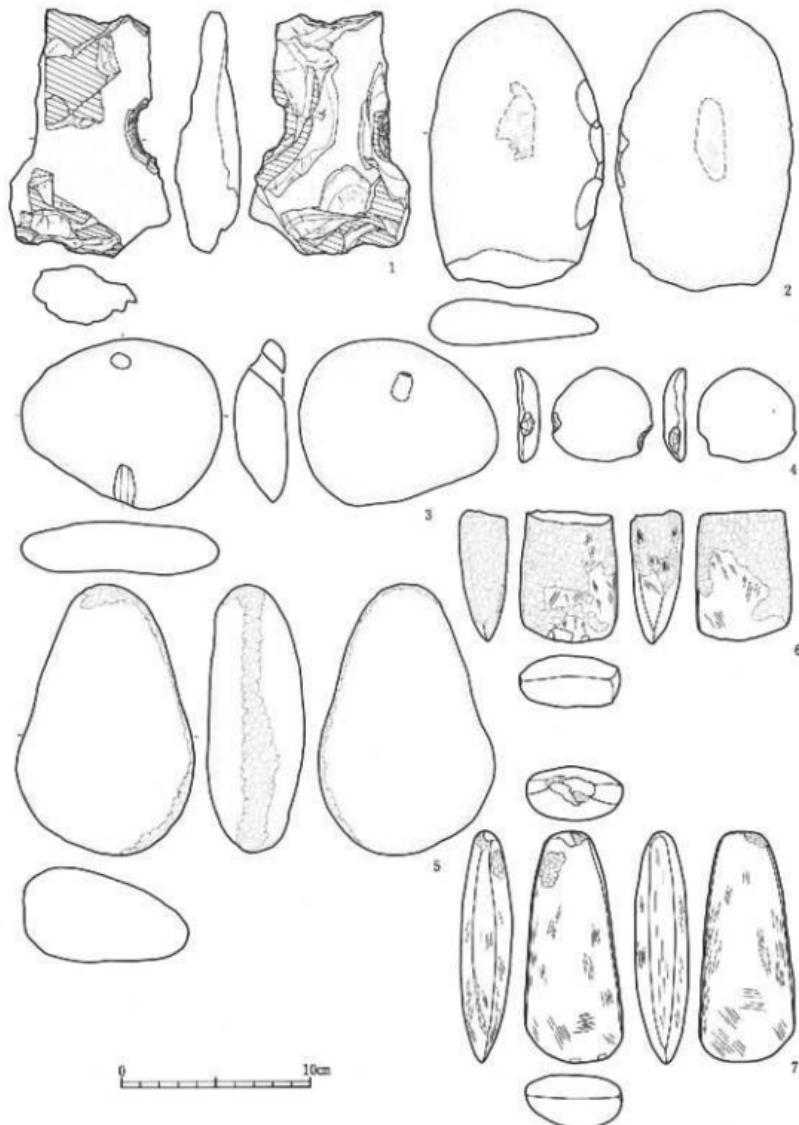
番号	地区・層位	分類	長cm	幅cm	厚cm	重g	石材	備考	登録
1	B17 g L.9 a	13 扇	8.2	7.5	4.4	400	安山岩	長船片端に敲打痕	Kc135
2	C9 e L.9	13 敵	9.0	5.5	4.0	250	瑪瑙	長船片端に敲打痕	Kc147
3	C10 L.9 b	13 扇	9.0	5.5	4.0	250	安山岩	長船片端に敲打痕	Kc136
4	C6 d L.9	13 扇	11.0	6.5	6.0	910	安山岩	長船片端に敲打痕	Kc132
5	C14 b L.9 b	13 扇	5.5	5.6	3.8	80	石英安山岩質漂砾	半球状の円錐に敲打痕	Kc183
6	A+B 8+9 L.9 b	2 四+扇	9.4	9.9	6.1	840	安山岩	1面、片面は磨擦のみ	Kc39
7	B17+18 L.9 b	2 四+扇	10.2	9.2	4.2	570	花崗閃綠岩	2面	Kc30
8	B17+18 L.9 b	1A 四面	7.5	4.4	3.2	175	安山岩	2面、表面は滑り	Kc198

第198図 9層出土石器 (12)



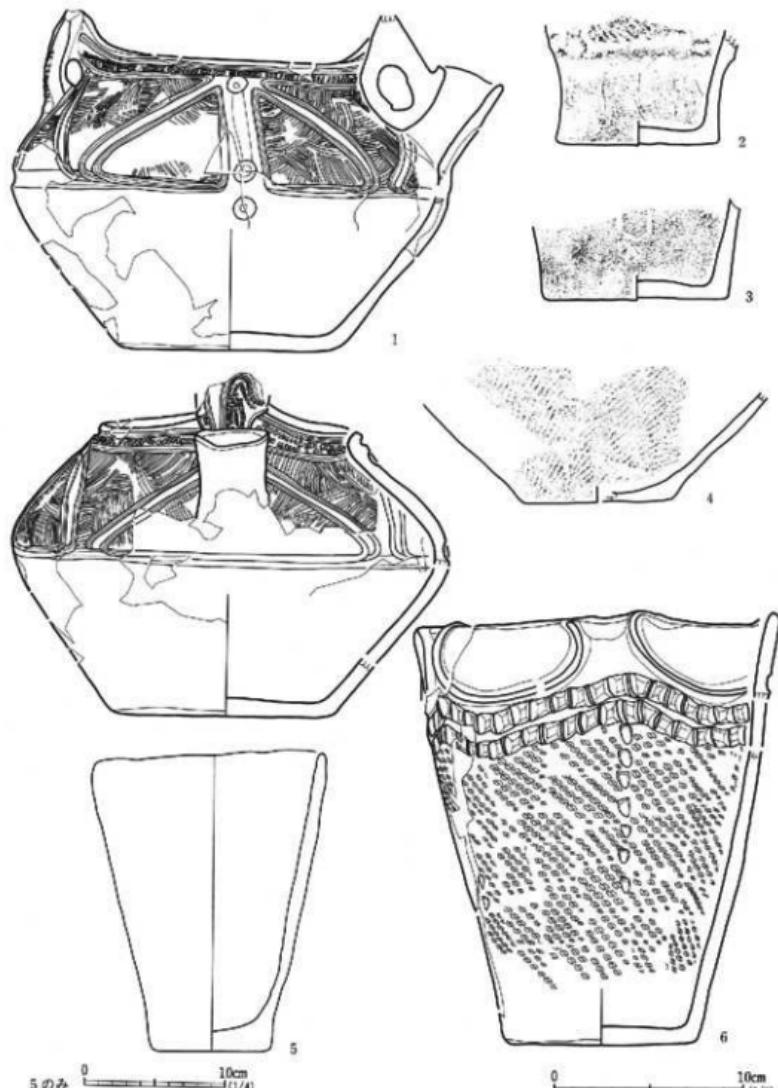
番号	地区・層位	分類	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	石 材	備 考	文 庫		
1	C 10	石器	2	四一層	30.1	7.8	4.5	480	安山岩	1面	Kc27
2	A+B±・9	石器	3	四一層+戴	30.4	7.2	4.3	380	安山岩	片面端に敲打痕	Kc38
3	C 6	石器	L 9	石器	5.8	5.8	1.3	25	安山岩	剝離内のリングは不明瞭	Kc174
4	B 12e	石器	L 9	石器	3.2	3.8	1.1	10.2	右美安山岩質凝灰岩	研磨している	Kc363
5	C 16f	石器	L 9 b	加工	5.0	7.2	2.0	47.8	右美安山岩質凝灰岩		Kc181
6	A 8	石器	L 9 b	磨製石斧	7.5	3.9	2.5	77.8	質疑	研磨している	Kc265
7	B 17	石器	L 9 b	磨製石斧	26.7	9.1	3.8	1500	蛇紋岩	かなり劣化している	Kc222

第199図 9層出土石器 (13)



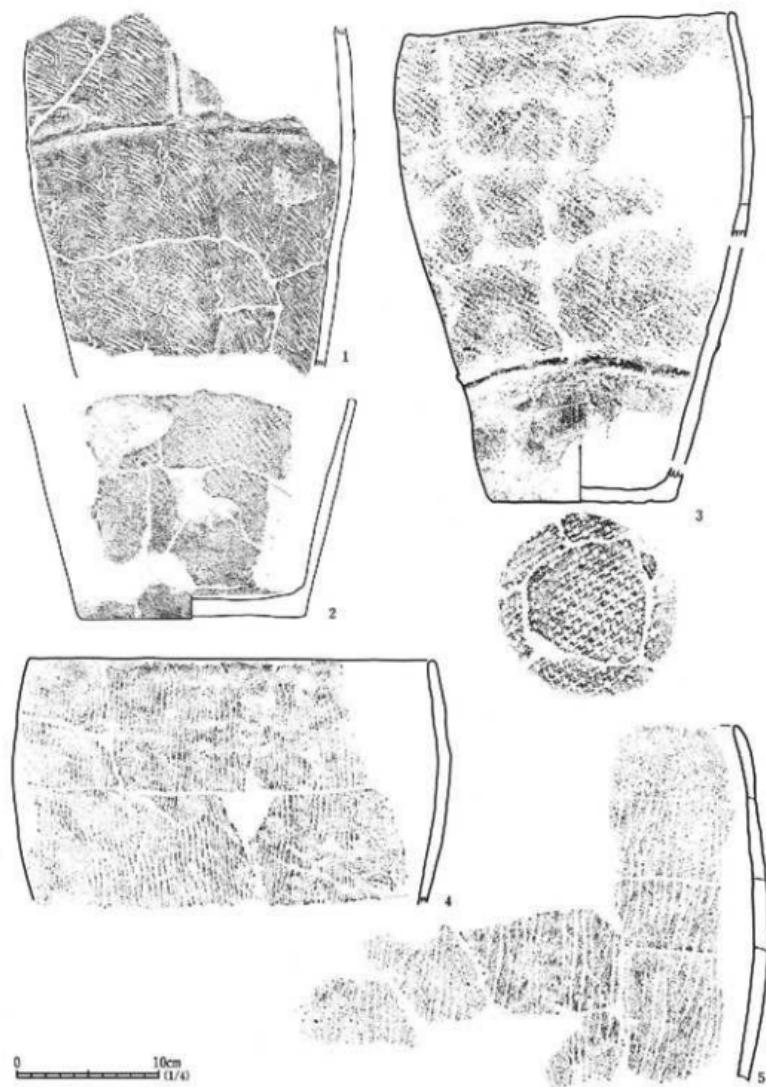
番号	地区・層位	分類	長cm	幅cm	厚cm	重g	石 材	備 考	基 線
1	C18e L.9	打撲石斧	13.3	8.5	3.3	321	真岩	中位に挟り、節理が清晰	Kc170
2	L.9	1A 開削	14.9	9.2	2.4	455	石英安山岩質凝灰岩		Kc96
3	B.7 L.9	有孔器	9.0	10.6	2.6	315	砂岩?	自然の穴を利用したものか?	Kc175
4	L.9	石錐	4.9	5.1	1.1	35	石英安山岩質凝灰岩	対称的で打ち欠きあり	Kc171
5	C.8b L.10	13 跡	14.4	9.5	4.9	820	砂岩	片側の縁辺に敲打痕	Kc142
6	B.13 L.10	磨製石斧	6.9	5.1	2.7	150	角閃石均岩	基部を欠く、敲打痕多く残る	Kc169
7	B.17 L.10	磨製石斧	12.3	5.1	2.8	235	砂岩	基部に敲打痕が残る	Kc164

第200図 9・10層出土礫石器



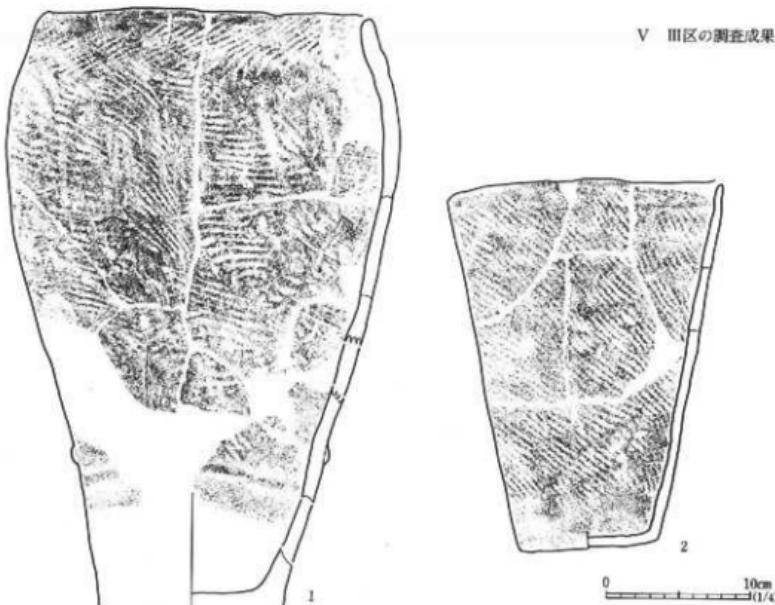
番号	地区・層位	分類	物 種	縦合	仕 面	番号	地区・層位	分類	物 種	縦合	仕 面
1	C15 L10上	沿口	口33.9 高32.1 高18cm. 実起+注 ロ. 横縫区画内に粗化粧	0	A47	4	C17 L10上	鋸?	縫6cm. RL成文. 内面に炭化物	10	A197
2	C15 L10上	側縫	28.6cm. L.R成文. 粗縫. 裂片	0	A167	5	B18 L10上	縫合F	口16.7 高8.3 高21.5cm	0	A143
3	B18 L10上	底縫	29.9cm. 深縫	0	A201	6	B19 L10上	縫合F	口19.8 高9.5 高23.1cm. 粗縫. 裂 片. L.R L成文. 沢:鉛代板	6	A96

第201図 10層出土遺物 (1)

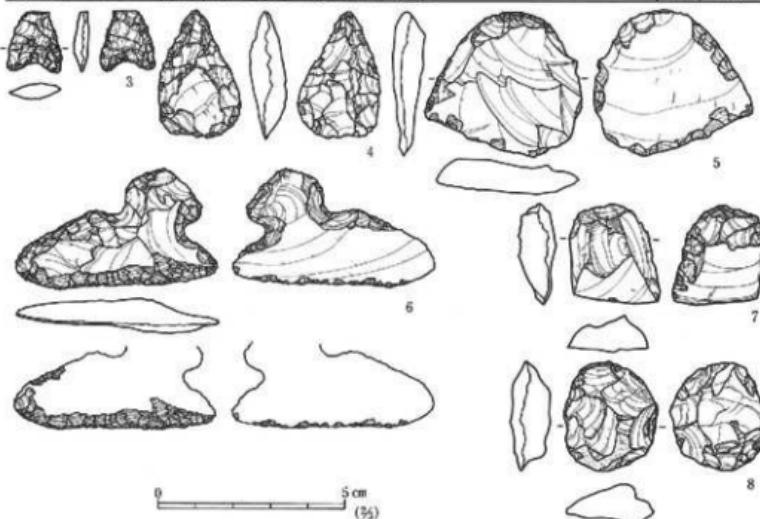


遺物	地区・層位	分組	特 徴	度合	重 量	番号	地区・層位	分組	特 徴	度合	重 量
1	B18 L10	網鉢	輪鉢、L字模文、筋肋	0	A135	3	C16・17 L10	網鉢	C15.2 底19.3 高35.3cm、L字模文、筋肋、輪鉢、底：網代底	0	A14
2	C13 L10	網鉢	底16cm、L字模文	少	A134						
4	C10 L10	網鉢	底25.4cm、R字模文	1	A136	5	B19 L10	網鉢	R字模文	0	A90

第202図 10層出土遺物（2）



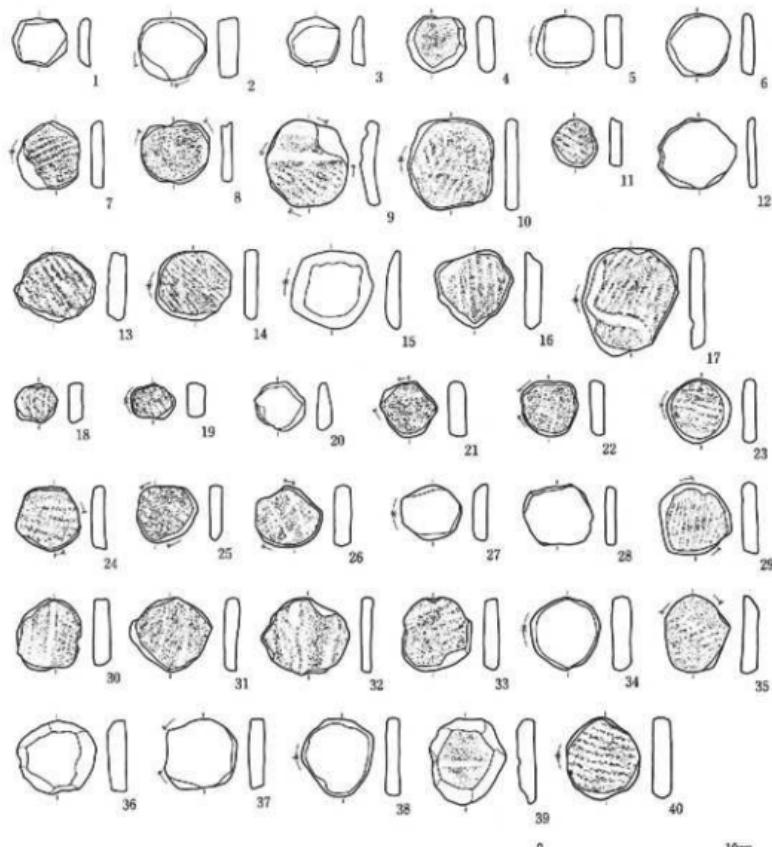
番号	地 区	分類	特 徴	接合	登 錄
1	C16-17 L10	深鋸目	□22.4 底12.4 高43.1cm、LR構文、体部下端に断線	0	A13
2	B16 L10	深鋸F	□19 深9.5 高26.3cm、LR構文	2	A5



地 区	分 類	長cm	幅cm	厚cm	重kg	石 材	特 徴	登 錄	
3	C17	石錐 I A	16.6	14.4	4.1	0.9	珪質頁岩	先端を欠く	Ka1321
4	C10	尖頭器	34.2	21.8	9.2	5.7	珪質頁岩		Ka1322
5	C10a	不定形II	43.4	39.7	7.6	12.5	鉄石英		Ka1323
6	C16a	石錐II	54.1	32.5	8.1	10.1	珪質頁岩	二或バティナ（下図）	Ka1324
7	C18 i	不定形IV	31.3	25.7	9.3	5.3	珪質頁岩		Ka1326
8	B19 h	四極倒錐	29.2	25.3	10.9	7.8	珪質頁岩	二対の稜極剝離痕	Ka1325

第203図 10層出土遺物（3）

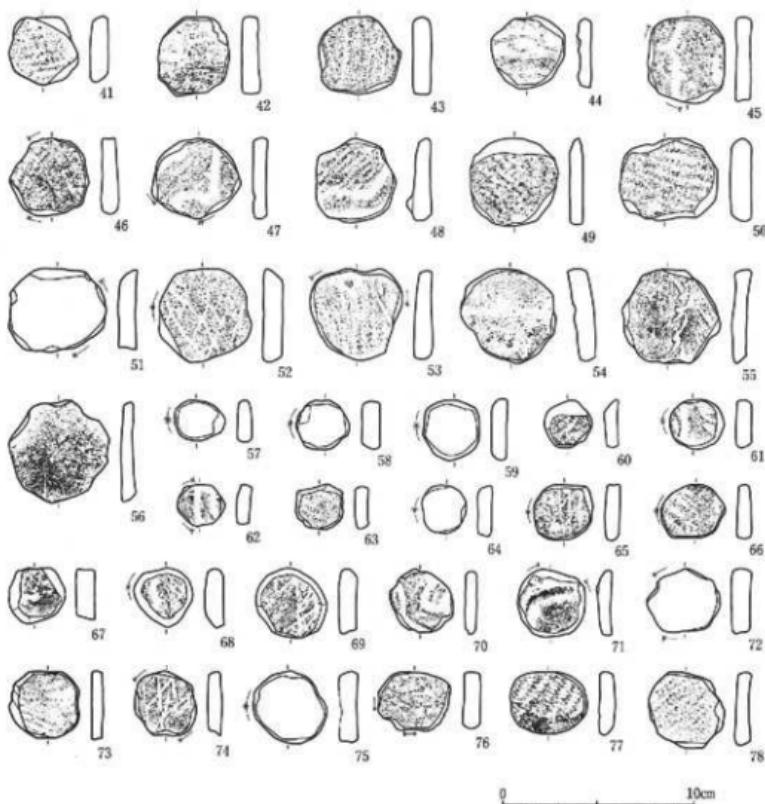
## 13 基本型出土遺物



0 10cm

番号	地點・標記	長さ×幅さ×厚さmm	重さg	特 訴	地點・標記	長さ×幅さ×厚さmm	重さg	特 訴	文 句	
1	B 7 L 2	26.0×20.5	5.4		P114	20 C 12b L 9b	30.0×30.0×5	9.0	施文不明	P16
2	A 10 L 2	23.5×21.0	16		P105	22 C 12b L 9b	29.5×30.0×7	9.9	施文未記文支文	P12
3	A 12 L 8	35.5×28.5×5.5	5.7		P112	23 C 17 L 9b	30.0×32.0×6.0	9.4	施文不明	P15
4	B 9 L 8	31.0×23.5×5.5	9.8	施文	P107	24 C 16 L 9b	34.5×34.5×7	10.5	施文不明	P12
5	A 10 L 8	27.0×31.0×9	11		P103	25 A 8 L 9b	30.0×31.0×6.7	8.1	施文不明	P13
6	B 8 L 8	33.0×23.2×6	8.3		P109	26 C 16 L 9b	34.0×35.5×6	13.2	新日本地圖文支文	P10
7	B 13 L 8	36.0×33.5×6	18.7	施文不明	P101	27 C 15b L 9b	39.0×32.5×7	8.7		P115
8	B 11 L 8	33.0×30.4×5	8.2	施文	P104	28 C 12b L 9b	32.5×37.0×6	9.2		P122
9	B 11 L 8	47.0×43.0×8	29	施文不明	P129	29 C 15 L 9b	38.0×37.0×7.8	14.7	施文支文	P46
10	B 14 L 8	49.0×46.0×6.9	22.7	施文不明	P135	30 B 12b L 9b	38.0×35.0×7.3	14.2	施文不明, 施文	P12
11	B 15 L 8	25.0×28.0×6.1	5	施文不明	P13	31 A 11b L 9b	39.5×40.0×5	14.9	施文不明, 改鉢	P17
12	C 17 L 8	37.0×41.0×5	8.7		P134	32 B 11 L 9b	41.0×46.0×5	12.0	施鉢	P25
13	B 17b L 8	37.0×43.7×5	16.2	施文	P142	33 B 10b L 9b	40.0×37.0×5.5	16.4	施文不明	P23
14	B 15b L 8	36.5×40.5×5.5	14.0	施文	P139	34 C 10b L 9b	38.0×37.0×5	15.4		P122
15	C 17b L 9b 2	42.0×43.0×7.2	16.0		P137	35 A 7 L 9b	41.0×36.0×5.8	15	施文不明	P78
16	C 12b L 9b 2	41.0×42.0×6.8	17.6	施文支文	P1	36 A 11b L 9b	39.0×42.0×5	16.9		P130
17	C 17 L 9b 2	37.0×40.5×8	19.8	施文不明, 改鉢	P106	37 B 12b L 9b	40.0×38.0×5	16.4		P113
18	B 6 h L 9b	19.0×23.0×7	4.5	新日本地圖文支文	P26	38 A 7 L 9b	41.0×38.0×2	14.6		P66
19	A 11 L 9b	19.0×23.5×8.5	4.7	施文不明	P27	39 B 12 L 9b	46.0×41.0×9	19.8	施鉢	P45
20	C 14b L 9b	26.5×27.0×6	3.2		P109	40 B 15b L 9b	40.0×36.5×9	16.9	施文 L K	P56

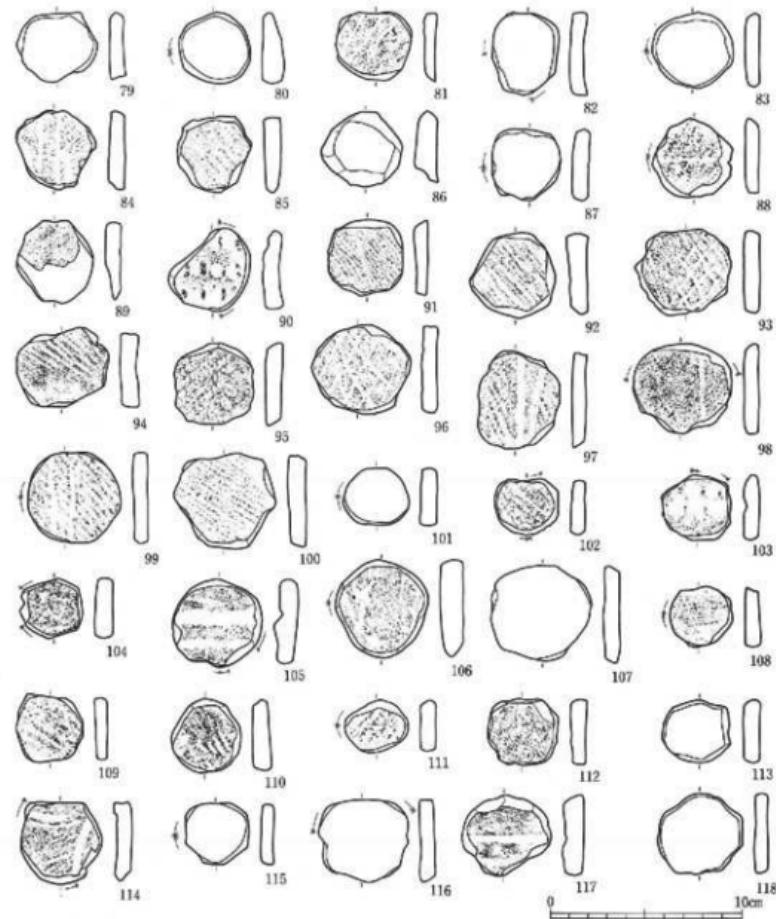
第204図 土製円盤（1）



0 10cm

番号	地名・組位	直径×幅×厚さmm	重さg	特徴	位置	番号	地名・組位	直径×幅×厚さmm	重さg	特徴	位置
41	C15 L.9 b	36×32×5.4	16	無文不明	P36	49	C17 L.9	35×35×6.3	5.1	継文L.R	P39
42	A15 L.9 b	42.5×39×5.9	28.8		P42	50	C17b L.9	26.2×27.4×8	7.5	無文	P93
43	B12c L.9 b	41.5×44×7	23.4	鋏目	P43	52	C7 d L.9	23×25×4.5	3	無文	P99
44	A12 L.9 b	39.2×40×6	22.8	鷹頭・鶴頭文	P49	53	C7b L.9	20×24×7	5.8		P73
45	B7b L.9 b	46.2×40.3×7.3	30.3	無文	P47	54	C7b L.9	26.3×23.5×7.5	6.3		P480
46	B11a L.9 b	45.2×37.5×8	18.4	無文不明	P49	55	C5 C.9	20×37×7.8	10.6	継文L.R	P56
47	C15 L.9 b	42×35×6.5	17.4	鋏目	P45	56	B16 L.9	29.5×32.5×7	9.1	継文不明	P29
48	C12b L.9 b	45×43×8.1	24.1	鷹文L.R. 鶴頭	P49	57	C7b L.9	20×25.2×10	11	継文不明	P47
49	B12a L.9 b	47×48×7	23.7	無文不明	P46	58	C1 L.9	32×32×10	11.7		P35
50	B17 L.9 b	45×32×10.5	35.6	鷹文L.R	P48	59	C15 L.9	23×37×8.9	15.4	鷹頭・鶴頭文	P66
51	C15 L.9 b	31.2×37.5×8	29		P46	60	C15 L.9	20×33×8.8	7.7	無文	P43
52	C16b L.9 b	49.8×40.2×12	32.2	鶴頭鶴頭文	P42	71	B12 L.9	26.2×35×5.8	11.2	無文	P49
53	B17 L.9 b	49.7×48.2×8	26	鷹文L.R. 7.世段	P74	72	C15 L.9	34×37.5×9.3	15.3		P480
54	C13 L.9 b	36.5×31×11.2	30.7	鷹文L.R. 7.世段	P71	73	C2 b L.9	26.4×37.2×6	11.7	継文L.R	P9
55	C16c L.9 b	49.5×31×7	25	鶴頭鶴頭	P43	74	C2 b L.9	34.5×35×7.5	11.7	鶴頭鶴頭文	P63
56	B10 L.9 b	55.8×54×6	73.4	鋏目?	P47	75	B13 L.9	28×38×9.5	18	無文不明	P44
57	B10 L.9	22×27.5×8	5.5		P28	76	C15 L.9	32×38×9	14.5	継文不明	P39
58	B16b L.9	27×29×9.5	9.9	鷹文?	P28	77	C2 c L.9	33.5×41.3×8	15.4	継文L.R	P66
59	C13 L.9	32×30×7.5	16.4		P123	78	B2 d L.9	41×38.5×2	15.2	継文L.R	P75

第205図 土製円盤（2）



第206図 土製円盤（3）

## 14 まとめ

○各層出土の遺物と層上面の遺構出土の遺物から、6層以下は縄文時代の堆積層、5層は奈良時代以前の堆積層、4b・4c層は平安時代の堆積層と考えられる。

○各層上面の遺構の所属時期をまとめると以下のようになる。

4a層以降……近世以降か

4b層……平安時代

4c層……平安時代

5層……古墳後期～奈良時代

6層……縄文～古代

7～10層……縄文時代

○9・10層から検出されている縄文時代の遺構からは遺物包含層と時期の大きく異なる土器は出土していないことから、その所属時期は遺物包含層と同じく縄文後期初頭～前葉の船におさまるものと考えられる。

番号	地区・層位	長さ×幅×厚さmm	形	特徴	基
79	B7 f L9	38×43×7	14.7		P101
80	A10 i L9	38.5×38×11	18.7		P119
81	B6 L9	37×40×6	13.2	網目状織糸文R	P24
82	A・B8・9 L9 b	45.5×37×8	17.9		P117
83	B11 a L9	40.5×42×7	16.8		P108
84	B19 b L9	42.5×42.5×8	16	糸文L R、沈縫	P1
85	B7 f L9	40.5×39.4×8	16.6	糸文不明	P10
86	C7 f L9	40.5×43×11.3	21.4		P121
87	B11 c L9	39×37×8.5	16.8		P111
88	B9 f L9	42.4×41.5×6.5	14.3	糸文R L	P76
89	C5 f L9	45.3×41×9	18.5		P92
90	C6 e L9	44.3×44×9	19.1	糸文	P80
91	B7 d L9	40.5×39×6.2	14.5	糸文L R	P31
92	C2 e L9	44.5×46.3×9	24.9	織合文R	P33
93	C7 L9	42×50.5×8	22.4	網目状織糸文R	P29
94	B8 L9	42.5×49×8.3	25	糸文不明	P73
95	A13 a L9	44×42.5×8	21.8	糸文R	P23
96	B6 L9	47.5×51.8×7.9	25.5	網目状織糸文	P36
97	C10 L9	53×54×7.5	19.9	糸文R L、沈縫	P22
98	C6 h L9	48.2×51×7.6	25.4	糸文不明、沈縫	P77
99	C12 L9	48×49.5×7.2	25.2	糸文不明、沈縫	P68
100	C8 i L9	50.3×52.4×9.1	32.7	糸文不明	P78
101	C19 i L10	30.5×34.5×8.8	12.8		P50
102	B12 i L10	39×34.5×7	11	糸文R L	P4
103	C12 L10	35×36×7.5	13.4	糸文	P13
104	C12 L10	32×32.5×9	12.2	糸文？	P11
105	C17 L10	47×47.5×12	28.3	糸文不明、刺突、漏孔縫	P12
106	A9 L10	52×48.5×12.6	39.8	網目状織糸文R	P7
107	B18 L10	51.5×54×8	31.2		P98
108	不明	32.5×33×7.5	11.2	沈縫	P58
109	不明	36.5×35.2×6.5	13.9	糸文不明	P91
110	不明	40×37.5×9	18.3	糸文L R	P85
111	不明	28×33×8	9.7	糸文L R ?	P97
112	不明	35×38×8	16		P14
113	C10 L9 b	34×36×9	13.3		P21
114	A・B9・10 L9 b	44×42.5×8	21.7	糸文R L ?、沈縫	P62
115	B17・18 L9 b	32.5×34.5×6	9.7		P124
116	B17・18 L9 b	45×47×7.5	22.9		P100
117	B17・18 L9 b	43.5×47.5×10	24.8	沈縫、薄脛	P84
118	L9 b	43×44×6	16.6		P27

土製円盤観察表

## VI IV区の調査成果

### 1 調査の方法と経過

調査区は下の内遺跡II区と伊古田遺跡の間に位置している。調査区の形は長方形に近い台形で、面積は約74m<sup>2</sup>である。調査面積が狭かったため、遺構の実測には平板を使用した。

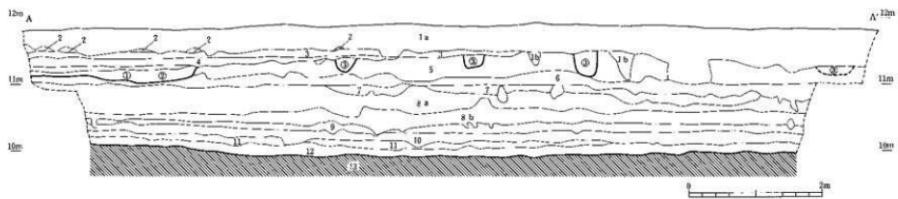
調査は昭和58年（1983）4月22日より開始した。表土下で旧河川、小溝状遺構群などを検出した。5月中旬には遺構の実測を終え、深掘り調査に移行した。下層からは遺構が検出されなかつたため、6月1日に調査を終了した。

### 2 基本層序（第207図）

基本層序は13層に大別された。

- 1層 にぶい黄褐色シルト 表土。厚さ35～55cmで、南側が厚い。
- 2層 明黄褐色シルト 5～10cmで、耕作深度の浅いところに部分的に分布している。
- 3層 灰黄褐色シルト 厚さ10cmで、北半部に分布する。層下部に厚さ1cmの酸化鉄集積層がある。
- 4層 暗褐色粘土質シルト 厚さ10～15cmで、北半部に分布する。
- 5層 黄褐色砂質シルト 厚さ15～30cmで全体に分布する。上面から小溝状遺構群、S R 1河川跡が検出される。
- 6層 暗褐色粘土質シルト 厚さ平均15cmで、上面は大きな凹凸がある。
- 7層 黄褐色粗砂 厚さ10～15cmで、8層上面のくぼみにたまたた状況である。
- 8層 黄褐色粗砂 厚さ50cm。
- 9層 黄褐色砂質シルト 厚さ約10cm。
- 10層 暗褐色粘土質シルト 厚さ15～20cm。
- 11層 暗褐色粘土質シルト 厚さ10～15cmで、北半に分布する。
- 12層 暗褐色粘土質シルト 厚さ20cm。
- 13層 黄褐色砂質シルト

### 3 発見された遺構と遺物（第208図）



層番	土 色	性 質	特 性
1	赤褐色の砂質粘土	20YR5/2	シルト 粘土質
1.5	褐色	10YR4/4	粗上質シルト 高毛張り
2	明褐色	10YR6/6	シルト シルト
2	灰褐色	10YR5/2	シルト 薄い表面に細い筋があり、微に透・ヤンギン
4	褐色	10YR5/1	粘・質シルト 細で溝が多いもの
5	黄褐色	10YR5/6	新開シルト ツヤボク質を多く含む
6	褐色	10YR5/1	地・質シルト 高毛張り
7	褐色	10YR5/6	地・質シルト 高毛張り
8.5	褐色	10YR5/6	粗質 粗面質と毛張り
9.5	褐色	10YR5/6	柔軟 質地一貫性なし
9	褐色	10YR5/6	粘質シルト 薄面質で、透・毛張り含む
10	褐色	10YR5/3	地・質シルト 質やわらかさがけた
11	褐色	10YR5/4	地・質シルト 地・質シルト
12	褐色	10YR5/1	地・質シルト 表面土をアーティクルに含む
13	褐色	10YR5/1	地・質シルト 地・質シルト
①	砂質粘土内	10YR4/4	粗面質シルト ツヤボク・質を含む
②	堅土	10YR4/4	地質シルト ツヤボク・質を含む
小斜 ③	褐色	10YR5/4	シルト 4層を小斜点



層番	土 色	性 質	特 性
S.D.1	1	褐色	10YR5/1
	2	無機色	10YR5/1
S.R.1	1	褐色, 黄褐色	10YR5/1
	2	紅褐色	10YR5/4

第207図 基本層序とS.R.1断面図

### SD 1溝跡

南端部に位置する。長さ2.7m、幅50cm、深さ10cmである。底面は平坦で、傾斜していない。堆積土は暗褐色シルト1層である。

#### 小溝状遺構群

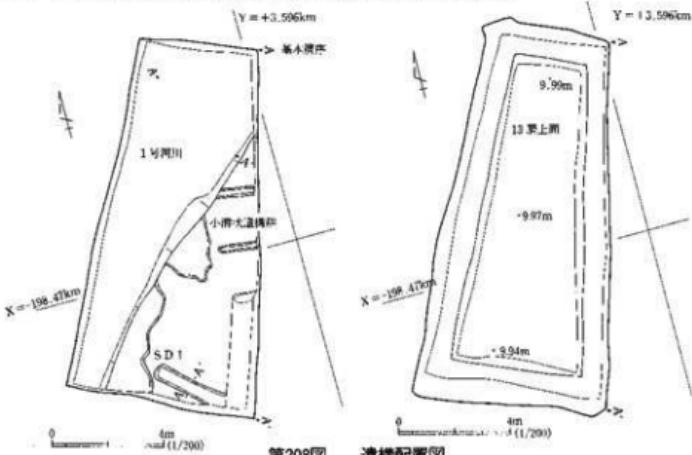
中央東壁際にあり、平面的に2条、断面観察で1条の計3条が検出された。S R 1河川跡より古い。約2mの間隔ではほぼ真東方向に並んでいる。幅20~30cmで、深さは北から20cm、15cm、35cmである。堆積土は褐色シルトで、基本層4層が小ブロック状に混じる。

#### S R 1河川跡

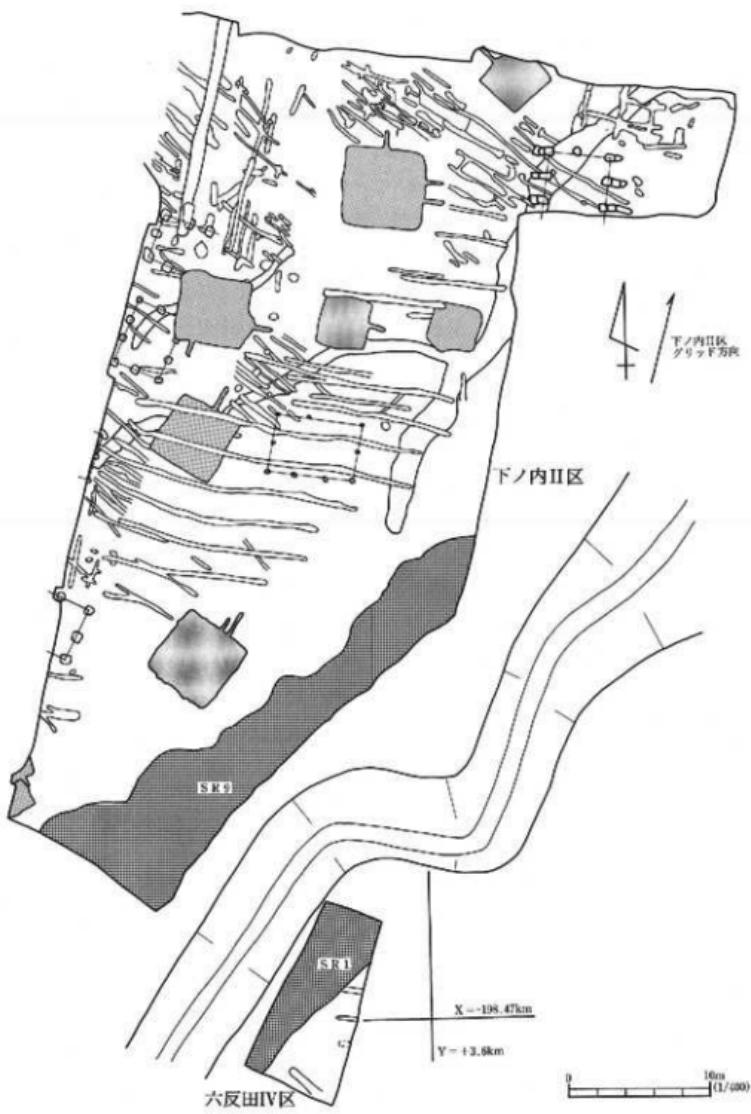
北西半部に位置する。河川の南東岸が検出されている。深さは20~30cmで、底面は平坦である。堆積土はシルトが主体である。土器が1点出土しているが(写真4-5-2)、行方不明で観察できなかった。

## 4 まとめ

IV区では遺構に伴う遺物がなく各遺構の所属時期は不明だが、基本層の特徴や遺構の配置状況から、下ノ内遺跡II区の第V・VI層の遺構群と同一の可能性がある(篠原:1990)。下ノ内遺跡II区では、堅穴住居跡の他に小溝状遺構も数群検出されており、その中に東西方向の群もある。また、S R 1河川跡はその位置から、下ノ内II区SR 9河川跡の対岸と推定される(第209図)。そこで各遺構の所属時期を検討する。下ノ内II区の東西方向の小溝状遺構群は、奈良・平安時代の住居跡より新しいことから、平安時代以降と考えられる。IV区の遺構面もこれらと同じとするならば、IV区の遺構群も平安時代以降と推定できよう。



第208図 遺構配置図



第209図 六反田IV区と下ノ内II区

## VII 縄文時代の遺物について

### 1 各地区の遺物包含層の対比

縄文時代の遺物包含層は、I区とIII区に広がっている。その標高は、I区の12層は標高9.6m前後で、III区9層は北方向に傾斜しており、標高10~10.6mである。III区の南に位置する1984年調査区（佐藤：1987）の遺物包含層（9層）は標高10~10.4mでIII区の状況に近い。このことから、遺物包含層は笊川の方向に傾斜していることが分かる。

### 2 縄文時代の遺物について

I区の12層及びIII区の9層と、9・10層から検出された遺構から多量の遺物が出土している。両区の層の土質は類似しており、また遺物も接合していることから、これらは同一の包含層と考えられる。そこでこれらの出土遺物について若干の分析を行いたい。

#### (1) 土器

##### 分類

分類は今回の出土資料を中心に行う。以前の資料も含めた形での分類と考察は、機会を改めて行いたい。

##### 器種分類

口径と器高の関係から器種分類を行った。器高が口径より大きいものを深鉢、器高と口径が同じか、器高より口径の方が大きいものを鉢、頸部の径がその土器の最大径の2/1以下のものを壺、注口の付くものを注口土器と呼ぶ。第210~213図に主な土器を集成した。以下、器形ごとに文様の特徴を略記する。

##### 深鉢（第210~212図）

A（1~5） 体部中央がいったん緩やかにふくらみ、体部上半部が直立気味または外反気味になるもの。口縁部と体部中央に区画がなされている。1は隆線による逆丁字状文、2~4は隆線及び沈線による方形区画文が描かれる。5はワラビ手文と「し」字状文が交互に配される。

B（6~14） 体部が緩やかにふくらみ、口縁部が外反するもの。文様は、口縁部を画するものの（6~10・12~14）とそうでないものの（11）がある。体部文様は、ワラビ手状やそれに類する縱方向の沈線文（6・7・9）、横方向に展開する渦付三角形状の沈線文（8）、隆線文と刺突文の組み合わせ（10~12）、隆線文と沈線文の組み合わせ（13・14）などがある。

C (15~26) 胸部がふくらみ、頸部が長く、口縁部が肥厚するもの。文様は、口縁部・頸部・体部にそれぞれ施される。口縁部には刺突文や円孔や沈線文が描かれる。頸部は無文のものと繩文が施されるものとがあり、口縁部の突起の位置に隆線文や沈線文が垂下する(15~20)。体部にはワラビ手状(15)、溝付三角形状(17・19・21・23・24)の沈線文が施される。25は頸部から縦に垂下する平行沈線文が施される。26は体部の形が不明なので一応ここに含めるが、肥厚した口縁部には貼付刺突文と平行沈線文、頸部には縦の長方形の無文部が連続しており、類例を見ないものである。

D (27~30) 口縁部が外反もしくは外傾するもの。27・28は体部上半に沈線文が施される。29は刺突文のみ、30は刺突文と隆線が口縁部に施される。刺突文は工具で突き刺した後、粘土を片側に寄せるという特徴を持つ。

E (31~37) 体部は直線的に外反し、口縁部が屈曲するもの。31~35は4単位の波状口縁もしくは突起を持ち、さらに柄状把手が付く。体部には「し」字状の隆線文(31)、ワラビ手状の沈線文(32)などが描かれる。36は全形不明だが頸部に肩曲を持つ点でここに含めた。37は口縁部の内傾する鉢の可能性もある。

F (38~51) 体部が直線的に外反するもの。ただし、破片によってはF類とG類は区別しづらいため、あいまいさを含んでいる。38・39は口縁部が隆線文で区画され、38は体部に隆線文と破線が垂下する。40~48は口縁部が沈線文で区画される。体部文様は、ワラビ手状の沈線文(40)、斜位の平行沈線文(41・42)、蛇行沈線文(44・45)などがある。49~51は刺突文が施されるもので、49・50は前述の、粘土を片側に寄せる刺突文である。また、繩文、撚糸文、網目状撚糸文のみ施されるものと、無文のものがある。

G (52~75) 体部が緩やかな丸みを持って立ち上がり、口縁部が直立気味になるもの。52~59は隆線文が施されるものである。55~57は隆線上に刺突文が加えられるいわゆる鉄状隆線文が口縁部に施されている。71~73は体部上半に特に丸みを持つものであり、71は口縁部に沈線文と刺突文が施される。体部下端には隆線が巡る(下部隆帶)。72~75は口縁部の区画がないもので、75は下部隆帶を持つ。他に、繩文、撚糸文、網目状撚糸文のみ施されるものがあり、その中に下部隆帶を持つものがある。

H (76~90) 体部上半が内湾するものの。76・77は2個の把手が付く。78~85・89は口縁部が区画されており、体部には沈線文が施される。86・87は口縁部が区画されず、体部全体に蛇行沈線文が施される。88は隆線による「Y」字状の文様が描かれると考えられ、後述する門前式にある可能性がある。89・90は下部隆帶をもつものである。

I (91) 体部上半が内傾するもの。91は6層の倒木痕から出土したものだが、包含層の遺物が巻き上げられた可能性が高いため、ここに含めた。口縁部と肩曲部に刺突文、その間にスペー

ド状の沈線文が施される。

92～108は器形が不明なものを集めた。92～94は中空の把手と鏡状降線文が特徴的な、いわゆる門前式の土器である。

### 鉢

A (109～114) 体部がふくらみ、頸部が長く、口縁部が肥厚するもの。口縁部には突起が付く他は無文である。頸部も無文で、体部には「C」字状、渦付三角形状などの、横に展開する沈線文が描かれる。

B (115) 体部が直立気味のもの。

C (116・117) 口縁部が内湾するもの。117は弧状の沈線文が描かれており、あまり類例を見ないものである。118は入り組み状沈線文、120は陸線文が施される。

### 壺

A (121～124) 口縁部が直立もしくは外反するもの。口縁部、頸部は無文で、体部に文様が描かれる。

B (126) 口縁部がすばまる無頸のもの。

### 注口土器

A (127～130) 体部が急角度に外傾し、口縁部が屈曲する器形の、いわゆる浅鉢に注口が付けられるもの。体部は地文のみである。

B (131～133) 体部が丸くふくらむもの。131はソロバン玉状の器形で、上半部にのみ文様が描かれる。

蓋 (134・135)

3点出土している。134はつまみの付くもので、135は刺突文が施される。また、無文のものがある。

### 異形土器 (136)

上面観四角形の巾着のような器形で、隆沈線と網文により文様が描かれている。香炉型土器とか異形台付き土器と呼ばれるものに似た印象である。

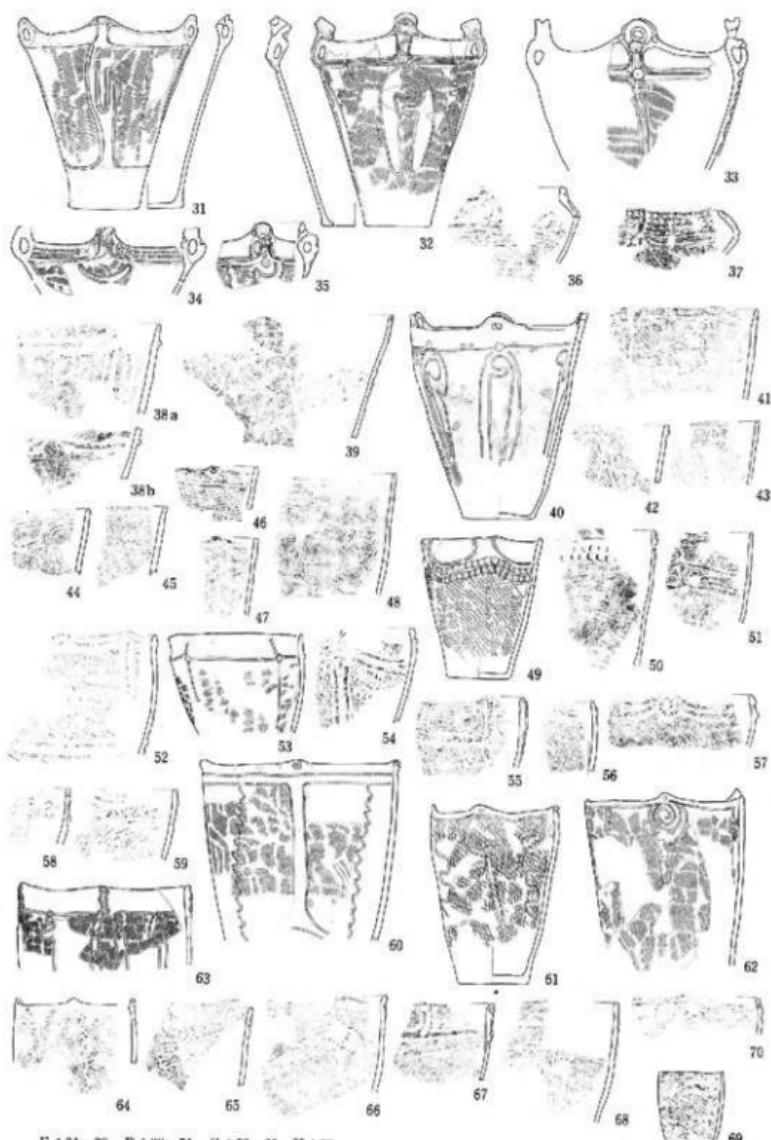
### 土器の位置づけ

前述の土器群は、1976～1978年調査、1984年調査の出土遺物と同様の特徴を持つものである。これらは「六反田遺跡III」(佐藤：1987)において後期初頭～前葉に位置づけられている。また、方形区画文土器に代表される第I群土器から、沈線文土器、磨消網文土器が主体となる第II群土器への変遷が明らかにされている。

今回の出土状況において遺物包含層より新しいものは、6～8層出土土器(第129・131・132図)、8層の遺構であるS13出土土器(第93図)、9a層を掘り込んでいる5号堆設土器(第

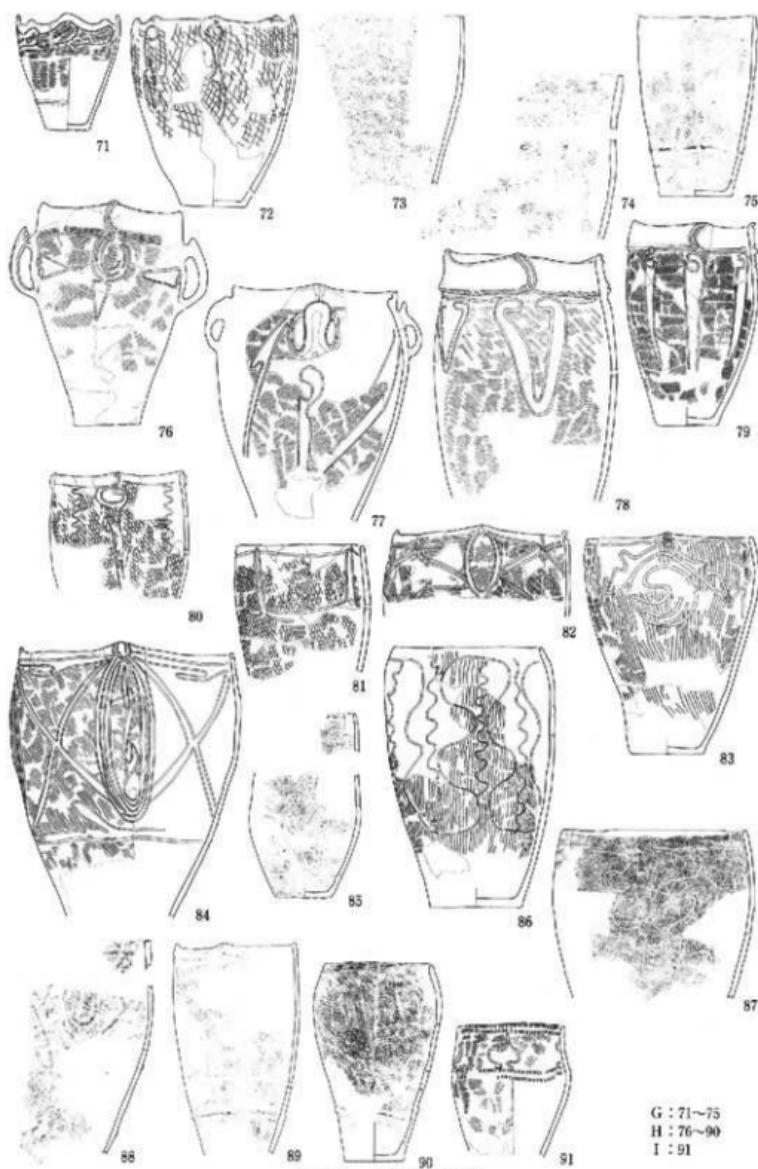


第210図 土器集成図(1)



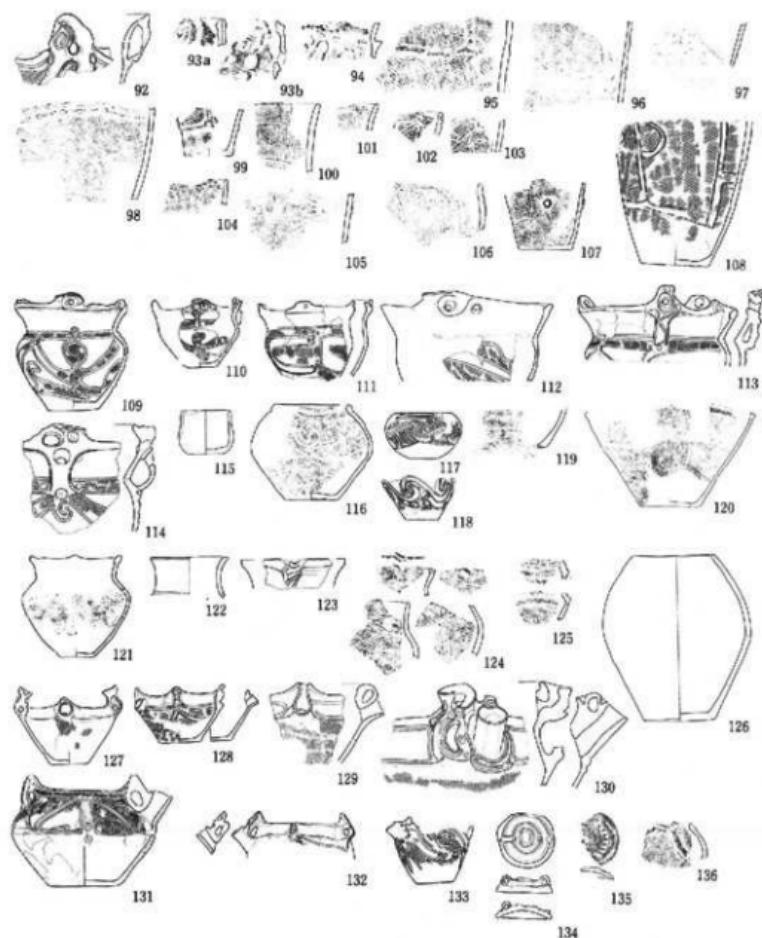
E : 31~37 F : 38~51 G : 52~69 H : 70

第211図 土器集成図(2)



G : 71~75  
H : 76~90  
I : 91

第212図 土器集成図(3)



鉢：109～120 壺：121～126 注口土器：127～133

蓋：134・135 異形：136

第213図 土器集成図(4)

98図)がある。遺物包含層よりも層位的に古いものは、9層が遺構を覆っているS I 4の4層出土土器(110図1)、10層出土土器(第201~203図)がある。いずれも少量で、土器群とのまとまりはとらえにくい。

遺物包含層の3カ所の遺物集中地点の土器群の内容を比べてみると。A地点の遺物は、A-6~10・B-6~9・C-6~9グリッドの包含層および、SK8・21・24、3号配石出土のものである。B地点の遺物は、B-15~19・C-15~19グリッドの包含層および、SK29~32・34~36・38出土土器、2・3号埋設土器である。C地点の遺物は、A-12・B-11・12グリッドの包含層および、SK27、2号配石出土土器、4号埋設土器である。

各集中地点の土器群を比べると、方形区画の土器がA地点には目立つ(第104図1・142図8・144図5・145図3・147図1)が、B・C地点にはほとんど見られず、また、B地点に典型的なワラビ手文を描く深鉢(第167図1・第170図6)が存在するといった特徴がある。このことを手がかりとしてA地点出土遺物とB・C地点出土遺物で二分することも考えられよう。しかし、土器群の更なる分析については、これまでの出土資料と合わせて総合的に検討する必要がある。

## (2)剝片石器について

六反田遺跡出土の剝片石器は以下のように分類した。

### 定形石器

**石鎌** 先端の作り出しが明瞭で、基部整形がなされており、かつ両刃が完全に整形され、平面形が三角形状のもの。基部の形状により細分される。無茎のものをI類、有茎をII類、凹基をA類、平基をB類とする。

**尖頭器** 石鎌と同様に整形されるが、石鎌に比べ厚みのあるもの。

**石錐** 主に丁寧な両面加工により尖端部が作り出されたもの。先端部が長く伸び基部整形がされるものと、基部整形のないものとがある。

**石匙** 剥片の縁辺の刃部の他に、両側刃から作出される凹部によりつまみが作られるもの。形状が縦長のもの(I類)と横長のもの(II類)がある。

**不定形石器** 主に長さ2mm以上の二次加工が連続して施されるもの。

**I類** スクレイパー・エッジを有する石器。加工の部位により細分される。

**I A類** 尖端部を形成するもの。

**I B類** 1~3側刃を加工するもの。

**I C類** 素材剥片の主に腹面側に加工されるもの。

**I D類** その他。

**II類** 尖端部を形成するもの。

- III類 平面形が鋸齒状の刃部を有するもの。  
 IV類 折れ面から二次加工がなされるもの。  
 V類 二次加工が交互剝離状のもの。  
 VI類 細かな連続する二次加工を有するもの。  
 VII類 扱れた刃部を有するもの。  
 VIII類 その他。いわゆる二次加工を持つ剝片などを含めた。

#### 両極剝離痕を持つ石器

#### 異形石器

#### 石核

III区の遺物包含層出土剝片石器の器種内容を表したもののが第18表である。また、使用される石材の割合は第19表に示した。

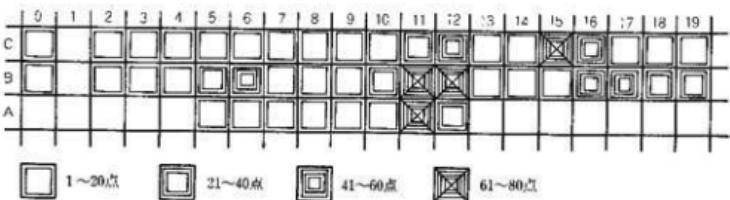
第18表 III区9層出土剝片石器  
の内容

石 材	点数	百分率
定 形 石 器	74	8%
不定形石器*	161	16%
	17	2%
	28	3%
剝片・碎片	701	71%
計	981	71%

\* 何らかの二次加工を有するものを含む

第19表 III区9層出土剝片石器の石材

石 材	百分率	石 材	百分率
珪 質 貝 岩	66.0	石 英 安 山 岩	1.1
玉 魚	9.7	珪 化 木	2.9
碧 玉	2.4	透 化 灰 岩	1.7
鐵 石 美	7.2	流 紋 磷	1.3
黑 噴 岩	4.1	石英安山岩質凝灰岩	0.3
安 山 岩	3.3		



第214図 III区9層出土剝片石器の分布

## 2 繩文時代の遺物について

### (3) 磨石器について

六反田遺跡出土の磨石器の分類にあたっては、礫表面の「凹み」「磨面」「タタキ」(敲打により凹凸ある面が形成される、剥離痕も含む)「ザラ」(敲打等によりザラついた平坦な面が形成される)の組み合わせ、および全体の形態に着目し、以下のように分類した。

1類 凹みを持つもの。深さの比較的深いもの(1A)と比較的浅いもの(1B)がある。

2類 凹み+磨面 3類 凹み+磨面+タタキ 4類 凹み+磨面+タタキ+ザラ

5類 凹み+磨面+ザラ 6類 凹み+タタキ+ザラ 7類 凹み+タタキ

8類 凹み+ザラ 9類 磨面 10類 磨面+タタキ 11類 磨面+タタキ+ザラ

12類 磨面+ザラ 13類 タタキ 14類 タタキ+ザラ 15類 ザラ

石皿 打製石斧 磨製石斧 円盤状石製品 石製品

磨製石斧には、蛇紋岩製で大型のものがある。六反田遺跡の他に山田上ノ台遺跡13号土坑から出土している(主浜:1987)。

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
C	3			2	2	1	5	4	5	3	5	2	2		3	3	4	5	1	
B							8	8	2	2	2	2	1			1	5	7	7	2
A								2	1		1									

第215図 III区 9層出土磨石器の分布(点数)

\* 配石遺構あり

## VIII まとめ

- 六反田遺跡は荒川の自然堤防に立地している。
- I・III区から縄文時代後期初頭～前葉に位置づけられる遺物包含層が検出され、縄文土器、石器が多量に出土した。
- II区からは縄文時代晩期の遺物、および弥生時代の遺物が出土した。
- 古代の住居跡3軒、掘立柱建物跡2棟が検出された。
- 古代の小溝状遺構群などが検出された。

## 参考文献

- 伊東信雄：1957 「古代史 繩文式文化時代」『宮城県史』1 古代中世史
- 伊東信雄編：1981 『宮城県史』34 資料集V 考古資料
- 氏家和典：1957 「東北土器の型式分類とその編年」『歴史』第14輯
- 小山正忠・竹原秀雄：1967 『新版標準土色帳』 日本色研事業株式会社
- 太田昭夫他：1991 「富沢遺跡——第30次調査報告書1——」 仙台市文化財調査報告書第149集
- 木村・金森健：1985 『郡山遺跡V』 仙台市文化財調査報告書第74集
- 後藤勝彦他：1978 「七深沢遺跡」『東北自動車道関係遺跡調査報告書I』 宮城県文化財調査報告書第52集
- 後藤勝彦：1981 「繩文後期の土器 東北地方」『繩文土器大成』3 後期 講談社
- 佐藤洋：1987 「六反田遺跡III」 仙台市文化財調査報告書第102集
- 篠原信彦他：1982 「仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報I」 仙台市文化財調査報告書第40集
- 篠原信彦他：1983 「仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報II」 仙台市文化財調査報告書第56集
- 篠原信彦他：1984 「仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報III」 仙台市文化財調査報告書第69集
- 篠原信彦他：1985 「仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報IV」 仙台市文化財調査報告書第82集
- 篠原信彦他：1986 「仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報V」 仙台市文化財調査報告書第89集
- 篠原信彦他：1987 「仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報VI」 仙台市文化財調査報告書第101集
- 篠原信彦・吉岡恭平：1990 「下ノ内遺跡 仙台市高速鉄道関係遺跡調査報告書II」 仙台市文化財調査報告書第136集
- 主浜光朗：1987 「山田上ノ台遺跡」 仙台市文化財調査報告書第100集
- 白鳥良一：1980 「多賀城跡出土土器の変遷」『紀要VII』 宮城県多賀城跡調査研究所
- 仙台市科学館：1985 『仙台市地形区分図』
- 仙台市教育委員会：1980 「仙台市地下鉄関係分布調査報告書」 仙台市文化財調査報告書第19集
- 田中則和：1981 「六反田遺跡発掘調査報告書」 仙台市文化財調査報告書第34集
- 田中則和：1984 「六反田遺跡II」 仙台市文化財調査報告書第72集
- 林謙作：1965 「繩文化の発展と地域性 2 東北」「日本の考古学」II 河出書房新社
- 平間亮輔：1991 「富沢遺跡 第35次発掘調査報告書」 仙台市文化財調査報告書第150集
- 松本秀明：1981 「仙台平野の沖積層と後水期における海岸線の変化」『地質学評論』第52集第2号
- 山田一郎・庄司貞男：1980「宮城県に分布する灰白色火山灰について」『宮城県多賀城跡調査研究所年報1979』 宮城県多賀城跡調査研究所
- 吉岡恭平・篠原信彦：1989 「富沢遺跡 仙台市高速鉄道関係遺跡調査報告書1」 仙台市文化財調査報告書第126集
- 渡部紀：1995 「伊古田遺跡 仙台市高速鉄道関係遺跡調査報告書II」 仙台市文化財調査報告書第193集

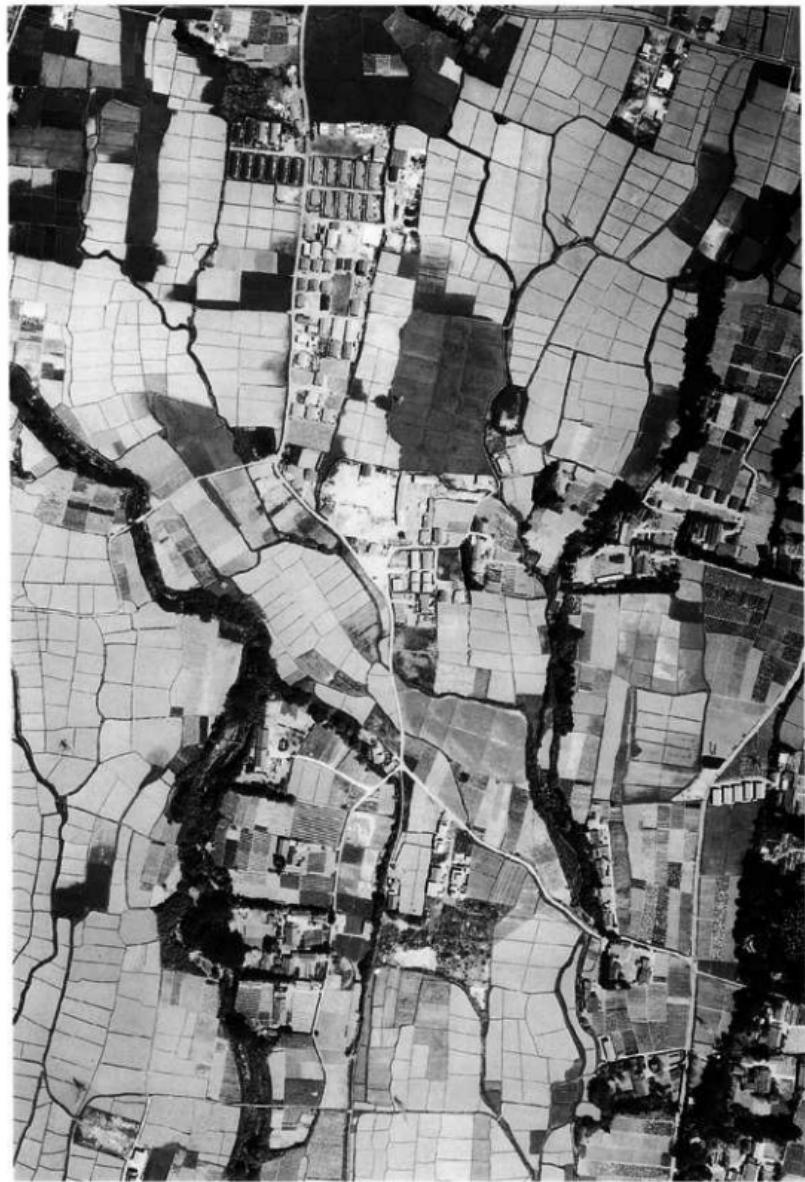


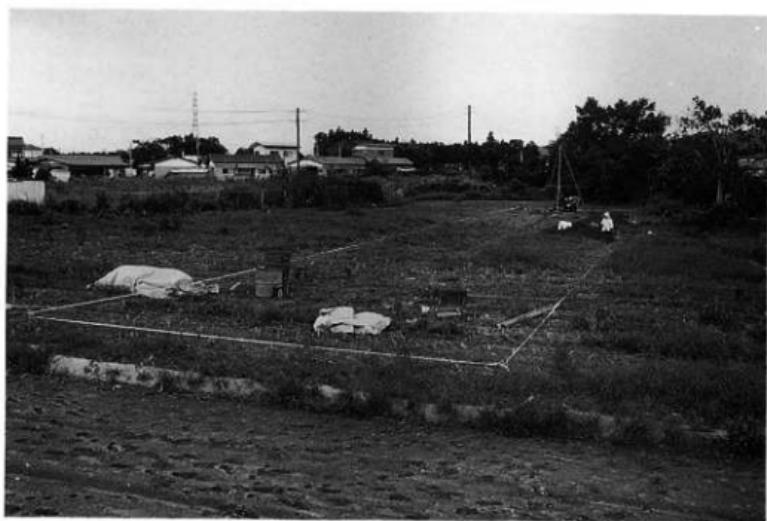
# 写 真 版



1 遺跡周辺の空中写真 (1983年5月撮影)

2 遠野周辺の空中写真（1965年撮影）（中央左寄りに地下鉄関係道路跡）





1 - 1 調査前全景



1 - 2 基本層序

14

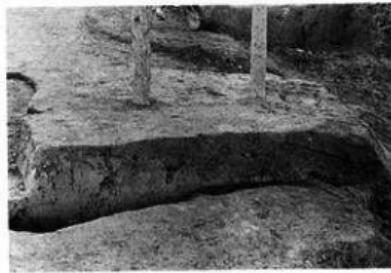


1-3 SD 1溝跡完掘状況（南西より）

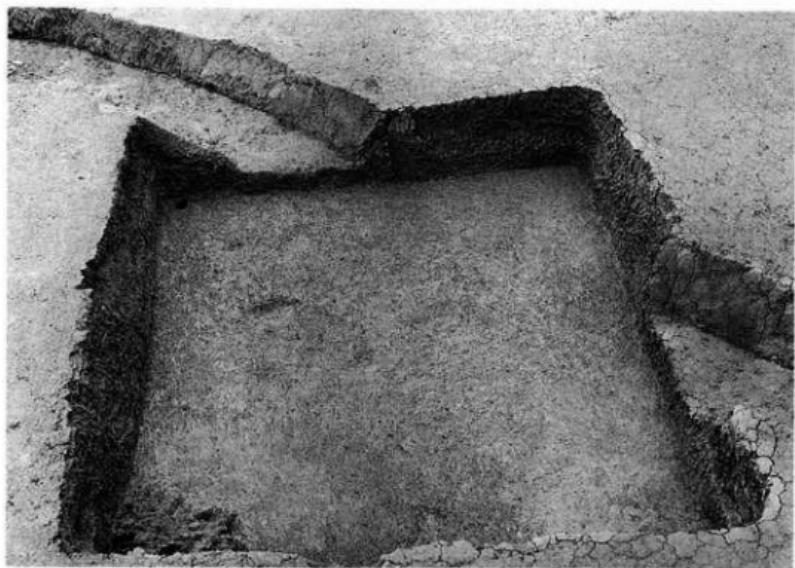


1-4 SD 1断面

1 A断面  
2 B断面  
3 C断面



1-5 SK 3土坑断面



1-6 S I 1住居跡（東より）



1-7 S I 1細部

1 堆積状況 2 カマド  
3 煙道 4 床面の遺物出土状況



1-8 S B 1 建物跡

2  
1 東より



2・3 柱穴断面

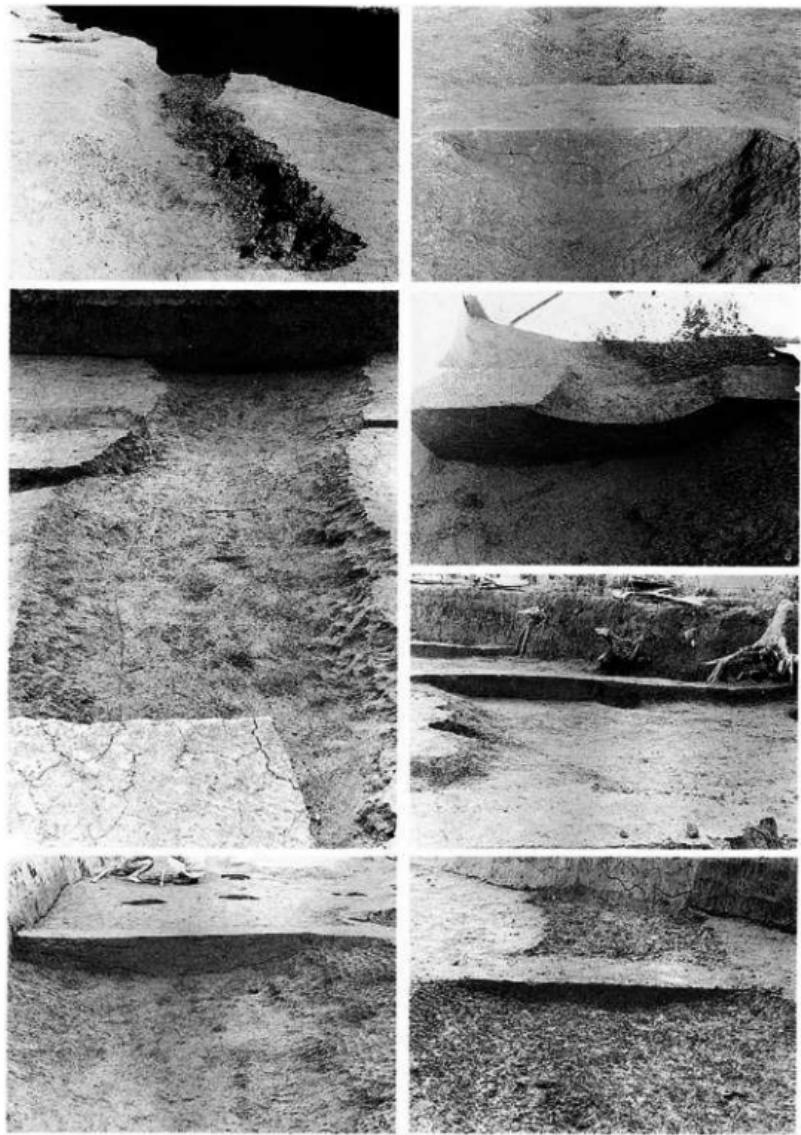


1-9 S D 3 溝跡

1  
1 西より

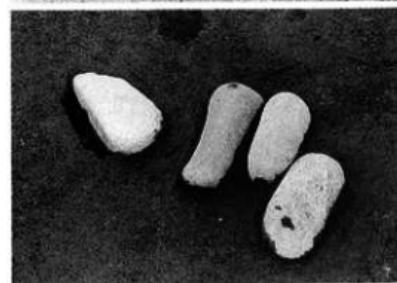
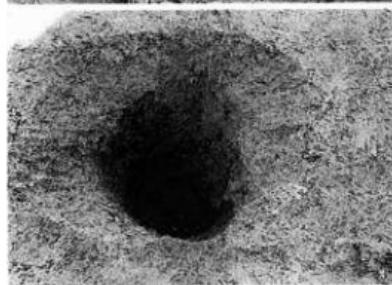


2 断面



1-10 6 層上面の溝跡

- |               |           |
|---------------|-----------|
| 1 SD 4 (西より)  | 2 SD 4 断面 |
| 3 SD 7 (北東より) | 4 SD 8 断面 |
| 6 SD 8 断面     | 5 SD 8 断面 |
|               | 7 SD 9 断面 |



1-11 6~10層の造構

- |                  |               |
|------------------|---------------|
| 1 SD10 (東より)     | 2 SK4 (南より)   |
| 3 SK5 (西より)      | 4 SK5断面       |
| 5 SK6 (北より)      | 6 ピット39 (北より) |
| 7 10層上面の塊群 (西より) |               |



1-12 14層上面（南西より）



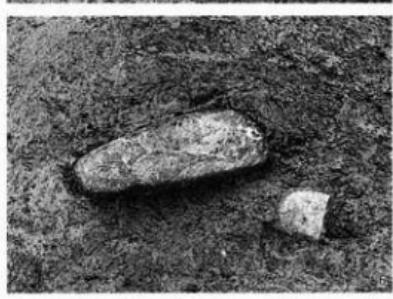
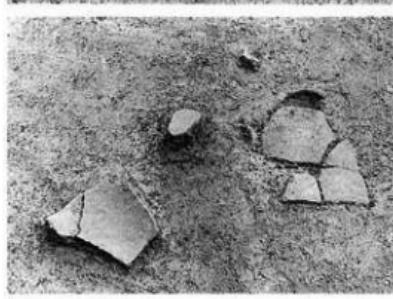
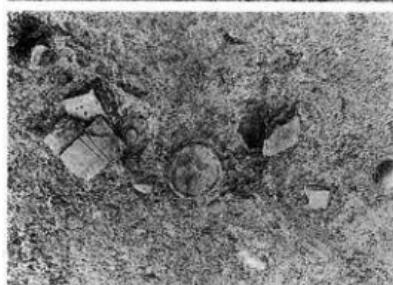
1-13 磚層検出状況（南西より）



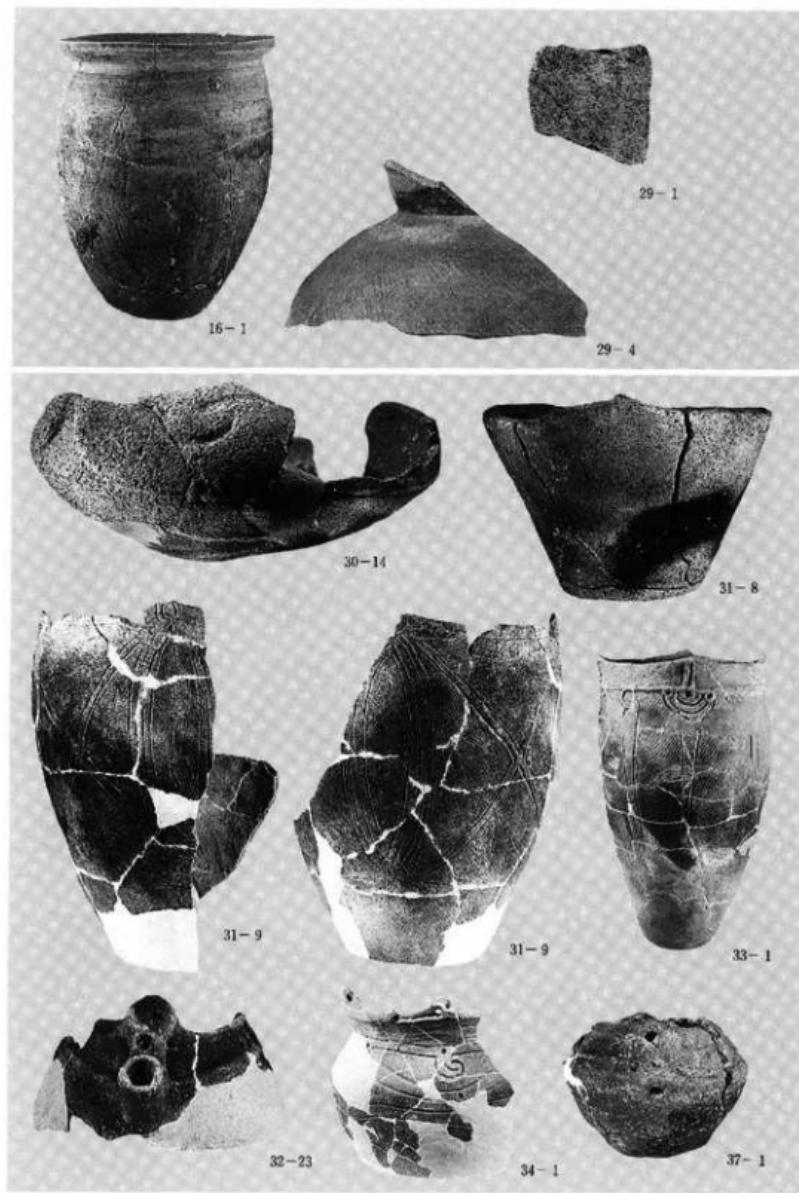
1-14 磚層検出状況（南西より）



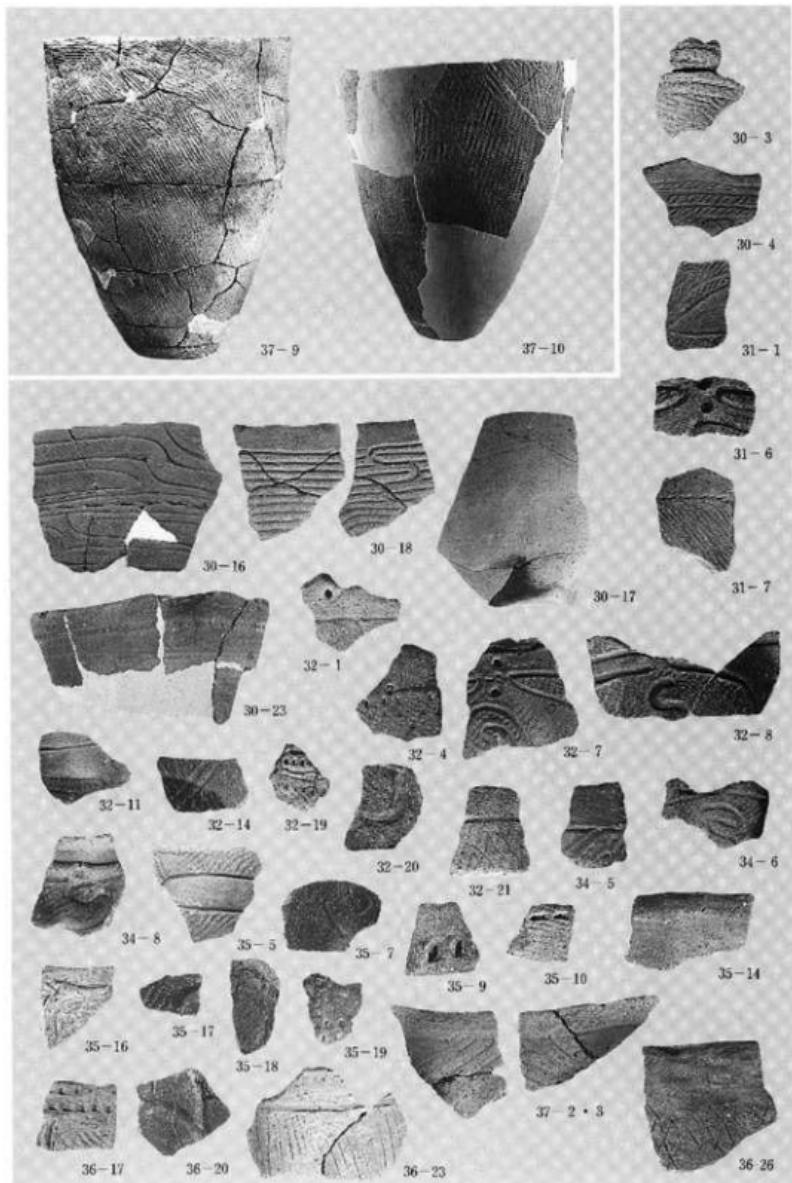
1-15 作業風景



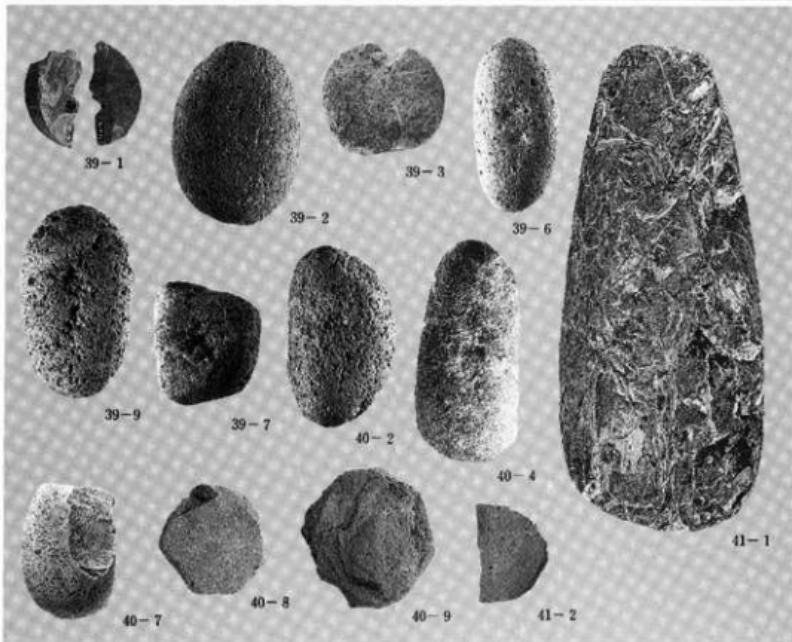
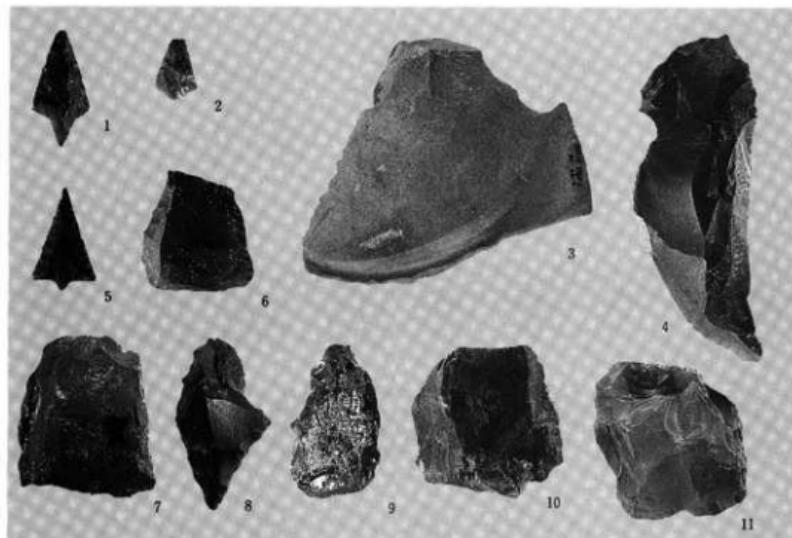
1～5 繩文土器 6 蛇紋岩製石斧  
7 石椀 8 岩偶



1-17 土器 (1)



1-18 土器 (2)



1-19 石器 (1)



1 - 20 石器 (2) 土製円盤



2-1 調査前全景（南より）



2-2 10・11グリッド東壁



2-3 10・11グリッド西壁



2-4 調査区北壁



2-5 SD 3溝跡

1 東より  
2 断面



2-6 SD 1溝跡断面



2-7 4b層上面全景

1 北より  
2 南西より





2-8 S I 1 住居跡

- 1 全景(西より) 4 掘り方発掘状況(西より)  
2 堆積土  
3 遺物出土状況



2-9 4 b 層のピット



1 ピット1 2 ピット2



2-10 SD 2 溝跡

1 東より  
2 断面

2-11 SX 1

1 南西より  
2 断面

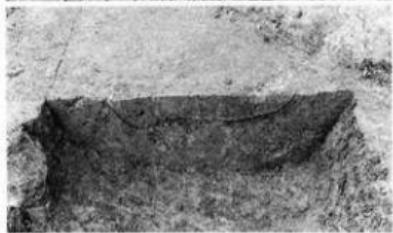


2-12 6層上面全景（南より）

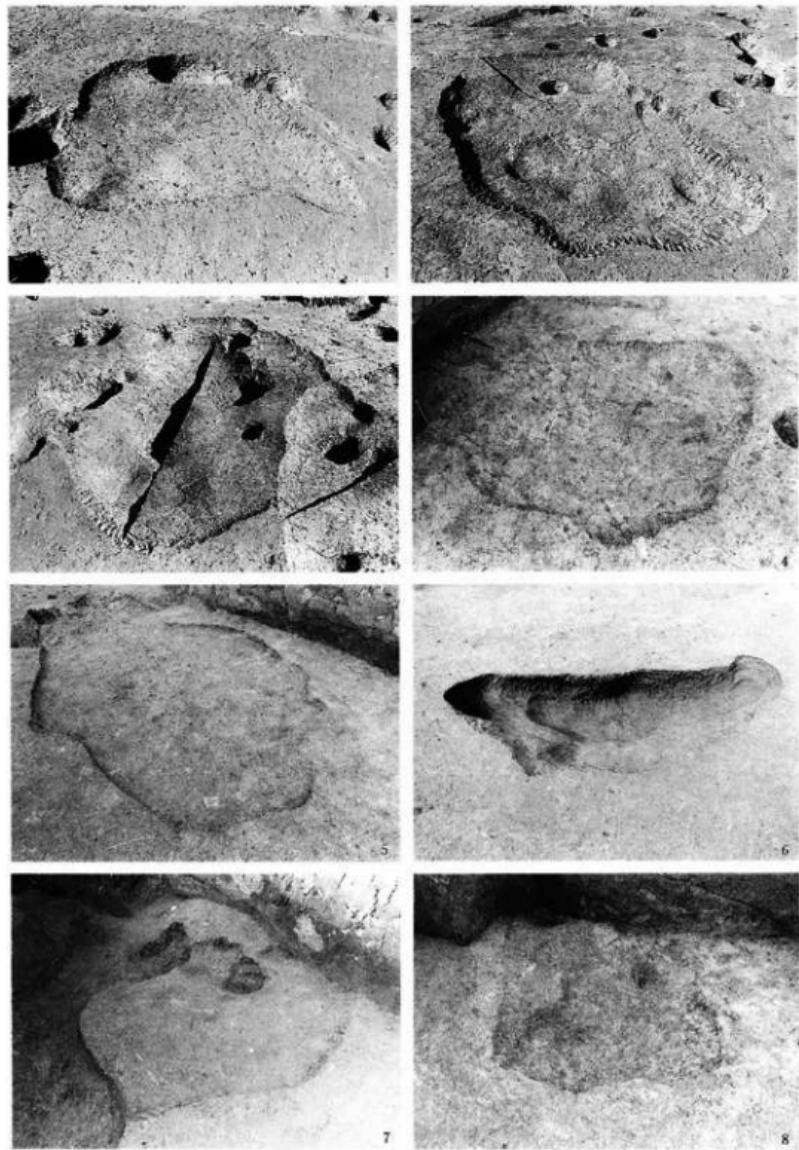


2-13 SD 4 溝跡

- 1 北東より
- 2 断面
- 3 遺物出土状況



2-14 SD 5 断面



2-15 7・9・14a層検出遺構

- |               |              |
|---------------|--------------|
| 1 SX6 (南より)   | 2 SX7 (南より)  |
| 3 SX9 (南より)   | 4 SX11 (東より) |
| 5 SX13 (南より)  | 6 SX14 (東より) |
| 7 SX17 (南東より) | 8 SD6 (東より)  |



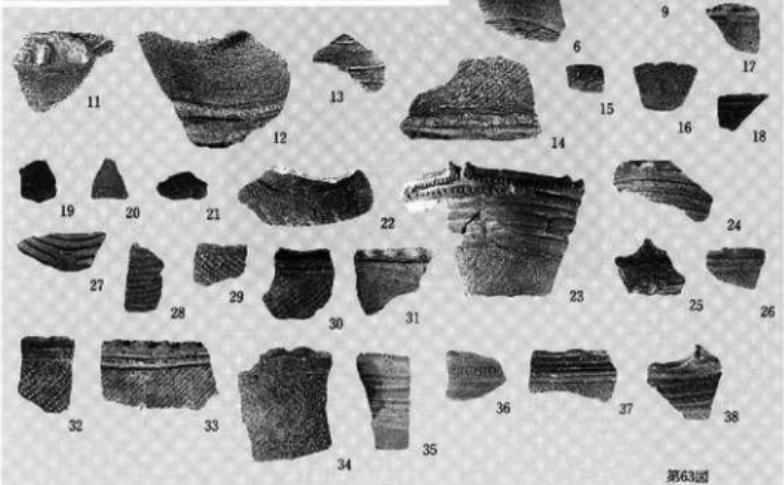
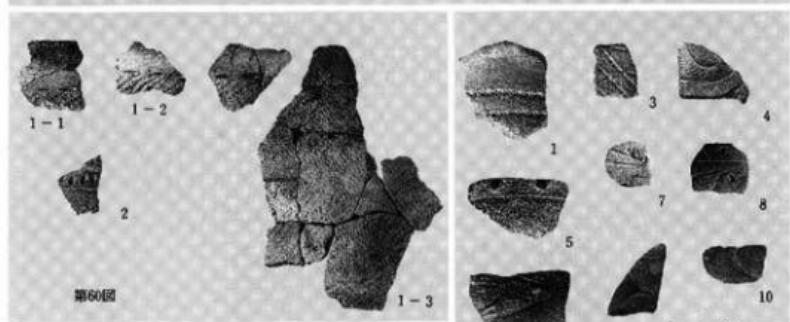
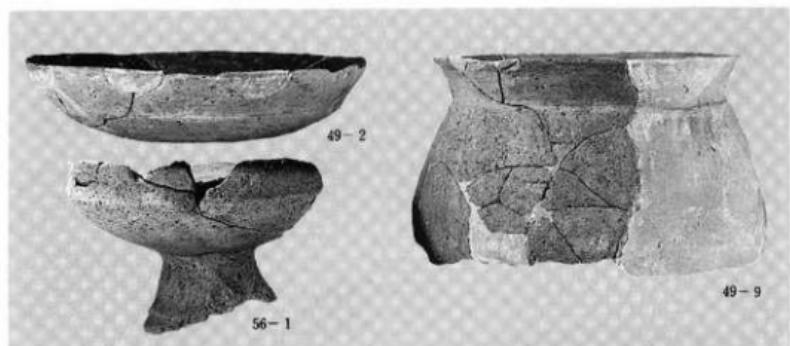
2-16 河川跡

- 1 全景（南より）
- 2 南岸
- 3 全景（北より）

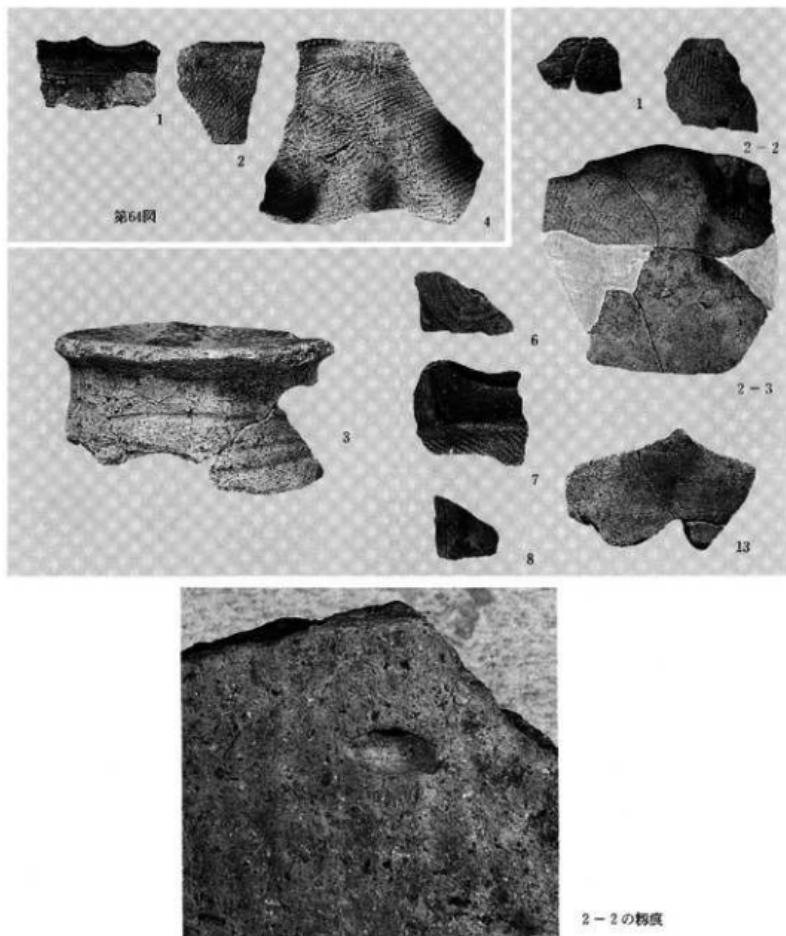


2-17 作業風景

作業風景



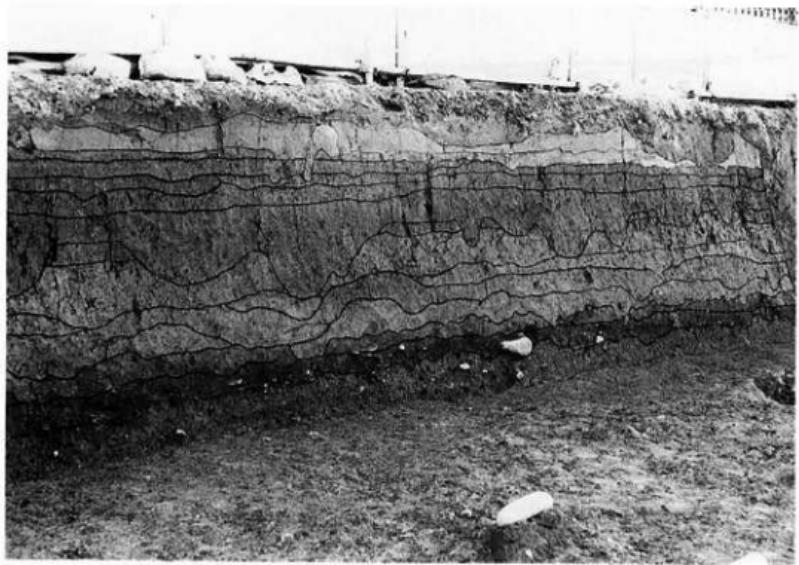
2-18 土器 (1)



2-19 土器 (2)



3-1 調査前全景

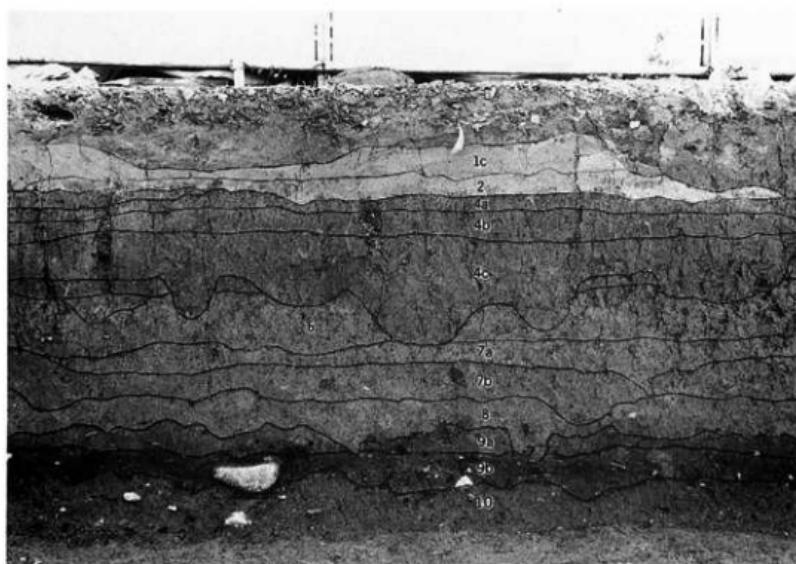


3-2 調査区東壁



3-3 基本層序 (1)

III 3



3-4 基本層序 (2)

III 4



3-5 4a層上面（南西より）



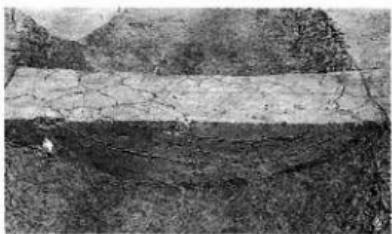
3-6 SD1溝跡



1 南西より 2 北東より



3-7 SD 1断面



1 A断面 2 B断面



3-8 土坑 (南西より)

- |         |         |
|---------|---------|
| 1 SK1・2 | 3 SK2断面 |
| 2 SK1断面 | (南西より)  |
| 4 SK3・4 | (南西より)  |
| 5 SK3断面 | 6 SK4断面 |



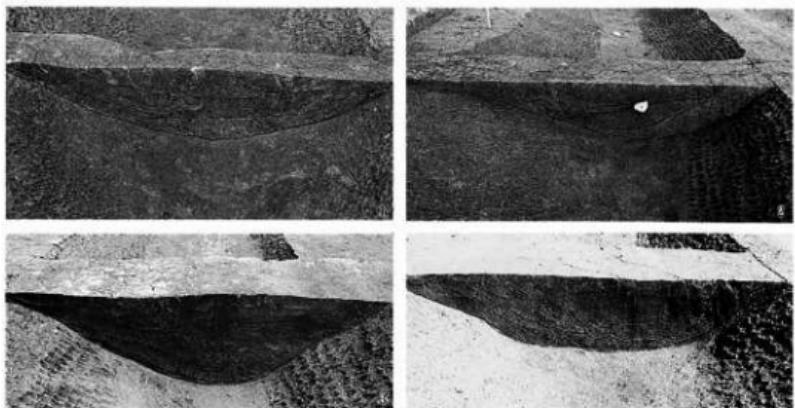
3-9 4 b 層上面（南西より）



3-10 S D 2溝跡



1 南西より 2 北東より

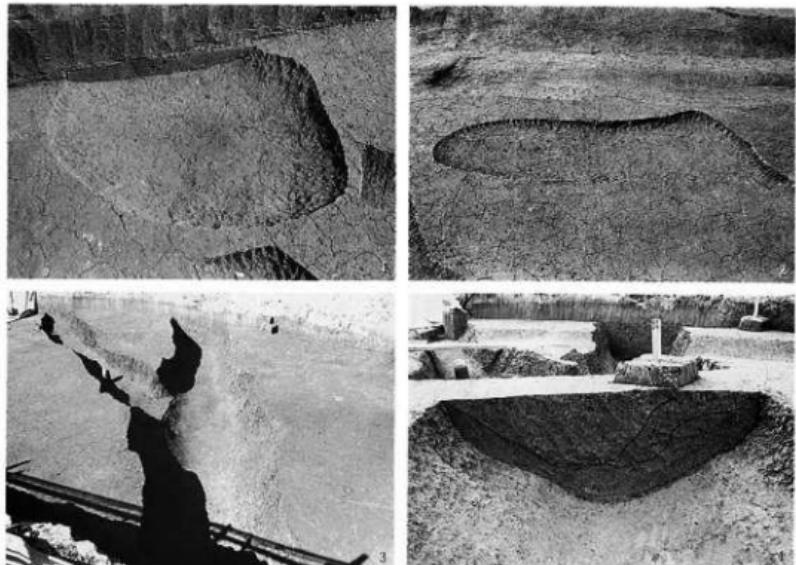


3-11 SD 2断面

1 A 2 B 3 C 4 D



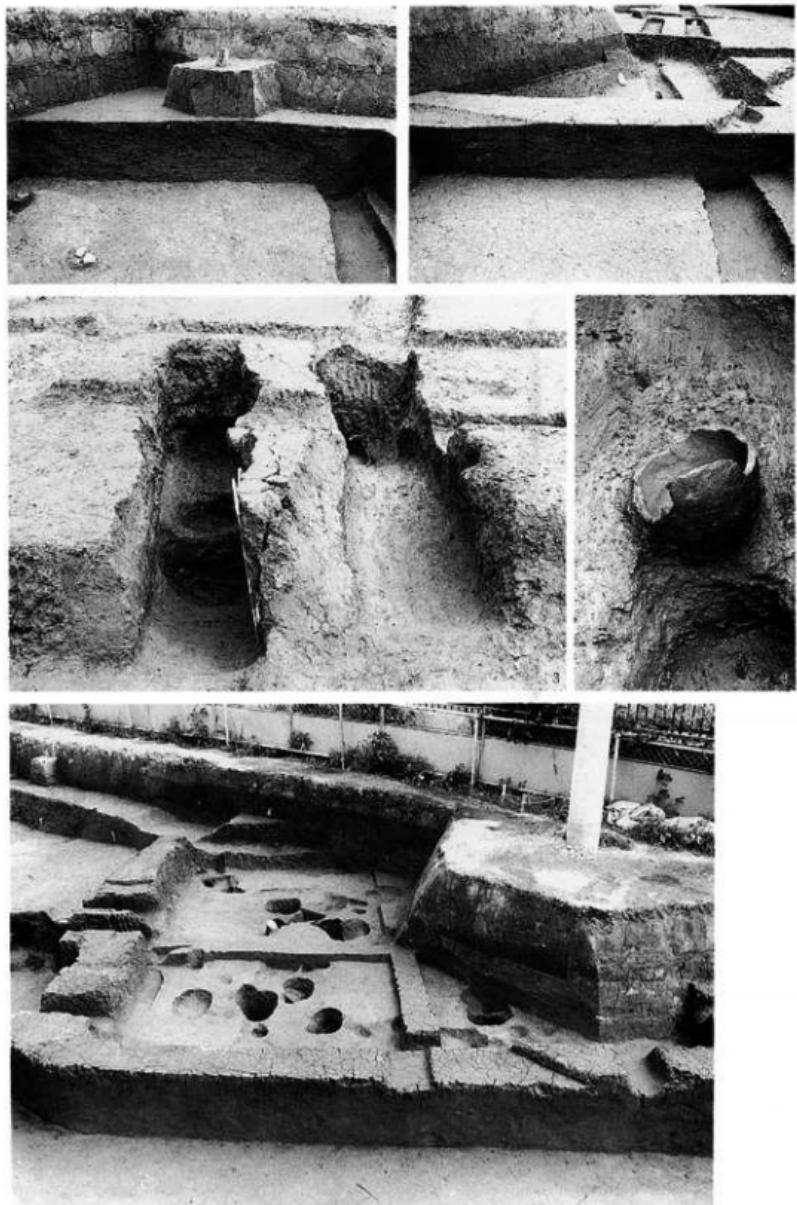
3-12 4c層上面  
(南西より)



3-13 4c層の遺構

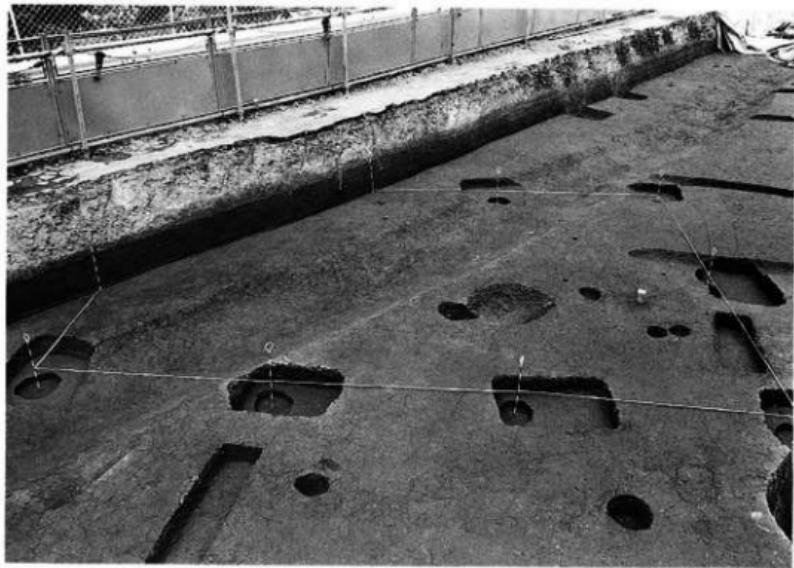
1 SK 5 (北より)  
3 SD 5-6 (南東より)2 SK 6 (南東より)  
4 SD 5-6断面

3-14 S I 1住居跡 (西より)



3-15 S-11細部

1 東ベルト(北より) 2 西ベルト(北より)  
3 カマド(南より) 4 煙道内土器  
5 挖り方完跡状況(西より)



3-16 SB 1 建物跡



3-17 SB 1 細部



1 ピット2 2 ピット3  
3 ピット7 4 ピット7



3-18 5層上面の小溝状遺構群（南西より）

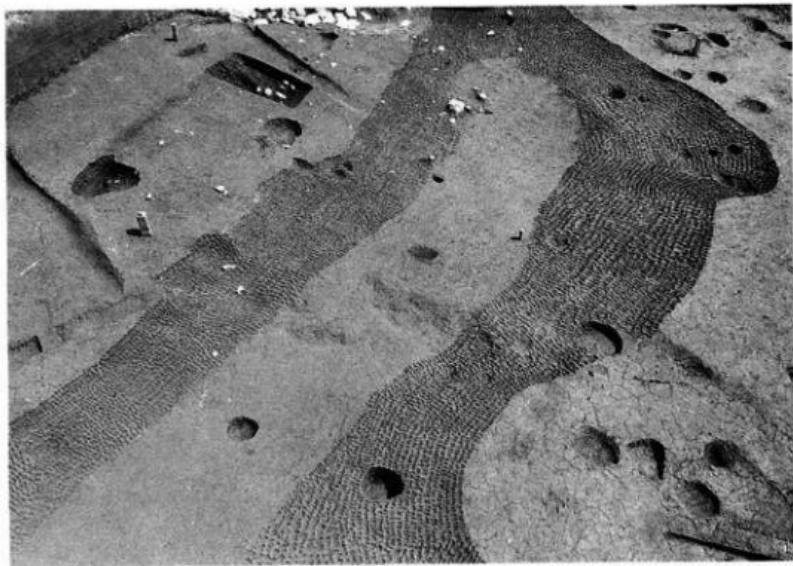


3-19 5層上面の小溝状遺構群（北東より）

3-20 小溝状遺構群と土坑

- 1 9・10グリッド  
(北西より)
- 2 11・12グリッド  
(北西より)
- 3 SK 7 土坑  
(東より)





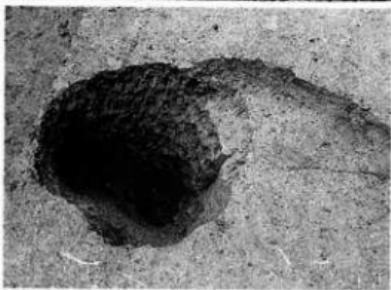
3-21 6層上面の遺構

- 1 SD 3 (北西より)
- 2 ピット116遺物出土状況 (南西より)
- 3 ピット116完掘状況 (南西より)
- 4 ピット116断面



3-22 7層上面の遺構

SK23(南西より)



3-23 8層上面の遺構

1 SK26(北より) 2 SI3(北西より)  
3 全景(南西より)



3-24 9a層上面の遺構

1 SK8(北より) 2 SK9(北西より)  
3 SK11(北より) 4 5号埋設土器(南より)



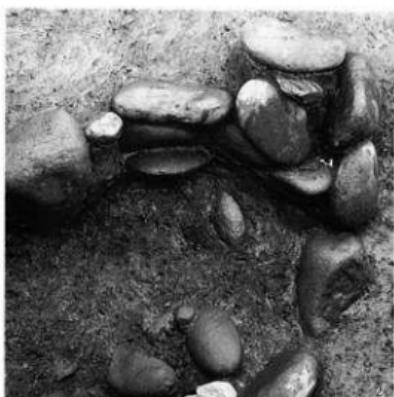
3-25 2号配石



1 南より 2 北より



3-26 3号配石



1 検出状況（南より）

2 完搬状況（南より）



3-27 9b層上面の遺構

1 SK22（北より）  
2 2号埋設土器（南より）  
3 3号配設土器（南より） 4 4号埋設土器（南より）

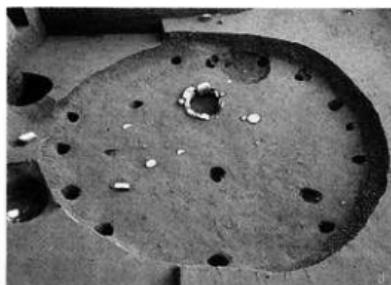


3-28 10層上面全景（南西より）

1 全景 2 北半

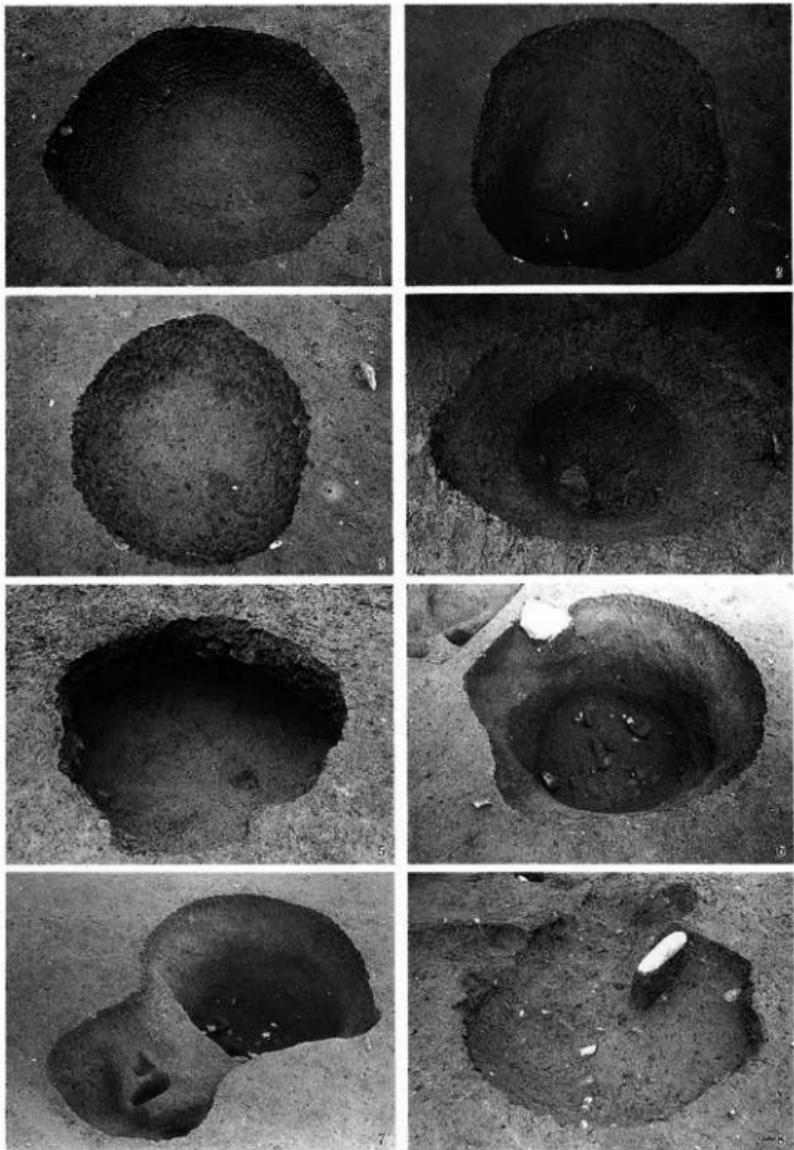


3-29 S I 4 全景（南より）

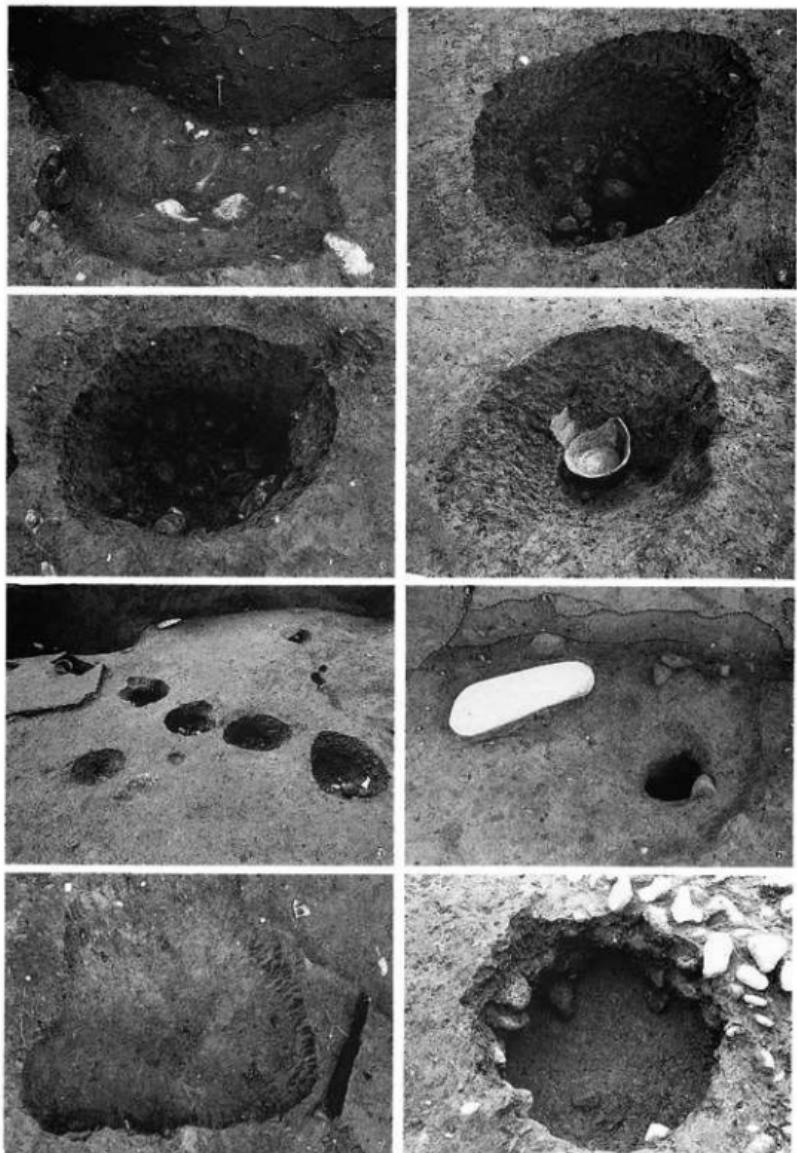


3-30 S I 4 細部

- 1 全景（北より）
- 2 炉（北より）
- 3 作業風景



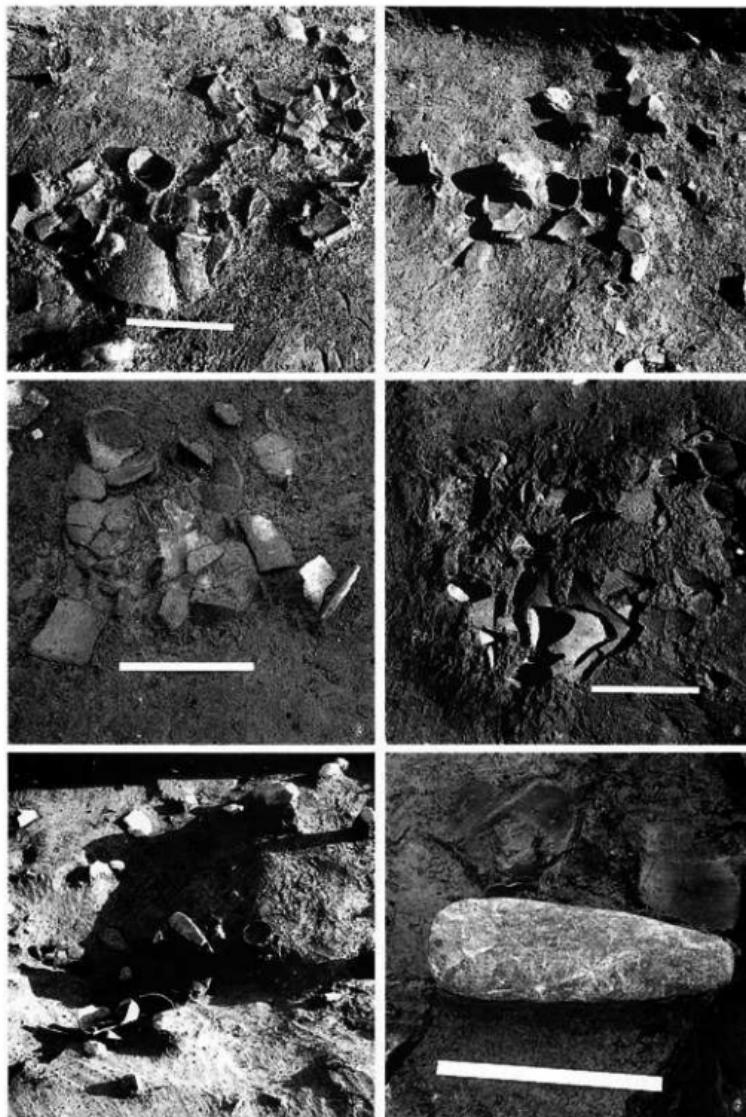
3-31 10層上面の土坑 (1) 1 SK13 (南より) 2 SK14 (南より) 3 SK15 (南より)  
4 SK17 (北より) 5 SK19 (東より) 6 SK21 (南西より)  
7 SK21・SX4 (北西より) 8 SK24 (北より)



3-32 10層上面の土坑 (2) 1 SK27 (北西より) 2 SK29 (西より) 3 SK30 (北より)  
 4 SK32 (南より) 5 SK29~33 (北西より) 6 SK34  
 7 SK35 (南より) 8 SK36 (西より) (北西より)



3-33 10層上面の土坑（3）他 1 SK38（南西より） 2 SK39（北より） 3 SK40・P239（南より）  
4 SK41（南東より） 5 SK42（南より） 6 SK46（西より）  
7 P231（南より） 8 1号埋設土器（南より）



3-34 9層の遺物出土状況 (1) 1 B-7 2 A・B-8・9 3 B-8・9  
4 B・C-12 5 B-17・18  
6 B-17 蛇紋岩製大形石斧

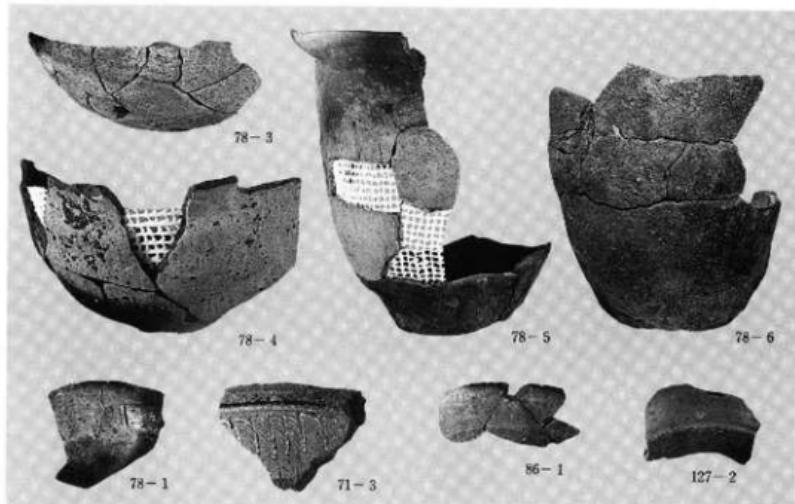


3-35 9層の遺物出土状況（2）

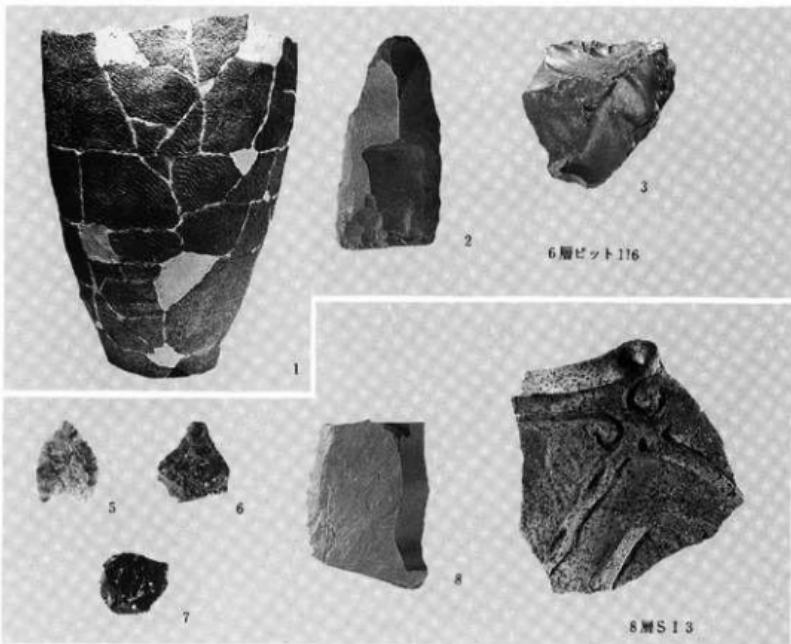
- |   |      |        |
|---|------|--------|
| 1 | B-17 | 土器と粘土塊 |
| 2 | B-19 |        |
| 3 | B-19 |        |



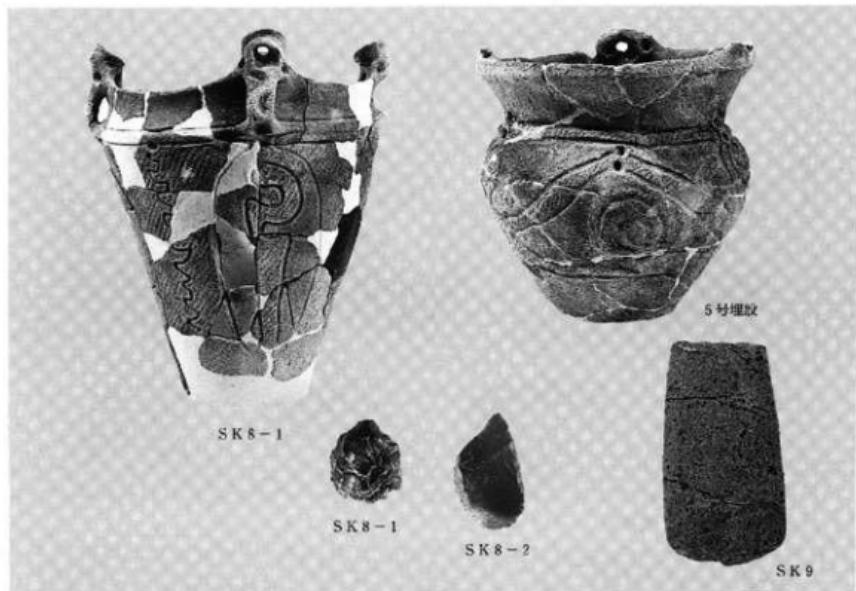
3-36 作業風景



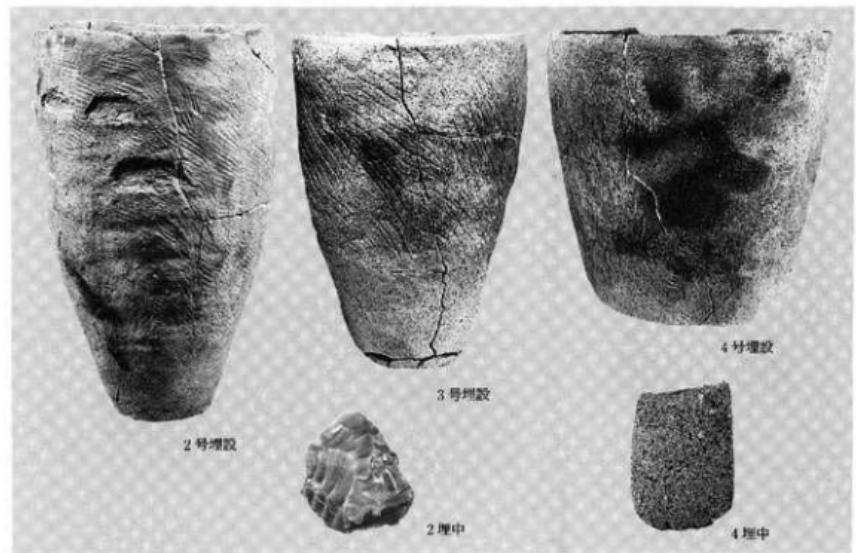
3-37 土師器・須恵器



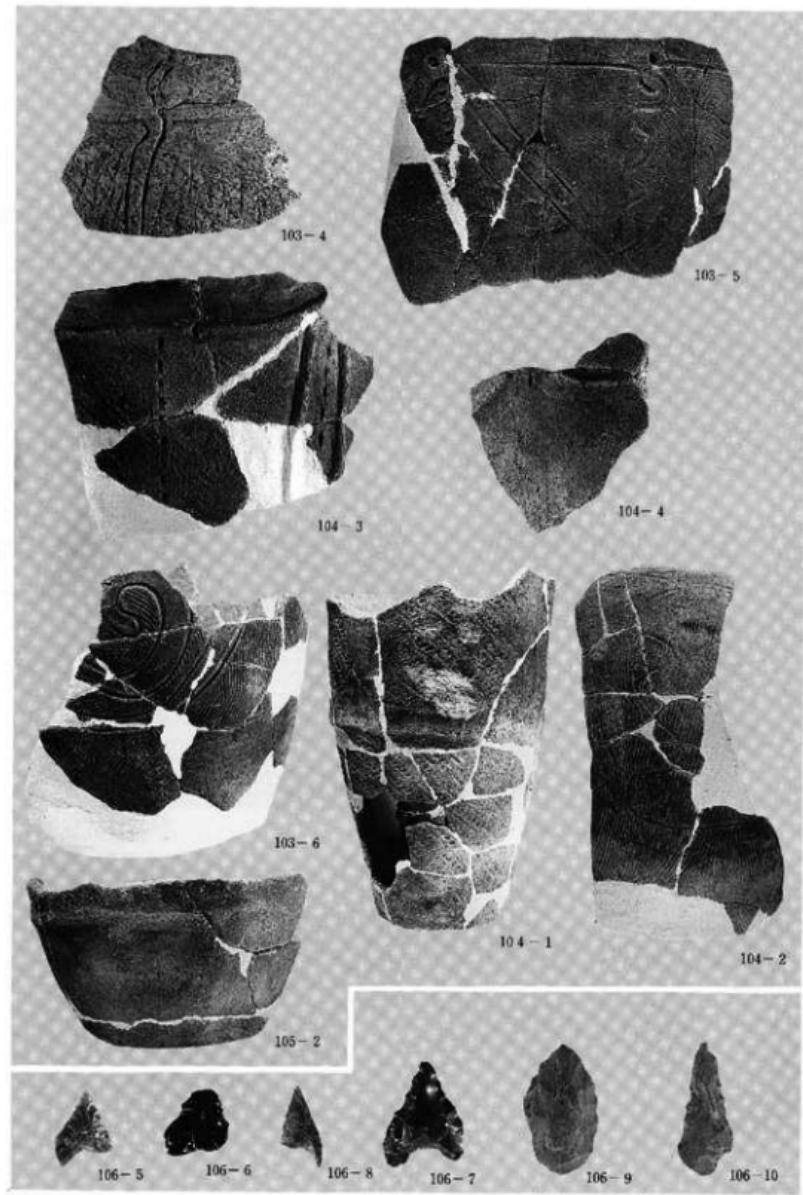
3-38 6・8層出土遺物



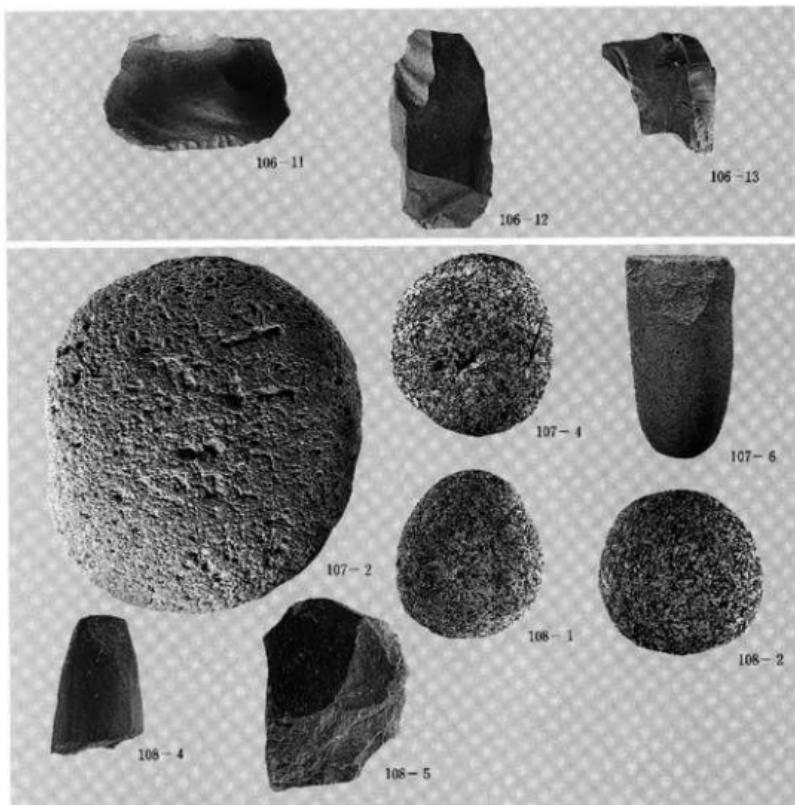
3-39 9a層の遺構出土遺物



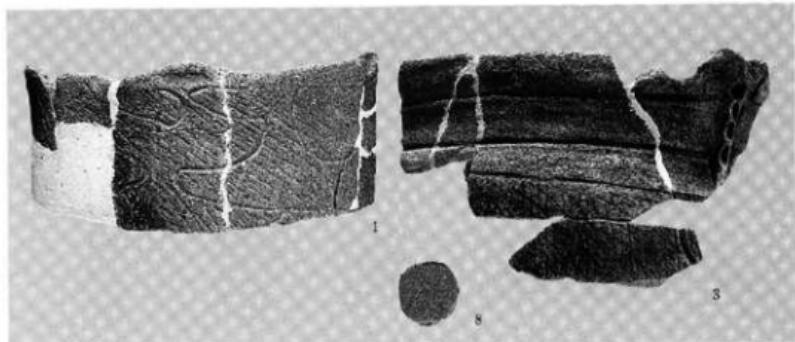
3-40 9b層の遺構出土遺物（1）



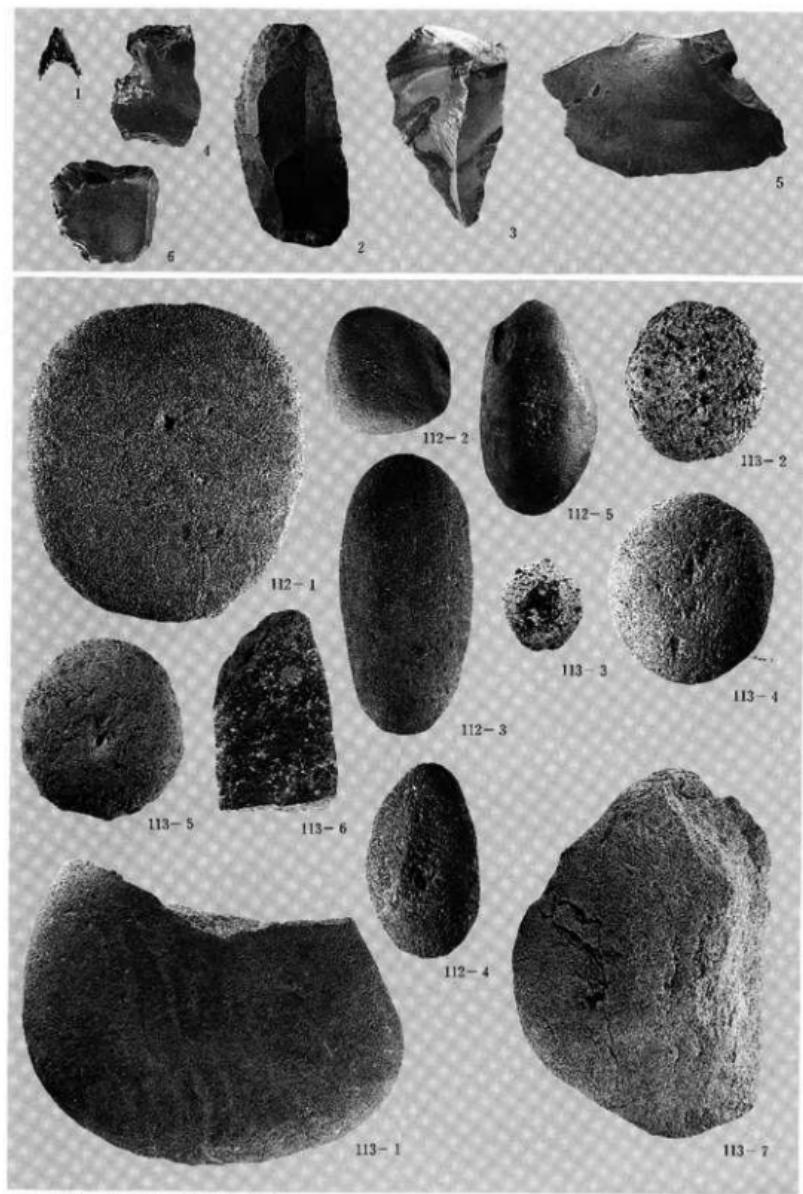
3-41 9 b 層の遺構出土遺物 (2)



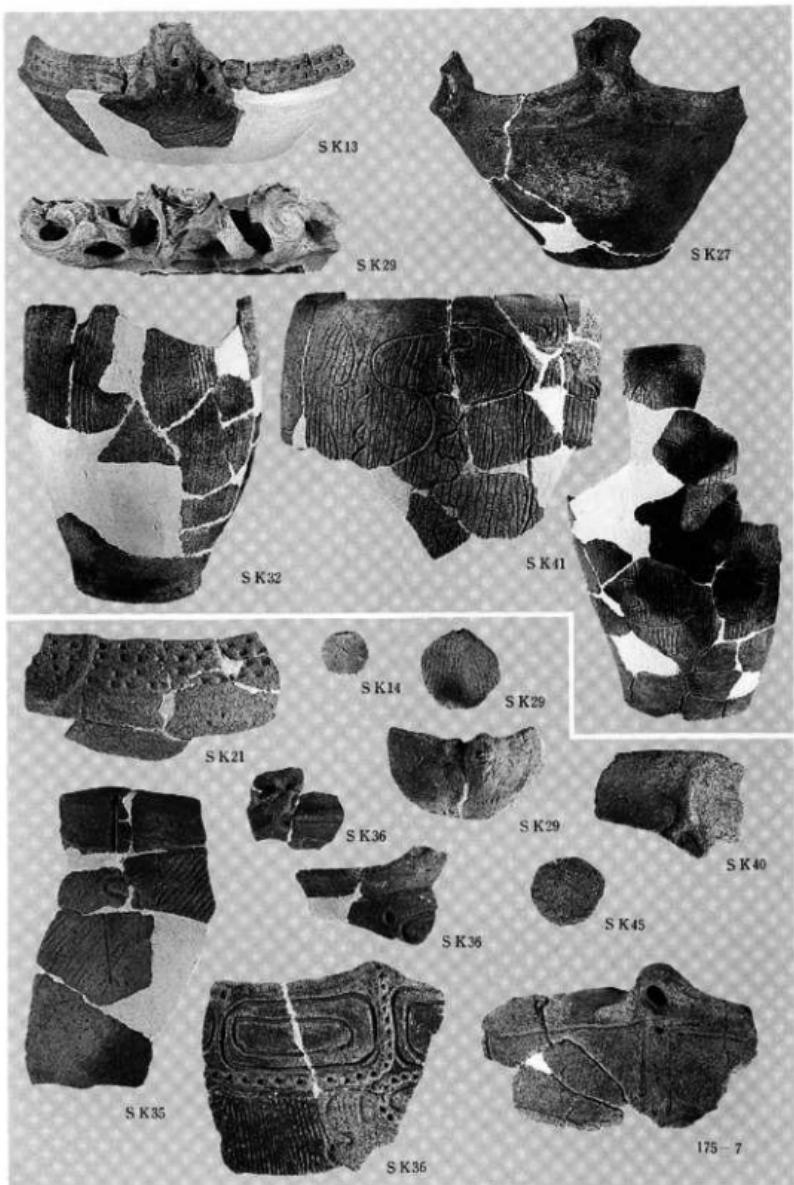
3-42 9 b 層の遺構出土遺物 (3)



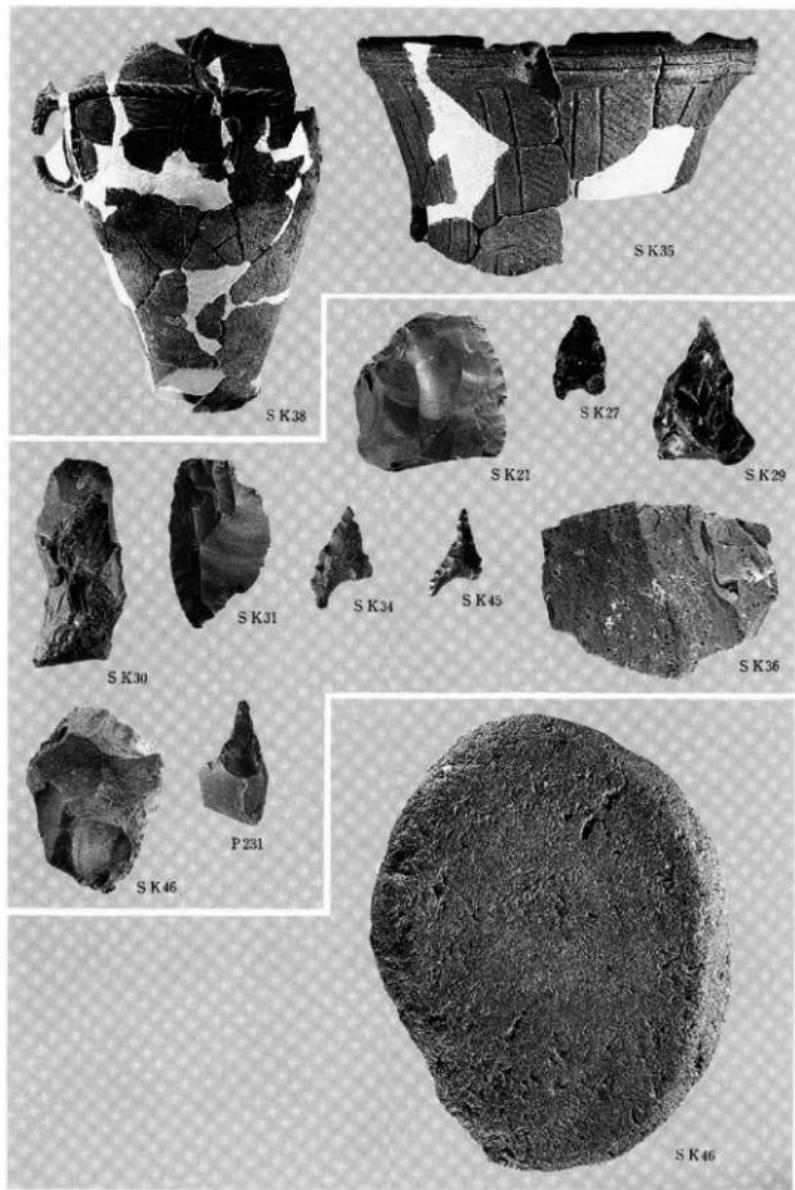
3-43 S 1 4 出土遺物 (1)



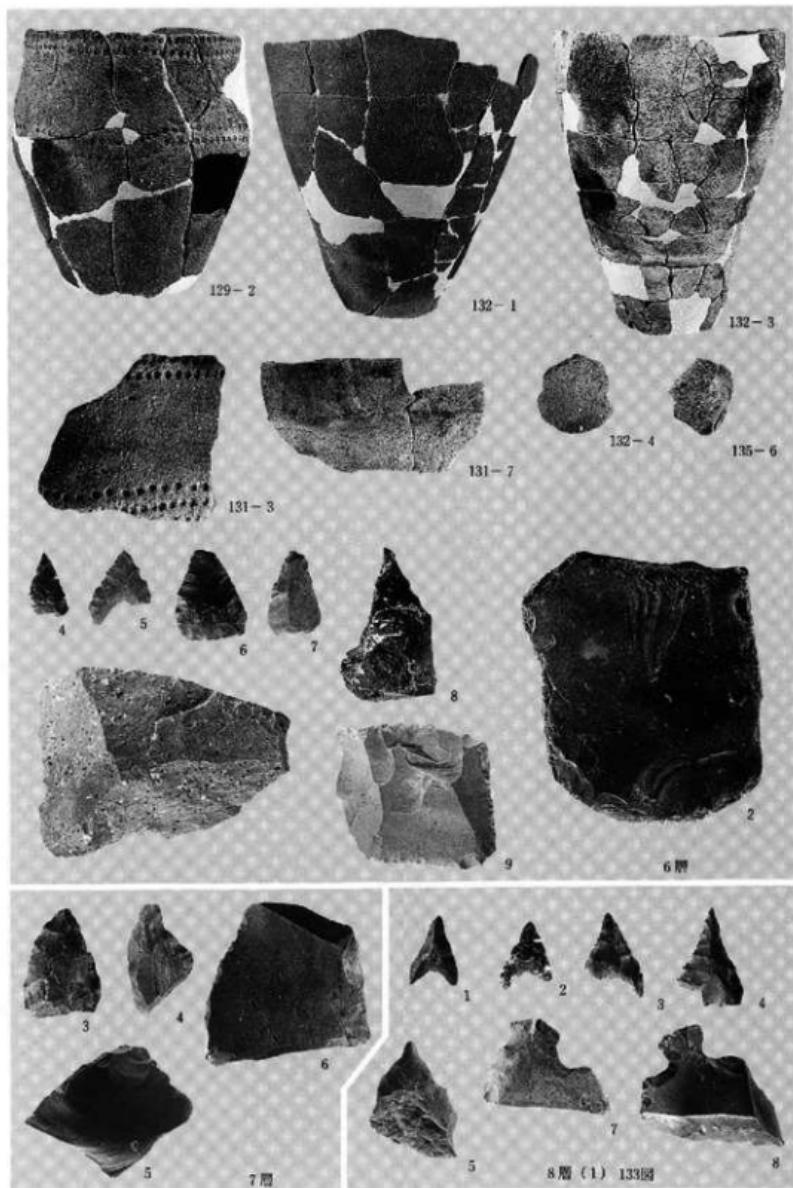
3-44 S I 4 出土遺物 (2)



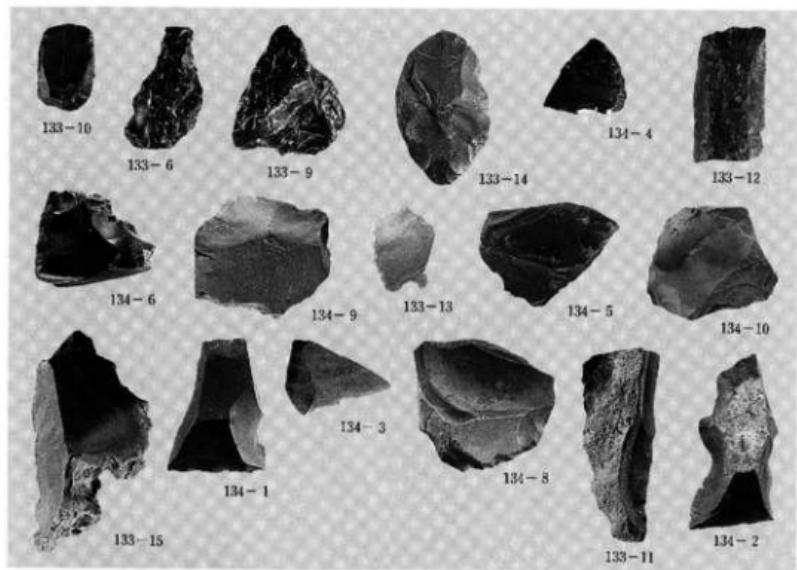
3-45 10層の造構出土遺物（1）



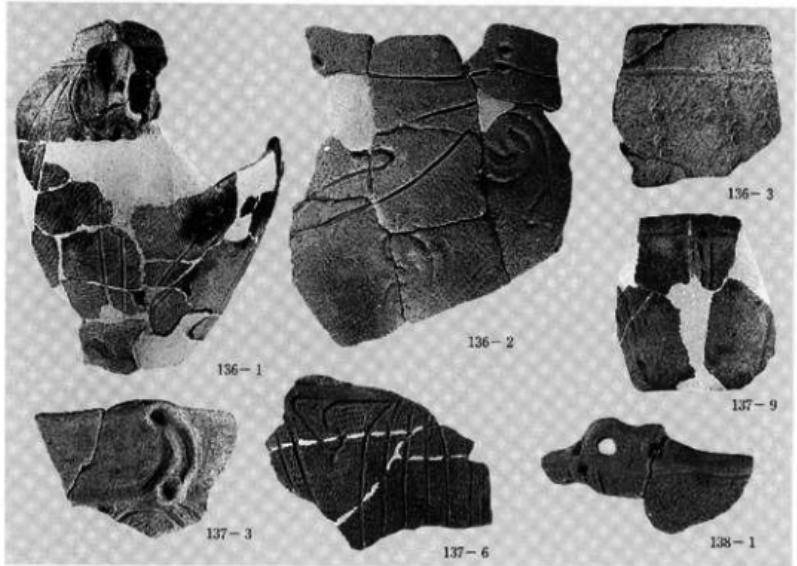
3-46 10層の遺構出土遺物（2）



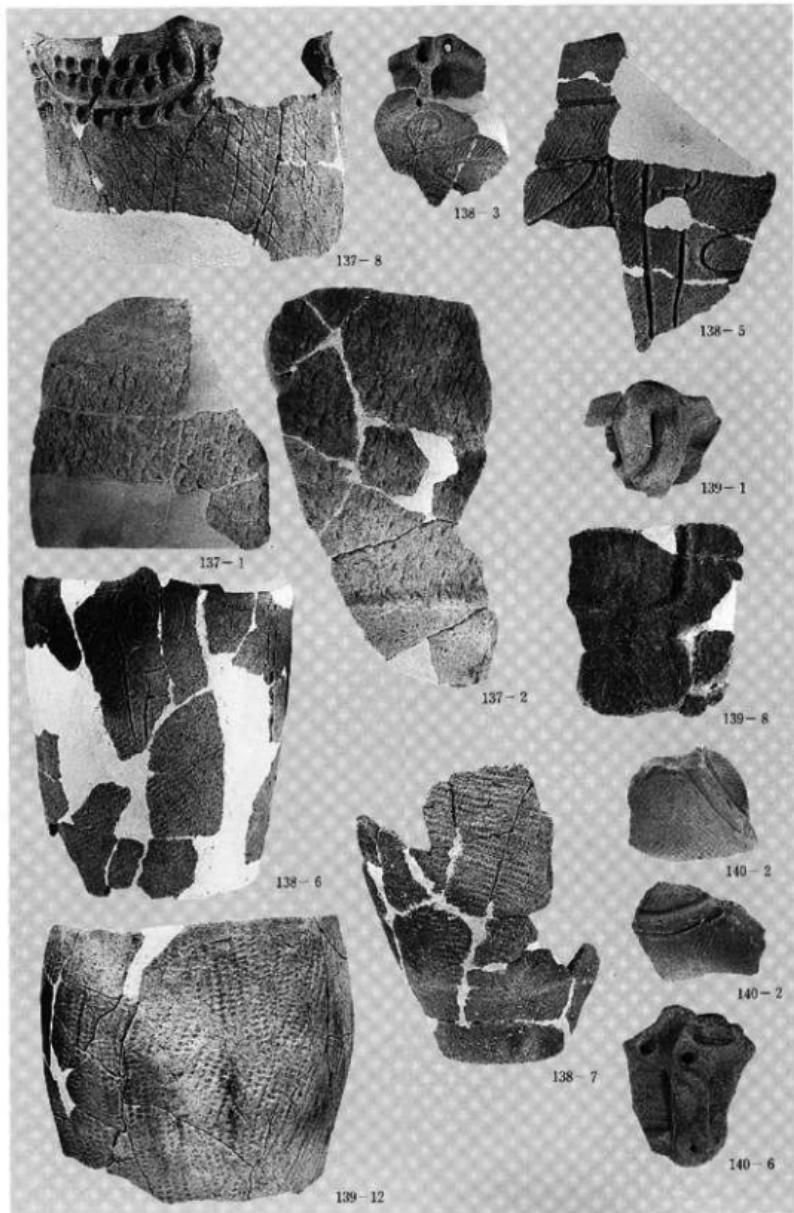
3-47 6・7・8層出土遺物



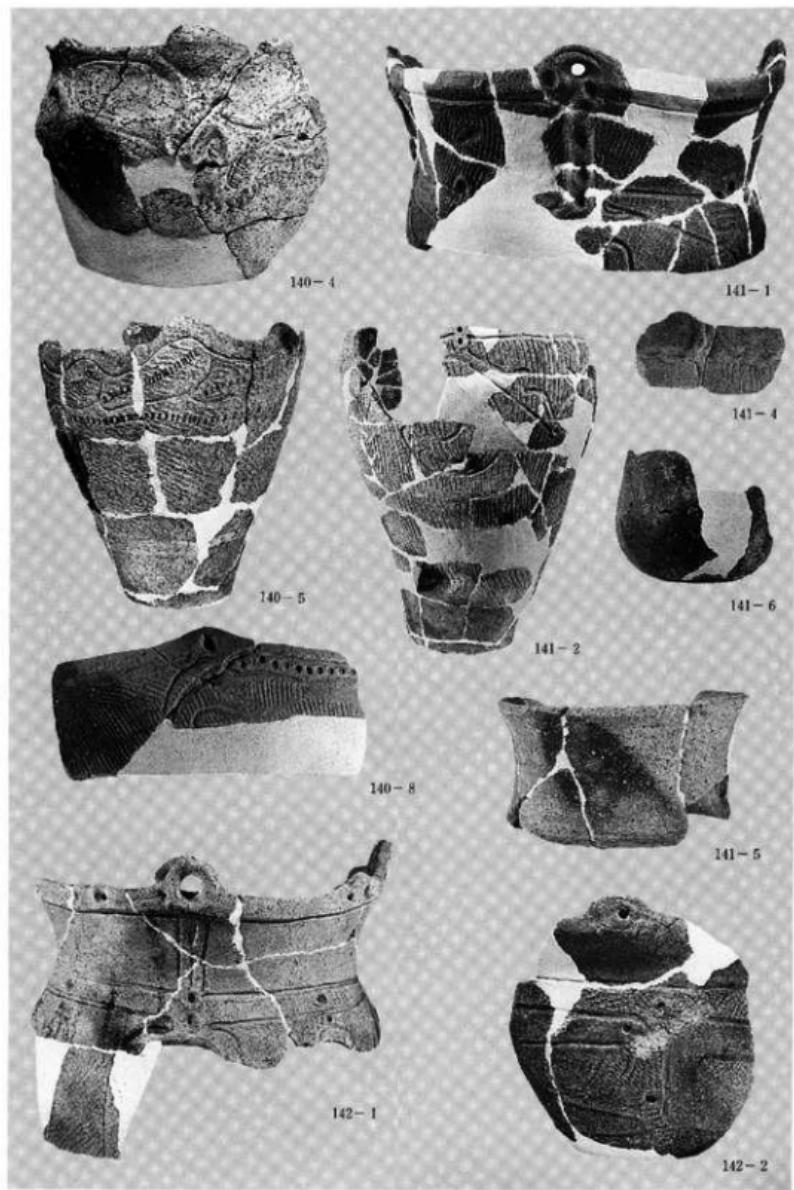
3-48 8層出土石器



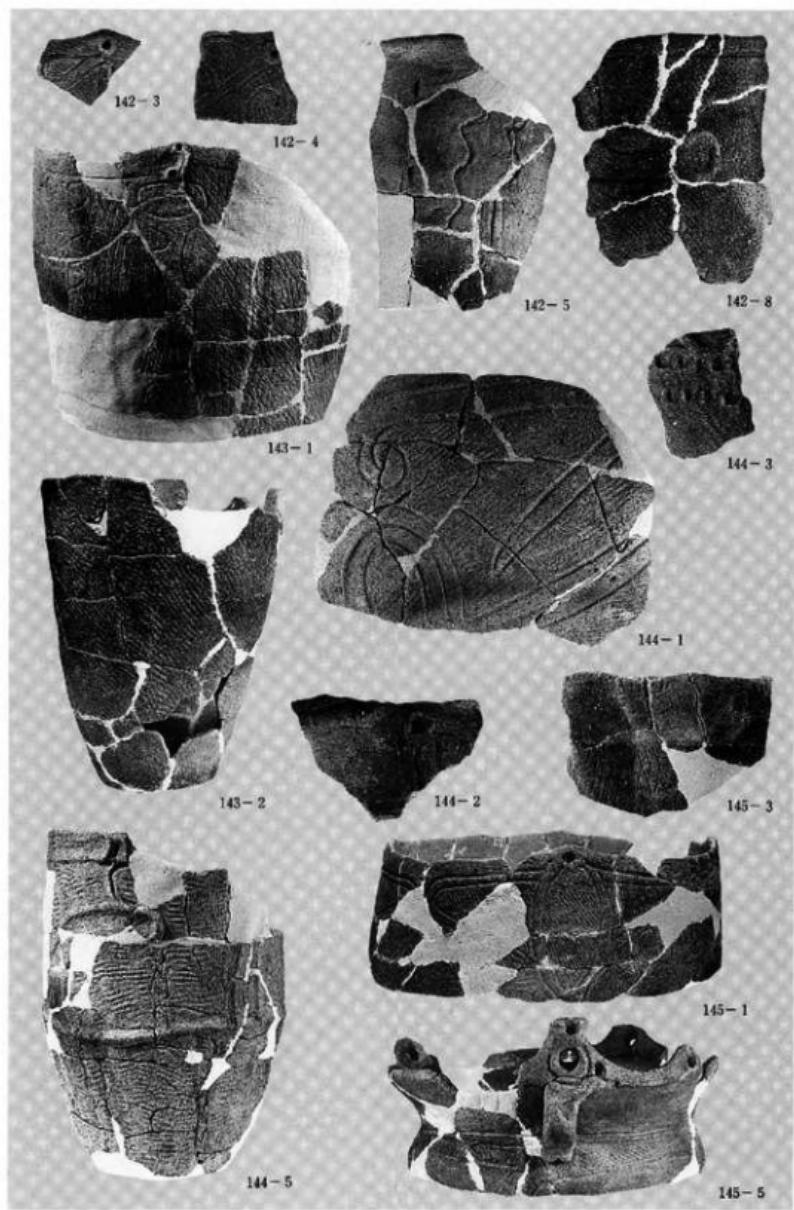
3-49 9層出土土器 (1)



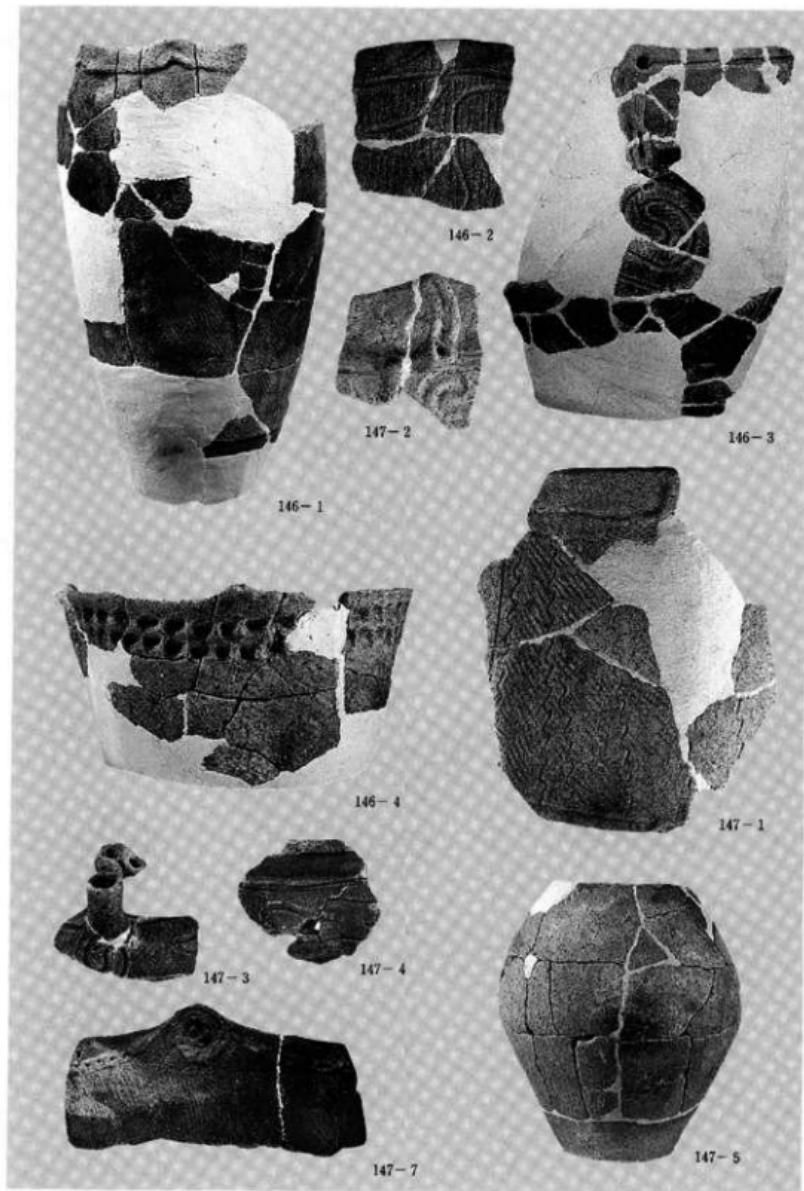
3-50 9層出土土器 (2)



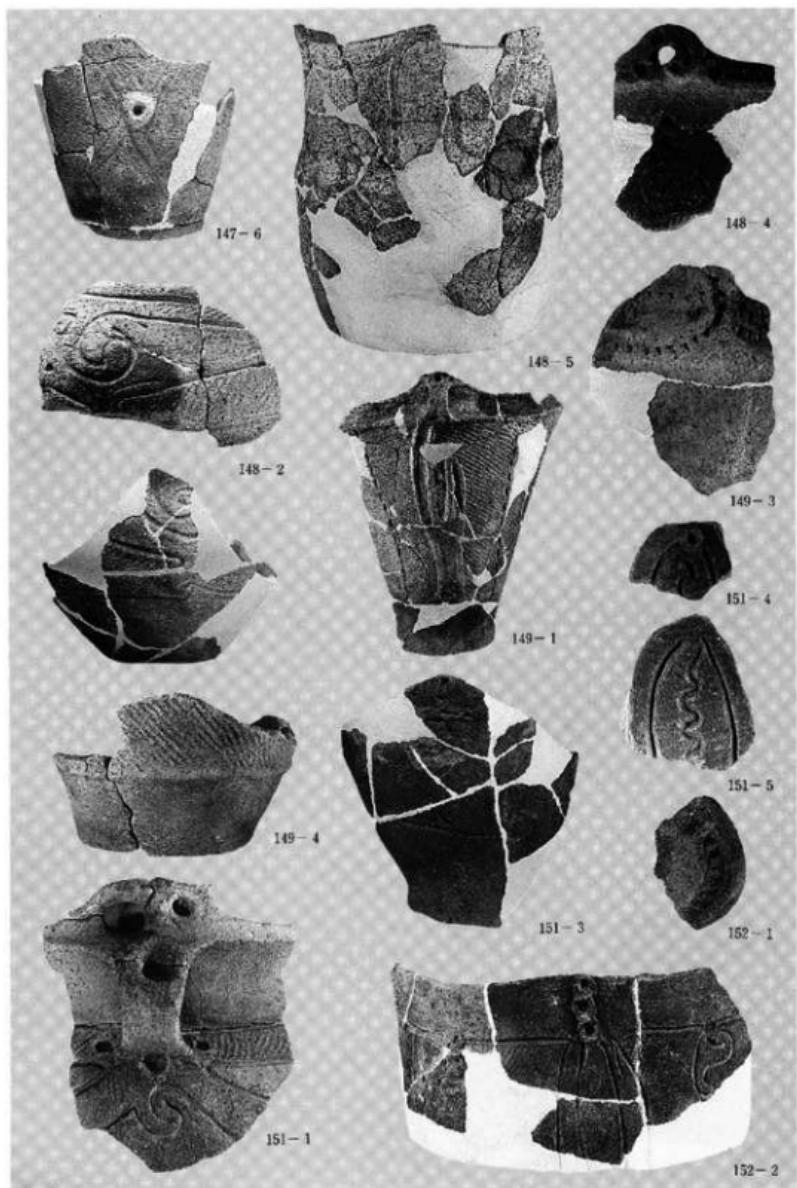
3-51 9層出土土器(3)



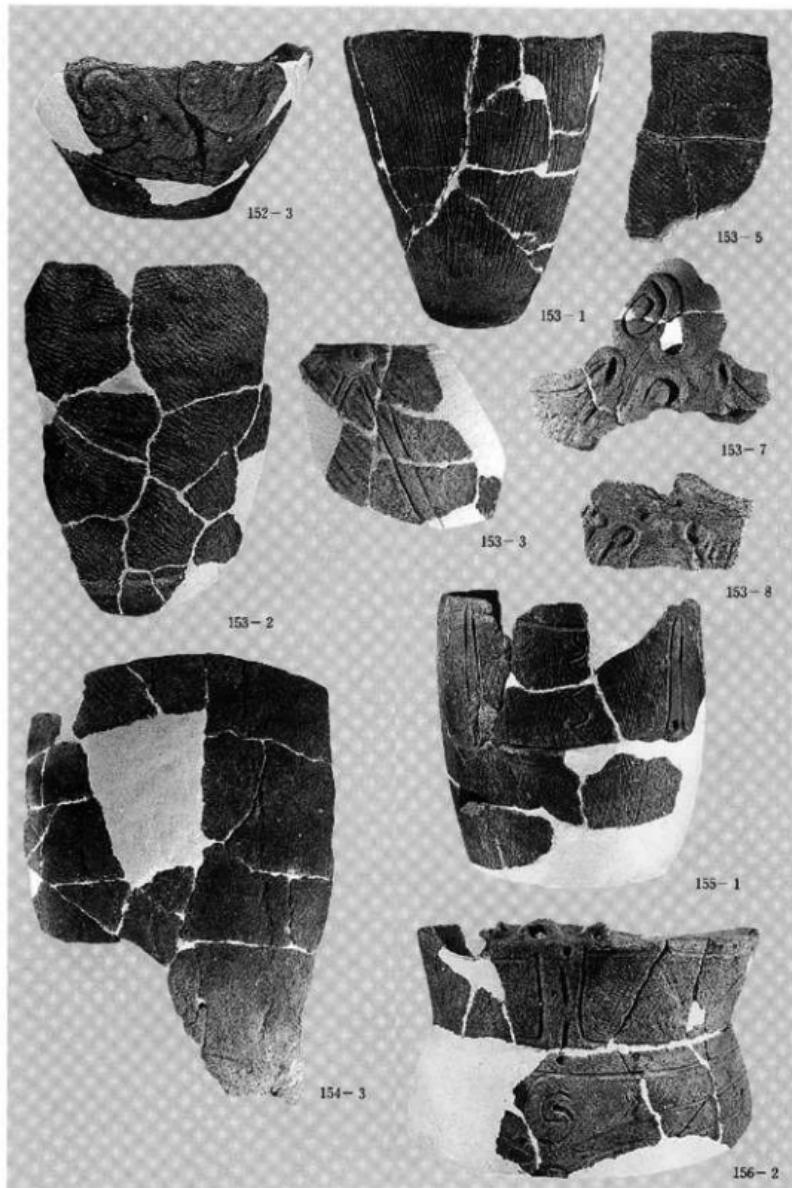
3-52 9層出土土器(4)



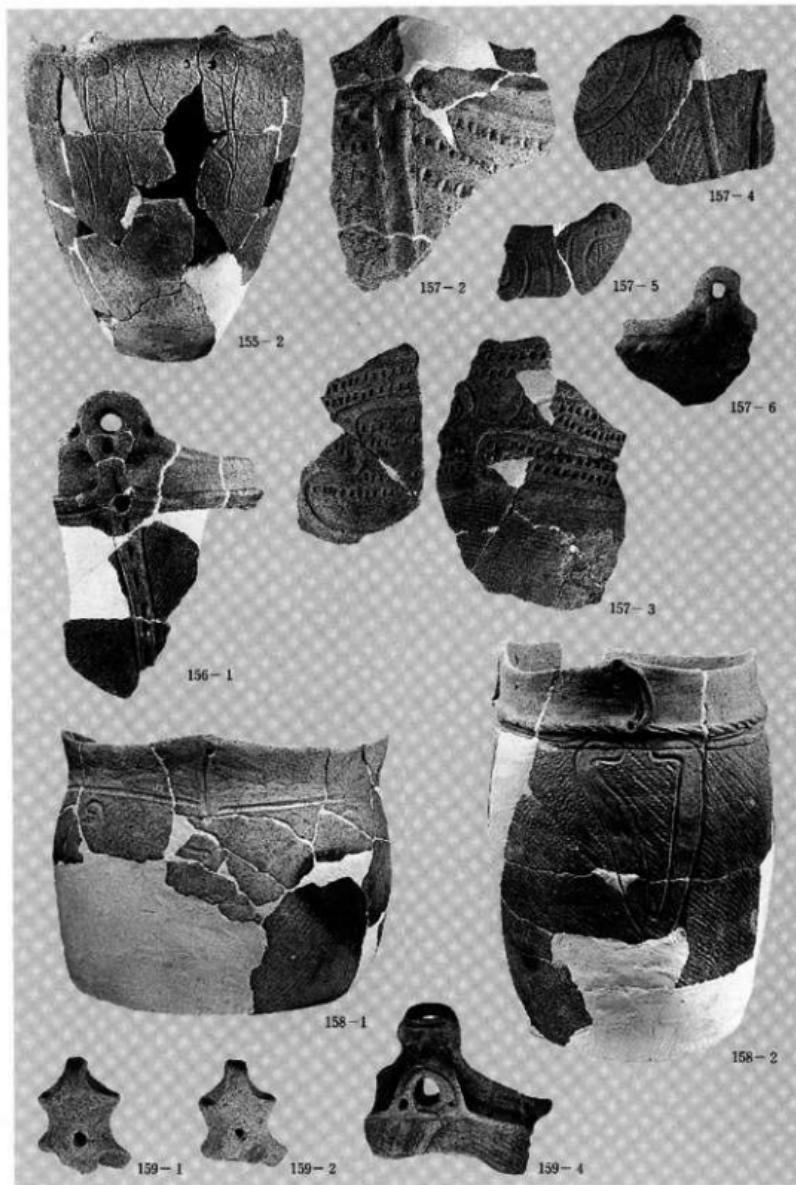
3-53 9層出土土器(5)



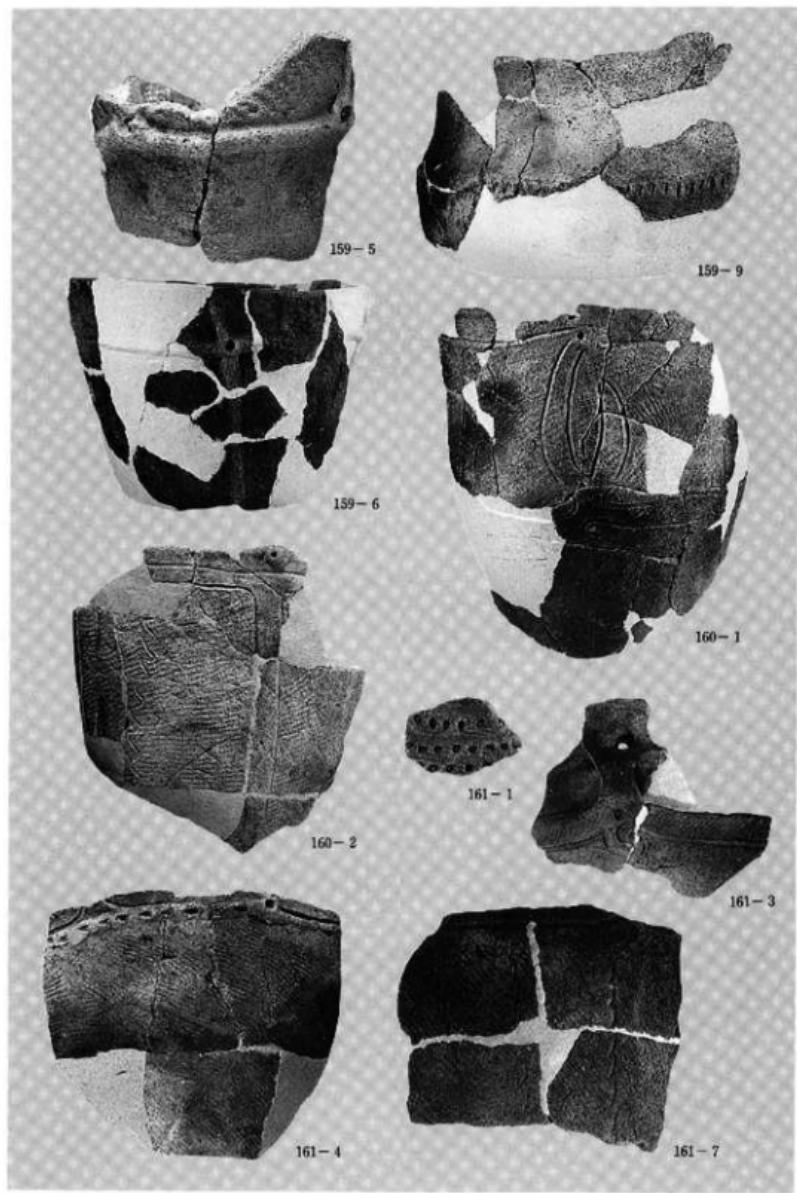
3-54 9層出土土器(6)



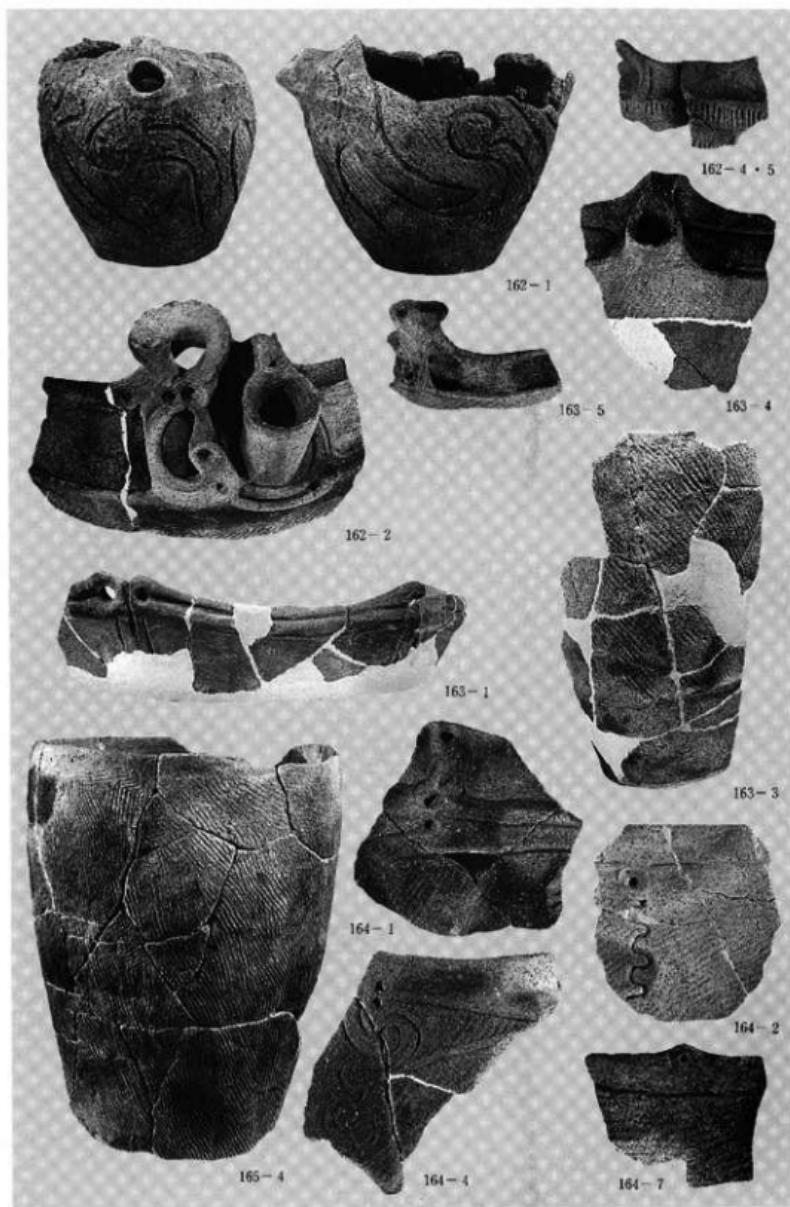
3-55 9層出土土器(7)



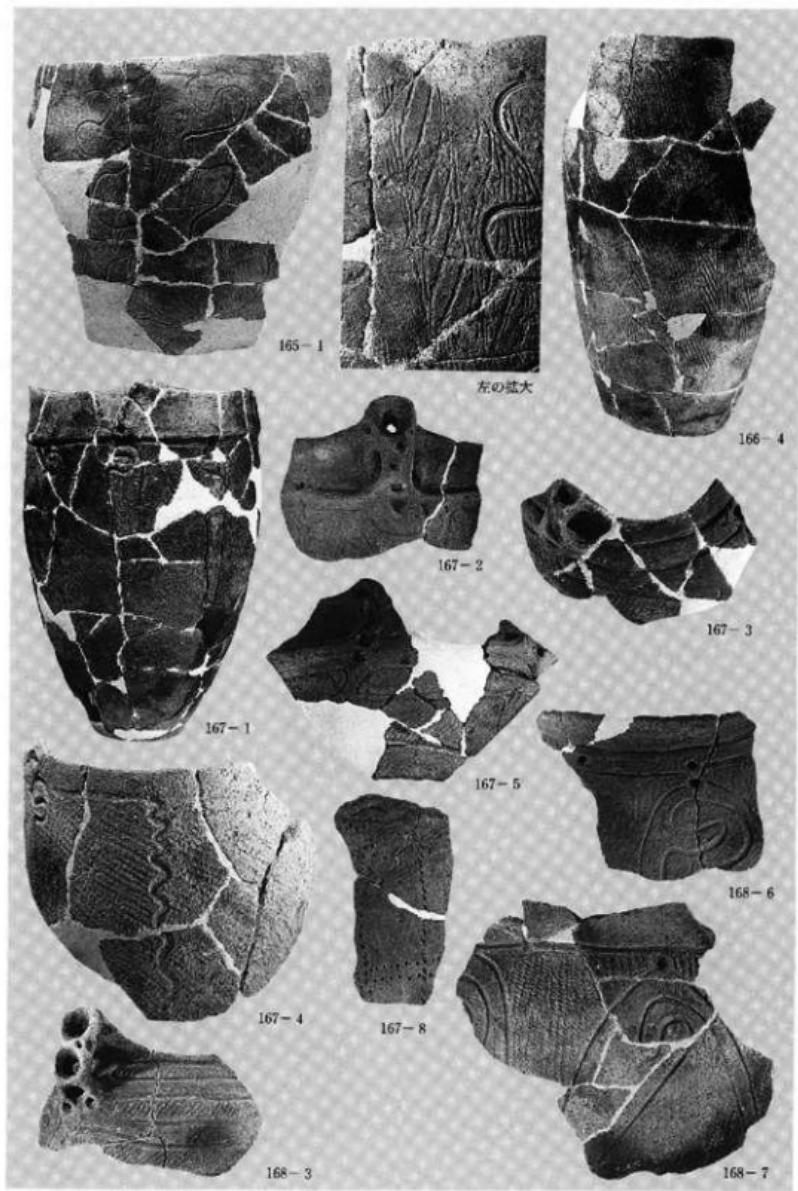
3-56 9層出土土器(8)



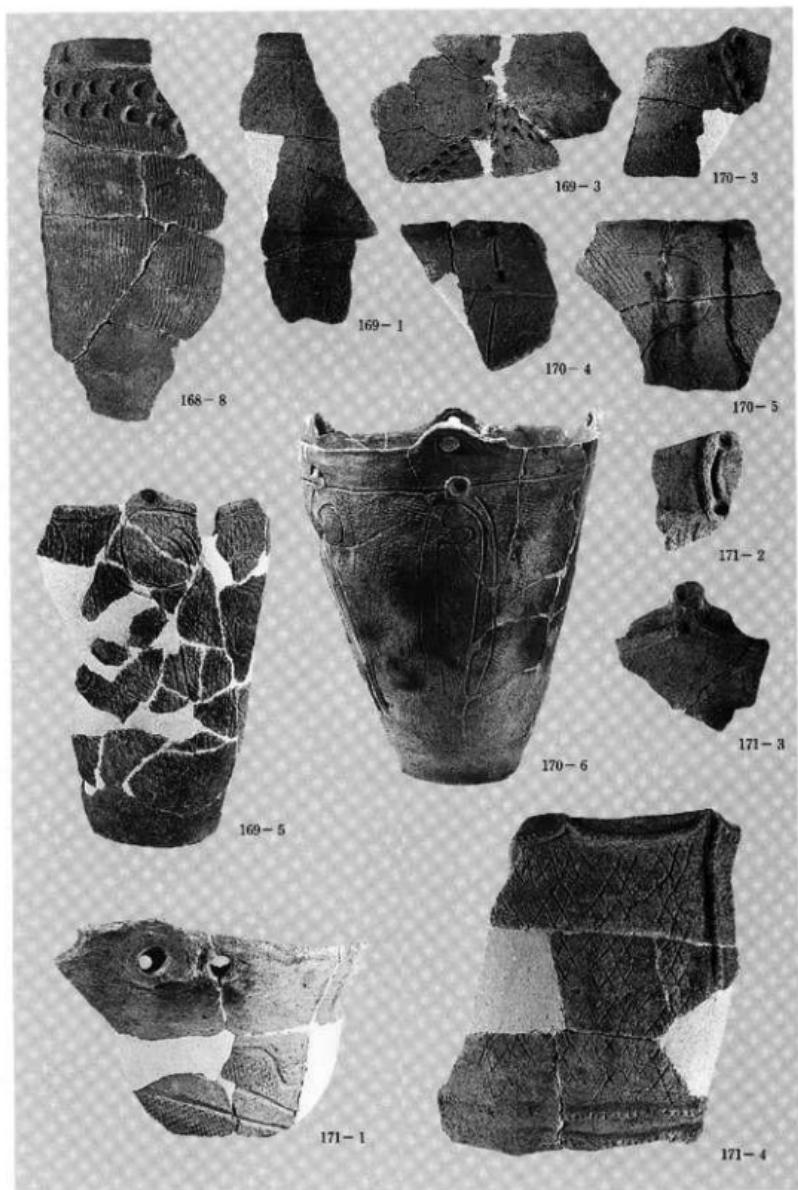
3-57 9層出土土器(9)



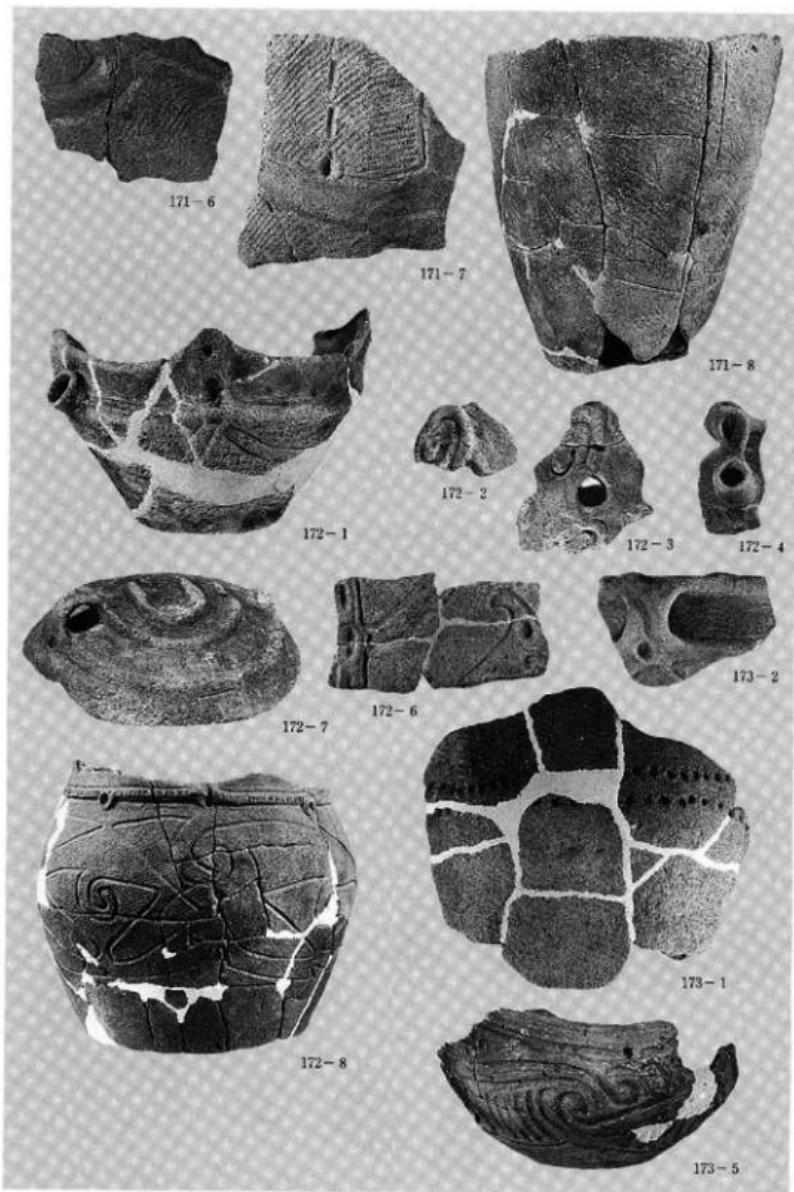
3-58 9属出土土器 (10)



3-59 9層出土土器 (11)

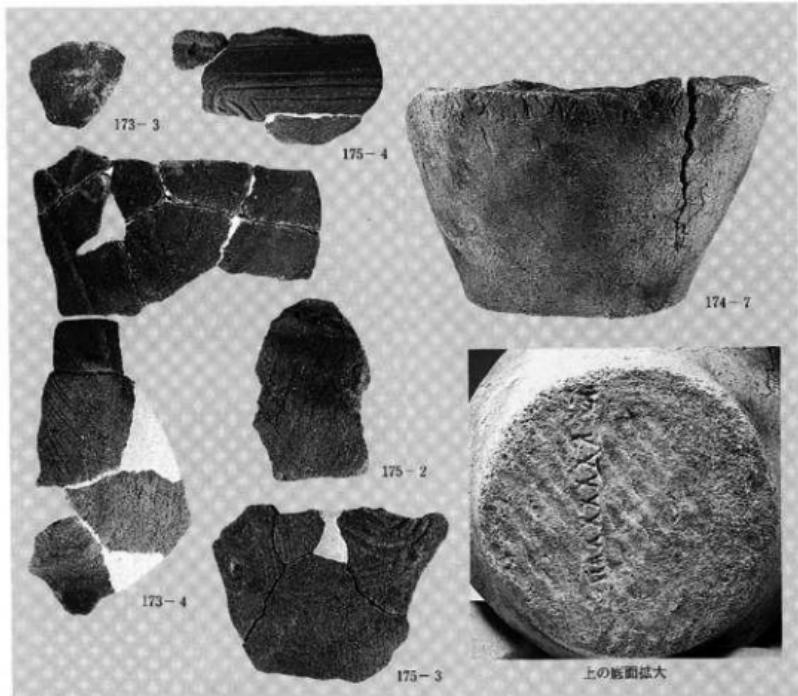


3-60 9層出土土器 (12)

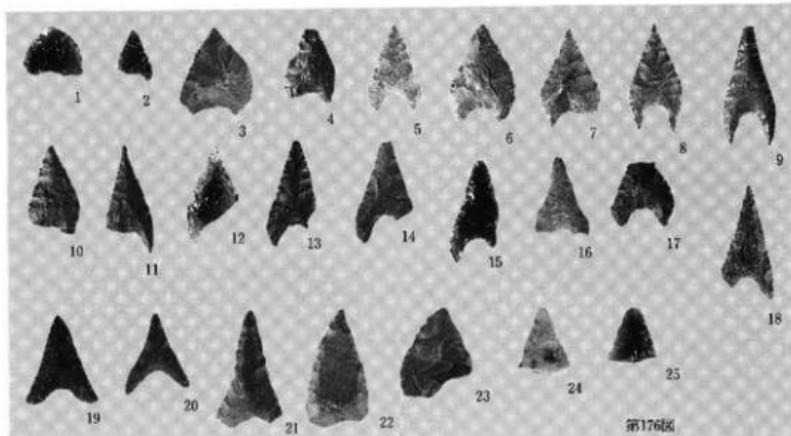


3-61 9層出土土器 (13)

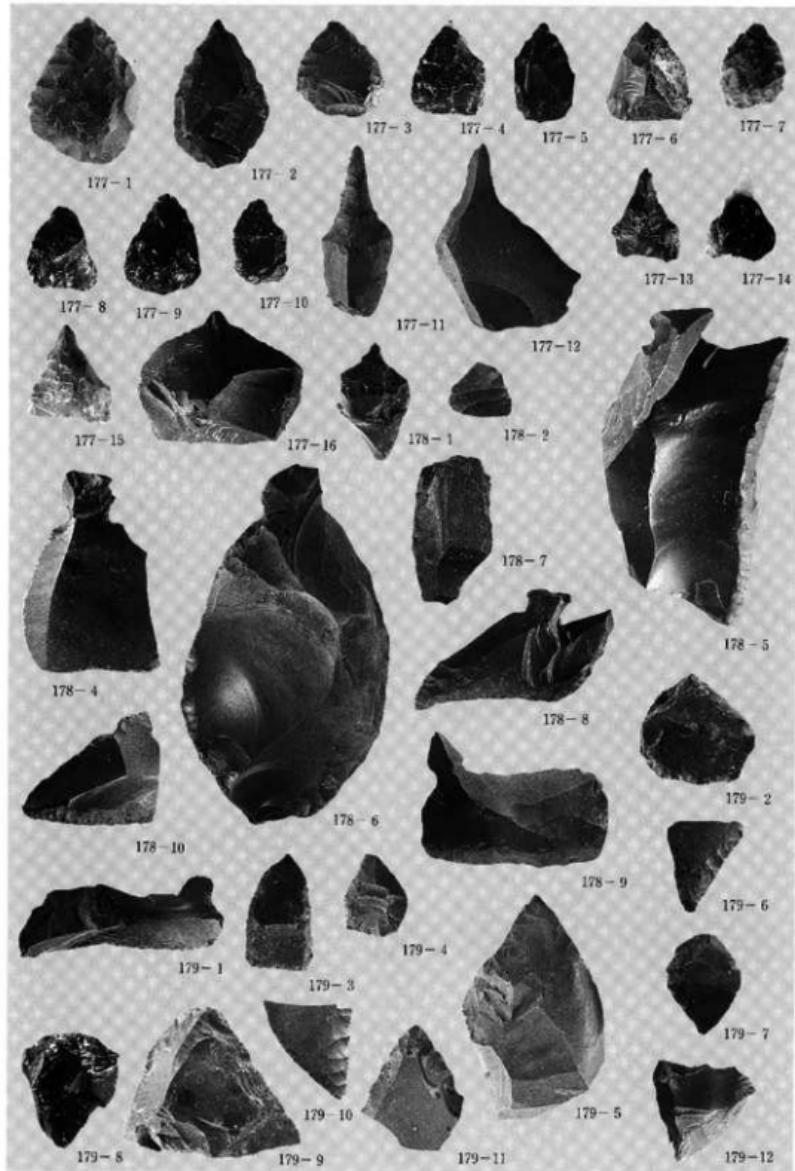
III 区



3-62 9層出土土器 (14)



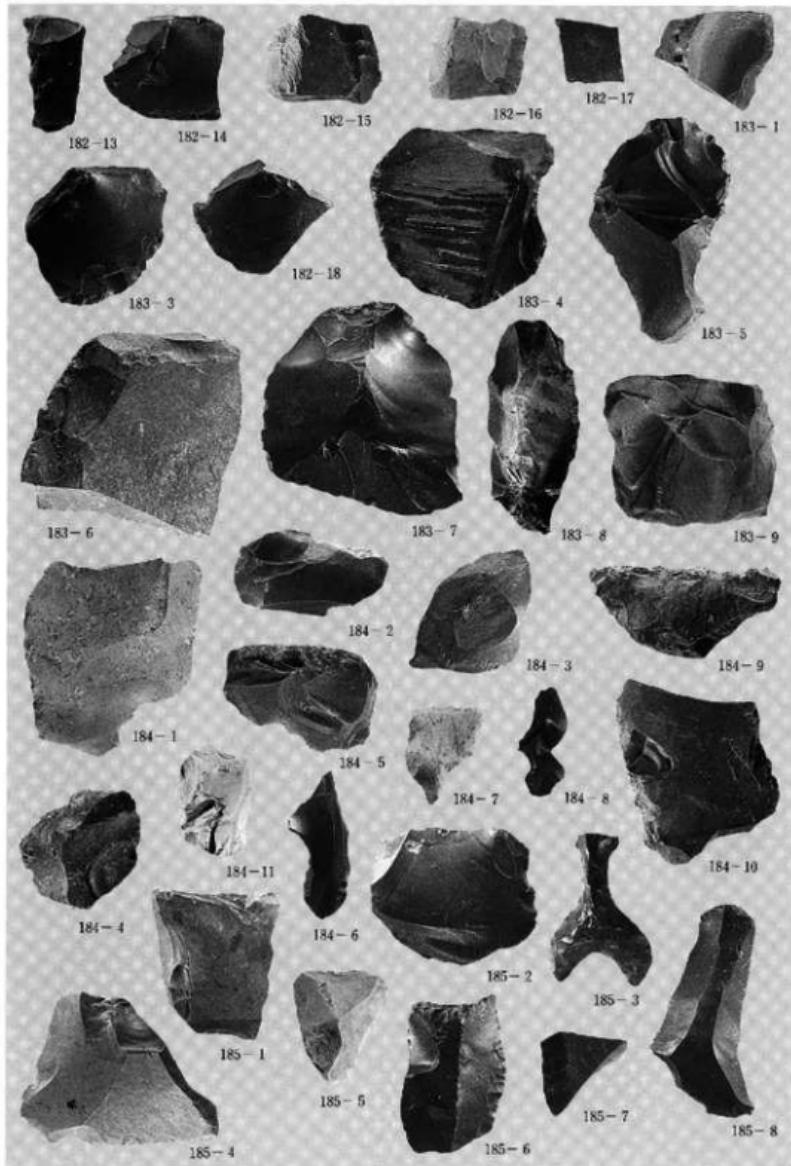
3-63 9層出土刮片石器 (1)



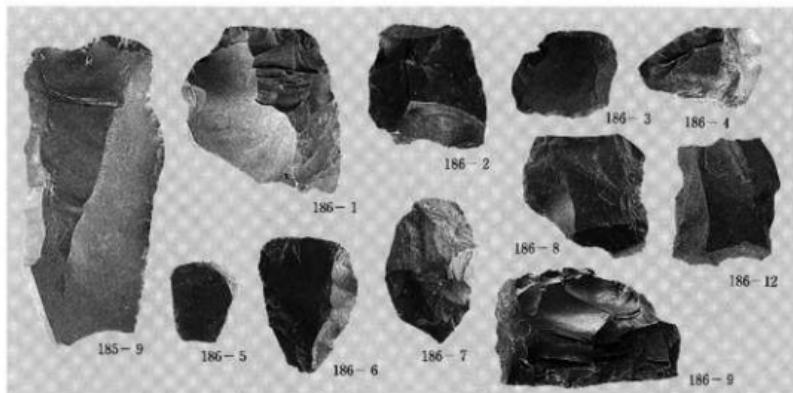
3-64 9層出土剝片石器（2）



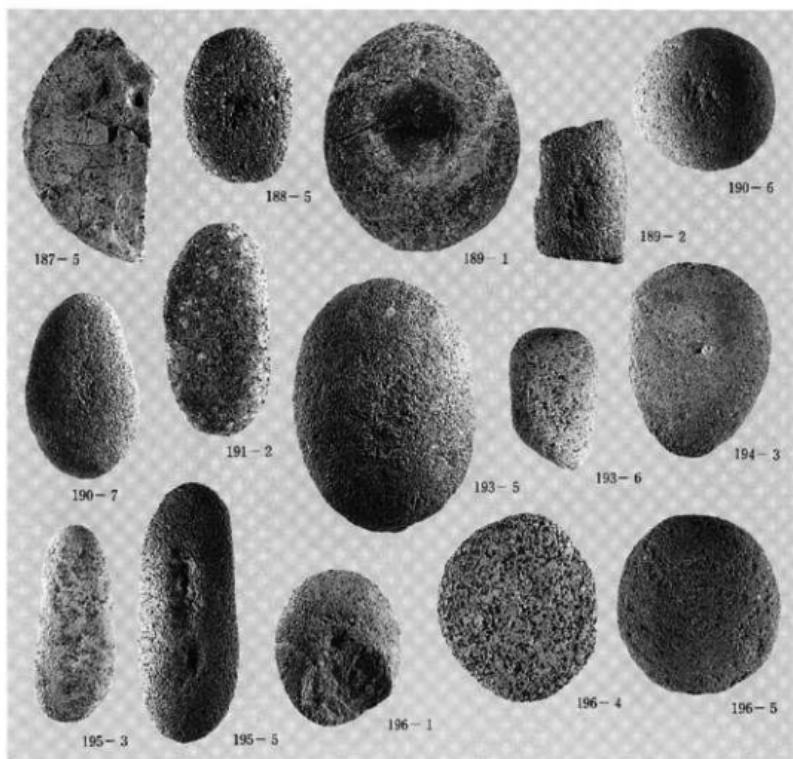
3-65 9層出土剥片石器 (3)



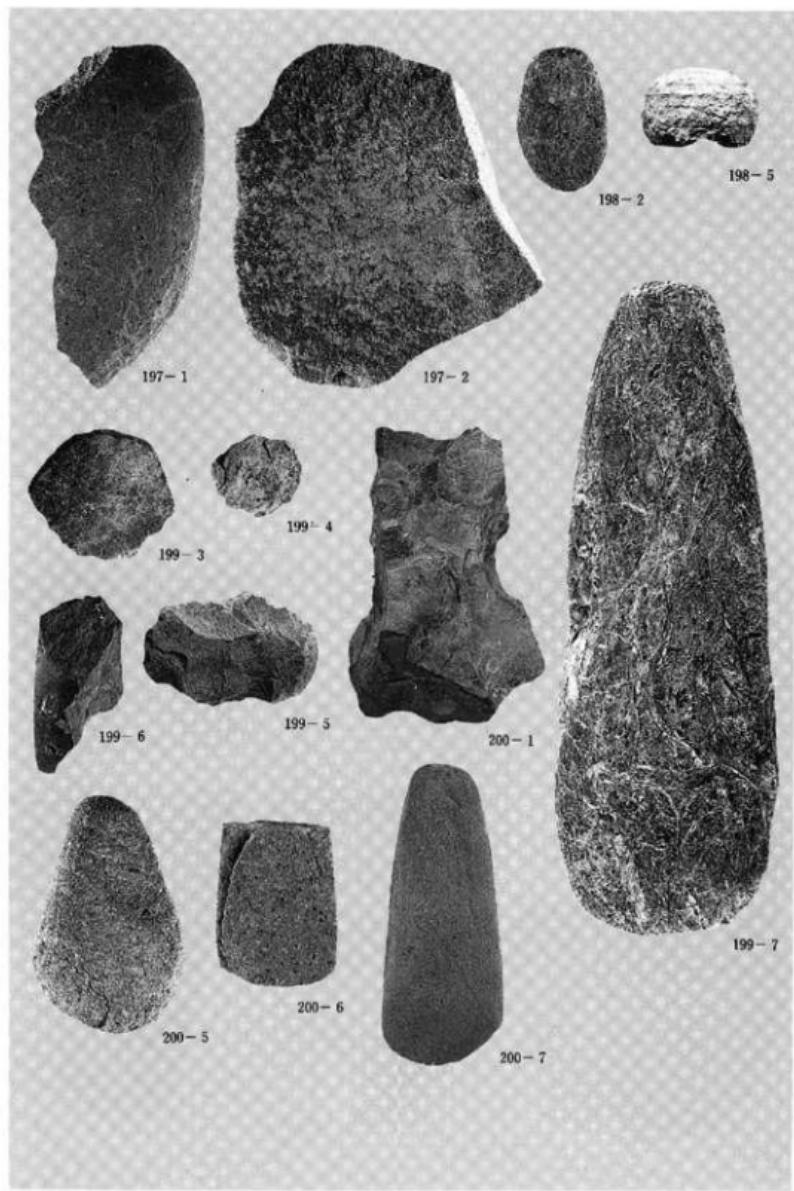
3-66 9層出土剝片石器 (4)



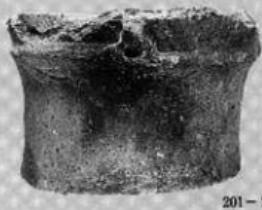
3-67 9層出土剥片石器 (5)



3-68 9層出土砾石器 (1)



3-69 9層出土砾石器（2）

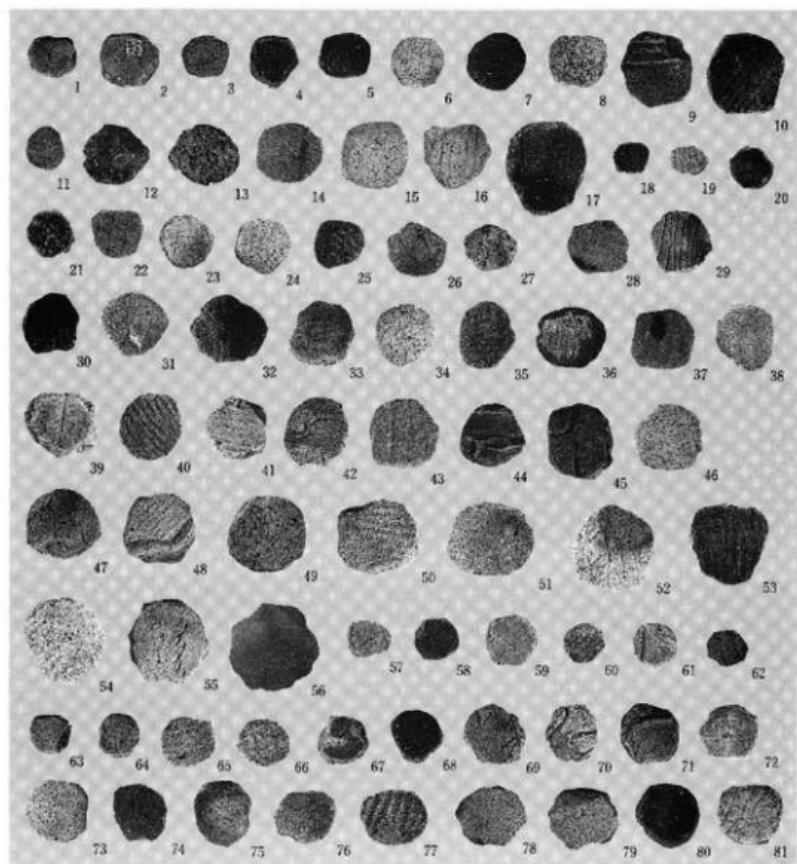


3-70 10層出土土器



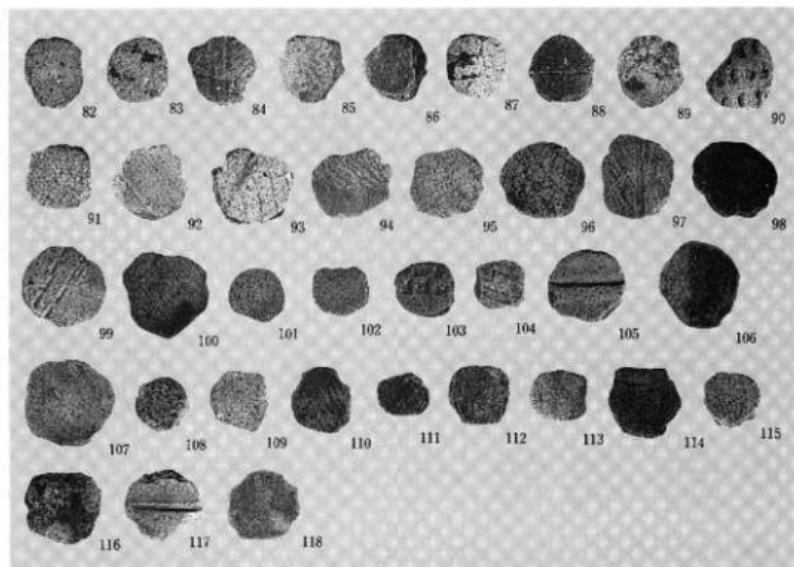
3-71 10層出土刮削器

203図



3-72 土製円盤(1)

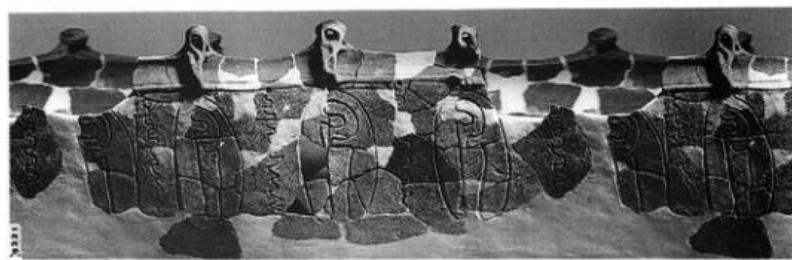
III 区



3-73 土製円盤（2）



33-1

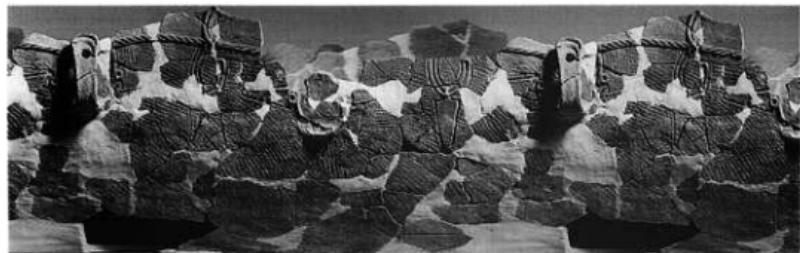


96-1

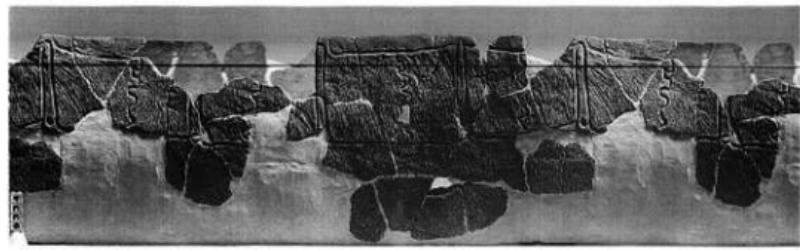
3-74 展開写真（1）



98-1



121-1

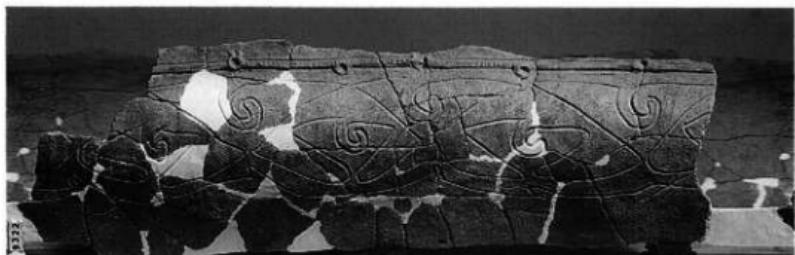


155-1



170-6

3-75 展開写真(2)



172-8



201-6

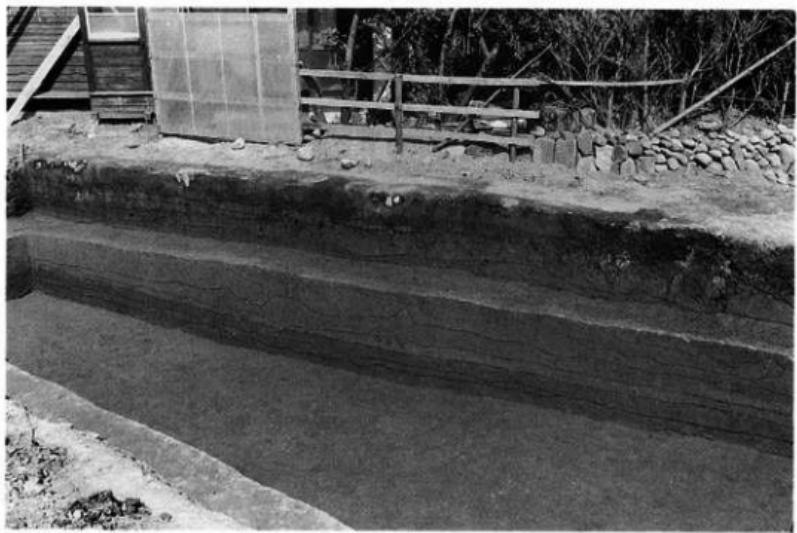


201-1

3-76 展開写真 (3)



4-1 調査区全景（南より）



4-2 東壁断面



4-3 S D 1溝跡



4-4 小溝状造構群（西より）



4-5 河川跡

1 断面  
2 遺物出土状況



4-6 完掘状況（南より）

## 報告書抄録

ふりがな	ろくたんだ いせき							
書名	六反田遺跡							
副書名	仙台市高速鉄道関係遺跡調査報告書							
巻次	IV							
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第199集							
編著者名	霞部紀・樺原信彦・吉岡恭平							
編集機関	仙台市教育委員会							
所在地	〒980-71 宮城県仙台市青葉区国分町三丁目7-1 TEL 022-214 8893~8894							
発行年月日	西暦1995年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
六反田遺跡	宮城県仙台市 太白区大野田字五反田	04100	01189	38° 12' 49"	140° 52' 30"	19810907 ~19861215	1294	地下鉄建設工事に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
六反田遺跡	集落跡・散布地	興文・奈良・平安	住居跡・土坑・配石・埋設土器・溝跡			縄文土器・弥生土器・石器・土師器・須恵器		

---

### 仙台市文化財調査報告書第199集

## 六反田遺跡

—仙台市高速鉄道関係遺跡調査報告書IV—

1995年3月

発行 仙台市教育委員会

仙台市青葉区国分町3-7-1

仙台市教育委員会文化財課

TEL 022-261-1111

印刷業 東北プリント

仙台市青葉区立町24-24

TEL 022-263-1166

---

